

総合検査案内

2022～2023



個人情報保護方針

《 基 本 的 姿 勢 》

株式会社エスアールエル北関東検査センター（以下、「当社」といいます。）は、個人情報（特定個人情報を含む、以下同じ。）を適切に保護することが当社の社会的責務であり、また事業活動の基本と考えております。

当社では、個人情報保護に関する行動指針を以下のとおり定め、個人情報保護マネジメントシステムを確立し、全従業員（役員・社員・契約社員・パート社員・派遣社員等）に個人情報保護の重要性を認識させるとともに、個人情報の安全管理措置を周知徹底することをもって、個人情報の漏えい、滅失またはき損を防止し、個人情報の保護に邁進することを宣言いたします。

《 行 動 指 針 》

1. 基本原則

- 当社で取扱うすべての個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」をはじめとする法令や、国が定めた指針その他の規範および社内諸規定および個人情報保護マネジメントシステムで定めた手続（特定個人情報については、「特定情報等取扱規程」を優先して適用）などを遵守し、適切に取扱います。
- 当社で取扱う全ての検体検査の受託にあたり、取得する被検者の個人情報を、適切な安全管理措置を講ずることによって保護管理いたします。
- 当社の個人情報保護マネジメントシステムは適宜見直しを行い、継続的に改善いたします。

2. 情報取得の原則

- 検体検査は、医療機関等と個人情報保護に関する覚書を結んで実施いたします。
- 被検者の個人情報は、医療機関等から適法かつ公正に取得し、受託した検体検査の実施に必要な範囲（特定個人情報については、個人番号を利用できる事務の範囲）内のものとします。

3. 情報利用の原則

- お預かりした個人情報は、利用目的の達成に必要な範囲を超えて（特定個人情報については、個人番号を利用できる事務の範囲以外、検体検査の受託に際し取得する被検者の個人情報は、受託した検体検査の実施目的以外）利用いたしません。またそのために必要となる措置を講じます。
- 医療機関等の要請により、医療の向上を目的として検査結果を活用させていただく場合がありますが、被検者氏名など個人を特定できるような形での情報開示は行いません。

4. 情報提供・開示の原則

- 検査結果は医師の総合的判断における重要な判断情報の一部であり、当社が被検者本人又はその代理人等に直接、情報提供又は開示等を行いません。
- 当社は、法令に基づく場合や人の生命、身体の保護に必要な場合など正当な理由がある場合を除き、あらかじめ本人の同意を得ないで（特定個人情報については本人の同意の如何なく）個人情報を第三者に提供いたしません。

5. 安全管理の原則

- 個人情報保護管理者の設置をはじめ内部における責任体制を確保し、不正アクセス、紛失、改ざん、漏えい等の危険防止を図るため、必要かつ適切な保護措置を講じ、不具合があれば是正します。
- 個人情報の適切な保護が確保できるよう、教育研修の実施等を通じて、従業員の個人情報の保護意識の啓発を図ってまいります。
- お預かりした検体検査を委託する場合には、委託先において個人情報保護の措置が確保されるよう、委託契約及び個人情報保護に関する覚書を取り交わし、定期的に必要かつ適切な監督を行います。

6. 苦情及び相談への対応

- 個人情報の取扱いに関して、ご本人からの苦情、相談、開示等のご請求は以下で受け付けております。

【苦情相談窓口】 電話番号 027-265-6498 FAX番号 027-265-6180

制定 2017年 6月 1日

改訂 2018年 4月 1日

株式会社エスアールエル北関東検査センター

代表取締役社長 堀池 英一

2022～2023 総合検査案内

目次

索引 ご利用の手引き	索引 2 ご利用の手引き 19	
内分泌学的検査 腫瘍関連検査	視床下部・下垂体関連検査 ... 24 甲状腺関連検査 25 副甲状腺関連検査 26 副腎髄質関連検査 27 副腎皮質関連検査 29	性腺・胎盤関連検査 31 膵・消化管関連検査 34 心臓関連検査 34 その他 35 腫瘍関連検査 36
ウイルス感染症検査	抗体検査 41 抗原検査 52 HTLV-I検査 58 HIV検査 59	肝炎ウイルス検査 62
免疫学的検査	感染症抗体検査 65 感染症抗原検査 66 感染症関連検査 68 自己免疫関連検査 71	免疫血液学的検査 76 免疫グロブリン 77 補体 77 血漿蛋白 78
アレルギー検査	アレルギー検査 81	
生化学的検査	蛋白・膠質反応 84 酵素関連物質 85 低分子窒素化合物 88 糖質関連物質 90 有機酸 91 脂質関連物質 92 ビタミン 96	電解質 98 生体微量金属 99 生体色素 99 ポリフィリン 100 毒物・産業医学 101 その他 102 クリアランス・機能試験 104
血液学的検査	血液一般・形態検査 105 血小板活性化検査 107 凝固系一般検査 108 凝固因子検査 108	凝固・線溶系検査 109
一般検査 微生物学的検査	尿一般検査 111 糞便検査 112 髄液検査・精液検査・その他 ... 113 専用輸送容器・輸送培地一覧 ... 114 目的菌 114	一般細菌・抗酸菌 115 検査材料および採取方法 117 標準薬剤パターン 118 薬剤略号一覧 118
薬物検査	抗てんかん剤 119 精神神経用剤 121 強心剤 121 不整脈用剤 122	抗生物質製剤 124 抗真菌剤 124 その他 125
細胞性免疫検査	細胞性免疫検査 127	
病理学的検査 細胞診検査 アミノ酸解析サービス	病理組織検査 128 病理標本作製 128 細胞診検査 129 AIRS・AICS 130	
緊急報告検査値範囲 検査方法の概略 参考文献一覧	緊急報告検査値範囲 132 検査方法の概略 133 参考文献一覧 136	
専用容器の取り扱い方法	専用容器の取り扱い方法 154	

五十音

ア	ページ	診療報酬区分	実施料
亜鉛 (Zn)	99	D007 37	136
(α_1)アシドグリコブロテイン	78		
アスコルビン酸(ビタミンC)	96	D007 60	305
アスピリン→サリチル酸	125	B001 02	特
アスペノン→アブリンジン	123	B001 02	特
アスペルギルス抗原	69	D012 29	157
アスペルギルス抗体	69		
アセタゾラミド	120	B001 02	特
(抗)アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	74	D014 43	798
アセトアミノフェン	125	D007 46	185
アセトン定量	91		
アディポネクチン(LA)	35		
アデノウイルス(CF) (NT)	41	D012 11 イ	79
アデノウイルスDNA定性	54		
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	87	D007 11	32
アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルギー)	81	D015 20	194
アブリンジン	123	B001 02	特
アポリポ蛋白A- I	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白A- II	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白B	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白C- II	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白C- III	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白E	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白Eフェノタイプ	95		
アミオダロン	123	B001 02	特
アミカシン	124	B001 02	特
アミカマイシン→アミカシン	124	B001 02	特
アミサリン→プロカインアミド	122	B001 02	特
アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン) [LC/MS]	89	D010 04 イ	279+279
アミノ酸分析(39種類, 9種類) [LC/MS]	89	D010 04 □	1141
アミノ酸分析(41種類)	89	D010 04 □	1141
アミラーゼ (AMY)	85	D007 01	11
アミラーゼアイソザイム	85	D007 14	48
(P型)アミラーゼ定量	85	D007 14	48
(血清)アミロイドA蛋白(SAA)	79	D015 06	47
アルカリフォスファターゼ(ALP) IFCC	86	D007 01	11
(骨型)アルカリフォスファターゼ(BAP)	26, 86, 103	D008 27	161
アルカリフォスファターゼアイソザイム→ALPアイソザイム	86	D007 14	48
アルドステロン(CLEIA)	29	D008 16	125
アルドステロン/レニン活性比	35	D008 16+D008 08	125+100
アルドステロン/レニン濃度比	35	D008 16+D008 11	125+105
アルドラーゼ	86	D007 01	11
アルファフェト蛋白定量	36	D009 03・B001 03 □	101・腫2
アルブミン(Alb)	78, 84	D007 01	11
(尿中)アルブミン	78, 84	D001 08	99
(尿中)アルブミン(クレアチニン換算値)	78, 84	D001 08	99
アルブミン・グロブリン比(A/G比)	84		
アルベカシン	124	B001 02	特

ア	ページ	診療報酬区分	実施料
アルミニウム(AI)	102	D007 29	112
アレピアチン→フェニトイン	119	B001 02	特
アンカロン→アミオダロン	123	B001 02	特
アンギオテンシン I 転換酵素(ACE)	87	D007 38	140
(α_1)アンチトリプシン	78	D006 11	80
アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)	109	D006 10	70
アンチプラスミン(α_2 プラスミンインヒビター)	109	D006 15	128
アンモニア	88	D007 16	50

イ	ページ	診療報酬区分	実施料
イオン化カルシウム	98	D007 07	26
イーケブラ→レベチラセタム	120	B001 02	特
(尿中)一般検査	111	D000	★26
(一般細菌)培養同定(口腔, 気道, 呼吸器)	116	D018 01	170
(一般細菌)培養同定(消化器)	116	D018 02	190
(一般細菌)培養同定(泌尿器, 生殖器)	116	D018 04	180
(一般細菌)培養同定(血液, 穿刺液)	116	D018 03	220
(一般細菌)培養同定(その他部位)	116	D018 05	170
(一般細菌)嫌気性菌培養	116	D018 注1	122
(一般細菌)感受性検査	116	D019 01/02/03	腫2・腫3・腫4
イヌリン定量[酵素法]	102	D007 33	120
(抗)胃壁細胞抗体	74		
イマチニブ	125	B001 02	特
インスリン	34	D008 10	103
インスリン抗体	34	D014 06	110
インスリン様成長因子→IGF- I (ソマトメジン-C)	24	D008 42	212
インタクトPTH→副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	26	D008 33	165
インデラル→プロプラノロール	123		
インフルエンザウイルス(CF) (HI)	42	D012 11 ト・チ	79
インプロメノ→プロムペリドール	121	B001 02	特

ウ	ページ	診療報酬区分	実施料
ウイルス同定	52		
ウイルス分離	52		
ウロボルフィリン(血中)	100		
ウロボルフィリン(尿中)	100	D001 10	105
ウロビリノーゲン(尿一般定性検査)	111	D000	★26
運動率(精液一般検査)	113	D004 05	70

エ	ページ	診療報酬区分	実施料
エクセグラン→ゾニサミド	120	B001 02	特
エコーウイルス	43, 44	D012 11 ホ	79
エステル型コレステロール(Echo)	92		
エストラジオール(E_2) (ECLIA)	31	D008 36	172
エタノール	102	D007 27	108
エトスクシミド	119	B001 02	特
エビレオブチマル→エトスクシミド	119	B001 02	特
エベロリムス	125	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料

★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

工	ページ	診療報酬区分	実施料
(子宮頸管粘液中顆粒球) エラスターゼ	33	D004 08	119
エラスターゼI	36, 85	D009 08・B001 03 □	123・腫2
エリスロポエチン	35	D008 41	209
エルタシン→ゲンタマイシン	124	B001 02	特
塩基性フェトプロテイン(BFP)	39	D009 16・B001 03 □	150・腫2
塩酸/バンコマイシン→バンコマイシン	124	B001 02	特
(塩酸)ピルシカイニド	122	B001 02	特
エンテロウイルス	47		
エンドトキシン定量	68	D012 50	236

オ	ページ	診療報酬区分	実施料
黄体形成ホルモン(LH)	24	D008 13	108
黄体ホルモン→プロゲステロン	32	D008 24	147
オーム病クラミドフィラ(クラミジア)シタシ	65	D012 11 ネ	79
オステオカルシン	26	D008 28	157
オリゴクロノナルバンド	77	D004 11	522

カ	ページ	診療報酬区分	実施料
外見(キサントクロミー)(髄液一般検査)	113	D004 04	62
(尿中)核マトリックスプロテイン22(NMP22)	39	D009 13	143
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	39	D009 21・B001 03 □	175・腫2
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	108	D006 07	29
カテコールアミン3分画	27	D008 33	165
カテコールアミン総	27	D008 38	189
カドミウム	102		
ガバペンチン	120	B001 02	特
カフィール→ジソピラミド	122	B001 02	特
可溶性IL-2レセプター	39	D009 30・B001 03 □	438・腫2
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	109	D006 12	93
可溶性メソテリン関連ペプチド	39	D009 26・B001 03 □	220・腫2
(抗)ガラクトース欠損IgG抗体	71	D014 07	114
カリウム(K)	98	D007 01	11
(ニューモシスチス)カリニDNA	67		
(子宮頸管粘液中)顆粒球エラスターゼ	33	D004 08	119
カルシウム(Ca)	98	D007 01	11
(イオン化)カルシウム	98	D007 07	26
(抗)カルジオリピン β_2 グリコプロテインI複合体抗体(抗CL・ β_2 GP I抗体)	72	D014 27	223
(抗)カルジオリピンIgG抗体	72	D014 28	226
(抗)カルジオリピンIgM抗体	72	D014 28	226
カルシトニン	26	D008 20	133
カルニチン分画	97	D007 23+D007 23	95+95
カルバマゼピン	119	B001 02	特
肝細胞増殖因子(HGF)	35	D007 52	227
カンジダマンナン抗原	68	D012 21	134
(抗)肝腎マイクロソーム1抗体→抗LKM-1抗体	73	D014 25	215
(一般細菌)感受性検査	116	D019 01/02/03	腫2・腫3・腫4・腫5
(抗酸菌)感受性検査(間接法)4薬剤以上	116	D022	400
関節液検査	113		

力	ページ	診療報酬区分	実施料
間接クームス試験	76	D011 02 □	47
癌胎児性抗原(CEA)	36	D009 02・B001 03 □	99・腫2
(ヒト)癌胎児性フィブロネクチン	33	D015 23	204
寒冷凝集反応	68	D014 01	11

キ	ページ	診療報酬区分	実施料
奇形精子率(精液一般検査)	113	D004 05	70
キシロカイン→リドカイン	122	B001 02	特
キニジン	122	B001 02	特
凝固因子活性検査(第Ⅱ, V, VII, VIII, IX, X, XI, XII, XIII因子)	108	D006 30	223
凝固抑制因子検査(第VIII, IX因子)	108	D006 20	144

ク	ページ	診療報酬区分	実施料
グアナゼ	87	D007 12	35
クオンティフェロンTBゴールドプラス	67	D015 27	612
(間接)クームス試験	76	D011 02 □	47
(直接)クームス試験	76	D011 02 イ	34
クエン酸	91		
クラミドフィラ(クラミジア)シタシ(オーム病クラミドフィラ)	65	D012 11 ネ	79
クラミドフィラ(クラミジア)シタシ	65		
クラミジアトラコマティス	65	D012 40	200
クラミジアトラコマティスDNA	66	D023 02	193
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgA	65	D012 10	75
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgG	65	D012 09	70
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgM	65	D012 27	152
クリオグロブリン定性	77	D015 05	42
グリコアルブミン	90	D007 17	55
グリコヘモグロビンA1c→ヘモグロビンA1c(HbA1c)	90	D005 09	49
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	69	D012 35	174
グリバックーイマチニブ	125	B001 02	特
(HCV群別)グレーピング	63	D013 11	221
グルコース	90	D007 01	11
クレアチニン	88	D007 01	11
クレアチニンクリアランス	104		
クレアチニンクリアランス(24時間法)	104		
クレアチン	88	D007 01	11
クレアチンフォスフォキナーゼ→CK(CPK)	86	D007 01	11
クレアチンフォスフォキナーゼ-MB→CK-MB(CPK-MB)(CLIA)	86	D007 22	90
クレアチンフォスフォキナーゼ-MB→CK-MB(CPK-MB)(免疫阻止-UV法)	86		
クレアチンフォスフォキナーゼアイソザイム→CK(CPK)アイソザイム	86	D007 17	55
クロール(Cl)	98	D007 01	11
クロール定量(髄液検査)	113	D007 01	11
クロナゼパム	120	B001 02	特
クロバザム	120	B001 02	特
クロム	102		

ケ	ページ	診療報酬区分	実施料
(末梢)血液一般検査	105	D005 05	21

ケ		ページ	診療報酬区分	実施料
血液型 (ABO式)		76	D011 01	24
血液型 (Rh(D因子)式)		76	D011 01	24
血液型 (Rh-Hr式)		76	D011 03	148
血液型不適合妊娠		76		
血液像		106	D005 03	15
結核菌群核酸同定 (TRC)		67, 116	D023 13	410
結核菌特異的IFN- γ		67	D015 30	594
血小板数 (PLT)		105	D005 05	21
血小板関連IgG (PAIgG)		74	D011 06	193
(抗)血小板抗体		74	D011 08	261
血小板第4因子 (PF-4)		107	D006 26	178
血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体 (HIT抗体)	74, 107	D011 10		390
血色素量 (Hb)		105	D005 05	21
血清 HER2タンパク		37	B001 03 □	腫2
血清亜鉛 (Zn)		99	D007 37	136
血清アミロイドA蛋白 (SAA)		79	D015 06	47
血清抗p53抗体		36	D009 19・B001 03 □	163・腫2
血清鉄 (Fe)		99	D007 01	11
血清銅 (Cu)		99	D007 05	23
血清補体価	71, 77	D015 04		38
結石分析 (成分比率)		102	D010 02	117
血中11-OHCS		29	D008 02	60
血中ケトン体分画		91	D007 19	59
血糖→グルコース		90	D007 01	11
ケトン体 (尿一般定性検査)		111	D000	★26
(血中)ケトン体分画		91	D007 19	59
ケモカイン→TARC		81	D015 19	184
ゲンタシン→ゲンタマイシン		124	B001 02	特
ゲンタマイシン		124	B001 02	特

コ		ページ	診療報酬区分	実施料
(HCV抗原)コア蛋白質		64	D013 05	105
抗AChR抗体 (抗アセチルコリンレセプター抗体)		74	D014 43	798
抗BP180抗体		74	D014 33	270
抗CL・ β_2 GP I 抗体 (抗カルジオリピン β_2 グリコプロテイン I 複合体抗体)		72	D014 27	223
抗DNA抗体 (RIA)		71	D014 17	163
抗ds-DNA IgG抗体		71	D014 17	163
抗ds-DNA IgM抗体		71		
抗GAD抗体		34	D008 21	134
抗GBM抗体 (抗糸球体基底膜抗体)		73	D014 32	262
抗IA-2抗体		34	D008 43	213
抗Jo-1抗体 (CLEIA)		73	D014 09	140
抗Jo-1抗体 (オクタロニー法)		73	D014 09	140
抗LKM-1抗体		73	D014 25	215
抗RNAポリメラーゼIII抗体		72	D014 18	170
抗RNP抗体 (CLEIA)		72	D014 11	144
抗RNP抗体 (オクタロニー法)		72	D014 11	144
抗Scl-70抗体 (CLEIA)		72	D014 14	157

コ		ページ	診療報酬区分	実施料
抗Scl-70抗体 (オクタロニー法)		72	D014 14	157
抗Sm抗体 (CLEIA)		72	D014 12	151
抗Sm抗体 (オクタロニー法)		72	D014 12	151
抗SS-A/Ro抗体 (CLEIA)		72	D014 16	161
抗SS-A/Ro抗体 (オクタロニー法)		72	D014 16	161
抗SS-B/La抗体 (CLEIA)		72	D014 15	158
抗SS-B/La抗体 (オクタロニー法)		72	D014 15	158
抗ss-DNA IgG抗体		71	D014 17	163
抗ss-DNA IgM抗体		71		
抗TPO抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体) (CLEIA)		25	D014 10	142
抗アクアポリン 4 抗体		73	D014 45	1000
抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗AChR抗体)		74	D014 43	798
抗胃壁細胞抗体		74		
抗核抗体 (ANA)		71	D014 05	102
抗ガラクトース欠損IgG抗体		71	D014 07	114
抗カルジオリピン β_2 グリコプロテイン I 複合体抗体 (抗CL・ β_2 GP I 抗体)		72	D014 27	223
抗カルジオリピンIgG抗体		72	D014 28	226
抗カルジオリピンIgM抗体		72	D014 28	226
抗肝腎マイクロソーム1抗体→抗LKM-1抗体		73	D014 25	215
抗血小板抗体		74	D011 08	261
抗甲状腺サイログロブリン抗体 (サイロイドテスト)		25	D014 03	37
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗TPO抗体) (CLEIA)		25	D014 10	142
抗甲状腺マイクロソーム抗体 (マイクロソームテスト)		25	D014 03	37
抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA)		73	D014 30	258
抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA)		73	D014 31	259
抗サイログロブリン抗体 (CLEIA)		25	D014 09	140
好酸球数		105	D005 04	17
(抗酸菌)塗抹鏡検		116	D017 01+D017 01 注1	50+35
(抗酸菌)分離培養 (液体法)		116	D020 01	300
(抗酸菌)分離培養 (小川法)		116	D020 02	209
(抗酸菌)感受性検査 (間接法)		116	D022	400
抗酸菌同定 (質量分析)		116	D023 11	410
抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)		73	D014 32	262
抗シトルリン化ペプチド (CCP)抗体		71	D014 24	198
(抗)甲状腺サイログロブリン抗体 (サイロイドテスト)		25	D014 03	37
甲状腺刺激ホルモン (TSH) (CLEIA) IFCC	24, 25	D008 09		101
甲状腺刺激ホルモン (TSH)レセプター抗体 (CLEIA)		25	D014 26	220
(抗)甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗TPO抗体) (CLEIA)		25	D014 10	142
(抗)甲状腺マイクロソーム抗体 (マイクロソームテスト)		25	D014 03	37
抗ストレプトキナーゼ抗体 (ASK)		68	D012 03	29
抗ストレプトリジン-0抗体 (ASO)		68	D012 01	15
抗セントロメア抗体 (CLEIA)		73	D014 19	174
酵素抗体染色		128	N002 08	400
抗体同定・抗体価測定 (不規則性抗体)		76	D011 04	159
(抗)好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA)		73	D014 30	258
(抗)好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA)		73	D014 31	259
抗デスモグレイン1抗体		74	D014 37	300
抗デスモグレイン3抗体		74	D014 33	270

コ		ページ	診療報酬区分	実施料
抗トポイソメラーゼⅠ抗体→抗ScI-70抗体(CLEIA)	72	D014 14	157	
抗トポイソメラーゼⅠ抗体→抗ScI-70抗体(オクタロニー法)	72	D014 14	157	
抗内因子抗体	74			
抗表皮成分自己抗体(直接法)	74	N002(08)+N002(08注)	400+1200	
抗平滑筋抗体	73			
抗ヘリコバクターピロリ抗体(LA)	68	D012 12	80	
抗ミトコンドリアM2抗体	73	D014 21	189	
抗ミトコンドリア抗体	73	D014 20	181	
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピンβ ₂ グロブリンI複合体抗体	72	D014 27	223	
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピン抗体(IgG)	72	D014 28	226	
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピン抗体(IgM)	72	D014 28	226	
コクサッキーウイルス(CF)(NT)	45, 46	D012 11 □	79	
極長鎖脂肪酸	93	D010 08 □	1141	
骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	103	D008 27・B001 03 □	156・腫2	
骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	26, 86, 103	D008 30	161	
コプロボルフィリン(血中)	100	D007 50	210	
コプロボルフィリン(尿中)	100	D001 14	131	
コプロボルフィリン定性	100			
コリンエステラーゼ(ChE)	87	D007 01	11	
抗利尿ホルモン(AVP)	24	D008 47	230	
コルチゾール	29	D008 15	124	
(遊離)コレステロール	92	D007 01	11	
(総)コレステロール(T-Chol)	92	D007 03	17	
コレステロールエステル比	92			
コレステロール分画	94	D007 18	57	

サ		ページ	診療報酬区分	実施料
(肺)サーファクタントプロテインA(SP-A)	80	D007 35	130	
(肺)サーファクタントプロテインD(SP-D)	80	D007 37	136	
サイクリックAMP	35	D008 35	170	
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)(CYFRA)	39	D009 17・B001 03 □	158・腫2	
サイトメガロウイルス	50	D012 11 ハ	79	
サイトメガロウイルス(IgM, IgG)	50	D012 42 ハ	206	
サイトメガロウイルスDNA定性	56			
サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	56	D012 54	366	
サイトメガロウイルスpp65抗原(C10, C11)	56	D012 54	366	
細胞診検査(婦人科)	129	N004 01	150	
細胞診検査(喀痰集細胞法)	129	N004 02	190	
細胞数(髄液一般検査)	113	D004 03	62	
細胞種類(髄液一般検査)	113	D004 03	62	
サイロイドテスト(抗甲状腺サイログロブリン抗体)	25	D014 03	37	
(遊離)サイロキシン(Free T ₄)	25	D008 15	124	
サイロキシン(T ₄)(CLEIA)	25	D008 12	108	
サイロキシン結合グロブリン(TBG)	25	D008 17	130	
サイログロブリン(CLEIA)	25	D008 18	131	
(抗)サイログロブリン抗体(CLEIA)	25	D014 09	140	
サリチル酸	125	B001 02	特	
ザロンチン→エトサクシミド	119	B001 02	特	

サ		ページ	診療報酬区分	実施料
酸化LDL(MDA-LDL)	94	D007 48	194	
サンリズム→ビルシカイニド	122	B001 02	特	

シ		ページ	診療報酬区分	実施料
ジアゼパム	120	B001 02	特	
ジアバックス→ジアゼパム	120	B001 02	特	
シアリルLe ^x -抗原(SLX)	37	D009 14・B001 03 □	144・腫2	
シアリルLe ^x 抗原(CSLEX)	37	D009 18・B001 03 □	160・腫2	
シアリルTn抗原(STN)	38	D009 15・B001 03 □	146・腫2	
シアリ化糖鎖抗原KL-6→KL-6	80	D007 28	111	
シアル酸	90			
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	33	D004 08	119	
(抗)糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	73	D014 32	262	
シクロスポリン	125	B001 02	特	
ジゴキシン	121	B001 02	特	
ジゴシン→ジゴキシン	121	B001 02	特	
シスタチンC[金コロイド凝集法]	79	D007 30	115	
ジソピラミド	122	B001 02	特	
ジフェニルヒダントイン→フェニトイン	119	B001 02	特	
シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	39	D009 17・B001 03 □	158・腫2	
シベンソリン	122	B001 02	特	
脂肪酸分画	93	D010 07	405	
(尿中)シュウ酸	91	D001 18	200	
絨毛性ゴナドトロピン(HCG)	33	D008 21 イ	134	
絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット(HCG-β)	33	D008 19	132	
女性AICS(6種)	130			
心筋トロポニンT	34, 79	D007 29	112	
シングラルレルゲン(特異的IgE)	81, 83	D015 13	各110	
神経特異エノラーゼ(NSE)	39	D009 12・B001 03 □	142・腫2	
心室筋ミオシン軽鎖I	34, 79	D007 45	184	
(ヒト)心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	34, 79	D007 36	135	
浸透圧(血清)	98	D005 03	15	
浸透圧(部分尿)	98	D001 03	16	
(ヒト)心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	34	D008 46	221	

ス		ページ	診療報酬区分	実施料
髄液一般検査	113	D004 03	62	
膵PLA ₂ (膵ホスホリパーゼA ₂)	85	D007 49	204	
膵アミラーゼ→P型アミラーゼ定量	85	D007 14	48	
膵グルカゴン	34	D008 25	150	
水痘・带状疱疹ウイルス	49	D012 11 ナ	79	
水痘・带状疱疹ウイルス(IgM, IgG)	49	D012 42 チ	206	
水痘・带状疱疹ウイルスDNA定性	55			
水痘・带状疱疹ウイルス抗原(FA)	55	D012 48	227	
膵ホスホリパーゼA ₂ (膵PLA ₂)	85	D007 49	204	
(抗)ストレプトキナーゼ抗体(ASK)	68	D012 03	29	
(抗)ストレプトリジン-O抗体(ASO)	68	D012 01	15	
ストロマイシン1→MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ3)	71	D014 08	116	

セ		ページ	診療報酬区分	実施料
精液一般検査		113	D004 04	70
精子数(精液一般検査)		113	D004 04	70
精子不動化抗体(SI50)		74		
精子不動化抗体(不動化法)		74		
成人T細胞白血病ウイルス抗体(ATLV抗体)(CLEIA)		58	D012 31	163
成人T細胞白血病ウイルス抗体(ATLV抗体)(PA)		58	D012 13	85
成人T細胞白血病ウイルス抗体(ATLV抗体)(LIA)		58	D012 56	425
成長ホルモン(GH)		24	D008 13	108
赤血球形態		106	D005 03	15
赤血球数(RBC)		105	D005 05	21
セルシン→ジアセバム		120	B001 02	特
セルロプラスミン		78	D015 09	90
セレニカR→バルプロ酸		119	B001 02	特
セレネース→ハロペリドール		121	B001 02	特
セロトニン		28		
潜血(尿一般定性検査)		111	D000	★26
染色標本作製		128		
(抗)セントロメア抗体(CLEIA)		73	D014 19	174
前立腺特異抗原(PSA)		37	D009 09・B001 03 □	124・腫2
前立腺特異抗原(PSA)F/T比→PSA F/T比		37	D009 16・B001 03 □	150・腫2

ソ		ページ	診療報酬区分	実施料
総IgE→IgE(非特異的IgE)		81	D015 10	100
総コレステロール(T-Chol)		92	D007 03	17
(尿中)総三塩化物		101		
総胆汁酸		94	D007 13	47
総蛋白(TP)(血清)		84	D007 01	11
総蛋白(TP)(髄液)		84	D007 01	11
総蛋白(TP)(蓄尿)		84	D001 01	7
総鉄結合能(TIBC)		99	D007 01	11
総ビリルビン(T-Bil)		99	D007 01	11
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)		89	D010 05	283
総ホモシステイン		90	D010 04 イ	279
ソナコン→ジアセバム		120	B001 02	特
ソニサミド		120	B001 02	特
ソビラール→プロパフェノン		122	B001 02	特
ソマトメジン-C(IGF-1)		24	D008 42	212

タ		ページ	診療報酬区分	実施料
第Ⅱ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223
第Ⅴ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223
第Ⅶ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223
第Ⅷ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223
第Ⅷ因子(凝固抑制因子検査)		108	D006 20	144
第Ⅸ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223
第Ⅸ因子(凝固抑制因子検査)		108	D006 20	144
第Ⅹ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223
第ⅩⅠ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223

タ		ページ	診療報酬区分	実施料
第ⅩⅡ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223
第ⅩⅢ因子(凝固因子活性検査)		108	D006 30	223
大腸菌ヘロトキシン		115	D023-2 03	189
ダイアモックス→アセタゾラミド		120	B001 02	特
タクロリムス		125	B001 02	特
タゴシッド→テイコブラニン		124	B001 02	特
(総)胆汁酸		94	D007 13	47
単純ヘルペスウイルス		50	D012 11 ヘ	79
単純ヘルペスウイルス(1型, 2型)		50	D012 11 ヘ	79
単純ヘルペスウイルス(IgM, IgG)		50	D012 42 イ	206
単純ヘルペスウイルスDNA定性		55		
単純ヘルペスウイルスDNA定量		55	D023 16	450
単純ヘルペスウイルスIgG(髄液中)		50	D012 42 イ	206
単純ヘルペスウイルス特異抗原(FA)		55	D012 37	180
男性AICS(5種)		130		
蛋白(尿一般定性検査)		111	D000	★26
蛋白定量(髄液検査)		113	D007 01	11
(総)蛋白(TP)(血清)		84	D007 01	11
(総)蛋白(TP)(髄液)		84	D007 01	11
(総)蛋白(TP)(蓄尿)		84	D001 01	7
蛋白分画		84	D007 04	18
タンボコール→フレカイニド		122	B001 02	特

チ		ページ	診療報酬区分	実施料
チミジンキナーゼ活性		39	D005 12	233
中性脂肪(TG)		92	D007 01	11
虫卵(セロテープ)		112	D003 02	20
直接クームス試験		76	D011 02 イ	34
直接ビリルビン		99	D007 01	11
チロシン・フェニルアラニン(アミノ酸分析2種類[LC/MS])		89	D007 04 イ	279+279
(尿)沈渣(フローサイトメトリー)		111	D002 02	★24

ツ		ページ	診療報酬区分	実施料
ツツガムシカーブIgG, IgM		65	D012 43	207
ツツガムシカトーIgG, IgM		65	D012 43	207
ツツガムシギリアムIgG, IgM		65	D012 43	207

テ		ページ	診療報酬区分	実施料
テイコブラニン		124	B001 02	特
デオキシビリジノリン		26, 38, 80	D008 39・B001 03 □	191・腫2
デオキシビリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)		103	D008 39	191
テオドール→テオフィリン		125	B001 02	特
テオフィリン		125	B001 02	特
テオロング→テオフィリン		125	B001 02	特
テグレートール→カルバマゼピン		119	B001 02	特
テストステロン		32	D008 14	122
(抗)デスモグレイン1抗体		74	D014 37	300
(抗)デスモグレイン3抗体		74	D014 33	270

テ	ページ	診療報酬区分	実施料
鉄 (Fe)	99	D007 01	11
(総)鉄結合能 (TIBC)	99	D007 01	11
(不飽和)鉄結合能 (UIBC)	99	D007 01	11
デバケン→バルプロ酸	119	B001 02	特
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S)	30	D008 34	169
テレスミン→カルバマゼピン	119	B001 02	特

ト	ページ	診療報酬区分	実施料
トイ→メキシレチン	122	B001 02	特
糖 (尿一般定性検査)	111	D000	★26
糖定量 (髄液検査)	113	D007 01	11
銅 (Cu)	99	D007 05	23
糖代謝解析	90		
トータルPAI-1 (tPA・PAI-1複合体)	110	D006 33	240
ドーバミン総	27		
トキソプラズマIgG抗体	69	D012 14	93
トキソプラズマIgM抗体	69	D012 15	95
特異的IgE (12種吸入性アレルギー)→アトピー鑑別試験 (12種吸入性アレルギー)	81, 82	D015 21	194
特異的IgE (MAST36アレルギー)	81, 82	D015 13	1430
特異的IgE (シングルスアレルギー)	81	D015 13	各110
特異的IgE (ミックスアレルギー)	81, 82	D015 13	各110
トピラマート	120	B001 02	特
トブラシン→トブラマイシン	124	B001 02	特
トブラマイシン	124	B001 02	特
(抗)トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体 (CLEIA)	72	D014 14	157
(抗)トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体 (オクタロニー法)	72	D014 14	157
(一般細菌)塗抹鏡検	116	D017 03	64
(抗酸菌)塗抹鏡検	116	D017 01+D017 01注	50+35
トランスサイレチン→プレアルブミン	78	D015 12	104
トランスフェリン	78	D015 07	60
(尿中)トランスフェリン (クレアチニン換算値)	78	D001 09	101
(尿中)トランスフェリン	78	D001 09	101
トリグリセリド→中性脂肪 (TG)	92	D007 01	11
(尿中)トリクロル酢酸	101		
トリブシン	85	D007 47	189
トリメタジオン	120	B001 02	特
(遊離)トリヨードサイロニン (Free T ₃)	25	D008 15	124
トリヨードサイロニン (T ₃) (CLEIA)	25	D008 07	99
(心筋)トロポニンT	34, 79	D007 29	112
トロニン・アンチトロニンⅢ複合体 (TAT)	109	D006 25	176
トロノモジュリン	110	D006 28	204

ナ	ページ	診療報酬区分	実施料
ナイアシン (ニコチン酸)	97		
(抗)内因子抗体	74		
ナトリウム (Na)	98	D007 01	11
ナバ→アセトアミノフェン	125	D007 44	185
鉛 (Pb)	101		

ニ	ページ	診療報酬区分	実施料
ニコチン酸 (ナイアシン)	97		
ニトラゼパム	120	B001 02	特
日本脳炎ウイルス	47	D012 11 ヅ	79
乳酸	91	D007 13	47
乳酸脱水素酵素→LD (LDH) IFCC	86	D007 01	11
乳酸脱水素酵素アイソザイム→LD (LDH) アイソザイム	86	D007 14	48

ニューモシスチスカリニDNA	67		
尿酸 (UA)	88	D007 01	11
尿素窒素 (UN)	88	D007 01	11
尿中2,5-ヘキサシジオン	101		
尿中Ⅳ型コラーゲン	79	D001 15	184
尿中N-メチルホルムアミド	101		
尿中アセトン定量	91		
尿中アルブミン	78, 84	D001 08	99
尿中アルブミン (クレアチニン換算値)	78, 84	D001 08	99
尿一般定性検査	111	D000	★26
尿蛋白定量 (蓄尿) (部分尿)	111	D001 01	7
尿中核マトリックスプロテイン22 (NMP22)	39	D009 13	143
尿中シュウ酸	91	D001 18	200
尿中スチレン代謝物	99		
尿中総三塩化物	101		
尿中トランスフェリン	78	D001 09	101
尿中トリクロル酢酸	101		
尿中馬尿酸	101		
尿中ミオグロビン (CLEIA)	79	D007 36	135
尿中メチル馬尿酸	101		
尿中免疫電気泳動 (尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定)	77	D015 22	201
尿沈渣 (フローサイトメトリー)	111	D002 02	24
尿糖定量 (蓄尿) (部分尿)	111	D001 02	9

ネ	ページ	診療報酬区分	実施料
ネオプテリン	102		
ネオペリドール→ハロペリドール	121	B001 02	特
ネルボン→ニトラゼパム	120	B011 02	特

ノ	ページ	診療報酬区分	実施料
(ヒト)脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP)	34	D008 20	133
ノルベス→ジソピラミド	122	B001 02	特

ハ	ページ	診療報酬区分	実施料
肺サーファクタントプロテインA (SP-A)	80	D007 35	130
肺サーファクタントプロテインD (SP-D)	80	D007 37	136
ハイセレニン→バルプロ酸	119	B001 02	特
梅毒定性RPR (LA)	70	D012 01	15
梅毒定性TP抗体 (LA)	70	D012 04	32
梅毒定量TP抗体 (LA)	70	D012 06	53
梅毒定量RPR (LA)	70	D012 05	34
(一般細菌)培養同定 (口腔、気道、呼吸器)	116	D018 01	170
(一般細菌)培養同定 (消化器)	116	D018 02	190

ハ		ページ	診療報酬区分	実施料
(一般細菌)培養同定(泌尿器、生殖器)	116	D018 04	180	
(一般細菌)培養同定(血液、穿刺液)	116	D018 03	220	
(一般細菌)培養同定(その他部位)	116	D018 05	170	
ハイドロキシプロリン(総)	90	D010 04 イ	279	
白血球数(WBC)	105	D005 05	21	
白血球像	106	D005 03	15	
(尿中)馬尿酸	101			
パニリルマンデル酸→VMA	28	D008 04	90	
パファリン→サリチル酸	125	B001 02	特	
ハプトグロビン	78	D015 14	132	
ハベカシン→アルベカシン	124	B001 02	特	
パラインフルエンザウイルス	42	D012 11 ヌ・ル・ヲ	79	
(遊離)バルプロ酸	119	B001 02	特	
バルプロ酸	119	B001 02	特	
(ヒト)パルボウイルスB19DNA定性	54			
(ヒト)パルボウイルスB19IgG	49			
(ヒト)パルボウイルスB19IgM	49	D012 42 ト	206	
パレコウイルス1型(エコーウイルス22型)	44	D012 11 ホ	79	
パレリン→バルプロ酸	119	B001 02	特	
ハロステン→ハロペリドール	121	B001 02	特	
ハロペリドール	121	B001 02	特	
ハロマンズ→ハロペリドール	121	B001 02	特	
バンコマイシン	124	B001 02	特	
反応(pH)(髄液一般検査)	113	D004 03	62	
反応(pH)(精液一般検査)	113			

ヒ		ページ	診療報酬区分	実施料
ヒアルロン酸(胸水)	90			
ヒアルロン酸(血清)	90	D007 43	179	
ビクリン→アミカシン	124	B001 02	特	
鼻汁中好酸球	106	D005 03	15	
ビタミンA	96			
ビタミンB ₁	96	D007 53	239	
ビタミンB ₂	96	D007 54	242	
ビタミンB ₆	96			
ビタミンB ₁₂	96	D007 38	140	
ビタミンC(アスコルビン酸)	96	D007 60	305	
ビタミンE	97			
ビタミンE分画	97			
ビタミンK分画	97, 110			
ヒダントール→フェニトイン	119	B001 02	特	
比重(髄液一般検査)	113	D004 03	62	
比重(尿一般定性検査)	111	D000	★26	
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	33	D015 23	204	
非特異的IgE→IgE	81	D015 10	100	
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)	33	D008 21 イ	134	
ヒト絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット(HCG-β)	33	D008 19	132	
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	34, 79	D007 36	135	

ヒ		ページ	診療報酬区分	実施料
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	34	D008 46	221	
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	34	D008 20	133	
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	34	D008 20	136	
ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)	57	D023 10	350	
ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)(LBC)	57	D023 10	350	
ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)	57			
ヒトパピローマウイルス(HPV)DNA型判定(ハイリスク13種)	57	D023 22	2000	
ヒトバルボウイルスB19DNA定性	54			
ヒトバルボウイルスB19IgG	49			
ヒトバルボウイルスB19IgM	49	D012 42 ト	206	
ヒトヘルペスウイルス6型DNA定性	55			
ヒトヘルペスウイルス7型DNA定性	55			
ビメノール→ビルメノール	123	B001 02	特	
百日咳菌DNA	69	D023 12	360	
百日咳抗体	69	D012 51	257	
(抗)表皮成分自己抗体(直接法)	74	N002(08)+N002(08注)	400+1200	
病理組織検査(1臓器)	128	N000	860	
病理組織検査(2臓器)	128	N000	1720	
病理組織検査(3臓器)	128	N000	2580	
ビリナジン→アセトアミノフェン	125	D007 46	185	
ビリルビン(尿一般定性検査)	111	D000	★26	
(総)ビリルビン	99	D007 01	11	
ビリルビン分画(直接・間接)	99	D007 01	11	
ビルシカイニド	122	B001 02	特	
ビルビン酸	91	D007 13	47	
ビルメノール	123	B001 02	特	

フ		ページ	診療報酬区分	実施料
(ファディアトープ)→アトビー鑑別試験(12種吸入性アレルギー)	81	D015 21	194	
フィブリノーゲン(FIB)	108	D006 04	23	
(可溶性)フィブリンモノマー複合体(SFMC)	109	D006 12	93	
フィブリンモノマー複合体定量	109	D006 29	221	
風疹ウイルス	49	D012 11 レ	79	
風疹ウイルス(IgM, IgG)	49	D012 42 ロ	206	
(遊離)フェニトイン	119	B001 02	特	
フェニトイン	119	B001 02	特	
フェノバルール→フェノバルビタール	119	B001 02	特	
フェノバルビタール	119	B001 02	特	
フェリチン	78	D007 25	105	
フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	109	D006 16	129	
フォン・ウィルブランド因子抗原定量	109	D006 21	147	
フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析	109			
不規則性抗体(抗体同定・抗体価測定)	76	D011 04	159	
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	26	D008 33	165	
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	26	D008 33	165	
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	26	D008 38	189	
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	24	D008 38	189	
不飽和鉄結合能(UIBC)	99	D007 01	11	

特：特定薬剤治療管理料

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料

★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

フ		ページ	診療報酬区分	実施料
プラスミノゲン		109	D006 13	100
フリー-T ₃ →遊離トリヨードサイロニン(Free T ₃)		25	D008 15	124
フリー-T ₄ →遊離サイロキシニン(Free T ₄)		25	D008 15	124
フリーテストステロン		32	D008 29	159
ブリミドン		119	B001 02	特
ブリムロン→ブリミドン		119	B001 02	特
ブレアルブミン		78	D015 12	104
フレカイニド		122	B001 02	特
プレグナンジオール(P ₂)		32	D008 43	213
プレグナントリオール(P ₃)		32	D008 48	232
(プロGRP)→ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)		39	D009 21・B001 03 口	175・腫2
プロウイルス→HTLV-I (ATLV) DNA(クロナリティ)		58		
プロカインアミド		122	B001 02	特
プロカルシトニン		68	D007 58	284
プログラフ→タクロリムス		125	B001 02	特
プロゲステロン		32	D008 24	147
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P) (CLIA)		79	D007 37	136
ブロック作製		128		
プロテインC(抗原量)		110	D006 31	232
プロテインC活性		110	D006 32	234
プロテインS(抗原量)		110	D006 23	158
プロテインS(遊離型抗原量)		110	D006 23	158
プロテインS活性		110	D006 24	163
プロトポリフィリン		100	D007 56	272
プロトロンビン時間(PT)		108	D006 02	18
プロトロンビンフラグメントF1+2		109	D006 27	192
プロノン→プロパフェノン		122	B001 02	特
プロパフェノン		122	B001 02	特
プロプラノロール		123		
プロムベリドール		121	B001 02	特
プロラクチン		24	D008 06	98
(抗酸菌)分離培養(液体法)		116	D020 01	300
(抗酸菌)分離培養(小川法)		116	D020 02	209
ヘ		ページ	診療報酬区分	実施料
平均赤血球容積(MCV)		105	D005 05	21
平均赤血球血色素量(MCH)		105	D005 05	21
平均赤血球血色素濃度(MCHC)		105	D005 05	21
(抗)平滑筋抗体		73		
(尿中2,5)ヘキササジオン		101		
ヘパリン		109	D007 27	108
ペブシノゲン		87		
ペブリジル		123	B001 02	特
ペブリコール→ペブリジル		123	B001 02	特
ヘマトクリット値(Ht)		105	D005 05	21
(便中)ヘモグロビン		112	D003 05	37
ヘモグロビンA1c(HbA1c)		90	D005 09	49
(便中)ヘモグロビン及びトランスフェリン		112	D003 08	56

ヘ		ページ	診療報酬区分	実施料
ヘリコバクター培養同定		115	D018 02	190
ヘリコバクター感受性		115	D019 01	180
(抗)ヘリコバクターピロリ抗体(LA)		68	D012 12	80
(便中)ヘリコバクターピロリ抗原		68	D012 24	142
(単純)ヘルペスウイルス		50	D012 11 ヘ	79
(単純)ヘルペスウイルス(1型, 2型)		50	D012 11 ヘ	79
(単純)ヘルペスウイルス(IgM, IgG)		50	D012 42 イ	206
(単純)ヘルペスウイルスDNA定性		55		
(単純)ヘルペスウイルスDNA定量		55	D023 16	450
(単純)ヘルペスウイルスIgG(髄液中)		50	D012 42 イ	206
(単純)ヘルペスウイルス特異抗原(FA)		55	D012 37	180
(ヒト)ヘルペスウイルス6型DNA定性		55		
(ヒト)ヘルペスウイルス7型DNA定性		55		
ベンザリナーニトラゼパム		120	B001 02	特
ベンズジョーンズ蛋白の同定(尿中免疫電気泳動)		77	D015 22	201
便中ヘモグロビン定性(1日目)(2日目)(3日目)		112	D003 05	37
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン		112	D003 08	56
便中ヘリコバクターピロリ抗原		68	D012 24	142
ペントラキシン3(PTX3)		35		
扁平上皮癌関連抗原→SCC		39	D009 04・B001 03 口	104・腫2
ホ		ページ	診療報酬区分	実施料
ホールPTH→副甲状腺ホルモン(Whole PTH)		26	D008 33	165
(酵)ホスホリパーゼA ₂ (酵PLA ₂)		85	D007 49	204
補体因子(C3)		77	D015 08	70
補体因子(C4)		77	D015 08	70
(血清)補体価		71, 77	D015 04	38
(総)ホモシステイン		90	D010 04 イ	279
ホモバニリン酸→HVA		28	D008 03	69
ポリコナゾール		124	B001 02 カ	特
ホリゾン→ジアゼパム		120	B001 02	特
マ		ページ	診療報酬区分	実施料
マイクロソームテスト(抗甲状腺マイクロソーム抗体)		25	D014 03	37
マイコプラズマニューモニエ		65	D012 04	32
マイコプラズマニューモニエDNA		66	D023 06	291
マイスタンークロバザム		120	B001 02	特
マグネシウム(Mg)		98	D007 01	11
(α ₂)マクログロブリン		78	D006 18	138
麻疹ウイルス		48	D012 11 ソ	79
麻疹ウイルス(IgM, IgG)		48	D012 42 ホ	206
末梢血液一般検査		105	D005 05	21
末梢血液像		106	D005 03	15
マンガン		102	D007 08	27
ミ		ページ	診療報酬区分	実施料
ミオグロビン		34, 79	D007 36	135
(心室筋)ミオシン軽鎖 I		34, 79	D007 45	184

特：特定薬剤治療管理料

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料

★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

ミ	ページ	診療報酬区分	実施料
未染標本作製	128		
ミックスアレルゲン	81	D015 13	各110
ミトコンドリア-AST(m-AST)(m-GOT)	86	D007 15	49
ミトコンドリア-GOT→ミトコンドリア-AST(m-AST)(m-GOT)	86	D007 15	49
(抗)ミトコンドリアM2抗体	73	D014 21	189
(抗)ミトコンドリア抗体	73	D014 20	181
ミノアレピアチン→トリメタジオン	120	B001 02	特

ム	ページ	診療報酬区分	実施料
無機リン(P)	98	D007 03	17
ムラミダーゼ→リソチーム	85		
ムンプスウイルス	48	D012 11 リ	79
ムンプスウイルス(IgM, IgG)	48	D012 42 ヘ	206

メ	ページ	診療報酬区分	実施料
メキシチール→メキシレチン	122	B001 02	特
メキシレート→メキシレチン	122	B001 02	特
メキシレチン	122	B001 02	特
メソトレキセート→メソトレキサート	125	B001 02	特
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	28	D008 45	220
(尿中)メチル馬尿酸	101		
メソトレキサート	125	B001 02	特
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	77	D015 29	388
免疫電気泳動(抗ヒト全血清による同定)	77	D015 17	170
免疫電気泳動(特異抗血清による同定)	77	D015 24	218
免疫電気泳動(尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定)	77	D015 21	201
免疫複合体(モノクローナルRF)	73	D014 21	194

モ	ページ	診療報酬区分	実施料
網状赤血球数	105	D005 02	12
モノクローナルRF(免疫複合体)	73	D014 21	194

ヤ	ページ	診療報酬区分	実施料
薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	127		

ユ	ページ	診療報酬区分	実施料
有機酸スクリーニング検査	91	D010 08 イ	★1141
遊離コレステロール(F-Cho)	92	D007 01	11
遊離サイロキシニン(Free T ₄)	25	D008 15	124
遊離トリヨードサイロニン(Free T ₃)	25	D008 15	124
遊離HCG-β	33	D008 19	132
ユニフィル→テオフィリン	125	B001 02	特

ヨ	ページ	診療報酬区分	実施料
葉酸	97	D007 41	150

ラ	ページ	診療報酬区分	実施料
ラコサミド	120	B001 02	特
ラモトリギン	120	B001 02	特

ラ	ページ	診療報酬区分	実施料
ランドセン→クロナゼパム	120	B001 02	特
卵巣刺激ホルモン(FSH)	24	D008 13	108

リ	ページ	診療報酬区分	実施料
リマス→リチウム	99, 121	B001 02	特
(IgG型)リウマチ因子	71	D014 24	198
リウマチ因子(RF)定量	71	D014 02	30
リストセチンコファクター(フォン・ウィルブランド因子活性)	109	D006 16	129
リスモダン→ジソピラミド	122	B001 02	特
リスラミドR→ジソピラミド	122	B001 02	特
リソチーム	85		
リチウム	99, 121	B001 02	特
リチオマル→リチウム	99, 121	B001 02	特
リドカイン	122	B001 02	特
リパーゼ	85	D007 06	24
リボ蛋白分画(アガロース電気泳動法)	94	D007 15	49
リボ蛋白リパーゼ(LPL)	95	D007 51	219
リボトリール→クロナゼパム	120	B001 02	特
リボプロテイン(a)	95	D007 26	107
硫酸キニジン→キニジン	122	B001 02	特
(無機)リン(P)	98	D007 03	17
淋菌DNA	66	D023 03	204
淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時測定	66	D023 05	270
リン脂質	92	D007 02	15
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンβ ₂ グリコプロテインI複合体抗体	72	D014 27	223
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgG抗体	72	D014 28	226
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgM抗体	72	D014 28	226
リントナー→ハロペリドール	121	B001 02	特

ル	ページ	診療報酬区分	実施料
ルイネシン→ゲンタマイシン	124	B001 02	特
ループスアンチコアグラント(APTT凝固時間法)	72, 110		
ループスアンチコアグラント(希釈ラッセル蛇毒時間法)	72, 110	D014 35	273
ループスアンチコアグラント(リン脂質中和法)	72, 110	D014 35	273
ルナブロン→フロムペリドール	121	B001 02	特
ルミナール→フェノバルビタール	119	B001 02	特

レ	ページ	診療報酬区分	実施料
レキシ→カルバマゼピン	119	B001 02	特
レチノール結合蛋白(RBP)	78, 96	D015 15	136
レニン活性(PRA)(EIA)	35	D008 08	100
レニン濃度(ARC)(CLEIA)	35	D008 11	105
レベチラセタム	120	B001 02	特
レムナント様リボ蛋白コレステロール(RLP-C)	92	D007 43	179

ロ	ページ	診療報酬区分	実施料
ロイシニアミノペプチダーゼ→LAP	86	D007 01	11
ロタウイルス抗原	54	D012 08	65

ワ		ページ	診療報酬区分	実施料
ワコビタール→フェノバルビタール		119	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

アルファベット

A	ページ	診療報酬区分	実施料
ABC分類	87		
ABO式血液型	76	D011 01	24
ACA→抗セントロメア抗体 (ELISA)	73	D014 19	174
ACE(アンギオテンシン I 転換酵素)	87	D007 38	140
AChR→抗アセチルコリンレセプター抗体	74	D014 43	798
ACTH(副腎皮質刺激ホルモン)	24	D008 38	189
ADA(アデノシンデアミナーゼ)	87	D007 11	32
AFP→ α -フェトプロテイン定量	36	D009 03・B001 03 □	101・腫2
A/G比(アルブミン・グロブリン比)	84		
AICS→女性AICS(6種), 男性AICS(5種)	130		
Al(アルミニウム)	102	D007 29	112
Alb(アルブミン)	78, 84	D007 01	11
AIRS→男性AIRS・女性AIRS	130		
ALD→アルドラーゼ	86	D007 01	11
ALP→アルカリフォスファターゼIFCC	86	D007 01	11
ALPアイソザイム	86	D007 14	48
ALT(GPT)	86	D007 03	17
AMA→抗ミトコンドリア抗体	73	D014 20	181
AMY(アミラーゼ)	85	D007 01	11
AMYアイソザイム→アミラーゼアイソザイム	85	D007 14	48
ANA(抗核抗体)	71	D014 05	102
ANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	34	D008 46	221
APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)	108	D006 07	29
ARC→レニン濃度	35	D008 11	105
ASK(抗ストレプトキナーゼ抗体)	68	D012 03	29
ASMA→抗平滑筋抗体	73		
ASO(抗ストレプトリジン-O抗体)	68	D012 01	15
AST(GOT)	86	D007 03	17
ATⅢ(アンチトロンビンⅢ)	109	D006 10	70
ATLV(HTLV-Ⅰ)抗体(CLEIA)	58	D012 31	163
ATLV(HTLV-Ⅰ)抗体(PA)	58	D012 13	85
ATLV(HTLV-Ⅰ)抗体(LIA)	58	D012 56	425
ATLV(HTLV-Ⅰ)プロウイルスDNA(クロナリティ)	58		

B	ページ	診療報酬区分	実施料
BAP(骨型アルカリフォスファターゼ)	26, 86, 103	D008 30	161
BCA225	37	D009 17・B001 03 □	158・腫2
BFP(塩基性フェトプロテイン)	39	D009 16・B001 03 □	150・腫2
BGP→オステオカルシン	26	D008 28	157
B-J蛋白→尿中免疫電気泳動(尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定)	77	D015 22	201
BMG→ β_2 -マイクログロブリン	79	D015 11	101
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	34	D008 20	133
(抗)BP180抗体	74	D014 33	270
BS→グルコース	90	D007 01	11
BUN→尿素窒素(UN)	88	D007 01	11
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	63	D013 12	259

C	ページ	診療報酬区分	実施料
C1q(補体因子)	77		
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒター活性)	77, 109	D015 25	260
C1エステラーゼインヒター活性(C1インアクチベーター活性)	77, 109	D015 25	260
C3(補体因子)	77	D015 08	70
C4(補体因子)	77	D015 08	70

C	ページ	診療報酬区分	実施料
CA→カテコールアミン総	27	D008 38	189
CA→寒冷凝集反応	68	D014 01	11
CA-3F→カテコールアミン3分画	27	D008 33	165
CA15-3	37	D009 06・B001 03 □	115・腫2
CA19-9	36	D009 09・B001 03 □	124・腫2
CA54/61	38	D009 22・B001 03 □	184・腫2
CA72-4	38	D009 15・B001 03 □	146・腫2
CA125	38	D009 11・B001 03 □	140・腫2
cAMP→サイクリックAMP	35	D008 35	170
C-ANCA→抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	73	D014 31	259
Ca(カルシウム)	98	D007 01	11
(CA・RF)→抗ガラクトース欠損IgG抗体	71	D014 07	114
Cd→カドミウム	102		
CEA(癌胎児性抗原)	36	D009 02・B001 03 □	99・腫2
CH50→血清補体価	71, 77	D015 04	38
ChE(コリンエステラーゼ)	87	D007 01	11
CK(CPK)	86	D007 01	11
CK(CPK)アイソザイム	86	D007 17	55
CK-MB(CPK-MB)(CLIA)	86	D007 22	90
CKアイソザイム→CPKアイソザイム	86	D007 17	55
Cl(クロール)	98	D007 01	11
CL→抗カルジオリビンIgG抗体	72	D014 28	226
CL→抗カルジオリビンIgM抗体	72	D014 28	226
(抗)CL・ β_2 GPⅠ抗体→抗カルジオリビン β_2 グリコプロテインⅠ複合体抗体	72	D014 27	223
CMV→サイトメガロウイルス	50	D012 11 ハ	79
CMV→サイトメガロウイルス(IgM, IgG)	50	D012 42 ハ	206
CMV DNA→サイトメガロウイルスDNA定性	56		
CMV pp65抗原(C10, C11)→サイトメガロウイルスpp65抗原(C10, C11)	56	D012 54	366
CMV pp65抗原(C7-HRP)→サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	56	D012 54	366
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	127	D016 07	345
Cp→セルロプラスミン	78	D015 09	90
CPK(CK)	86	D007 01	11
CPK-MB(CK-MB)(CLIA)	86	D007 22	90
CPK-MB(CK-MB)(免疫阻止-UV法)	86	D007 17	55
CPR(C-ペプチド)	34	D008 13	108
Cr→クレアチニン	88	D007 01	11
Cr→クロム	102		
CRP(C反応性蛋白)定量	79	D015 01	16
CSLEX(シアリルLex抗原)	37	D009 18・B001 03 □	160・腫2
CT→カルシトニン	26	D008 20	133
Cu(銅)	99	D007 05	23
CYFRA(シフラ)(サイトケラチン19フラグメント)	39	D009 17・B001 03 □	158・腫2
(HB)c抗体(CLIA)	62	D013 06	133
(HB)c抗体(PHA)	62	D013 06	133
C反応性蛋白(CRP)定量	79	D015 01	16
C-ペプチド(CPR)	34	D008 13	108

D	ページ	診療報酬区分	実施料
DA→ドーパミン総	27		
DHEA-S(デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)	30	D008 34	169
DLST(薬剤によるリンパ球刺激試験)	127		
(抗)DNA抗体(RIA)	71	D014 17	163
DPD→デオキシビリジノリン	26, 38, 80	D008 39・B001 03 □	191・腫2

D	ページ	診療報酬区分	実施料
DPD(デオキシビリジノリン)(骨粗鬆症)	103	D008 39	191
(抗)ds-DNA IgG抗体	71	D014 17	163
(抗)ds-DNA IgM抗体	71		
DUPAN-2	36	D009 07・B001 03 □	118・腫2
Dダイマー	109	D006 17	130

E	ページ	診療報酬区分	実施料
E ₂ (IVF-エストラジオール)	31		
E ₂ (エストラジオール)[ECLA]	31	D008 36	172
EBウイルスDNA(クロナリティ)	56		
EBウイルスDNA定量	56	D023 08	310
EBウイルス抗EA IgG(EIA)	51	D012 42 二	206
EBウイルス抗EA-DR IgA(FA)	51	D012 11 二	79
EBウイルス抗EA-DR IgG(FA)	51	D012 42 二	206
EBウイルス抗EBNA IgG(EIA)	51	D012 42 二	206
EBウイルス抗EBNA(FA)	51	D012 11 二	79
EBウイルス抗VCA IgA(FA)	51	D012 11 二	79
EBウイルス抗VCA[IgG, IgM](EIA)	51	D012 42 二	206
EBウイルス抗VCA[IgG, IgM](FA)	51	D012 42 二	206
Echo(エステル型コレステロール)	92		
EL-1→エラスターゼ1	36, 85	D009 08・B001 03 □	123・腫2
EPO→エリスロポエチン	35	D008 41	209
(HB)e抗原	62	D013 04	101
(HB)e抗体	62	D013 04	101

F	ページ	診療報酬区分	実施料
F1+2→プロトロンビン フラグメントF1+2	109	D006 27	192
Fbg→フィブリノーゲン(FIB)	108	D006 04	23
F-Cho→遊離コレステロール	92	D007 01	11
FDP定量(血漿)	109	D006 11	80
FDP定量(部分尿)	109	D001 07	72
Fe(鉄)	99	D007 01	11
Free T ₃ (遊離トリヨードサイロニン)	25	D008 15	124
Free T ₄ (遊離サイロキシニン)	25	D008 15	124
FSH(卵巣刺激ホルモン)	24	D008 13	108
FT ₃ →遊離トリヨードサイロニン(Free T ₃)	25	D008 15	124
FT ₄ →遊離サイロキシニン(Free T ₄)	25	D008 15	124
FTA-ABS	70	D012 21	134

G	ページ	診療報酬区分	実施料
GA→グリコアルブミン	90	D007 17	55
GABA(γ-アミノ酪酸)	90	D010 04 イ	279
(抗)GAD抗体	34	D008 21	134
GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	73	D014 32	262
GH(成長ホルモン)	24	D008 13	108
GLU→グルコース	90	D007 01	11
GOT(AST)	86	D007 03	17
GPT(ALT)	86	D007 03	17
GU→グアナーゼ	87	D007 12	35

H	ページ	診療報酬区分	実施料
HA→ヒアルロン酸(胸水)	90		
HA→ヒアルロン酸(血清)	90	D007 43	179

H	ページ	診療報酬区分	実施料
HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	34	D008 46	221
HA抗体	62	D013 08	146
HA抗体-IgM	62	D013 08	146
Hb(血色素量)	105	D005 05	21
HbA1c→ヘモグロビンA1c(HbA1c)	90	D005 09	49
HBc抗体[CLIA]	62	D013 06	133
HBc抗体[PHA]	62	D013 06	133
HBc抗体-IgM	62	D013 08	146
HBe抗原	62	D013 04	101
HBe抗体	62	D013 04	101
HBs抗原定性	62	D013 01	29
HBs抗原[HQ]	62	D013 03	88
HBs抗体[CLEIA]	62	D013 03	88
HBs抗体	62	D013 02	32
HBV DNA定量(IU)(リアルタイムPCR)	63	D023 04	263
HBVゲノタイプ	62	D013 14	340
HBコア関連抗原→HBcrAg	63	D013 12	259
HCG(絨毛性ゴナドトロピン)	33	D008 21 イ	134
HCG-βサブユニット	33	D008 19	132
HCV DCV耐性変異(L31/Y93)	64		
HCV RNA 1b(NS5A)	64		
HCV RNAコアジェノタイプ	64		
HCV RNA定量(リアルタイムPCR)	64	D023 15	424
HCV群別(グルーピング)	63	D013 11	221
HCV抗原(コア蛋白質)	64	D013 05	105
HCV抗体(第3世代)	63	D013 05	105
HDL _{2,3} コレステロール	92		
HDL-コレステロール	92	D007 03	17
H-FABP(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	34, 79	D007 36	135
HGF(肝細胞増殖因子)	35	D007 52	227
HHV-6 DNA→ヒトヘルペスウイルス6型DNA	55		
HHV-7 DNA→ヒトヘルペスウイルス7型DNA	55		
HIAA→5-HIAA(5-ハイドロキシインドール酢酸)	28	D008 05	95
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	74, 107	D011 10	390
HIV-1 RNA定量(リアルタイムPCR)	59	D023 17	520
HIV-1/2特異抗体	59	D012 58	660
HIV抗原・抗体	59	D012 16	112
Hp→ハプトグロビン	78	D015 14	132
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)	57	D023 10	350
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)(LBC)	57	D023 10	350
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)	57		
HSV DNA→単純ヘルペスウイルスDNA定性	55		
HSV→単純ヘルペスウイルス	50	D012 11 ヘ	79
HSV→単純ヘルペスウイルス[1型, 2型]	50	D012 11 ヘ	79
HSV→単純ヘルペスウイルス[IgM, IgG]	50	D012 42 イ	206
HSV→単純ヘルペスウイルスIgG(髄液中)	50	D012 42 イ	206
HSV特異抗原→単純ヘルペスウイルス特異抗原(FA)	55	D012 37	180
Ht(ヘマトクリット値)	105	D005 05	21
HTLV-I(ATLV)抗体[CLEIA]	58	D012 31	163
HTLV-I(ATLV)抗体(PA)	58	D012 13	85
HTLV-I(ATLV)抗体(LIA)	58	D012 56	425
HTLV-I(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)	58		
HTLV-I 核酸検出定性	58	D023 16	450

特：特定薬剤治療管理料

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料

★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

H	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

HTLV-I プロウイルスDNA定性	58		
HVA	28	D008 03	69

I	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

(抗)IA-2抗体	34	D008 43	213
IC-mRF→免疫複合体(モノクローナルRF)	73	D014 21	194
IEP→免疫電気泳動	77		
IgA	77	D015 04	38
IgA-HEV抗体(定性)	64	D013 10	210
IgE(RAST)→特異的IgE(シングル・ミックスアレルギー)	81	D015 13	各110
IgE(RIST)→IgE(非特異的IgE)	81	D015 10	100
IgE(アトピー鑑別試験)→アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルギー)	81	D015 21	194
IgE(非特異的IgE)	81	D015 10	100
IGF-1(ソマトメジン-C)	24	D008 42	212
IgG	77	D015 04	38
IgG型リウマチ因子	71	D014 24	198
IgGサブクラス分画	77		
IgM	77	D015 04	38
IgM-HA抗体	62	D013 08	146
IgM-HBc抗体	62	D013 08	146
(可溶性)IL-2レセプター	39	D009 30・B001 03	438・腫2
Intact-PTH→副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	26	D008 33	165
IRI→インスリン	34	D008 10	103
IRT→トリプシン	85	D007 47	189

J	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

(抗)Jo-1抗体(CLEIA)	73	D014 09	140
(抗)Jo-1抗体(オクタロニー法)	73	D014 09	140

K	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

K(カリウム)	98	D007 01	11
KL-6	80	D007 28	111

L	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

LA→ループスアンチコアグラント(APTT凝固時間法)	72, 110		
LA→ループスアンチコアグラント(希釈ラッセル蛇毒時間法)	72, 110	D014 35	273
LA→ループスアンチコアグラント(リン脂質中和法)	72, 110	D014 35	273
LAP	86	D007 01	11
LD(LDH)IFCC	86	D007 01	11
LD(LDH)アイソザイム	86	D007 14	48
LDH(LD)IFCC	86	D007 01	11
LDH(LD)アイソザイム	86	D007 14	48
LDL-コレステロール	92	D007 04	18
LH(黄体形成ホルモン)	24	D008 13	108
(抗)LKM-1抗体	73	D014 25	215
LP(a)→リポ蛋白(a)	95	D007 26	107
LP-C(リポ蛋白コレステロール)分画定量	94		
LPL(リポ蛋白リパーゼ)	95	D007 51	219
L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)	88	D001 19	210
L-ドーパ	27		

M	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

(抗ミトコンドリア)M2抗体	73	D014 21	189
----------------	----	---------	-----

M	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

MAC核酸同定(TRC)	67, 116	D023 14	421
m-AST(ミトコンドリア-AST)(m-GOT)	86	D007 15	49
MAST36アレルギー(特異的IgE)	81, 82	D015 13	1430
Mb→ミオグロビン	34, 79	D007 36	135
MCV(平均赤血球容積)	105	D005 05	21
MCH(平均赤血球色素量)	105	D005 05	21
MCHC(平均赤血球色素濃度)	105	D005 05	21
MCPA→抗甲状腺ミクロソーム抗体(ミクロソームテスト)	25	D014 03	37
MDA-LDL(酸化LDL)	94	D007 48	194
Mg(マグネシウム)	98	D007 01	11
m-GOT(ミトコンドリア-AST)(m-AST)	86	D007 15	49
MHPG	28		
MLC I→心室筋ミオシン軽鎖 I	34, 79	D007 45	184
MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	71	D014 08	116
Mn→マンガン	102	D007 08	27
MN-2F→メタネフリン・ノルメタネフリン分画	28	D008 45	220
MPO-ANCA(抗好中球細胞質抗体)	73	D014 30	258
mRF→免疫複合体(モノクローナルRF)	73	D014 21	194

N	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

Na(ナトリウム)	98	D007 01	11
(NAG)N-アセチルグルコサミニダーゼ	87	D001 05	41
NCC-ST-439	36	D009 06・B001 03	115・腫2
NH ₃ (アンモニア)	88	D007 16	50
(尿中)NMP22(核マトリックスプロテイン22)	39	D009 13	143
(HCV RNA 1b)NS5A	64		
NSE(神経特異エノラーゼ)	39	D009 12・B001 03	142・腫2
NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	34	D008 20	136
NTx(I型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	26, 38, 80	D008 27・B001 03	156・腫2
NTx(I型コラーゲン架橋N-テロペプチド)(骨粗鬆症)	103	D008 27	156
N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)	87	D001 05	41
(尿中)N-メチルホルムアミド	101		

P	ページ	診療報酬区分	実施料
---	-----	--------	-----

P(無機リン)	98	D007 03	17
P ₂ →プレグナンジオール	32	D008 43	213
P ₃ →プレグナントリオール	32	D008 48	232
P-Ⅲ-P(プロコラーゲンⅢペプチド)(CLIA)	79	D007 37	136
PA→前立腺特異抗原(PSA)	37	D009 09・B001 03	124・腫2
PAIgG(血小板関連IgG)	74	D011 06	193
P-ANCA→抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	73	D014 30	258
Pb(鉛)	101		
PCA→抗胃壁細胞抗体	74		
PF-4(血小板第4因子)	107	D006 26	178
PG→ペプシノゲン	87		
pH(尿一般定性検査)	111	D000	★26
pH(反応)(髄液一般検査)	113	D004 03	62
PHAによるリンパ球幼若化検査	127	D016 07	345
PICテスト(a ₂ プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	109	D006 22	154
PIVKA-II	36	D009 10・B001 03	135・腫2
PLA ₂ →磷脂ホリパーゼA ₂ (磷脂PLA ₂)	85	D007 49	204
Plg→プラスミノゲン	109	D006 13	100
PLT(血小板数)	105	D005 05	21

P		ページ	診療報酬区分	実施料
PR3-ANCA (抗好中球細胞質抗体)		73	D014 31	259
PRA (レニン活性)		35	D008 08	100
PR-F→蛋白分画		84	D007 04	18
PRL→プロラクチン		24	D008 06	98
ProGRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)		39	D009 21・B001 03 □	175・腫2
PSA (前立腺特異抗原)		37	D009 09・B001 03 □	124・腫2
PSA F/T比		37	D009 16・B001 03 □	150・腫2
PT→プロトロンビン時間 (PT)		108	D006 02	18
PTH (副甲状腺ホルモン) (Whole PTH)		26	D008 33	165
PTH (副甲状腺ホルモン)-インタクト		26	D008 33	165
PTHrP (副甲状腺ホルモン関連蛋白)		26	D008 38	189
PTフラグメントF1+2 (プロトロンビンフラグメントF1+2)		109	D006 27	192
P型アミラーゼ定量		85	D007 14	48

R		ページ	診療報酬区分	実施料
RBC (赤血球数)		105	D005 05	21
RBP (レチノール結合蛋白)		78, 96	D015 15	136
RET (網状赤血球数)		105	D005 02	12
RF (リウマチ因子) 定量		71	D014 02	30
Rh (D因子) 式血液型		76	D011 01	24
Rh-Hr 式血液型		76	D011 03	148
RLP-C (レムナント様リポ蛋白コレステロール)		92	D007 43	179
(抗) RNP抗体 [CLEIA]		72	D014 11	144
(抗) RNP抗体 [オクタロニー法]		72	D014 11	144
RSウイルス (CF) (NT)		42	D012 11 タ	79

S		ページ	診療報酬区分	実施料
SAA (血清アミロイドA蛋白)		79	D015 06	47
SCC		39	D009 04・B001 03 □	104・腫2
(抗) Scl-70抗体 [CLEIA]		72	D014 14	157
(抗) Scl-70抗体 [オクタロニー法]		72	D014 14	157
SFMC (可溶性フィブリンモノマー複合体)		109	D006 12	93
SLX (シアリルLex-i抗原)		37	D009 14・B001 03 □	144・腫2
SM-C→IGF-1 (ソマトメジン-C)		24	D008 42	212
(抗) Sm抗体 [CLEIA]		72	D014 12	151
(抗) Sm抗体 [オクタロニー法]		72	D014 12	151
SP-A (肺サーファクタント蛋白A)		80	D007 35	130
SPan-1		36	D009 14・B001 03 □	144・腫2
SP-D (肺サーファクタント蛋白D)		80	D007 37	136
(抗) SS-A/Ro抗体 [CLEIA]		72	D014 16	161
(抗) SS-A/Ro抗体 [オクタロニー法]		72	D014 16	161
(抗) SS-B/La抗体 [CLEIA]		72	D014 15	158
(抗) SS-B/La抗体 [オクタロニー法]		72	D014 15	158
(抗) ss-DNA IgG抗体		71	D014 17	163
(抗) ss-DNA IgM抗体		71		
SSEA-1抗原→シアリルLex-i抗原 (SLX)		37	D009 14・B001 03 □	144・腫2
STN (シアリルTn抗原)		38	D009 15・B001 03 □	146・腫2
(HB) s抗原 (HQ)		62	D013 03	88
(HB) s抗原定性		62	D013 01	29
(HB) s抗体 [CLEIA]		62	D013 03	88
(HB) s抗体		62	D013 02	32

T		ページ	診療報酬区分	実施料
T ₃ (トリヨードサイロニン) [CLEIA]		25	D008 07	99
T ₄ (サイロキシニン) [CLEIA]		25	D008 12	108
TARC (Th2ケモカイン)		81	D015 19	184
TAT (トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体)		109	D006 25	176
TB→総ビリルビン		99	D007 01	11
TBA→総胆汁酸		94	D007 13	47
TBG→サイロキシニン結合グロブリン		25	D008 17	130
TBI→TSHレセプター抗体		25	D014 26	220
TCA→尿中トリクロル酢酸		101		
TCE→尿中トリクロルエタノール		101		
T-Cho (総コレステロール)		92	D007 03	17
Tg→サイログロブリン		25	D008 18	131
TG→中性脂肪 (TG)		92	D007 01	11
TgAb→抗サイログロブリン抗体		25	D014 09	140
TGPA→抗甲状腺サイログロブリン抗体 (サイロイドテスト)		25	D014 03	37
Th2ケモカイン→TARC		81	D015 19	184
TIBC (総鉄結合能)		99	D007 01	11
TK活性→チミジンキナーゼ活性		39	D005 12	233
TM→トロンボモジュリン		110	D006 28	204
TnT→トロポニンT		34, 79	D007 29	112
total P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)		26, 103	D008 32	164
TP (総蛋白) (血清)		84	D007 01	11
TP (総蛋白) (髄液)		84	D007 01	11
TP (総蛋白) (蓄尿)		84	D001 01	7
TPA		36	D009 05・B001 03 □	110・腫2
tPA・PAI-1複合体 (トータルPAI-1)		110	D006 33	240
TP-F→蛋白分画		84	D007 04	18
(抗) TPO-Ab→抗TPO抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)		25	D014 10	142
Tr→トランスフェリン		78	D015 07	60
Tr→トランスフェリン (クレアチニン換算値) (尿中)		78	D001 09	101
Tr→トランスフェリン (尿中)		78	D001 09	101
TRAb→TSHレセプター抗体		25	D014 26	220
TRACP-5b (骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ)		103	D008 27・B001 03 □	156・腫2
TSH (甲状腺刺激ホルモン) [CLEIA] IFCC		24, 25	D008 09	101
TSAb (TSH刺激性レセプター抗体)		25	D014 38	340
TSH刺激性レセプター抗体 (TSAb)		25	D014 38	340
TSHレセプター抗体 (定量)		25	D014 26	220
TSHレセプター抗体 (CLEIA)		25	D014 26	220
TTC→尿中総三塩化物		101		

U		ページ	診療報酬区分	実施料
UA (尿酸)		88	D007 01	11
UIBC (不飽和鉄結合能)		99	D007 01	11
UN (尿素窒素)		88	D007 01	11

V		ページ	診療報酬区分	実施料
VMA→(バニリルマンデル酸)		28	D008 04	90
vWF→フォン・ウィルブランド因子		109	D006 21	147
VZV→水痘・帯状疱疹ウイルス		49	D012 11 ナ	79
VZV→水痘・帯状疱疹ウイルス (IgM, IgG)		49	D012 42 チ	206
VZV DNA→水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定性		55		
VZV抗原→水痘・帯状疱疹ウイルス抗原 (FA)		55	D012 48	227

W		ページ	診療報酬区分	実施料
WBC(白血球数)		105	D005 05	21
Whole PTH(副甲状腺ホルモン)		26	D008 33	165
Z		ページ	診療報酬区分	実施料
Zn(亜鉛)		99	D007 37	136

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

ギリシャ文字

α		ページ	診療報酬区分	実施料
α_1 AG→ α_1 アシドグロブリン		78		
α_1 AT→ α_1 アンチトリプシン		78	D006 11	80
α_1 -M→ α_1 -マイクログロブリン		78	D015 14	132
α_1 アシドグロブリン		78		
α_1 アンチトリプシン		78	D006 11	80
α_1 -マイクログロブリン		78	D015 14	132
α_2 プラスミンインヒビター→アンチプラスミン		109	D006 15	128
α_2 プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)		109	D006 22	154
α_2 -マクログロブリン		78	D006 18	138
α -hANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)		34	D008 46	221
α -フェトプロテイン定量		36	D009 03・B001 03 □	101・腫2
β		ページ	診療報酬区分	実施料
β_2 GP I 抗体→抗カルジオリビン β_2 グロブリンI 複合体抗体		72	D014 27	223
β_2 -MG→ β_2 -マイクログロブリン		79	D015 11	101
β_2 -マイクログロブリン		79	D015 11	101
β -D-グルカン		68	D012 41	201
β -TG(β -トロンボグロブリン)		107	D006 25	176
β -カロチン		96		
β -トロンボグロブリン(β -TG)		107	D006 25	176
β -リボ蛋白		94		
γ		ページ	診療報酬区分	実施料
γ -GT(γ -GTP)		87	D007 01	11
γ -Sm(γ -セミノプロテイン)		37	D009 24・B001 03 □	194・腫2
γ -アミノ酪酸(GABA)		90	D010 04 イ	279
γ -セミノプロテイン(γ -Sm)		37	D009 24・B001 03 □	194・腫2
δ		ページ	診療報酬区分	実施料
δ ALA(δ -アミノレブリン酸)		100	D001 11	109
δ -アミノレブリン酸(δ ALA)		100	D001 11	109

数字

	ページ	診療報酬区分	実施料
1,5AG(1,5-アンヒドロ-D-グルシトール)	90	D007 21	80
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)	90	D007 21	80
1,25-(OH) ₂ ビタミンD	26, 97	D007 62	388
I CTP→I型コラーゲンC末端テロペプチド	38, 80	B001 03 □	腫2
I型コラーゲンC末端テロペプチド(ICTP)	38, 80	B001 03 □	腫2
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	26, 38, 80	D008 27・B001 03 □	156・腫2
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	103	D008 27	156
I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)	26・103	D008 32	164
(尿中)2,5-ヘキサンジオン	101		
II因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
IV型コラーゲン	79	D007 36	139
(尿中)IV型コラーゲン	79	D001 15	184
IV型コラーゲン・7S(CLEIA)	79	D007 40	148
5-HIAA	28	D008 05	95
5-HT→セロトニン	28		
5-S-CD(5-S-システニルドーパ)	39		
5-S-システニルドーパ(5-S-CD)	39		
V因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
5-ハイドロキシインドール酢酸→5-HIAA	28	D008 05	95
VII因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
VIII因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
VIII因子(凝固抑制因子検査)	108	D006 20	144
IX因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
IX因子(凝固抑制因子検査)	108	D006 20	144
X因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
(血中)11-OHCS	29	D008 02	60
X I因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
11-ハイドロオキシコルチステロイド→血中11-OHCS	29	D008 02	60
X II因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
12種吸入性アレルギー(アトピー鑑別試験)	81, 82	D015 20	194
X III因子(凝固因子活性検査)	108	D006 30	223
17-KS7分画	29	D008 43	213
25-OHビタミンD(骨粗鬆症)	97	D007 31	117
25ヒドロキシビタミンD(くる病、骨軟化症)	97	D007 31	117

取り引きのお申し込み

当社をご利用の際には当社営業部までご連絡ください。営業員がお伺いし、ご依頼の詳細についてご説明、ご相談をいたします。

個人情報保護方針に基づき、検査の受託から報告まで対応致します。

検査のご依頼方法

1. 依頼書

それぞれの依頼項目に適合した依頼書をご使用ください。なお、「病院控」伝票に診療報酬点数（実施料）を掲載していますので、院内伝票としてご利用ください。

〈種類〉

依頼書名 依頼書名

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 総合検査依頼書 1 | 5. 病理組織検査依頼書 |
| 2. アレルギー検査依頼書 | 6. 細胞診検査依頼書 |
| 3. 細菌検査依頼書 | |
| 4. 連名依頼書 | |

2. 報告書

それぞれの依頼検査に適合した報告書にてご報告いたします。

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 総合検査報告書 | 10. 血液型検査成績書 |
| 2. 検査報告書 2 | 11. 遺伝子検査報告書 |
| 3. 血液検査プロフィール | 12. Two-Color Analysis報告書 |
| 4. 一般細菌・抗酸菌・真菌検査報告書 | 13. 染色体検査報告書 |
| 5. ウイルス肝炎検査報告書 | 14. HLA検査報告書 |
| 6. TUMOR MARKER検査報告書 | 15. アミノ酸分析報告書 |
| 7. アレルギー検査報告書 | 16. 病理組織検査・細胞診検査報告書 |
| 8. 妊婦検査成績書 | 17. その他 |
| 9. 甲状腺機能検査報告書 | |

3. 依頼書の記入要領

検査依頼書及び検体ラベルには下記事項をご記入ください。

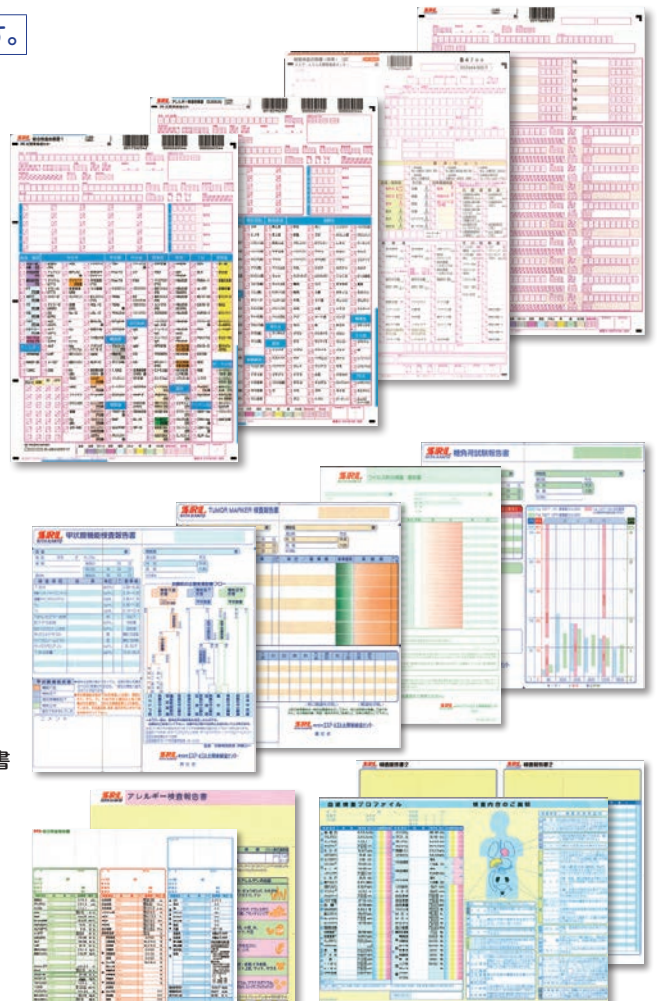
- ①患者様氏名についてはカタカナでご記入ください。
- ②検体採取日、採取時刻をご記入ください。
- ③生年月日、年齢をご記入ください。
- ④性別、入院・外来、診療科名は該当するものに☑印でご記入ください。
- ⑤カルテNo、提出医、病棟はカタカナ、アルファベット、数字にてご記入ください。
- ⑥ご依頼項目はチェック欄に☑印をご記入ください。
- ⑦記載されていない項目をご依頼の場合は、欄外項目記入欄にご記入ください。
- ⑧検査項目に応じて、蓄尿量・身長・体重・臨床情報等をご記入ください。

4. 検体容器

検体容器については、154～181ページの「専用容器の取り扱い方法」をご参照ください。

5. 検体ラベル

- ①検体ラベルには、依頼書と同じ依頼No(9桁)とバーコードが印刷されておりますので、必ず依頼書に添付されたラベルを検体に貼付してください。
- ②血清、血算、グルコース、尿、凝固、2Na血漿は検査材料名を印刷した材料名表示ラベルをご使用ください。
- ③検体ラベルの氏名欄に依頼書と同じ氏名や材料名、負荷時間等をご記入ください。



〈記入例〉

他の依頼書も基本的な記入要領は同様です。

総合検査案内掲載内容

1. 検体量：検体量は再検査分を考慮して設定しております。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量をめやすに血液を採血してください。（検体採血方法は154ページをご参照ください）
2. 保存：指定の保存方法にてご提出ください。
凍結 必ず凍結（-10℃以下）保存してご提出ください。 **冷蔵** 冷蔵（2℃～15℃）で保存してご提出ください。
室温 必ず室温（16℃～30℃）で保存してご提出ください。
3. 基準値：「正常参考値および判定基準」は当社では「基準値」で表示しております。
4. 所要日数：原則的には検体をお預かりした翌日を起算日とし、結果を先生のお手元へお届けするまでの日数（通常の日曜日を含みます）です。再検査の場合や祝祭日の前後は、さらに若干の日数を要することがあります。
なお、記載されている材料以外でのご依頼の場合や、絶対凍マークの項目との同時のご依頼の場合は、表示日数より遅れることがあります。
5. 実施料・判断料：検体検査料は検体検査実施料と、検体検査判断料に区分されています。

検 体 検 査 判 断 料					
	判断料	判断料区分		判断料	判断料区分
1. 尿・糞便等検査判断料	34点	※1	4. 生化学的検査(Ⅱ)判断料	144点	※4
2. 血液学的検査判断料	125点	※2	5. 免疫学的検査判断料	144点	※5
3. 生化学的検査(Ⅰ)判断料	144点	※3	6. 微生物学的検査判断料	150点	※6

病 理 診 断			
		※7	
組織診断料	400点	病理判断料	150点
細胞診断料	200点		

6. 採取条件：検体を適正に採取するために、検体採取時に留意していただきたい事項です。（備考または専用容器の取り扱い方法をご参照ください。）
7. 提出条件：血清分離の要否など、適正な検査・測定を行うために必要な事項です。（備考または専用容器の取り扱い方法をご参照ください。）
速やかに遠心 採血後、長時間の室温放置は避け、速やかに遠心分離してください。遠心分離までに時間指定のある項目や、前処理、遠心分離前に冷却を必要とする項目等もありますので、備考欄または専用容器の取り扱い方法も併せてご参照ください。
冷却遠心 低温（4℃）にて遠心分離してください。
8. 緊急報告検査値範囲 **緊急**：緊急報告検査値範囲（132ページ参照）が設定されておりますので、範囲を超えた場合には、当社より緊急連絡させていただきます。
9. 予約検査 **予約検査**：予約検査となりますので、検体採取前に必ず当社までご連絡ください。
10. 曜日指定 **曜日指定**：指定曜日のみ（休日除く）受託可能となりますので、ご注意ください。受託可能日につきましては、本文の備考欄をご参照ください。
11. 参考文献：検査方法についての基本的な参考文献です。（136～153ページ参照）

12. 測定委託先：備考欄に&印が無い項目については、当社ラボラトリーにて測定実施しております。

&印の項目については、当社より下記会社へ測定委託しております。

記号	測定委託先	検体搬送時間	記号	測定委託先	検体搬送時間
&I	エスアールエル八王子ラボラトリー	4時間以内	&I	ファルコバイオシステムズ	6時間以内
&Y	エスアールエル第3八王子ラボラトリー		&M	LSIメディエンス	
&1	エスアールエル遺伝子・染色体解析センター		&N	ビー・エム・エル	
&3	エスアールエルMUQSラボラトリー		&Y	東京都予防医学協会	
&D	エスアールエル羽村ラボラトリー	6時間以内	&0	日本医学臨床検査研究所	33時間以内
&L	エスアールエル相模原ラボラトリー		&2	第一岸本臨床検査センター	
&W	エスアールエル福岡ラボラトリー	33時間以内	&3	日立化成工業	
&5	エスアールエル北海道ラボラトリー		&4	東洋紡バイオロジックス株式会社	
&C	あすか製薬メディカル	6時間以内	&ミ	江東微生物研究所	9時間以内
&E	北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所		&%	エスアールエル北関東検査センター熊谷ラボラトリー	24時間以内
&T	東京セントラルパソロジーラボラトリー	10時間以内	&1	エスアールエルセントラルラボラトリー	4時間以内

営業時間 8:30～18:30

検体搬送時間：当社から測定委託先までの検体搬送時間

検体のご提出と搬送方法

貴院への集配は () (指定日時)
() (指定場所)

へお伺いいたします。

お預かりしました検体は

- ① 当社ラボには 時頃(平均搬送時間：)
② には 時頃(平均搬送時間：)

搬入されます。

ご依頼検体の保管期間

お預かり致しました検体は、依頼日より2週間保管し、再検査や追加検査のご要望にお応えしております。ただし、尿一般検査、末梢血液検査など一部の検査につきましては2日間保管とさせていただきます。なお、保管期間を過ぎた検体につきましては、当社で処分させていただきます。また、当社から測定委託する項目につきましては、測定委託先の基準に基づいて保管させていただきます。

RIA測定項目のご依頼にあたっての注意事項

シンチグラフィー等で $in vivo$ に投与したアイソトープが残存するとRIAでの異常値発生の原因となることがありますので、あらかじめご了承ください。

免責について

ご依頼いただきました検査は当社検査実施基準に基づき行われますが、お預かりした検体の状態、または検査方法の技術的限界等により検査結果を臨床診断に資することが困難な場合があります。この場合当社はその検査結果に対し免責とさせていただきます。

災害時の対応

災害等想定する危機への対応手順として、初動対応、役員及び従業員の安否確認、要員や装備の確保、災害本部設置から解散、業務復旧後の事後処置等の全容を定めた事業継続策を構築しております。

ご利用の手引き

マーク一覧

受付・報告関連	予約検査		予約検査となりますので、検体採取前に必ず弊社へご連絡ください。
	曜日指定		指定曜日のみ(休日除く)受託可能となりますので、ご注意ください。受託可能日につきましては、本文の備考欄をご参照ください。
	緊急		緊急報告検査値範囲(132ページ参照)が設定されておりますので、範囲を超えた場合には、弊社より緊急連絡させていただきます。
	重複不可		他項目との重複依頼は避けてください。
検体取り扱い	速やかに遠心		採血(採尿)後、長時間の室温放置は避け、速やかに遠心分離してください。遠心分離までに時間指定のある項目や、前処理、遠心分離前に冷却を必要とする項目等もありますので、備考欄または専用容器の取り扱い方法も併せてご参照ください。
	冷却遠心		低温(4℃)にて遠心分離してください。
	凍結		必ず凍結(-10℃以下)保存してご提出ください。
	冷蔵		冷蔵(2℃~15℃)で保存してご提出ください。 なお、長期間にわたって保存される場合は、凍結してくださるようお願いいたします。ただし凍マークのついている項目は、長期間であっても凍結しないでください。
	室温		必ず室温(16℃~30℃)で保存してご提出ください。
	遮光		直射日光または蛍光灯等を避け、遮光した容器にてご提出ください。
検査値への影響	溶血不可		溶血検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	不活化不可		不活化(非動化)検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	酸性蓄尿不可		酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	凍結不可		凍結(-10℃以下)保存は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。

主な単位記号

L	liter	mmol	millimole(=0.001mol)
dL	deciliter(=0.1L)	μmol	micromole(=10 ⁻⁶ mol)
mL	milliliter(=0.001L)	nmol	nanomole(=10 ⁻⁹ mol)
μL	microliter(=10 ⁻⁶ L)	pmol	picomole(=10 ⁻¹² mol)
fL	femtoliter(=10 ⁻¹⁵ L)	fmol	femtomole(=10 ⁻¹⁵ mol)
kg	kirogram	mm	millimeter
g	gram	mm ²	squaremillimeter(平方ミリメートル)
mg	milligram(=0.001g)	mm ³	cubicmillimeter(立方ミリメートル)
μg	microgram(=10 ⁻⁶ g)	μm ³	cubicmicrometer(立方マイクロメートル)
ng	nanogram(=10 ⁻⁹ g)	Meq	megaequivalents
pg	picogram(=10 ⁻¹² g)	mEq	milliequivalent
U	unit	mOsm	milliosmole
mU	milliunit(0.001U)	%	percent
μU	microunit(10 ⁻⁶ U)	‰	permill
IU	international unit	cpm	counts per minutes
mIU	milliinternational unit(=0.001 IU)	U _A	unit allergen
AU	arbitrary unit	IU _A	international unit allergen
M	mol/L		

検査項目欄の見かた

検体をお預かりした翌日を起算日とし、結果をお届けするまでの日数です。
再検査の場合や祝祭日の前後はさらに日数を要することがあります。

実施料、判断料区分です。※については20ページをご参照ください。
●については保険点数算定上の、同時算定不可、回数制限の算定条件を抜粋して欄外に掲載しています。

項目コード	検査項目名	項目略称	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	備考
項目コード (統一コード)	検査項目	項目略称	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	備考
4477 2 (4A055)	甲状腺刺激ホルモン (TSH) (GLEIA)IFCC		血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	101 ※4	CLEIA	0.61~4.23 (μIU/mL)	
3002 5 (4A010)	成長ホルモン(GH)		血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	108 ※4	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13~9.88 (ng/mL)	&I
A282 8	IGF-1 (ソマトメジンC) (ECLIA)		血清 0.5	01 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	212 ※4	ECLIA	下記参照	年齢を明記してください。 &I
6760 1 (4A030)	黄体形成ホルモン (LH)		血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	108 ※4	CLIA	下記参照	

ご提出いただく検体の提出条件・提出量です。血清または血漿の場合、必要量の約3倍をめやすに血液を採取してください。

ご提出いただく検体の保存条件です。採血後の保存条件ではありませんのでご注意ください。()内の安定性とは検体の保存可能時間のめやすを記載しています。

検査ご依頼にあたっての注意事項です。

検査方法名です。検査方法の概略につきましては133~135ページをご参照ください。

採取容器
↓
提出容器
を示します。

容器の取り扱いについては下記の例をご参照ください。また、取り扱い方法に条件がある項目もありますので、備考欄または専用容器の取り扱い方法もご参照ください。

(例1) 検体が血清の場合

検体量 (mL)	容器
血清 0.5	01 ↓ X

汎用容器に血液を採取し、遠心分離後、血清0.5mLを別容器(X)に移し替えてご提出ください。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量をめやすに血液を採取してください。

(例2) 添加剤入り容器に採取し、遠心分離後、上清をご提出いただく場合

検体量 (mL)	容器
血漿 0.5	C ↓ X

当社専用容器(C)に血液を採取し、遠心分離後、血漿 0.5mLを別容器(X)に移し替えてご提出ください。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量をめやすに血液を採取してください。

(例3) 検体が添加剤入りの血液の場合

検体量 (mL)	容器
血液 5.0 (EDTA-2Na加)	A

当社専用容器(A)に血液 5.0mLを採取し、よく混和させ、そのままご提出ください。
採取および提出とも同一容器(A)で、別容器への移し替えは不要です。

検査結果のご報告

原則的には当社営業員が直接お届けいたします。

緊急報告を希望されるときは、検査依頼時にあらかじめご指示ください。検査結果が判明次第、原則としてFAX連絡させていただきます。

緊急報告検査値範囲の設定してある項目については、特にご指示がない場合でも電話およびFAX連絡させていただきます。

検査結果のお問い合わせ

検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘等につきましては、当社データインフォメーションへお問い合わせください。
データインフォメーション TEL.027(265)6498

料金請求とお支払い方法

継続お取り扱い機関は1ヵ月をまとめてご請求申し上げ、支払方法はご契約に従ってお支払いいただきます。

その他の場合は原則として報告時にお支払いください。

※尚、振入の際の銀行振入金受領書をもって領収書に替えさせていただきます。また、ご要望があれば領収書の発行をいたしますので担当営業員にお申しつけください。

登録検査業務 生化学的検査、免疫学的検査、血液学的検査、尿・糞便等一般検査、遺伝子関連・染色体検査

内分泌学的検査

視床下部・下垂体関連検査

内分泌学的検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
A477 2 (4A055)	甲状腺刺激ホルモン (TSH) [CLEIA] IFCC	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	101 ※4	CLEIA	0.61~4.23 (μIU/mL)	
3002 5 (4A010)	成長ホルモン(GH)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	108 ※4	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13~9.88 (ng/mL)	&I
A282 8	IGF-1 (ソマトメジンC) [ECLIA]	血清 0.5	01 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	212 ※4	ECLIA	下記参照	年齢を明記してください。 &I
6760 1 (4A030)	黄体形成ホルモン (LH)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	108 ※4	CLIA	下記参照	性別を明記してください。
6761 0 (4A035)	卵胞刺激ホルモン (FSH)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	108 ※4	CLIA	下記参照	&I
G614 3 (4A025)	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	冷却遠心 血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	2~4	189 ※4	ECLIA	午前7時~10時 7.2~63.3 (pg/mL)	ACTHはEDTA濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取してください。 &I
G619 8 (4A020)	プロラクチン	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	98 ※4	ECLIA	男性 4.29~13.69 閉経前女性 4.91~29.32 閉経後女性 3.12~15.39 (ng/mL)	&I
A208 0 (4A070)	抗利尿ホルモン (AVP)	速やかに冷却 遠心 血漿1.5	A ↓ X	凍結	5~7	230 ※4	RIA2抗体法	水制限 4.0以下 自由飲水 2.8以下 (pg/mL)	溶採血後、速やかに血漿分離してください。 溶血でのご依頼は避けてください。 &I

[A282 8] IGF-1(ソマトメジンC)[ECLIA]年齢別・性別における基準値

(単位: ng/mL)

年齢(歳)	男 性	女 性	年齢(歳)	男 性	女 性	年齢(歳)	男 性	女 性
0	11~149	15~154	26	119~329	146~336	52	86~242	78~213
1	14~148	23~186	27	116~322	141~328	53	85~240	77~212
2	18~154	32~213	28	114~315	137~320	54	84~239	76~211
3	24~164	40~227	29	111~309	133~312	55	84~238	75~210
4	32~176	48~238	30	109~303	129~304	56	83~237	74~208
5	44~193	56~252	31	107~297	126~297	57	82~236	73~207
6	55~215	69~287	32	105~292	122~290	58	81~235	72~205
7	63~247	89~357	33	103~287	119~283	59	80~233	71~203
8	72~292	111~438	34	102~283	115~277	60	79~232	70~201
9	84~350	133~517	35	100~279	112~271	61	77~230	69~198
10	99~423	155~588	36	99~275	109~265	62	76~228	68~196
11	113~499	175~638	37	97~272	106~260	63	75~226	66~194
12	125~557	188~654	38	96~269	103~254	64	73~224	65~191
13	133~579	193~643	39	95~266	100~250	65	72~221	64~188
14	138~570	193~625	40	94~263	98~245	66	70~219	62~186
15	141~552	192~614	41	94~261	95~240	67	68~216	61~183
16	142~543	192~611	42	93~259	93~236	68	66~213	60~180
17	142~540	191~599	43	92~257	90~233	69	65~209	59~177
18	142~526	188~574	44	92~255	88~229	70	63~206	57~175
19	143~501	182~539	45	91~253	87~226	71	61~202	56~172
20	142~470	175~499	46	90~250	85~224	72	58~198	55~170
21	139~436	168~459	47	90~250	83~221	73	56~194	54~167
22	135~405	161~425	48	89~248	82~219	74	54~190	53~165
23	131~379	155~397	49	88~246	81~218	75	52~185	52~163
24	128~356	151~375	50	87~245	80~216	76	50~181	50~160
25	125~337	147~358	51	87~243	79~215	77	48~177	49~158

[6760] 黄体形成ホルモン(LH)基準値

(単位: mIU/mL)

女 性	卵胞期	1.76~10.24
	排卵期	2.19~88.33
	黄体期	1.13~14.22
	閉経後	5.72~64.31
男 性	0.79~ 5.72	

[6761] 卵胞刺激ホルモン(FSH)基準値

(単位: mIU/mL)

女 性	卵胞期	3.01~14.72
	排卵期	3.21~16.60
	黄体期	1.47~ 8.49
	閉経後	157.79以下
男 性	2.00~ 8.30	

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
甲状腺 関連 検査	A446 6 (48010)	トリヨードサイロニン (T ₃) [CLEIA] 4B010-0000-023-052	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	99 ※4	CLEIA	0.62~1.16 (ng/mL)	&I
	A449 3 (48015)	遊離トリヨードサイロニン (Free T ₃)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	1~2	124 ※4	CLEIA	2.52~4.06 (pg/mL)	
	A452 9 (48030)	サイロキシシン (T ₄) [CLEIA] 4B030-0000-023-052	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	108 ※4	CLEIA	4.53~8.38 (μg/dL)	&I
	A455 6 (48035)	遊離サイロキシシン (Free T ₄)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	1~2	124 ※4	CLEIA	0.75~1.45 (ng/dL)	
	9089 4 (48045)	サイロキシシン結合 グロブリン(TBG)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	130 ※4	CLEIA	14~31 (μg/mL)	
	A472 7 (48040)	サイログロブリン [CLEIA] 4B040-0000-023-052	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (23日)	2~4	131 ※4	CLEIA	35.1以下 (ng/mL)	
	3543 5 (56290)	抗甲状腺 サイログロブリン抗体 (サイロイドテスト)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	37 ※5	PA	陰性(100未満) (倍)	
	A469 1 (56290)	抗サイログロブリン抗体 [CLEIA] 5G290-0000-023-052	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	140 ※5	CLEIA	19.3未満 (IU/mL)	
	3545 3 (56285)	抗甲状腺 マイクロソーム抗体 (マイクロソームテスト)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 37 ※5	PA	陰性(100未満) (倍)	
	A458 3 (56285)	抗甲状腺 ペルオキシダーゼ抗体 (抗TPO抗体) [CLEIA] 5G285-0000-023-052	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	① 142 ※5	CLEIA	3.3未満 (IU/mL)	&I
	A477 2 (4A055)	甲状腺刺激ホルモン (TSH) [CLEIA] IFCC	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	101 ※4	CLEIA	0.61~4.23 (μIU/mL)	
	4199 7 (56310)	TSHレセプター抗体 (定量)	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	② 220 ※5	RRA	1.0未満 (IU/L)	ヒト型レセプターを使用しています。 固相法の第2世代 TRAb です。 (基準値について) 少数の健康人において、1.0 IU/L を超える結果を示すことがあるため、欧米では1.0~1.5IU/L をグレーゾーンと設定することを推奨しています。 &I
	A475 4 (56310)	TSHレセプター抗体 [CLEIA] 5G310-0000-023-052	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4		CLEIA	2.0未満 (IU/L)	TSHレセプターの TSH 結合部位を認識する M22 抗体 (抗 TSH レセプターヒトモノクローナル抗体) を用いた第3世代 TRAb です。 &I
	3044 9 (56300)	TSH刺激性レセプター抗体 (TSAb)	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	3~5	② 340 ※5	Bioassay EIA	120以下 (%)	&I

- ①「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体) [CLEIA]」を「抗甲状腺マイクロソーム抗体(マイクロソームテスト)」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ②「TSHレセプター抗体」、「TSH刺激性レセプター抗体(TSAb)」を同時に行った場合は、いずれか一方のみを算定する。



内分泌学的検査

副甲状腺関連検査

内分泌学的検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
3154 7 (4C025)	副甲状腺ホルモン (PTH)-インタクト	冷却遠心 血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	165 ※4	ECLIA	10~65 (pg/mL)	不
6475 8 (4C026)	副甲状腺ホルモン (Whole PTH)	血漿 0.5	C ↓ X	冷蔵 (18日)	2~4		CLEIA	8.3~38.7 (pg/mL)	&I
3624 5 (4C034)	副甲状腺ホルモン 関連蛋白(PTHrP)	冷却遠心 血漿 0.5	D ↓ X	凍結 (7日)	5~7	189 ※4	RIA固相法 (IRMA)	1.1以下 (pmol/L)	不 &I
2221 3 (4C035)	カルシトニン	速やかに遠心 血清 0.5	01 ↓ X	凍結	2~4	133 ※4	ECLIA	男性 9.52以下 女性 6.40以下 (pg/mL)	速やかに血清分離後凍結保存してください。 &I
3794 7 (3G070)	1,25-(OH) ₂ ビタミンD	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	3~7	1 388 ※3	RIA2抗体法	成人 20.0~60.0 小児 20.0~70.0 (pg/mL)	&I
A220 6 (4Z280)	オステオカルシン	血清 0.3	01 ↓ X	凍結	2~4	2 157 ※4	ECLIA	閉経前女性 7.8~30.8 閉経後女性 14.2~54.8 男性 8.4~33.1(ng/mL)	&I
4753 1 (5C123)	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx)	部分尿3	Y	冷蔵	2~4	2 3 156 ※4 腫2	CLEIA	下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。 血尿での提出は避けてください。
4742 3 (5C146)	デオキシピリジノリン	部分尿3	Y	冷蔵	2~4	2 3 191 ※4 腫2	EIA	クレアチニン換算値 M2.1~5.4 F2.8~7.6 (nmol/mmol・CRE)	&I
3345 5 (3B072)	骨型アルカリフォス ファターゼ(BAP)	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~4	4 5 6 161 ※4	CLEIA	男性 3.7~20.9 閉経前女性 2.9~14.5 閉経後女性 3.8~22.6 (μg/L)	&I
A197 3 (5C120)	I型プロコラーゲン -N-プロペプチド (total P1NP)	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	164 ※4	ECLIA	男性(30~83歳) 18.1~74.1 閉経前女性(30~44歳) 16.8~70.1 閉経後女性(45~79歳) 26.4~98.2 (ng/mL)	溶血での依頼は避けてください (溶血の場合、データが低値傾向となります。) &I

(腫2): 悪性腫瘍特異物質治療管理料 (40ページ参照)

- ① 活性型ビタミンD3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。
 ② [NTx]、[オステオカルシン]、[尿中DPD]、[TRACP-5b]を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
 ③ 骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また、薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。
 ④ [骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)]、[インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P1NP)]、[I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P1NP)]
 及び[ALP・アイソザイム(PAG電気泳動法)]のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 ⑤ [ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)]、[ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)]、[骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)]を併せて実施した
 場合は、主たるもののみ算定する。
 ⑥ [ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)]、[骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)]と併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。

[4753] I 型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)基準値, 判定基準

(単位: nmolBCE/mmol・CRE)

基準値 (参考値)	男 性	13.0~66.2
	閉経前女性	9.3~54.3
	閉経後女性	14.3~89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術の適応	200以上
	悪性腫瘍(乳癌, 肺癌, 前立腺癌) の骨転移の指標	100以上

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
副腎髄質関連検査 4504 7 (4E010)	カテコールアミン総	酸性蓄尿 2	Y	冷蔵 (28日)	3~5	189 ※4	HPLC	52.0~195.3 ($\mu\text{g/day}$)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &㍻
4710 8 (4E016)	カテコールアミン3分画 (A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン)	速やかに 冷却 血漿 1.5	A ↓ X	凍結 (1ヵ月)	3~5	165 ※4	HPLC	アドレナリン 100以下 ノルアドレナリン 100~450 ドーパミン 20以下 (pg/mL)	&㍻
4508 3 (4E016)		酸性蓄尿 2	Y	冷蔵 (28日)	3~5	165 ※4	HPLC	アドレナリン 3.4~26.9 ノルアドレナリン 48.6~168.4 ドーパミン 365.0~961.5 ($\mu\text{g/day}$)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &㍻
(4E050)	ドーパミン総	速やかに 冷却 血漿 1.5	A ↓ X	凍結	5~11		HPLC	1.8~7.7 (ng/mL)	
(4E050)		髄液 1.5	X					(ng/mL)	
4018 7 (4E045)	L-ドーパ 4E045-0000-022-204	速やかに 冷却 血漿 1.5	A ↓ X	凍結	5~18		HPLC	1.2~2.2 (ng/mL)	&㍻

C
p160

EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年



D
p162

EDTA-2Na +
アプロチニン入り
(真空採血量3mL)
内容
EDTA-2Na
3.75mg
アプロチニン
(1500単位)
貯蔵方法 室温
有効期間 1年



A
p159

EDTA-2Na入り
(真空採血量7mL)
内容
EDTA-2Na
10.5mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年



内分泌学的検査

副腎髄質関連検査

内分泌学的検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
4016 9 (4E060)	VMA	血漿 1.5	A ↓ X	冷蔵 (21日)	3~6	90 ※4	HPLC	3.3~8.6 (ng/mL)	&ヤ
4513 7 (4E060)		酸性蓄尿 1.5	Y	冷蔵 (28日)	3~5			1.5~4.3 (mg/day)	
4017 8	HVA	血漿 1.5	A ↓ X	冷蔵 (21日)	3~6	69 ※4	HPLC	4.4~15.1 (ng/mL)	&ヤ
7603 4		髄液 1.5	X					(ng/mL)	
4514 6 (4E055)		酸性蓄尿 1.5	Y	冷蔵 (28日)	3~5			2.1~6.3 (mg/day)	
A299 0 (4E040)	メタネフリン・ ノルメタネフリン分画	酸性蓄尿 2	Y	冷蔵 (28日)	3~5	① 220 ※4	LC/MS/MS	メタネフリン 0.04~0.19 ノルメタネフリン 0.09~0.33 (mg/day)	&ヤ
(4E080)	MHPG	血漿 1.5	A ↓ X	凍結 (35日)	事前に ご確認 ください		HPLC	3.2~5.9 (ng/mL)	&ヤ
(4E080)		髄液 1.5	X	凍結				(ng/mL)	
4506 5 (4E065)	4E065-0000-019-204	血液 1.0 (EDTA-2Na加)	C ↓ X		3~9		HPLC	57~230 (ng/mL)	&ヤ
4010 5 (4E065)	セロトニン 4E065-0000-022-204	速やかに 冷却 速心 血漿 1.5	A ↓ X	凍結	3~7			P(血漿) 0.04~0.35 PRP(多血小板血漿) 0.17~0.62 (μg/mL)	
4015 0	5-HIAA	血漿 1.5	A ↓ X	冷蔵 (25日)	3~6	95 ※4	HPLC	1.8~6.1 (ng/mL)	&ヤ
7601 6		髄液 1.5	X					(ng/mL)	
4512 8 (4E070)		酸性蓄尿 0.5	Y	冷蔵 (28日)	3~5			1.0~6.0 (mg/day)	

①「ノルメタネフリン」,「メタネフリン」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
4521 8 (40018)	17-KS7分画	蓄尿12	Y	冷蔵 (28日)	6~7	213 ※4	Gas Chromatography- Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	酸性蓄尿は避けてください。
3050 2 (40035)	血中11-OHCS	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~8	60 ※4	蛍光法 (De Moor変法)	午前10時採血 7.0~23.0 (μg/dL)	&I
4019 6 (40040)	コルチゾール	血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	2~4	124 ※4	ECLIA法	午前6時~10時 7.07~19.6 (μg/dL)	&I
3051 1 (40040)		血清 0.5	01 ↓ X	凍結					
9073 1 (40115)	アルドステロン (CLEIA)	血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	2~4	125 ※4	CLEIA	4.0~82.1 (pg/mL)	&I
9039 9 (40115)		血清 0.5	01 ↓ X						
A730 0 (40115)		蓄尿 1.5	X		5~7			1.0~19.3 (μg/day)	蓄尿剤として塩酸およびC-ペプチド安定化剤を使用しないでください。

17-KS7分画基準値

(単位: mg/day)

	男 性	女 性
アンドロステロン	1.10~4.20	0.40~3.00
エチオコラノロン	0.55~2.60	0.30~2.50
デヒドロエピアンドロステロン	0.12~5.20	0.04~2.60
11-ケトアンドロステロン	0.12以下	0.07以下
11-ケトエチオコラノロン	0.04~0.65	0.03~0.50
11-OHアンドロステロン	0.40~2.30	0.22~1.60
11-OHエチオコラノロン	0.03~0.65	0.02~0.65



内分泌学的検査

副腎皮質関連検査

	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
副腎皮質関連検査	3055 7 (40090)	デヒドロエピアンドロ ステロンサルフェート (DHEA-S)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2～4	169 ※4	CLEIA法	下記参照	性別，年齢を明記してください。 &I

[3055]デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)基準値

(単位: $\mu\text{g/dL}$)

年齢(歳)	男 性	女 性
18～20	24～537	51～321
21～30	85～690	18～391
31～40	106～464	23～266
41～50	70～495	19～231
51～60	38～313	8～188
61～70	24～244	12～133
71～	5～253	7～177

内
分
泌
学
的
検
査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
性腺・胎盤関連検査	G617 0 (4F025)	エストラジオール(E ₂)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	172 ※4	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。 &I

[G617]エストラジオール(E₂)基準値(血中)

(単位：pg/mL)

非妊婦	女性	卵胞期	28.8~196.8
		排卵期	36.4~525.9
		黄体期	44.1~491.9
		閉経後	47.0以下
	男性		14.6~48.8
妊婦		妊娠初期	208.5~4289
		妊娠中期	2808~28700
		妊娠後期	9875~31800

内分泌学的検査

性腺・胎盤関連検査

内分泌学的検査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
性腺・胎盤関連検査	3079 1 (4F045)	プロゲステロン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	147 ※4	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。 &I
	4545 2 (4F055)	プレグナンジオール	蓄尿 12	Y	冷蔵 (28日)	6~7	213 ※4	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 &㍻
	4546 1 (4F060)	プレグナントリオール	蓄尿 12	Y	冷蔵 (28日)	6~7	232 ※4	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	
	3081 8 (4F065)	テストステロン	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	122 ※4	ECLIA	M 1.31~8.71 F 0.11~0.47 (ng/mL)	性別を明記してください。 &I
	A221 5 (4F070)	フリーテストステロン	血清 0.3	01 ↓ X	凍結	2~6	159 ※4	RIA固相法	下記参照	午前中に採血してください。 性別、年齢を明記してください。 &I

[3079]プロゲステロン基準値

(単位：ng/mL)

非妊婦	女性	卵 胞 期	0.28以下
		排 卵 期	5.69以下
		黄 体 期	2.05~24.2
		閉 経 後	0.33以下
	男 性		0.22以下
妊婦		4~13週(妊娠前期)	13.0~51.8
		14~27週(妊娠中期)	24.3~82.0
		28~38週(妊娠後期)	63.5~174

プレグナンジオール基準値

(単位：mg/day)

非妊婦	卵 胞 期	0.28~1.42
	黄 体 期	0.79~6.83
	男 性	0.16~0.79
妊婦	前 期	1.29~6.08
	中 期	3.05~24.22
	後 期	9.10~60.51

[4546]プレグナントリオール基準値

(単位：mg/day)

女性	卵 胞 期	0.13~1.30
	分 泌 期	0.13~1.90
	閉 経 期	0.02~0.83
男 性		0.13~1.60

[A221]フリーテストステロン年齢・性別における基準値(メーカー参考値)

(単位：pg/mL)

年 齢	男 性	女 性
20~29	7.6~23.8	0.4~2.3
30~39	6.5~17.7	0.6~2.5
40~49	4.7~21.6	0.3~1.8
50~59	4.6~19.6	0.8~1.7
60~69	5.3~11.5	
70以上	4.6~16.9	

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
性腺・胎盤関連検査	6463 1 (4F080)	絨毛性ゴナドトロピン (HCG)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 134 ※4	CLEIA	2.7以下 (mIU/mL)	トータルの HCG を測定しています。 抗体は HCG-β を認識しています。 絨毛性疾患の診断、予後管理に有用 です。絨毛性疾患取り扱い規約第3 版における推奨方法で、測定感度は 1.0mIU/mL です。 &3
	8875 9	遊離HCG-β (HCG-βサブユニット) 4F090-0000-023-051	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	① 132 ※4	CLIA	0.28未満 (ng/mL)	本検査法 (CLIA 法) は、がん再燃 の診断及びモニタリングでの臨床使 用には適しておりません。 &I
	(3B200)	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	子宮頸管 粘液	W6	凍結 (1ヵ月)	2~4	119 ※1	ラテックス 凝集免疫法	1.60以下 (μg/mL)	検体採取方法は 179 ページをご参照 ください。 &3
	(5C111)	ヒト癌胎児性 フィブロネクチン	膣分泌物	W5	凍結 (1ヵ月)	2~4	② 204 ※5	ELISA	陰性	検体採取方法は 178 ページをご参照 ください。 &I

- ①「HCG-βサブユニット」、「HCG定性」、「HCG」、「HCG半定量」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
②「ヒト癌胎児性フィブロネクチン」及び「IGFBP-1」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。



内分泌学的検査

膵・消化管関連検査／心臓関連検査

内分泌学的検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
3070 0 (46010)	インスリン	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	1~2	103 ※4	CLEIA	負荷前 1.84~12.2 (μIU/mL)	溶
L386 2 (46020)	C-ペプチド(CPR)	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	108 ※4	CLEIA	負荷前 0.61~2.09 (ng/mL)	&I
4503 8 (46020)		蓄尿 1	Y	凍結 (20日)				29.2~167 (μg/day)	
A248 6 (46030)	膵グルカゴン	速やかに 冷却 血清 0.5	D ↓ X	凍結 (28日)	5~11	150 ※4	ELISA	空腹時 5.4~55.0 (pg/mL)	指定の容器(PAP)に採血し、よく 混和させ、低温(4℃)で血漿分離し、 直ちに凍結保存してください。 &I
A212 5 (56340)	抗GAD抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	134 ※4	ELISA	5.0未満 (U/mL)	&I
A263 9 (56342)	抗IA-2抗体	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	3~9	213 ※4	ELISA	0.6未満 (U/mL)	&I
K485 3 (56360)	インスリン抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	3~7	110 ※5	RIA	0.4未満 (U/mL)	
4033 0 (42270)	ヒト心房性ナトリウム 利尿ペプチド(HANP)	速やかに 冷却 血清 0.5	D ↓ X	凍結 (21日)	2~4	221 ※4	CLEIA	43.0以下 (pg/mL)	安静時に指定の採取量を指定の容器 に採血しよく混和させ低温4℃で血 漿分離してください。血漿は必ず凍 結保存してください。 &I
4263 5 (42271)	ヒト脳性ナトリウム 利尿ペプチド(BNP)	速やかに速心 血清 0.5	g ↓ X	凍結	1~2	23 133 ※4	CLEIA	18.4以下 (pg/mL)	採血後、冷蔵保存にて6時間以内に 血漿分離し、速やかに凍結保存して ください。
E682 0 (42272)	ヒト脳性ナトリウム 利尿ペプチド前駆体 N端フラグメント (NT-proBNP)	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	1~2	23 133 ※4	ECLIA	125以下 (pg/mL)	125pg/mLは心不全除外カットオ フ値です。 &I
3649 8 (50091)	ヒト心臓由来脂肪酸 結合蛋白(H-FABP)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	4 135 ※3	ラテックス凝 集法	6.2未満 (ng/mL)	&3
3172 7 (50090)	ミオグロビン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	4 135 ※3	CLIA	男性 154.9以下 女性 106.0以下 (ng/mL)	&I
8801 0	尿中ミオグロビン [CLEIA]	部分尿 6	Y5	冷蔵 (22日)	2~4	4 135 ※3	CLEIA	2.0未満 (ng/mL)	採尿後、速やかに専用容器に入れ、 冷蔵してください。凍結は避けてく ださい。 &I
3173 6 (50092)	心室筋ミオシン軽鎖 I	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~6	5 184 ※3	EIA	2.5以下 (ng/mL)	&I
9532 1 (50093)	心筋トロポニンT	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (14日)	2~4	6 112 ※3	ECLIA	0.014以下 急性心筋梗塞診断の カットオフ値 0.100 (ng/mL)	

- ① 同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。
 ② 「NT-proBNP」、「HANP」及び「BNP」のうち2項目以上いずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
 ③ 心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月に1回に限り算定する。
 ④ 「H-FABP」、「ミオグロビン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 ⑤ 同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
 ⑥ 「心筋トロポニンI」、「心筋トロポニンT」を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
A719 3 (42010)	レニン活性(PRA) (EIA)	冷却遠心 血漿 0.7	C ↓ X	凍結 (14日)	3~5	① 100 ※4	EIA	臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1 (ng/mL/hr)	&I
9040 7 (42020)	レニン濃度 (ARC) [CLEIA]	冷却遠心 血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	2~4	① 105 ※4	CLEIA	2.21~39.5 (pg/mL)	
5551 4 (40120)	アルドステロン/ レニン活性比	冷却遠心 血漿 1.2	C ↓ X	凍結 (14日)	3~5	125 + 100 ※4	アルドステロン: CLEIA レニン活性: EIA	下記参照	
5527 1 (40122)	アルドステロン/ レニン濃度比	血漿 1.0	C ↓ X	凍結 (21日)	2~4	125 + 105 ※4	CLEIA	下記参照	
(50072)	ペントラキシン3 (PTX3)	速やかに冷却 血漿 0.3	C ↓ X	凍結	3~9		ELISA	0.73~5.49 (ng/mL)	&I
4035 8 (42255)	サイクリックAMP	冷却遠心 血漿 0.3	C ↓ X	凍結 (1ヵ月)	事前に ご確認 ください。	170 ※4	RIA DCC法	11~21 (pmol/mL)	
4558 8 (42255)		蓄尿 1	Y	凍結		170 ※4		1.8~6.3 (μmol/day)	
(42315)	肝細胞増殖因子 (HGF)	血清 0.3	01 ↓ X	凍結 (1ヵ月)	2~8	227 ※3	ELISA	0.39以下 (ng/mL)	&I
3171 8 (42275)	エリスロポエチン	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	209 ※4	CLEIA	4.2~23.7 (mIU/mL)	
K221 5 (42401)	アディポネクチン (LA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4		ラテックス 免疫比濁法	4.0以上 (μg/mL)	

①「レニン活性」、「レニン濃度」を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。

[5551 4]アルドステロン／レニン活性比 基準値
[5527 1]アルドステロン／レニン濃度比

アルドステロン(pg/mL)	レニン活性(ng/mL/hr)	レニン濃度(pg/mL)
4.0~82.1	臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1	2.21~39.5

アルドステロン／レニン活性比	アルドステロン／レニン濃度比
200以下	40以下

g
p156



EDTA-2K入り
(真空採血量2mL)
内容
EDTA-2K
2.4mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

Y5
p181



保存剤入り
(容器容量10mL)
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

D
p162



EDTA-2Na +
アプロチニン入り
(真空採血量3mL)
内容
EDTA-2Na
3.75mg
アプロチニン
(1500単位)
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

C
p160



EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

腫瘍関連検査

腫瘍関連検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
0072 1 (50010)	癌胎児性抗原 (CEA)	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	1~2	99 ※4 (腫2)	CLEIA	5.0以下 (ng/mL)	
E821 5 (50560)	血清抗p53抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	163 ※4 (腫2)	CLEIA	1.30以下 (U/mL)	&I
A210 7 (50320)	TPA	血清 0.5	01 ↓ X	凍結	4~6	110 ※4 (腫2)	CLIA	75未満 (U/L)	&D
0073 0 (50015)	α-フェトプロテイン 定量	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	1~2	101 ※4 (腫2)	CLEIA	10.0以下 (ng/mL)	
8608 8 (50520)	PIVKA-II	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	135 ※4 (腫2)	CLEIA	40未満 (mAU/mL)	
(50520)		血漿 0.5	C ↓ X	冷蔵					
3108 8 (50170)	DUPAN-2	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	118 ※4 (腫2)	EIA	150以下 (U/mL)	&I
3037 7 (3B195)	エラスターゼ1	血清 0.5	01 ↓ X	凍結	2~4	123 ※4 (腫2)	ラテックス 免疫比濁法	300以下 (ng/dL)	&3
0074 9 (50130)	CA19-9	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	1~2	124 ※4 (腫2)	CLEIA	37.0以下 (U/mL)	
3113 2 (50220)	SPan-1	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	144 ※4 (腫2)	RIA固相法 (IRMA)	30以下 (U/mL)	
3114 1 (50200)	NCC-ST-439	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	115 ※4 (腫2)	EIA	女性 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満 男性 4.5未満 (U/mL)	&I

(腫2): 悪性腫瘍特異物質治療管理料 (40ページ参照)

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
腫瘍 関 連 検 査	L433 9 (50120)	CA15-3	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 115 ※4 腫2	CLEIA	25.0以下 (U/mL)	
	3116 9 (50125)	BCA225	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	158 ※4 腫2	CLEIA	160未満 (U/mL)	&I
	E871 0 (50590)	血清 HER2タンパク	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	腫2	CLIA	15.2以下 (ng/mL)	&3
	3065 6 (50177)	シアリルLe ^x 抗原 (CSLEX) 5D177-0000-023-023	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~8	① 160 ※4 腫2	EIA	8.0未満 (U/mL)	&I
	3117 8 (50175)	シアリルLe ^x -i抗原 (SLX)	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	144 ※4 腫2	RIA固相法 (IRMA)	38以下 (U/mL)	溶血でのご依頼は避けてください。 &I
	8879 8 (50305)	前立腺特異抗原 (PSA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	② 124 ※4 腫2	CLEIA	4.00以下 (ng/mL)	&I
	A061 3 (50308)	PSA F/T比	血清 0.8	01 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	150 ※4 腫2	CLEIA	25 (PSA4.00~ 10.0ng/mLにおけ るカットオフ値) (%)	本項目は、PSA とフリー PSA の測 定結果も併せてご報告いたします。 (基準値について) 25% は PSA4.00 ~ 10.0ng/mL における前立腺癌と 非癌 (前立腺肥大症等) との判別に 用いるカットオフ値です。(低値ほど 前立腺癌の確率が高くなります。) &3
	A074 9 (50305)	前立腺特異抗原 (PSA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	② 124 ※4 腫2	ECLIA	4.00以下 (ng/mL)	前立腺肥大症と前立腺癌の判別に用 いるカットオフ値は3.6ng/mL が推 奨されます。
	(50310)	γ-セミノプロテイン (γ-Sm)	血清 0.5	01 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	194 ※4 腫2	CLEIA	4.0以下 (ng/mL)	(基準値について) 4.0ng/mL は良性 疾患との鑑別値です。 &3

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料 (40 ページ参照)

①「CSLEX」,「CA15-3」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

②診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原(PSA)の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を上限として算定できる。

腫瘍関連検査

腫瘍関連検査

腫瘍関連検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
腫瘍 8768 1 (5C124)	I型コラーゲンC末端 テロペプチド (ICTP)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	腫2	RIA2抗体法	4.5未満 (ng/mL)	午前中の第二尿をご提出ください。 血尿での提出は避けてください。 &I
腫瘍 4753 1 (5C123)	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx)	部分尿 3	Y	冷蔵	2~4	12 156 ※4 腫2	CLEIA	下記参照	
腫瘍 4742 3 (5C146)	デオキシピリジノリン	部分尿 3	Y	冷蔵	2~4	12 191 ※4 腫2	EIA	クレアチニン 換算値 M 2.1~5.4 F 2.8~7.6 (nmol/mmol・CRE)	
腫瘍 L385 3 (5D100)	CA125	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	3 140 ※4 腫2	CLEIA	35.0以下 (U/mL)	
腫瘍 3448 1 (5D155)	CA54/61	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	3~7	184 ※4 腫2	ELISA	12以下 (U/mL)	
腫瘍 3012 4 (5D150)	CA72-4	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	146 ※4 腫2	ECLIA	10.0以下 (U/mL)	
腫瘍 3131 2 (5D153)	シアリルTn抗原(STN)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	146 ※4 腫2	RIA固相法	45以下 (U/mL)	&I

(腫2): 悪性腫瘍特異物質治療管理料 (40ページ参照)

- ①「NTx」,「オステオカルシン」,「尿中DPD」,「TRACP-5b」を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
- ②骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また、薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。
- ③「CA125」,「CA602」を併せて測定した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

[4753] I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)基準値, 判定基準

(単位: nmolBCE/mmol・CRE)

基準値 (参考値)	男 性	13.0~66.2
	閉経前女性	9.3~54.3
	閉経後女性	14.3~89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術適応	200以上
	悪性腫瘍(乳癌, 肺癌, 前立腺癌)の骨転移の指標	100以上

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
腫瘍関連検査	3126 8 (50300)	SCC	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	104 ※4 (腫2)	CLEIA	2.5以下 (ng/mL)	唾液・フケ・皮膚(表皮)・毛髪・爪などの混入により高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いには十分にご注意ください。 &I
	3797 4 (50325)	シフラ(CYFRA) (サイトケラチン 19フラグメント)	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~4	158 ※4 (腫2)	CLEIA	3.5以下 (ng/mL)	検体の混和・攪拌により低値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いには十分にご注意ください。 &I
	3664 1 (50550)	ガストリン放出 ペプチド前駆体 (ProGRP)	血漿 0.4	C ↓ X	凍結	2~4	① 175 ※4 (腫2)	CLEIA	81未満 (pg/mL)	&I
	3127 7 (50410)	NSE (神経特異エノラーゼ)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 142 ※4 (腫2)	ECLIA	16.3以下 (ng/mL)	採血後、1時間以内に血清分離し冷蔵保存してください。 溶血でのご依頼は避けてください。 (溶血の場合、赤血球からNSEが逸脱して高値となります。) &I
	3129 5 (50025)	塩基性フェトプロテイン (BFP) 5D025-0000-023-023	速やかに遠心 血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	2~8	150 ※4 (腫2)	EIA	75未満 (ng/mL)	採血後、2時間以内に血清分離してください。 溶血でのご依頼は避けてください。 &I
	4639 8 (50570)	尿中核マトリックス プロテイン22 (NMP22)	速やかに遠心 部分尿5	Y8	冷蔵 (21日)	2~4	143 ※4	ELISA	12.0未満 (U/mL)	重凍 検体採取後速やかに遠心し、その上清を専用容器に入れてください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。 &I
	A274 7 (5J095)	可溶性IL-2レセプター	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	438 ※4 (腫2)	CLEIA	157~474 (U/mL)	&I
	(2C105)	チミジンキナーゼ活性	血清 0.5	01 ↓ X	凍結	4~6	233 ※2	CLIA	7.5以下 (U/L)	&D
	(50350)	5-S-システイニルドーパ (5-S-CD)	血清 1.0	01 ↓ X	凍結	3~7		HPLC	1.5~8.0 (nmol/L)	&Y
	K440 2 (50600)	可溶性メソレリン 関連ペプチド	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	4~10	220 ※4 (腫2)	CLEIA	1.5未満 (nmol/L)	&3

①「ProGRP」を「NSE」と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

(腫2): 悪性腫瘍特異物質治療管理料 (40ページ参照)

Y8
p181



保存液入り
(容器容量10mL)
内容
尿安定化剤
貯蔵方法 遮光・室温
有効期間 2年6カ月

C
p160



EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

腫瘍関連検査

腫瘍関連検査

腫瘍マーカー

腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定できます。

悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できません。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。

- ア)急性及び慢性肝炎の診断及び経過観察のために「エラスターゼⅠ」を行った場合
イ)肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について「 α -フェトプロテイン(AFP)」、「PIVKA-II半定量」又は「PIVKA-II」を行った場合(月1回に限る)
ウ)子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として「CA125」、「CA130」を行った場合(診断または治療前及び治療後の各1回に限る)
エ)家族性大腸腺腫症の患者に対して「癌胎児性抗原(CEA)」を行った場合

悪性腫瘍特異物質治療管理料

太文字は総合検査案内書掲載項目です。

測定方法	検査項目		悪性腫瘍特異物質 治療管理料 (同一患者月1回)	加算点 (初回月)
1. 測定方法が一般的なもの [(腫1)で表示]	尿中BTA		220点	
2. 測定方法が精密なもの [(腫2)で表示]	癌胎児性抗原(CEA) α -フェトプロテイン定量 SCC TPA NCC-ST-439 CA15-3 DUPAN-2 エラスターゼⅠ 前立腺特異抗原(PSA) CA19-9 PIVKA-II 半定量 PIVKA-II CA125 NSE(神経特異エノラーゼ) 尿中核マトリックスプロテイン22(NMP22) 核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿) SPan-1 シアリルLe ^x -i抗原(SLX) CA72-4 シアリルTn抗原(STN) 塩基性フェトプロテイン(BFP)	PSA F/T比 BCA225 シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント) サイトケラチン8・18(尿) シアリルLe ^x 抗原(CSLEX) 血清抗p53抗体 I型コラーゲンC末端テロペプチド(I CTP) ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP) CA54/61 癌関連ガラクトース転移酵素(GAT) CA602 α -フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%) 組織因子経路インヒビター2(TFPI2) γ -セミノプロテイン(γ -Sm) ヒト精巢上体タンパク4(HE4) 可溶性メソテリン関連ペプチド プロステートヘルスインデックス(phi) 癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液) 癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液) 血清 HER2タンパク 可溶性IL-2レセプター(sIL-2R)	1項目 360点 2項目以上 400点	150点

ウイルス感染症検査

抗体検査

[illegible]

①ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

* CF (補体結合反応) : 補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

* NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2〜3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

抗体検査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗 体 検 査	6056 3 (5F400)	A型 (H1N1) (H3N2)	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	3~5	①② 79 ※5	HI (赤血球凝集 抑制反応)	A型(H1N1)10未満 A型(H3N2)10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍 数で表示しています。 下記参照(*HI) &I
	0386 3 (5F400)	A型	速やかに遠心 血清 0.3			4~6	①② 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	6057 2 (5F410)	B型	血清 0.2			3~5	①② 79 ※5	HI (赤血球凝集 抑制反応)	B-1 10未満 B-2 10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍 数で表示しています。 下記参照(*HI) &I
	0406 0 (5F410)	B型	速やかに遠心 血清 0.3			4~6	①② 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	(5F421)	1型	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	3~5	① 79 ※5	HI (赤血球凝集 抑制反応)	10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍 数で表示しています。 下記参照(*HI) &I
	(5F422)	2型					① 79 ※5			
	(5F423)	3型					① 79 ※5			
	9290 0 (5F430)	RSウイルス	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	4~6	① 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	(5F430)		血清 0.2			7~11	① 79 ※5	NT (中和反応)		下記参照(*NT) &I

①ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

②「インフルエンザウイルスA型」若しくは「インフルエンザウイルスB型」又は「インフルエンザウイルス抗原定性」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

* CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

* NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

* HI(赤血球凝集抑制反応):出発希釈 10倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 10倍未満 出発希釈 10倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	(5F311)	1型	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	7~11	① 79 ※5	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT)
	(5F313)	3型				7~11				&I
	(5F314)	4型				7~11				
	(5F315)	5型				7~13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT)
	(5F316)	6型				7~11				&I
	(5F317)	7型				7~11				
	(5F319)	9型				7~13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT)
	(5F321)	11型				7~13				&I
	(5F322)	12型				7~13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT)
		エコーウイルス								&I

①ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

*NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

項目コード (統一コード)		検 査 項 目	検体量 (mL)	容 器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
抗 体 検 査	(5F323)	13型	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	7~11	① 79 ※ 5	NT (中和反応)	4 未満 (倍)	下記参照(* NT)
	(5F324)	14型				7~13				
	(5F326)	16型								
	(5F327)	エコーウイルス 17型				7~11				
	(5F328)	18型								
	(5F329)	19型				7~13				
	(5F331)	21型								
	(5F332)	エコーウイルス 22型 (パレコウイルス1型)	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	7~13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	
	(5F334)	24型	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	7~13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	
	(5F335)	エコーウイルス 25型				7~11				
(5F340)	30型									

①ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

* NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

項目コード (統一コード)		検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
抗 体 検 査	(5F282)	A群2型	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	7～13	① 79 ※5	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT)
	(5F283)	A群3型								
	(5F284)	A群4型								
	6092 3 (5F285)	A群5型								
	6093 2 (5F286)	A群6型								
	コクサッキー ウイルス	A群7型								
		A群9型								
		A群9型								
	9265 8 (5F289)	A群9型	 血清 0.3			4～6		CF (補体結合反応)	下記参照(＊CF)	
	6096 9 (5F290)	A群10型	血清 各0.2			7～13		NT (中和反応)	下記参照(＊NT)	
6097 8 (5F296)	A群16型									

①ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

*CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

*NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
(5F301)	B群1型	血清 0.2			7~13		NT (中和反応)		下記参照(*NT) &I
9267 6 (5F301)	B群1型	速やかに遠心 血清 0.3			4~6		CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
6099 6 (5F302)	B群2型	血清 0.2			7~13		NT (中和反応)		下記参照(*NT) &I
A326 9 (5F302)	B群2型	速やかに遠心 血清 0.3			4~6		CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
(5F303)	B群3型	血清 0.2			7~13		NT (中和反応)		下記参照(*NT) &I
9270 2 (5F303)	B群3型	速やかに遠心 血清 0.3			4~6		CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
6101 2 (5F304)	B群4型	血清 0.2			7~13		NT (中和反応)		下記参照(*NT) &I
A329 6 (5F304)	B群4型	速やかに遠心 血清 0.3			4~6		CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
6102 1 (5F305)	B群5型	血清 0.2			7~13		NT (中和反応)		下記参照(*NT) &I
A332 2 (5F305)	B群5型	速やかに遠心 血清 0.3			4~6		CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E
(5F306)	B群6型	血清 0.2			7~13		NT (中和反応)		下記参照(*NT) &I
A335 9 (5F306)	B群6型	速やかに遠心 血清 0.3			4~6		CF (補体結合反応)		下記参照(*CF) &E

①ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

*CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
 出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

*NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
 出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
 なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
抗体検査	(5F270)	エンテロ 70型 ウイルス	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	6~12		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT)
	(5F271)	71型								
	6041 9 (5F385)	日本脳炎ウイルス (JaGAr株)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	4~7	① 79 ※5	HI (赤血球凝集 抑制反応)	ジャガー 10未満 ジャガー2ME 10未満 (倍)	下記参照(*HI) &I
	9217 1 (5F385)	日本脳炎ウイルス	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	4~6		CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E

①ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

*CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

*NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

*HI(赤血球凝集抑制反応):日本脳炎ウイルス(JaGAr株): 出発希釈 10倍(髄液の測定も可能です) 検体量 1.0mL(冷蔵) 基準値 10倍未満
出発希釈 10倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

ウイルス感染症検査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	6193 1 (5F432)	ムンプスウイルス	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 206 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準: 下記参照	下記参照(* 捕捉法)
	6191 3 (5F432)								2.0未満 陰性 判定基準: 下記参照	下記参照(* 固相法)
	6050 9 (5F432)	ムンプスウイルス	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	3~5	② 79 ※5	HI (赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(* HI)
	6083 3 (5F432)					7~13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(* NT)
	0409 7 (5F432)		速やかに遠心 血清 0.3			4~6		CF (補体結合反応)		下記参照(* CF)
	6185 0 (5F431)	麻疹ウイルス	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 206 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準: 下記参照	下記参照(* 捕捉法)
	6183 2 (5F431)								2.0未満 陰性 判定基準: 下記参照	下記参照(* 固相法)
	6082 4 (5F431)	麻疹ウイルス	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	7~11	② 79 ※5	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(* NT)

①グロブリンクラス別ウイルス抗体価(61ページ)を参照ください。

②ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

* 捕捉法: 髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 0.80未満 陰性

* 固相法: 髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 0.20未満 陰性

* CF(補体結合反応): 補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

* NT(中和反応): 細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

* HI(赤血球凝集抑制反応): 出発希釈 8倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵)) (基準値 ムンプス 8倍未満 出発希釈 8倍)
(基準値 麻疹 1倍未満 出発希釈 1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

[6193, 6191]ムンプスウイルス の判定基準 [6185, 6183]麻疹ウイルス

判定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価)
—	0.80未満	2.0未満
±	0.80~1.20	2.0~3.9
+	1.21以上	4.0以上

[6185]麻疹ウイルスIgMの結果における注意事項

伝染性紅斑(パルボウイルスB19感染)、テング熱、突発性発疹(HHV6感染)などでも麻疹ウイルスIgMが陽性となる症例があることが報告されています。診断においては臨床症状および他の検査法を加味し、総合的に判断してください。

[6189, 6187]風疹ウイルス の判定基準 [6173, 6171]水痘・帯状ヘルペスウイルス

判定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価)
—	0.80未満	2.0未満
±	0.80~1.20	2.0~3.9
+	1.21以上	4.0以上

[3502, 3501]ヒトパルボウイルスB19(判定基準)

判定	抗体指数
—	0.80未満
±	0.80~0.99
+	1.00以上

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	6189 6 (5F395)	風疹ウイルス	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 206 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準: 下記参照	下記参照(* 捕捉法)
	6187 8 (5F395)								2.0未満 陰性 判定基準: 下記参照	下記参照(* 固相法)
	6045 5 (5F395)	風疹ウイルス	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	3~5	② 79 ※5	HI (赤血球凝集 抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(* HI)
	3502 0 (5F011)	ヒトパルボ ウイルスB19	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 206 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準: 下記参照	捕捉法
	3501 1 (5F011)									固相法
	6173 3 (5F193)	水痘・帯状 疱疹 ウイルス	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 206 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準: 下記参照	下記参照(* 捕捉法)
	6171 5 (5F193)								2.0未満 陰性 判定基準: 下記参照	下記参照(* 固相法)
	6000 4 (5F193)	水痘・帯状 疱疹ウイルス	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	4~6	② 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(* CF)
	L648 1	風疹ウイルス (HI) クーポン 5F395-1430-023-111	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	3~7		HI (赤血球凝集 抑制反応)	8以下 (倍)	本項目は、厚生労働省による「風し んの追加的対策」のクーポン専用項 目です。 定期接種の対象となる風疹抗体価「8 以下(倍)」を基準値欄に記載してい ます。 測定キットは風疹ウイルス HI 試薬 「生研」(デンカ生研株式会社) です。
	L649 0	風疹ウイルスIgG (EIA) クーポン 5F395-1431-023-023								本項目は、厚生労働省による「風し んの追加的対策」のクーポン専用項 目です。 定期接種の対象となる風疹抗体価 「6.0未満 (EIA 価)」を基準値欄に 記載しています。 測定キットはウイルス抗体 EIA 「生 研」ルベラ IgG (デンカ生研株式会 社) です。
検査	L674 2	風疹ウイルスIgG (CLEIA) クーポン	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4		CLEIA	20未満 (IU/mL)	本項目は、厚生労働省による「風し んの追加的対策」のクーポン専用項 目です。 定期接種の対象となる風疹抗体価 「20未満 (IU/mL)」を基準値欄に記 載しています。 測定キットはアクセス ルベラ IgG (ベックマン・コールター株式会社) です。
	L675 1	風疹ウイルスIgG (FIA) クーポン	血清 0.6		冷蔵 (14日)	3~7		FIA	1.5未満 (AI)	本項目は、厚生労働省による「風し んの追加的対策」のクーポン専用項 目です。 定期接種の対象となる風疹抗体価 「1.5未満 (AI)」を基準値欄に記載し ています。 測定キットはBioPlex MMRV IgG (パイオ・ラッド ラボラトリーズ株 式会社) です。 AI は、パイオ・ラッド社が設定した 抗体価単位です。

① グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (61ページ) を参照ください。

② ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (61ページ) を参照ください。

* 捕捉法: 髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 0.80未満 陰性

* 固相法: 髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 0.20未満 陰性

* CF (補体結合反応): 補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

* HI (赤血球凝集抑制反応): 風疹ウイルス: 出発希釈 8倍 (髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL (冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期 (発病後早期) および回復期 (発病後2~3週間) の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍 (2管差) 以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

ウイルス感染症検査

	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
抗体検査	4917 9 (5F190)	単純ヘルペス ウイルスIgM	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	2～4	① 206 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(*捕捉法) &I
	4915 1 (5F190)	単純ヘルペス ウイルスIgG	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	2～4		EIA	2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	固相法 同時期の髄液と血清の双方を同時測定することにより、髄液中の局所産生抗体の証明が可能です。 &I
	(5F190)		髄液 0.4	X					0.20未満 陰性 判定基準:下記参照	
	6084 2 (5F191)	単純ヘルペス ウイルス	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	6～12	② 79 ※5	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) 1型,2型間には抗原交差性があります。 &I
	4848 6 (5F192)									
	2429 3 (5F190)	単純ヘルペスウイルス	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	4～6	①③ 206 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E
	B113 4 (5F194)	5F194-1432-023-051 IgM サイトメガロ ウイルス	血清 各0.5	01 ↓ X	冷蔵	2～4		CLIA	0.85未満 陰性 判定基準:下記参照 (Index)	&I
	B128 8 (5F194)	5F194-1431-023-051 IgG							6.0未満 陰性 判定基準:下記参照 (AU/mL)	
	A002 8 (5F194)	サイトメガロウイルス	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	4～6	②③ 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) &E

- ① グロブリンクラス別ウイルス抗体価(61ページ)を参照ください。
② ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。
③ 先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として「サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)」「サイトメガロウイルスIgG」「サイトメガロウイルスIgM」「サイトメガロウイルス」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
* CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

* NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です) 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

* 捕捉法:髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 0.80未満 陰性

* 固相法:髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 0.20未満 陰性

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

[4917]単純ヘルペスウイルスIgM [4915]単純ヘルペスウイルスIgG の判定基準

判定	IgM (抗体指数)	IgG(EIA価)	
		血清	髄液
—	0.80未満	2.0未満	0.20未満
±	0.80~1.20	2.0~3.9	0.20~0.39
+	1.21以上	4.0以上	0.40以上

[B113 4, B128 8]サイトメガロウイルスの判定基準

判定	IgG(AU/mL)	IgM(Index)
陰性	6.0未満	0.85未満
判定保留		0.85 ~ 1.00未満※2
陽性	6.0以上※1	1.00以上

- ※1:6.0~15.0AU/mLの結果値の際には、適切な期間(例:2週間)内に再採取し再検査をお勧めします。
※2:判定保留の際には、適切な期間(例:2週間)内に再採取し再検査をお勧めします。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
抗体検査	6751 1 (5F203)	抗EA IgG	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 206 ※ 5	EIA	0.5未満 陰性 判定基準: 下記参照	&I
	6158 0 (5F202)	抗VCA IgM								
	6159 9 (5F202)	抗VCA IgG								
	6160 7 (5F204)	抗EBNA IgG								
	4953 9 (5F203)	抗EA-DR IgG			冷蔵	3~5	② 79 ※ 5	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈 10倍
	4951 1 (5F202)	抗VCA IgM								
	4950 2 (5F202)	抗VCA IgG								
	4955 7 (5F204)	抗EBNA								
	4952 0 (5F202)	抗VCA IgA								
	(5F203)	抗EA-DR IgA								

- ①グロブリンクラス別ウイルス抗体価(61ページ)を参照ください。
②ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

[6751]EBウイルス 抗EA IgG
[6158]EBウイルス 抗VCA IgM
[6159]EBウイルス 抗VCA IgG の判定基準
[6160]EBウイルス 抗EBNA IgG

判 定	抗体指数
—	0.5未満
±	0.5~0.9
+	1.0以上

ウイルス感染症検査

抗原検査

	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
抗 原 検 査	6703 4 (68655)	ウイルス分離	下記参照	V	冷蔵	4~21		細胞変性効果, 血球吸着現象, 赤血球凝集反応		凍結保存は避けてください。 分離、同定検査は以下の細胞を使用 しています。 PHfb (ヒト繊維芽細胞), HEp-2 (ヒ ト喉頭癌細胞), Vero (ミドリザル 腎細胞), MA104 (アカ毛ザル腎細 胞), RD-18S (ヒト横紋筋腫細胞), MDCK (イヌ腎細胞), B95a (マー モセット B 細胞), AGMK (アフリ カミドリザル腎細胞), A549 (ヒト 肺癌細胞), Caco-2 (ヒト結腸腺癌 細胞) &I
	(68705)	ウイルス同定	※1参照	V	冷蔵	13~29		標準抗血清に よる中和反応・ 免疫蛍光抗体 法・赤血球凝 集抑制反応		

検査材料

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出ください。

臨 床 症 状	分 離 可 能 ウ イ ル ス	主 要 検 査 材 料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
	アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、糞便
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS、サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	水疱内容
	コクサッキー、エンテロ71	水疱内容、咽頭ぬぐい液、糞便
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
	水痘・帯状疱疹、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液
先天性異常	サイトメガロ、風疹	咽頭ぬぐい液、尿、髄液
	単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	水疱内容
嘔吐・下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	結膜ぬぐい液

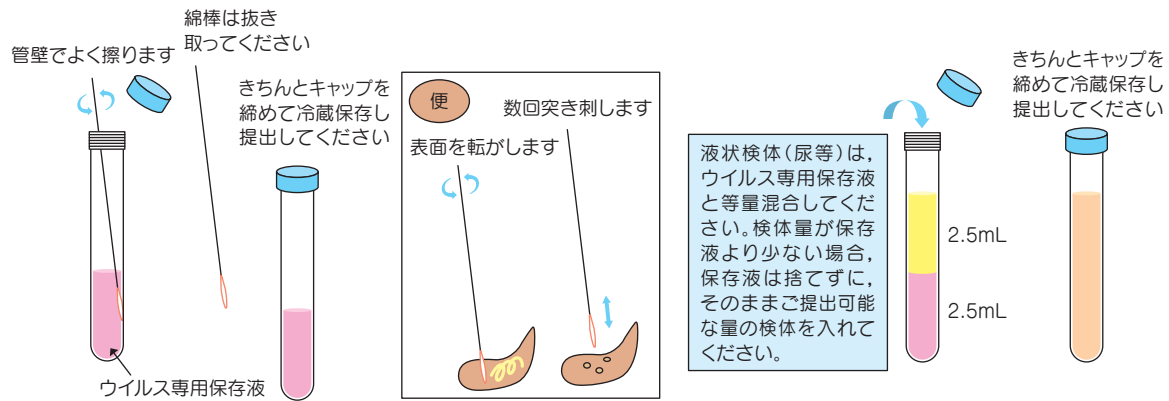
検体採取および保存方法

検査材料	ウイルス専用容器への採取方法
患部ぬぐい液・水泡内容・糞便 等	※2 滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。
尿・髄液・胸水・鼻汁 等	下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。
組織	組織小片(5mm角程度)をウイルス専用保存液に入れて冷蔵保存してください。

※1 同定検査は当社の分離検査において分離された検体のみの受付となります。

※2 滅菌綿棒はプラスチック棒かアルミニウム棒付の綿棒で採取してください。

●ウイルス専用保存液は当社にて準備しておりますので、ご依頼前に営業担当員にお申し付けください。



ウイルス感染症検査

抗原検査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗 原 検 査	(5F150)	アデノウイルスDNA 定性	結膜 ぬぐい液	h	室温 (3ヵ月)	3~9		PCR	陰性	重 測定対象は1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 11, 19, 37型です。 ただし型判定は実施できません。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F150)		部分尿 0.5	r	凍結 (1ヵ月)					
	(5F150)		糞便 500mg	U	凍結 (1ヵ月)					
	M209 7 (5F610)	ロタウイルス抗原	糞便 1g	U	凍結	1~2	65 ※5	免疫クロマト 法	(-)	
	8522 3 (5F011)	ヒトパルボウイルス B19DNA定性	血清 0.7	↓ r	凍結 (3ヵ月)	3~5		PCR	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I

項目コード (統一コード)		検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
抗 原	(5F193)	水痘・帯状疱疹 ウイルスDNA定性	患部 ぬぐい液	h	室温 (3ヵ月)	3～5		PCR	陰性	重 血液：凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてくだ さい。 本検査方法ではコンタミネーショ ンの影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十 分ご注意ください。 &I
	(5F193)		血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵 (10日)					
	6837 6 (5F193)		髄液 0.7	r	凍結 (3ヵ月)					
	6824 0 (5F193)	水痘・帯状疱疹 ウイルス抗原	塗抹標本 2枚	W1	凍結	2～4	227 ※5	FA	陰性	塗抹標本の採取方法は177ページを ご参照ください。 &I
	(5F190)	単純ヘルペスウイルス DNA定量	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (10日)	2～4	① 450 ※6	PCR (リアルタイム PCR)	2.0×10 ¹ 未満 (コピー/10 ⁶ cells)	重 血液：凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてくだ さい。 本検査方法ではコンタミネーショ ンの影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十 分ご注意ください。 &I
	(5F190)	単純ヘルペスウイルス DNA定性	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵 (10日)	3～5		PCR	陰性	
	6827 7 (5F190)		髄液 0.7	r	凍結 (3ヵ月)					
	(5F190)		患部 ぬぐい液	h	室温 (3ヵ月)					
	6839 4 (5F190)		組織 50mg	r	凍結 (3ヵ月)	3～5				&I
	6821 3 (5F190)	単純ヘルペスウイルス 特異抗原	塗抹標本 2枚	W1	凍結	2～4	180 ※5	FA	単純ヘルペスウイルス 1型抗原(FA)陰性 単純ヘルペスウイルス 2型抗原(FA)陰性	塗抹標本の採取方法は177ページを ご参照ください。 &I
検	(5F210)	ヒトヘルペスウイルス 6型DNA定性	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵 (10日)	3～9		PCR	陰性	重 血液：凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてくだ さい。 本検査方法ではコンタミネーショ ンの影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十 分ご注意ください。 &I
	4996 2 (5F210)		血清 0.7	↓ r	凍結 (3ヵ月)					
	K131 5 (5F210)		髄液 0.7	r						
	(5F210)		患部 ぬぐい液	h	室温 (3ヵ月)					
	6664 8 (5F210)		組織 50mg	r	凍結 (3ヵ月)					
査	(5F211)	ヒトヘルペスウイルス 7型DNA定性	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵 (10日)	3～9		PCR	陰性	重 血液：凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてくだ さい。 本検査方法ではコンタミネーショ ンの影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十 分ご注意ください。 &I
	(5F211)		血清 0.7	↓ r	凍結 (3ヵ月)					
	K079 4 (5F211)		髄液 0.7	r						
	(5F211)		患部 ぬぐい液	h	室温 (3ヵ月)					
	(5F211)		組織 5mg	r	凍結 (3ヵ月)					

①「単純ヘルペスウイルスDNA定量」と「水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量」は、免疫不全状態であって、単純疱疹ウイルス感染症又は水痘疱疹ウイルス感染症が強く疑われる患者を対象としてリアルタイムPCR法により測定した場合に、一連として1回のみ算定できる。

A p159 EDTA-2Na入り (真空採血量7mL) 内容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	U p176 糞便容器 貯蔵方法 室温	W1 p177 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	r p174 貯蔵方法 室温	C p160 EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	h p168 SDS EDTA-2Na入り (容器容量10mL) 貯蔵方法 室温
--	-------------------------------------	---	-----------------------------	---	--

ウイルス感染症検査

抗原検査

項目コード (統一コード)		検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
抗 原 検 査	(5F194)	サイトメガロウイルス DNA定性	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵 (10日)	3～5	PCR	陰性		重 血液：凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十分 ご注意ください。
	6832 1 (5F194)		髄液 0.7	r	凍結 (3ヵ月)					
	(5F194)		患部 ぬぐい液	h	室温 (3ヵ月)					
	6831 2 (5F194)		部分尿0.7	r	凍結 (3ヵ月)	3～5				
	6658 5 (5F194)		組織 50mg		凍結 (3ヵ月)					
	(5F194)	曜日指定 サイトメガロウイルス pp65抗原(C10, C11)	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵	2～4	366 ※5	間接酵素抗体法	陰性	凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 血液は採血後、速やかにご提出くだ さい。採血後24時間以内の血液を使 用しない場合、検出率の低下が認め られます。&I
	6745 8 (5F194)	曜日指定 サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	血液 3.0 (EDTA-2Na加)	C	室温	2～4		直接酵素抗体法	陰性	受託可能日は月～金曜日です。 血液は採血後、速やかにご提出くだ さい。採血後24時間以内の血液を使 用しない場合、検出率の低下が認め られます。&I
	(5F201)	EBウイルスDNA定量	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (10日)	2～4	310 ※6	PCR (リアルタイム PCR)	検出せず (Log IU/mL)	重凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十分 ご注意ください。&I
	(5F201)	EBウイルスDNA (クロナリティ)	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (10日)	17～23		サザンブロット ハイブリダイ ゼーション		血液：凍結保存は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少し ている場合は、必要量の DNA が抽 出できない場合がありますので、あ らかじめご了承ください。 ホルマリンなどにより固定した組織 は、高分子 DNA が得られないため、 サザンブロットハイブリダイゼー ションによる解析は不可能です。 本法では、ウイルスDNA数が少ない と、EBV DNAが検出されない場合 があります。&I
	(5F201)		組織 250mg	r	凍結 (3ヵ月)					

ウイルス感染症検査

A
p159
 

EDTA-2Na入り
(真空採血量7mL)
内容
EDTA-2Na
10.5mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

C
p160
 

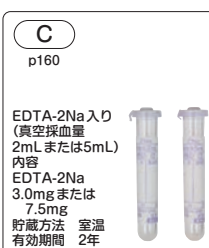
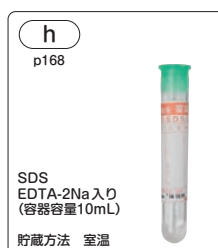
EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

r
p174
 

貯蔵方法 室温

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗 原 検 査	6644 0 (5F101)	ヒトパピローマ ウイルスDNA (ハイリスクグループ)	組織 250mg	W3	凍結 (3ヵ月)	3~5		液相(核酸) ハイブリダイ ゼーション	陰性	測定対象は16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。 ただし型別の判定ではありません。
	(5F101)		患部 ぬぐい液		凍結					
	(5F101)	ヒトパピローマ ウイルスDNA (ハイリスクグループ) (LBC)	子宮頸部	f6	室温 (1ヵ月)	3~5	1 2 4 350 ※6	液相(核酸) ハイブリダイ ゼーション	陰性	測定対象は16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。 ただし、型別の判定ではありません。 細胞診検査(婦人科 CR)との同時 依頼も可能です。
	(5F101)		腔内容							
	(5F101)		子宮腔部							
	A011 8	ヒトパピローマ ウイルスDNA (16型, 18型, その他 ハイリスクグループ)	子宮頸部 3.0	f6	室温	2~4	1 2 3 360 ※6	PCR (リアルタイム PCR)	HPV16型 陰性 HPV18型 陰性 その他ハイリスク グループ 陰性	測定対象は16型, 18型, その他ハイ リスクグループ(31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型 および 66型)です。「その他のハイリスク グループ」については、型別の判定で はありません。 検体に血液が混入しているとデータ に影響を及ぼす場合がありますので ご注意ください。
	6645 9 (5F102)	ヒトパピローマ ウイルスDNA (ローリスクグループ)	組織 250mg	W3	凍結 (3ヵ月)	4~10		液相(核酸) ハイブリダイ ゼーション	陰性	測定対象は6, 11, 42, 43, 44型です。 ただし型別の判定ではありません。
	(5F102)		患部 ぬぐい液		凍結					
		ヒトパピローマ ウイルス(HPV) ジェノタイプ判定	子宮頸部	f6	室温	4~6	5 2000 ※6	PCR- rSSO法	陰性	検出可能な型は、16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。 本検査は予め、組織診断により CIN1またはCIN2と診断された患 者から採取された検体を専用容器f6 でご提出ください。本検査方法では、 コンタミネーションの影響がより大 きくなりますので、検体採取にあたっ ては取扱いに十分ご注意ください。 他項目との重複依頼は避けてくださ い。

- ①「HPV核酸検出」を「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
 ②予め行われた細胞診の結果ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定する。なお、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。
 ③保険請求名称は、「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」です。
 ④保険請求名称は、「HPV核酸検出」です。
 ⑤予め行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。



ウイルス感染症検査

HTLV- I 検査

項目コード (統一コード)		検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考	
H T L V - I 検 査	A433 0 (5F450)	HTLV- I (ATLV) 抗体	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2～4	163 ※5	CLEIA	陰性	検査結果が「陽性」であった場合、 ラインプロット法による確認検査を お勧めいたします。 測定対象は、 抗 HTLV- I 抗体および抗 HTLV- II 抗体です。型別の報告ではありませ ん。 &I	
	6801 5 (5F450)		血清 0.2		冷蔵		85 ※5	PA	16未満 (倍)	検査結果が「陽性」であった場合、 ラインプロット法による確認検査を お勧めいたします。 &I	
	A095 6	HTLV-1抗体 5F460-0000-023-833	血清 0.2		冷蔵 (28日)	3～5	425 ※5	ラインプロット法 (LIA法)	陰性 判定基準：下記参照	測定対象は、抗 HTLV-1 抗体および 抗 HTLV-2 抗体です。型別の報告で は ありませ ん。 &I	
	(5F455)	HTLV- I (ATLV) プロウイルスDNA (クロナリティ)	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (10日)	17～23		サザンプロット ハイブリダイ ゼーション		血液：凍結保存は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少し ている場合は、必要量の DNA が抽 出できない場合がありますので、あ らかじめご了承ください。 ホルマリンなどにより固定した組織 は、高分子 DNA が得られないため、 サザンプロットハイブリダイゼー ションによる解析は不可能です。&I	
	(5F455)		組織 250mg	r	凍結 (1ヵ月)						
		HTLV- I 核酸検出 定性	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (3日)	10～16	① 450 ※6	PCR (リアル タイムPCR)	陰性 (プロウイルスを認 めませんでした)	⚠ 血液：凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてくだ さい。 化学療法などにより細胞数が減少し ている場合は、必要量の DNA が抽 出できない場合もあります。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十 分ご注意ください。 &I	
		HTLV- I プロウイルス DNA 定性	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (3日)						
			組織 50mg	r	凍結						

* PA：出発希釈 16倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 設定なし 出発希釈 2倍)
 ①HTLV- I 核酸検出はHTLV- I (ATLV) 抗体(ウエスタンプロット法及びラインプロット法) によって判定保留となった妊婦を対象として測定した
 場合のみ算定できる。

〔A095 6〕HTLV-1抗体〔ラインプロット法〕(判定基準)

ラインが認められない		陰性
ラインが 1 本認められる (≧±)	gag p19かgag p24か env gp46のいずれかが認められる env gp21が認められる	
ラインが 2 本認められる (≧±)	env gp21が認められない	保留
	env gp21が認められる	
ラインが 3 本以上認められる (≧±)		陽性

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
HIV検査	8512 4 (5F560)	HIV抗原・抗体	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	3~5	① 112 ※5	CLEIA	陰性	ⓐ不活化(非働化)した検体は、判定に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	P490 6	HIV-1/2特異抗体 5F560-1430-023-190	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (7日)	3~5	660 ※5	イムノクロマト法	陰性	ⓐ他項目との重複依頼は避けてください。 確認検査(イムノクロマト法)をご依頼の際には、改めて採血しご提出ください。 &I
	A239 6 (5F500)	HIV-1RNA定量	血漿 1.8	P3	凍結 (22日)	3~5	520 ※6	RT-PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (コピー/mL)	ⓐ他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I

①保険請求上の名称は、「HIV1，2抗原・抗体同時測定定性」です。



ウイルス感染症検査

ウイルス抗体検査の特徴

検査方法	原 理	特 徴
補体結合反応 (CF)	抗原抗体複合体と結合した補体感作血球の不溶血を指標として間接的に証明します。	・ 群特異性が高い ・ 比較的早期に抗体消失 ・ 感染スクリーニング用
赤血球凝集抑制反応 (HI)	赤血球凝集能をもつウイルスの場合、その凝集を抑制する抗体を証明します。	・ 型特異性が高い ・ 早期に抗体が上昇、持続する
蛍光抗体法 (FA)	感染細胞中のウイルス抗原と抗体との反応を蛍光標識抗体で証明します。	・ 抗体分画が可能
中和反応 (NT)	活性ウイルスを抗体により中和させ、感染防御抗体を証明します。	・ 型特異性が高い
酵素免疫法 (EIA)	固相化したウイルス抗原と抗体を反応させ、酵素標識抗体との反応により証明します。	・ 抗体分画が可能 ・ 定量的データ ・ 他法に比して高感度
受身(粒子)凝集反応 (PA)	固相化ゼラチン粒子にウイルスを吸着させ、これに抗体を反応させ、凝集の有無により証明します。	・ 高感度
ウェスタンブロット法 (WB)	転写膜に分画された抗原タンパクのバンドと特異的に反応する抗体を検出します。	・ 特異性が高い ・ 確認試験

ウイルス感染症検査

検出抗体の性質

		性 質			
		動 態	抗ウイルス抗体活性	補体結合能	胎盤移行性
抗体	IgM	早期に産生されるが短期間で消失	+	+	-
	IgG	IgMに遅れて出現。漸減しながら長期間持続	+	+	+
	IgA	IgMより多少遅れて出現するがIgMより長期間検出可能	+	-	-

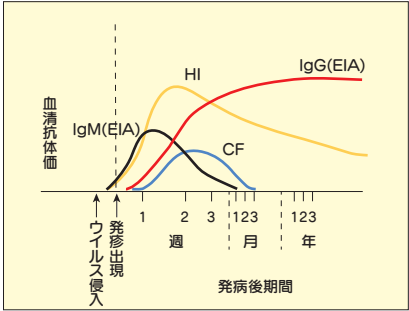
抗体価の解釈とペア血清検査の意義

ウイルス血清抗体価に正常値という概念はありません。ウイルス感染後に産生される抗体の検出は、過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで、現在の状態を必ずしも反映してはいません。

ウイルス抗体は感染の直後に高く、以後下降するパターンを示しますが、単一の血清の抗体価の高低だけで近い過去に感染があったかどうかの判定は出来ない場合が多いといえます。

ウイルス感染後の抗体応答パターン、各検査法の特徴、検査意義を理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。

急性期(発病後早期)と回復期(発病後14~21日)のペア血清の抗体価が4倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし、治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は、必ずしも有意とは考えられません。



目的別検査法選択の目安

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に応答するIgM抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみるのが有用です。

また、既往の有無やワクチンの効果判定にはEIAによるIgG抗体の検査が有用です。

	自然感染	既往の有無	ワクチン効果判定
麻疹	HI, NT, EIA (IgM) (IgG)	NT, EIA (IgG)	NT, EIA (IgG)
風疹	HI, EIA (IgM) (IgG)	HI, EIA (IgG)	HI, EIA (IgG)
ムンプス	CF, HI, NT, EIA (IgM) (IgG)	EIA (IgG)	NT, EIA (IgG)
水痘	CF, EIA (IgM) (IgG)	EIA (IgG)	EIA (IgG)
日本脳炎	HI, CF		HI
インフルエンザ	CF, HI		HI

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)

同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。

①アデノウイルス ②コクサッキーウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤エコーウイルス ⑥ヘルペスウイルス ⑦インフルエンザウイルスA型 ⑧インフルエンザウイルスB型 ⑨ムンプスウイルス ⑩パラインフルエンザウイルスⅠ型 ⑪パラインフルエンザウイルスⅡ型 ⑫パラインフルエンザウイルスⅢ型 ⑬ポリオウイルスⅠ型 ⑭ポリオウイルスⅡ型 ⑮ポリオウイルスⅢ型 ⑯RSウイルス ⑰風疹ウイルス ⑱麻疹ウイルス ⑲日本脳炎ウイルス ⑳オーム病クラミジア ㉑水痘・带状疱疹ウイルス

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)にあたって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

グロブリンクラス別ウイルス抗体価

同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。
グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

ただし、⑦のヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している妊婦について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

①ヘルペスウイルス ②風疹ウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤麻疹ウイルス ⑥ムンプスウイルス ⑦ヒトパルボウイルスB19 ⑧水痘・带状疱疹ウイルス

同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

ウイルス抗原検査の特徴

検査方法	原 理	特 徴
酵素免疫法(EIA)	ウイルス抗原と特異抗体を反応させ、酵素反応により検出。特異抗体に直接酵素を標識して検出する直接法と二次抗体に酵素標識する間接法がある。	高感度
蛍光抗体法(FA)	ウイルス抗原と特異抗体を反応させ、蛍光色素により検出。特異抗体に直接蛍光物質を標識して検出する直接法と二次抗体に蛍光物質を標識する間接法がある。	特異性が高い
遺伝子増幅法(PCR)	熱変性1本鎖DNAに目的のプライマー（特異的に増幅させたい領域の各DNA末端と相補的20～30塩基のDNA断片）を結合させ、DNAポリメラーゼによりDNA合成反応を行い、これを繰り返すことにより目的とするDNA配列を指数関数的に増幅。	高感度・特異性が高い
サザンブロット ハイブリダイゼーション	制限酵素で消化した検体DNAをアガロース電気泳動で分画、変性させた1本鎖DNAをメンブランに転写後、標識プローブとハイブリダイゼーションさせ、目的遺伝子を検出。	DNAの量的、質的変化の異常を解析

ウイルス感染症検査

肝炎ウイルス検査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
肝炎 ウイルス 検査	E661 3 (5F350)	HA抗体	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 146 ※5	CLIA	63ページ参照	☒ IgG 型を測定しています。 &I
	E664 0 (5F350)	IgM-HA抗体	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4		CLIA	63ページ参照	&I
	M007 1 (5F016)	HBs抗体	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	1~2	32 ※5	CLEIA	(-)	☒
	M740 7	HBs抗原定性	血清	01 ↓ X	冷蔵	1~2	29 ※5	CLEIA	陰性(-)	☒
	A021 7	HBs抗原(HQ)	血清 0.6	01 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	88 ※5	CLEIA	0.005未満 (IU/mL)	☒ 本検査方法ではコンタミネーション の撮影がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに充 分ご注意ください。 溶血および不活性(非働化)した検 体でのご依頼は避けてください。
	A003 7 (5F016)	HBs抗体(CLEIA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	88 ※5	CLEIA	10.0未満(-) (mIU/mL)	☒ (基準値について) B型肝炎ウイル ス感染防御の最小HBs抗体価であ る10.0mIU/mLを基準に設定して います。
	1416 8 (5F019)	HBe抗原	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	101 ※5	CLEIA	C.O.I 1.0未満	
	1227 8 (5F019)	HBe抗体	血清 0.7	01 ↓ X	冷蔵	2~4	101 ※5	CLEIA	INHIBITION 60未満 (%)	☒ &I
	(5F018)	HBc抗体	血清 各0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	② 133 ※5	PHA	陰性(64未満) (倍)	&I
	A059 6 (5F018)	HBc抗体(IgG)			冷蔵			CLEIA	C.O.I 1.0未満	
査	1238 6 (5F018)	IgM-HBc抗体	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	② 146 ※5	CLIA	S/CO 1.00未満	☒ &I
	K416 9	HBVゲノタイプ	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	2~4	③ 340 ※5	EIA		HBs 抗原量の少ない検体は、判定保 留となる場合があります。 &I

①「HA抗体」と「IgM-HA抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。

②「HBc抗体」と「IgM-HBc抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。

③B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回限り算定できる。

【M740】HBs抗原について

【HBV感染の診断】

B型肝炎ウイルス(HBV) 感染の診断は、他の免疫測定法等と同じく、本製品による陽性または陰性の検査結果のみにより行わず、HBc抗体測定、HBV-DNA定量検査等、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断してください。特に下記の場合は使用方法にご留意ください。

1.健康診断時のスクリーニング検査

できるだけ検出感度の高いEIA法／化学発光法などを用いた検出試薬を使用し、イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては、十分にご留意ください。

2.緊急検査

緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において陰性と判定された場合でも、必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお勧めします。

3.B型肝炎と診断された患者の経過観察検査

EIA法／化学発光法、凝集法、イムノクロマト法等いずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが、陰性化した場合はより検出感度の高い方法で確認することをお勧めします。

(注)HBV感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウインドウ(空白)期間」と呼ばれており、ウインドウ時に採取された血液では、HBs抗原は必ず検出されるとは限りません。

【性能】

【A021】感度0.005IU/mL以上

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
肝炎ウイルス検査	K130 6 (5F018) B型肝炎ウイルス コア関連抗原 (HBcrAg)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~5	①② 259 ※5	CLEIA	3.0未満 (LogU/mL)	&J
	A238 7 (5F015) HBV DNA定量(IU)	血清 1.8	P1	凍結 (21日)	3~5	① 263 ※6	PCR (リアルタイム PCR)	検出せず (LogIU/mL)	①他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。&I
	0591 5 (5F360) HCV抗体(第3世代)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	105 ※5	CLEIA	1.0未満(-) (COI)	②不活化(非働化)検体は偽陽性を呈する場合がありますので避けてください。
	3435 5 (5F360) HCV群別(グルーピング)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	③ 221 ※5	CLEIA	(グループ)	③不活化(非働化)検体は、判定に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。&I

- ①「HBcrAg」と「HBV DNA定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
 ②HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で測定した場合に1月に1回に限り算定する。
 ③C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

HCV抗体(第3世代)について

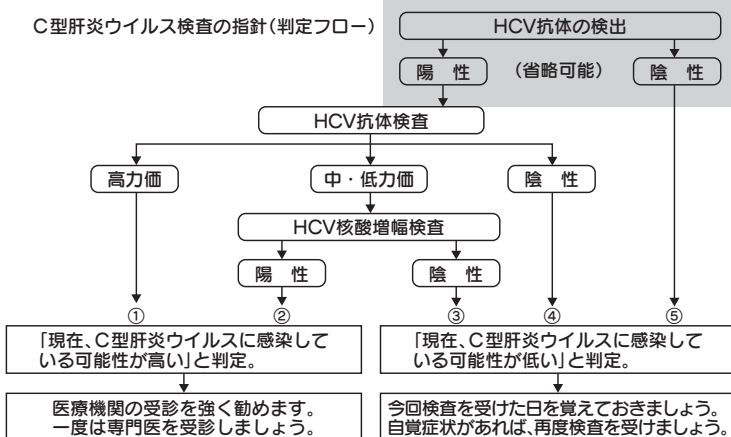
本検査に用いている試薬の添付文書には重要な基本的注意点として、「C型肝炎ウイルス(HCV) 感染の診断は、本製品による検査結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断すること。」が記載されております。

肝炎ウイルス項目の判定基準

検査項目		陰 性	保 留	陽 性
HA 抗体 [CLIA]	S/CO	1.00未満		1.00以上
IgM-HA 抗体 [CLIA]	S/CO	0.80未満	0.80~1.20	1.21以上

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
HCV検診	4188 9 肝炎ウイルス 検診セット (HBs抗原)	血清 1.0 と 血清 1.8	X と P1	冷蔵 と 凍結	2~10		CLEIA RT-PCR (リアルタイム PCR)		必ず検体を2本ご提出ください。 HCV 抗原検査は、HCV 抗体が、中 力価もしくは低力価の場合に自動追 加し検査を実施いたします。 HCV RNA 定性検査は、HCV 抗原 検査が陰性の場合に自動追加し検査 を実施いたします。 下記参照 &I
	肝炎ウイルス 検診セット	血清 0.5 と 血清 1.8	X と P1	冷蔵 と 凍結	2~10		CLEIA RT-PCR (リアルタイム PCR)		

C型肝炎ウイルス検査の指針(判定フロー)



ウイルス感染症検査

肝炎ウイルス検査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
肝炎ウイルス検査	6234 5 (5F360)	HCV抗原(コア蛋白質)	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~4	105 ※5	CLIA	3.0未満 (定量下限値) (fmol/L)	&I
	E660 4 (5F360)	HCV RNA定量	血清 1.8	P1	凍結 (21日)	3~5	① 424 ※6	RT-PCR (リアルタイム PCR)	検出せず (LogIU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十分 ご注意ください。 &I
	6574 8 (5F360)	HCV RNA コアジェノタイプ	血清 0.5	P1	凍結 (3ヵ月)	3~5		RT-PCR	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十分 ご注意ください。 &I
	(5F360)	HCV RNA 1b(NS5A)	血清 0.5	P1	凍結 (3ヵ月)	10~14		サンガー法	AA2209-2248 検出せず (変異数)	重 HCV ジェノタイプが1b型のみ検査 対象です。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十分 ご注意ください。 &I
	A029 9 (5F363)	HCV DCV耐性変異 (L31/Y93)	血清 0.5	P1	凍結 (21日)	10~14		ダイレクト シーケンス法 および Cycleave PCR法		重 HCV ジェノタイプが1b型のみ検査 対象です。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十分 ご注意ください。 &I
	K568 1 (5F370)	IgA-HEV抗体 (定性)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~5	210 ※5	EIA	陰性	&I

①「HCV RNA定量」及び「HCV核酸検出」を併せて実施した場合は、いずれか一方に限り算定する。



	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考	
感 染 症 抗 体 検 査	A323 2 (5E106)	マイコプラズマ ニューモニエ	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	4～6	32 ※5	CF	4未満 (倍)	下記参照（＊CF） ＆E	
	3363 5 (5E106)		血清 0.2			2～4		PA	40未満 (倍)	下記参照（＊PA） ＆I	
	(5E128)	ツツガムシ	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	3～6	207 ※5	FA	10未満 (倍)	感染の有無はペア血清で判断してく ださい。	
	3375 2 (5E129)	ギリアム									IgM
	3378 9 (5E125)	ツツガムシ	IgG	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	3～6	207 ※5	FA		10未満 (倍)
	3377 0 (5E126)	カトー	IgM								
	(5E122)	ツツガムシ	IgG	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	3～6	207 ※5	FA	10未満 (倍)	
	3379 8 (5E123)	カープ	IgM								＆I
	7653 9 (5E018)	クラミジア	IgG	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	2～4	① 200 ※5	EIA	0.90未満 陰性 判定基準：下記参照	＆I
	7655 7 (5E017)	トラコマトリス	IgA								
	3373 4 (5E027)	クラミドフィラ	IgG	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵	3～9		FA	10未満 (倍)	下記参照（＊FA） ＆I
	3374 3 (5E028)	(クラミジア) シッタシ	IgM								
	A041 5 (5E026)	オーム病クラミドフィラ ((クラミジア)シッタシ)	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	4～6	② 79 ※5	CF	4未満 (倍)	下記参照（＊CF） ＆E	
	A023 5 (5E031)		IgG	血清 各0.2	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2～4	③ 70 ※5 ③ 75 ※5 ③ 152 ※5	ELISA	30未満 陰性 判定基準：下記参照	＆I
	A024 4 (5E032)	クラミドフィラ (クラミジア) ニューモニエ	IgA							8未満 陰性 判定基準：下記参照	
	K425 9 (5E033)		IgM							0.5未満 陰性 判定基準：下記参照	

①「IgG抗体価」、「IgA抗体価」及び「IgM抗体価」のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

②ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

③「クラミドフィラ・ニューモニエIgM」を「クラミドフィラ・ニューモニエIgG」又は「クラミドフィラ・ニューモニエIgA」と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

* CF(補体結合反応): 補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

(出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍))

* PA: 出発希釈 40倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 設定なし 出発希釈 2倍)

* FA: 出発希釈 10倍(髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

[7653, 7655] クラミジアトラコマトリスIgG, IgA(判定基準)

Cut off index	判定
0.90未満	(-) 陰性
0.90~1.09	(±) *
1.10以上	(+) 陽性

* 10日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

[A024] クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgA(判定基準)

EIU値	判定
EIU < 8	陰性 (-)
8 ≤ EIU ≤ 12	判定保留 (±) *1
EIU > 12	陽性 (+)

* 1: 28日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

[A023] クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgG(判定基準)

EIU値	判定
EIU < 30	陰性 (-)
30 ≤ EIU ≤ 45	判定保留 (±) *1
EIU > 45	陽性 (+)

* 1: 28日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

[K425] クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgM(判定基準)

S/CO値	判定
S/CO < 0.5	陰性 (-)
0.5 ≤ S/CO ≤ 1.1	判定保留 (±) *2
S/CO > 1.1	陽性 (+)

* 2: 10日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

免疫学的検査

感染症抗原検査

	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
感 染 症	K600 4 (5E107)	マイコプラズマ ニューモニエDNA	咽頭 ぬぐい液	r	凍結 (21日)	2～4	291 ※6	LAMP法	陰性	【重】 咽頭ぬぐい液は、滅菌綿棒で拭い、滅菌ポリスピッツ (r) に綿棒を入れて凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。&I
	K601 3 (5E107)		喀痰 2.0	ℓ						
抗 原 検 査	A004 6 (6B615)	淋菌および クラミジア トラコマチスDNA 同時測定	分泌物	F3	室温 (28日)	2～4	① 270 ※6	PCR (リアルタイム PCR)	陰性	【重凍】 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 分泌物、部分尿：検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR 反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 うがい液：検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。&I
	A005 5 (6B615)		部分尿 5	Y1						
	A006 4 (6B615)		うがい液 5							
	A009 1 (6B615)		咽頭 ぬぐい液	F3						
抗 原 検 査	7700 6 (5E021)	クラミジア トラコマチスDNA	分泌物	F3	室温 (28日)	2～4	①② 193 ※6	PCR (リアルタイム PCR)	陰性	【重凍】 凍結保存は避けてください。 男性の場合、PCR 反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 分泌物、部分尿：検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 うがい液：検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。&I
	7644 9 (5E021)		部分尿 5	Y1						
	K589 8 (5E021)		うがい液 5							
抗 原 検 査	4759 5 (6B610)	淋菌DNA	分泌物	F3	室温 (28日)	2～4	①③ 204 ※6	PCR (リアルタイム PCR)	陰性	【重】 凍結保存は避けてください。 男性の場合、PCR 反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 分泌物、部分尿：検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 うがい液：検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。&I
	4719 9 (6B610)		部分尿 5	Y1						
	K590 6 (6B610)		うがい液 5							

- ①「淋菌およびクラミジアトラコマチスrRNA同時測定」、「淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時測定」、「淋菌抗原定性」、「クラミジアトラコマチス抗原」、「細菌培養同定検査(淋菌およびクラミジアによる感染を疑って実施するもの)」、「淋菌DNA」、「クラミジアトラコマチスDNA」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。
- ②「クラミジアトラコマチスDNA」、「クラミジアトラコマチス抗原」を併用した場合は、主なもののみ算定する。
- ③「淋菌DNA」、「淋菌抗原定性」又は「細菌培養同定検査」(淋菌およびクラミジアによる感染を疑って実施するもの)を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。

	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
感 染 症	A275 6 (6B620)	結核菌群核酸同定 (TRC)	喀痰・気管 支洗浄液 胃液・中間 尿・胞水 などの検体 (上記以外は お問い合わせ ください))	P117 参照	冷蔵	2〜4	410 ※6	TRC	陰性	検体は十分量をご提出願います。(検 体量が少ない場合は検出感度が低下 します) スワブで提出された場合、 きわめて検体量が少ないために偽陰 性となることがありますので、ご提 出はお避けください。 &㍑
	A276 5 (6B621)	MAC核酸同定 (TRC)		P117 参照	冷蔵	2〜4	① 421 ※6	TRC	アビウム 陰性 イントラセルラー 陰性	
	K602 2 (5E301)	結核菌特異的IFN-γ	血液 5.0	G	室温 (54時間)	3〜5	594 ※5	ELISPOT法	陰性	Ⓜ 他項目との重複依頼は避けてくださ い。検体は採取後、当日中にご提出 ください。 &I
	M025 1 (6B614)	曜日指定 クオンティフェロンTB ゴールドプラス	血液 1.0 (各色とも)	QFT	室温 (22±5℃)	2〜8	612 ※5	ELISA法	(-)	専用容器にてご提出ください。 検体は採血後、当日中にご提出くだ さい。
抗 原 検 査	(6B614)	ニューモシスチス カリニ(P.jirovecii) DNA	喀痰 2.0	ℓ	凍結 (3ヵ月)	3〜5	PCR	陰性	Ⓜ 他項目との重複依頼は避けてくださ い。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので、 検体採取にあたっては取り扱いに十 分ご注意ください。 &I	
	肺胞洗浄液 0.7		r							
	胸水 0.7									
	組織 50mg			3〜5						

①他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。抗酸菌同定検査が併せて実施された場合にあっては、主たるもののみ算定する。

G
p166



ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

Y1
p180



内容
グアニジン塩酸塩
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

F3
p164



内容
グアニジン塩酸塩
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

ℓ
p171



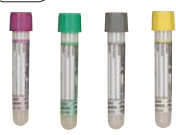
滅菌喀痰採取容器
貯蔵方法 室温

r
p174



貯蔵方法 室温

QFT



結核菌感染診断試薬
ヘパリンリチウム
貯蔵方法 4~25℃
有効期間 製造後15ヵ月

免疫学的検査

感染症関連検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
4412 9 (5E105)	寒冷凝集反応	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	3~5	11 ※5	HA	256未満 (倍)	採血後、速やかに血清分離してください。 (血清分離までは37℃保存) &I
0502 3 (5E035)	抗ストレプトリジン-O 抗体(ASO)	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	2~4	15 ※5	ラテックス 凝集免疫法	239以下 (IU/mL)	&I
4411 0 (5E036)	抗ストレプトキナーゼ 抗体(ASK)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	29 ※5	PA	成人 2560未満 小児 5120未満 (倍)	&I
4657 8 (5E068)	便中ヘリコバクター ピロリ抗原	糞便 (専用スティック 1本)	d4	冷蔵	2~4	142 ※5	EIA	陰性	凍 必ず専用容器で採取してご提出ください。 &I
A310 6 (5E065)	抗ヘリコバクター ピロリ抗体(LA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	80 ※5	ラテックス 凝集比濁法	10未満 (U/mL)	&I
K219 8 (5C215)	プロカルシトニン	血清 0.4	01 ↓ X	凍結 (28日)	2~4	① 284 ※3	CLEIA	0.05以下 (ng/mL)	敗血症(細菌性)鑑別診断の カットオフ値: 0.50ng/mL 未満 敗血症(細菌性)重症度判定の カットオフ値: 2.00ng/mL 以上 &I
6449 7 (5E046)	エンドトキシン定量	血液 2.0 (ノボヘパリン加)	T3	冷蔵	2~4	① 236 ※5	比濁時間分析法	1.0以下 (カットオフ値) (pg/mL)	凍 凍結保存は避けてください。 1.0pg/mL は、グラム陰性菌による 敗血症診断のカットオフ値です。 1.1pg/mL 以上は、グラム陰性菌に よる敗血症の疑いがあります。 β-D-グルカン以外との重複依頼は 避けてください。本検査においては、 血漿中のエンドトキシンを測定いた します。血液 2.0mL を専用容器 (T3) にて採 血し、よく混和してください。 室温保存ではデータ影響が認められ るため、速やかに冷蔵保存にてご提 出ください。 &I
3626 3 (5E151)	β-D-グルカン	血液 2.0 (ノボヘパリン加)	T3	冷蔵	2~4	② 201 ※5	発色合成基質法	20.0以下 (カットオフ値) (pg/mL)	凍 凍結保存は避けてください。 (基準値について) 20pg/mL は、深 在性真菌症のカットオフ値です。 エンドトキシン定量以外の項目との 重複依頼は避けてください。本検査 においては、血漿中の (1→3) - β -D-グルカン を測定いたします。血 液 2.0mL を専用容器 (T3) にて採 血し、よく混和させ、速やかに冷蔵 保存にてご提出ください。グルカン 製剤 (抗悪性腫瘍剤)、セルロース膜 で精製した血液製剤などの投与、セ ルロース膜での透析後の血液などは、 データが高値を示す可能性があります。 また、多発性骨髄腫・高γ-G ロブリン血症では非特異反応を示す 可能性があります。溶血の度合いに よっては検査不能となる場合があり ます。 &I
K141 4 (5E142)	カンジダマンナン抗原	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~4	②③ 134 ※5	ELISA	0.05未満 (U/mL)	フィブリン除去時に竹串を使用する と、高値傾向を示す場合があります ので検体の取り扱いに十分ご注意く ださい。 &I

①「プレセブシン」「プロカルシトニン」と「エンドトキシン定量」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

②「β-D-グルカン」を「カンジダ抗原」、「カンジダマンナン抗原」、「D-アラビニトール」、「アスペルギルス抗原」又は「クリプトコックス・ネオフォルマンズ抗原」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

③保険請求上の名称は「カンジダ抗原定量」です。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
感 染 症 関 連 検 査	3591 2 (5E140)	クリプトコックス・ ネオフォルマンズ抗原	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~4	①② 174 ※5	ラテックス 凝集反応	陰性	EDTA(抗凝固剤)は酵素処理に影響を与え、検査不能となる場合がありますので、EDTAの使用は避けてください。 &I
	(5E140)		髄液 0.8	X	冷蔵					
	3679 5 (5E148)	アスペルギルス抗原	血清 1.0	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 157 ※5	ELISA	0.5未満 陰性	フィブリン除去時に竹串を使用すると、高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いに十分ご注意ください。また、ビペラシリン/タゾバクタム合剤の投与で偽陽性となる場合があります。 &I
	8551 1 (5E146)	アスペルギルス抗体	血清 1.0	01 ↓ X	冷蔵	5~7		オクタロニー法	陰性	&I
	K478 1 (5E054)	百日咳抗体(EIA)	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	257 ※5	EIA	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満 (EU/mL)	&I
	A235 0	百日咳菌DNA	後鼻腔 ぬぐい液	VS4 r	凍結 (21日)	2~4	③ 360 ※6	LAMP法	陰性	④ 後鼻腔ぬぐい液は、必ずフロックスワブ(VS4)で採取し、滅菌ポリスビツ(r)にスワブを入れて凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	3471 5 (5E156)	トキソプラズマ IgG抗体	血清 各0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	93 ※5	ELISA	6未満 判定基準:下記参照	IgM抗体は長期間陽性が持続する場合がありますので、下記判定基準をご参照ください。 &I
	3472 4 (5E157)								0.8未満 判定基準:下記参照	

- ①「β-D-グルカン」を「カンジダ抗原」、「カンジダマンナン抗原」、「D-アラビニートール」、「アスペルギルス抗原」又は「クリプトコックス・ネオフォルマンズ抗原」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 ②保険請求上の名称は「クリプトコックス抗原定性」です。
 ③「百日咳菌DNA」は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床診断例の定義を満たす患者に対して、LAMP法により測定した場合には算定できる。

[3471] トキソプラズマIgG抗体(判定基準)

IU/mL	判 定	解 釈
6未満	陰 性	トキソプラズマの感染は認められません。
6~8	判定保留	低濃度の抗体が認められ、トキソプラズマ感染の疑いがあります。
9以上	陽 性	トキソプラズマ感染が考えられます。

[3472] トキソプラズマIgM抗体(判定基準)

Cut off index	判 定	解 釈
0.8未満	陰 性	最近のトキソプラズマ感染のいないことが考えられます。
0.8~0.9	判定保留	10~20日後に再検査およびトキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧めします。
1.0以上	陽 性	

T3
p175



(真空採血量2mL)
内容
ノボヘパリン
15IU
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

d4
p162



内容
ほう酸
1.0mL
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

感染症関連検査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症 関連 検査	MO12 5 (5E074)	梅毒定性	血清 各0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	① 15 ※5	ラテックス 比濁法	(ー)	乳び検体ではデータ影響を及ぼす 場合がありますので避けてください。 また、溶血検体では高値となる場合 がありますので避けてください。
	MO10 7 (5E075)						② 32 ※5			
	3474 2 (5E079)	FTA-ABS	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	134 ※5	FA	陰性	IgG 抗体を検出しています。 下記参照 (＊) &I
	MO13 4 (5E074)	梅毒定量	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	③ 34 ※5	ラテックス 比濁法	1.0未満 (R.U.)	乳び検体ではデータ影響を及ぼす場 合がありますので避けてください。 また、溶血検体では高値となる場合 がありますので避けてください。
	0728 3 (5E075)		血清 0.5				④ 53 ※5		5未満 (U/mL) 判定基準: 下記参照	

①保険請求上の名称は「梅毒血清反応(STS)定性」です。
②保険請求上の名称は「梅毒トレポネーム抗体定性」です。
③保険請求上の名称は梅毒定量RPR(LA)が「梅毒血清反応(STS)定量」、梅毒定量RPR法が「梅毒血清反応(STS)半定量」です。
④保険請求上の名称は、梅毒定量TP抗体(LA)が「梅毒トレポネーム抗体定量」、梅毒定量TPHAが「梅毒トレポネーム抗体半定量」です。

*TPHA: 髄液の測定も可能です 検体量 0.5mL(冷蔵) 基準値 陰性(10倍未満)
*FTA-ABS: 髄液の測定も可能です 検体量 0.5mL(冷蔵) 基準値 陰性

梅毒血清反応検査における抗体価の相互関係と結果の解釈

梅毒血清反応検査の結果の解釈

STS (RPR(LA))	TP抗体(LA)ま たはFTA-ABS	結果の解釈
(ー)	(ー)	非梅毒 まれに梅毒感染初期
(+)	(ー)	生物学的偽陽性(BFP) まれに梅毒感染初期
(+)	(+)	梅毒(早期から晩期) 梅毒治療後の抗体保有者
(ー)	(+)	梅毒治療後の抗体保有者 TP抗原系の偽陽性(ごくまれ)

梅毒感染初期が疑われる場合は3~4週間後に再検査する

[0728]梅毒定量 TP抗体(LA) (判定基準)

U/mL	判定
5未満	陰 性
5~9	判定保留
10以上	陽 性

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	M016 1 (56160)	リウマチ因子(RF)定量	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	①② ③ 30 ※5	ラテックス凝集 免疫比濁法	15以下 (IU/mL)	
	E872 9 (56167)	抗シトルリン化 ペプチド(CCP)抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	④⑤ 198 ※5	CLEIA	4.5未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	3674 0 (56166)	抗ガラクトース欠損 IgG抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	①② ④ 114 ※5	ECLIA	6.0未満 (AU/mL)	&I
	3310 3 (56161)	IgG型リウマチ因子	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	①④ 198 ※5	ELISA	2.0未満	&I
	4646 0 (38503)	MMP-3 (マトリックスメタロプロ テイナーゼ-3)	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	1~2	①④ 116 ※5	LTIA	M 36.9~121 F 17.3~59.7 (ng/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	1258 4 (56010)	抗核抗体(ANA)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	102 ※5	FA	40未満 (倍)	&I
	3513 8 (56010)	血清補体価	血清 0.5	01 ↓ X	凍結 (-20℃ 以下) (1ヵ月)	2~4	38 ※5	Mayer法 相対比濁法	25.0~48.0 (CH50/mL)	血清分離後、直ちに-20℃以下で保存してください。 &I
	3505 7 (56020)	抗DNA抗体(RIA)	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	2~4	163 ※5	RIA硫酸塩析法	6.0以下 (IU/mL)	
	E667 7 (56026)	IgG抗体	血清 各0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4		ELISA	25以下 (AU/mL)	
	(56028)	抗ss-DNA				2~8			17未満 (U/mL)	
検査	E669 5 (56036)	IgG抗体	血清 各0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	163 ※5	ELISA	12以下 (IU/mL)	
	(56038)	抗ds-DNA				2~8			6未満 (U/mL)	&I

- ①「リウマチ因子」、「MMP-3」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体」、「免疫複合体(C1q)」、「免疫複合体(モノクローナルRF)」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体(C3d)」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
- ②「抗ガラクトース欠損IgG抗体」と「リウマチ因子」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ③保険請求上の名称は、リウマチ因子(RF)定量が「リウマトイド因子(RF)定量」です。
- ④「抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体」、「MMP-3」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体」、「免疫複合体(C1q)」、「免疫複合体(モノクローナルRF)」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体(C3d)」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。
- ⑤関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。
- ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回限り算定する。別に関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき1回に限り算定する。当該検査結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、3月に1回に限り算定できる。

[1258]抗核抗体(ANA)の成人健常者における出現率

抗体価	出現率(%)
40倍未満	67~75
40倍	16~22
80倍	7~13
160倍	1~4
320倍	1

* 委託先検討結果(最小・最大値)より

免疫学的検査

自己免疫関連検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
4158 2 (5G500)	ループスアンチ コアグラント	速やかに遠心 血漿 各1.0	L ↓ X	凍結 (21日)	2~4	273 ※5	APTT 凝固時間法	46.5以下 (秒)	採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、パフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心器回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r: 遠心器のローター半径 (cm) n: 1分間あたりの回転数 (rpm)
A049 7 (5G500)							リン脂質中和法	1.16以下 (秒)	
4167 2 (5G501)							希釈ラッセル 蛇毒時間法	1.3未満	
3142 0 (5G504)	抗カルジオリピン β ₂ グリコプロテイン I 複合体抗体 (抗CL・β ₂ GP I 抗体)	血清 0.3	01 ↓ X	凍結 (1ヵ月)	2~4	223 ※5	ELISA	3.5未満 (U/mL)	&I 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
B603 0 (5G508)	抗カルジオリピン IgG抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (7日)	2~4	226 ※5	ELISA	12.3以下 (U/mL)	
B599 6 (5G510)	抗カルジオリピン IgM抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (14日)	2~4	226 ※5	ELISA	20.8以下 (U/mL)	
3518 3 (5G066)	抗RNP抗体	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	3~5	144 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	
A213 4 (5G066)	抗RNP抗体(CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2~4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	
3520 0 (5G065)	抗Sm抗体	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	3~5	151 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	
A214 3 (5G065)	抗Sm抗体(CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2~4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	
3522 8 (5G076)	抗SS-A/Ro抗体	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	3~5	161 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	
A215 2 (5G076)	抗SS-A/Ro抗体 (CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2~4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	
3524 6 (5G077)	抗SS-B/La抗体	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	3~5	158 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	
A216 1 (5G077)	抗SS-B/La抗体 (CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2~4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	
3526 4 (5G085)	抗Scl-70抗体	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	3~5	157 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	
A217 0 (5G085)	抗Scl-70抗体 (CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2~4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	
K034 3 (5G087)	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	170 ※5	ELISA	28未満 判定基準: 下記参照	&I

①「抗CLβ₂GPI抗体」と「抗カルジオリピン抗体」を併せて実施した場合、主たるもののみ算定する。

[K034]抗RNAポリメラーゼⅢ抗体(判定基準)

Index	判定
28未満	陰性(-)
28~50未満	(±)
50以上	陽性(+)

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
自 己 免 疫 関 連 検 査	9500 6 (56120)	抗Jo-1抗体	血清 各0.3	01 ↓ X	冷蔵	3~5	④ 140 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	&I
	A218 9 (56120)	抗Jo-1抗体(CLEIA)		X	冷蔵	2~4	※5	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。&I
	6203 9 (56090)	抗セントロメア抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	174 ※5	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	
	3539 0 (56175)	抗ミトコンドリア抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	181 ※5	FA	陰性(20未満) (倍)	&I
	A008 2 (56176)	抗ミトコンドリア M2抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	189 ※5	CLEIA	7.0未満	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。&I
	4162 7 (56555)	抗LKM-1抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~5	215 ※5	ELISA	17未満 判定基準:下記参照	
	3537 2 (56180)	抗平滑筋抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4		FA	陰性(40未満) (倍)	&I
	7710 5 (56551)	抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	259 ※5	CLEIA	3.5未満 (U/mL)	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。&I
	4184 3 (56552)	抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	258 ※5	CLEIA	3.5未満 (U/mL)	
	7685 4 (56420)	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	262 ※5	CLEIA	3.0未満 (U/mL)	
査	(56635)	免疫複合体 (モノクローナルRF)	血清 0.2	01 ↓ X	凍結 (21日)	2~8	①② 194 ※5	EIA	4.2未満 (μg/mL)	
	A064 0	抗アクアポリン4抗体	血清 0.4	01 ↓ X	凍結 (28日)	2~8	③ 1000 ※5	ELISA	3.0未満 陰性 (U/mL)	&I

- ①「リウマチ因子」、「MMP-3」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体」、「免疫複合体(モノクローナルRF)」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体(C3d)」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
- ②「抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体」、「MMP-3」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体」、「免疫複合体(モノクローナルRF)」、「IgGリウマチ因子」、「免疫複合体(C3d)」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たる1つに限り算定する。
- ③抗アクアポリン4抗体は、ELISA法により視神経脊髄炎の診断(治療効果判定を除く)を目的として測定した場合に算定できる。なお、検査の結果は陰性であったが臨床症状、検査所見等の変化を踏まえ視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して疾患の診断を行う必要があり、再度実施した場合も算定できる。
- ④「抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体(オクタロニー法)」又は「抗Jo-1抗体(CLEIA)」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。

[4162]抗LKM-1抗体(判定基準)

Index	判 定
17未満	陰 性(-)
17~49	判定保留(±)
50以上	陽 性(+)



免疫学的検査

自己免疫関連検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
3541 7 (5G185)	抗胃壁細胞抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4		FA	陰性(10未満) (倍)	&I
K301 6 (5G190)	抗内因子抗体	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~6		CLEIA	(-)	ビタミンB ₁₂ 摂取後1週間以内の検体は偽陽性を呈する可能性がありますので、ご依頼は避けてください。 &I
6077 0 (5G396)	抗デスモグレイン1抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 300 ※5	CLEIA	20.0未満 (U/mL)	
6079 8 (5G397)	抗デスモグレイン3抗体	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 270 ※5	CLEIA	20.0未満 (U/mL)	不活性(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
E884 6 (5G398)	抗BP180抗体 (血清中抗BP180NC16a抗体)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 270 ※5	CLEIA	9.0未満 (U/mL)	&I
(5G395)	抗表皮成分自己抗体 (直接法)	皮膚組織 5×5×3mm	u1	凍結	12~14	② 400 + 1200 ※7	蛍光抗体染色法		実施抗原は、「IgG, IgA, IgM, C3」の4抗原です。 &D
3580 4 (5G520)	抗血小板抗体	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	3~6	261 ※5	MPHA (混合受身凝集法)	陰性	採血後室温で静置し完全に血餅凝固後、血清分離してください。(不活性化しないてください) 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 &Y
3315 8 (5G525)	曜日指定 PAIgG (血小板関連IgG)	血液 7.5 (ACD-A液加)	B	冷蔵	2~4	193 ※5	ELISA	46以下 (ng/10 ⁷ cells)	凍結保存は避けてください。 受託可能日は月~金曜日です。 末梢血の血小板が3×10 ⁴ /μL以下の場合は、専用容器(B)2本を使用し必ず10mL以上採血して下さい。 &Y
K593 3 (5G530)	HIT抗体 (血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結	2~6	390 ※5	ラテックス比濁法	1.0未満 陰性 (U/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。血小板第4因子・ヘパリン複合体に対するHIT抗体(IgG・IgM・IgA)を測定しております。なお、検査結果はグロブリンクラス別での報告ではありません。 &Y
4497 6 (5G385)	抗アセチルコリン レセプター抗体 (抗AChR抗体)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	3~7	③ 798 ※5	RIA	0.2以下 (nmol/L)	&I
3550 7 (5G440)	精子不働化抗体	血清 0.3	01 ↓ X	凍結 (9ヵ月)	5~7		不働化法 (Isojima法)	(-) 判定基準: 下記参照	溶血・乳び検体などでは、精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。
(5G440)	精子不働化抗体 (SI50)	血清 0.3	01 ↓ X	凍結 (9ヵ月)	5~7		不働化法 (Isojima法)	1.0未満	&I

- ①「抗デスモグレイン1抗体」と「抗デスモグレイン3抗体」又は「抗BP180-NC16a抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ②確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,200点を所定点数に加算する。「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)、消化管間質性腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症(天疱瘡、類天疱瘡等)悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
- ③「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」と「抗アセチルコリンレセプター抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

[3550]精子不働化抗体(判定基準)

SIV値	判定
1.40以下	(-)
1.41~1.99	判定保留
2.00~20.00	(+)
20.01以上	STRONG POSITIVE



抗核抗体(ANA)染色型と主な関連検査および疾患

染色型	主な関連検査	主な関連疾患
Homogeneous型 (均質型)	抗DNA抗体(DNAテスト) ⁴⁾	全身性エリテマトーデス
	抗DNA抗体(RIA)	
	抗ss-DNA IgG抗体	
	抗ss-DNA IgM抗体	
	抗ds-DNA IgG抗体	
	抗ds-DNA IgM抗体	
	抗ヒストン抗体	全身性エリテマトーデス、薬剤性ループス
Peripheral型 ¹⁾ (辺縁型)	抗核抗体(LEテスト) ⁴⁾	全身性エリテマトーデス
	抗DNA抗体(RIA)	全身性エリテマトーデス
	抗ds-DNA IgG抗体	
Speckled型 (斑紋型)	抗ds-DNA IgM抗体	全身性エリテマトーデス
	抗RNP抗体(オクタロニー法)	
	抗RNP抗体(CLEIA)	混合性結合組織病、強皮症、 全身性エリテマトーデス
	抗Sm抗体(オクタロニー法)	全身性エリテマトーデス
	抗Sm抗体(CLEIA)	
	抗SS-A/Ro抗体(オクタロニー法)	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、 関節リウマチ
	抗SS-A/Ro抗体(CLEIA)	
	抗SS-B/La抗体(オクタロニー法)	シェーグレン症候群
	抗SS-B/La抗体(CLEIA)	
	抗Ki抗体(オクタロニー法) ⁴⁾	全身性エリテマトーデス
Nucleolar型 (核小体型)	抗Ku抗体(オクタロニー法) ⁴⁾	筋炎・強皮症重複症候群
	抗Scl-70抗体(オクタロニー法) ³⁾	強皮症
	抗Scl-70抗体(CLEIA) ³⁾	
	抗U3RNP抗体 ⁴⁾	強皮症
	抗7-2RNP抗体 ⁴⁾	
Discrete-Speckled型 (セントロメア型)	抗RNPポリメラーゼⅢ抗体	筋炎・強皮症重複症候群
	抗PM-Scl抗体 ⁴⁾	全身性エリテマトーデス(CNSループス)
	抗リボソームP抗体(ELISA) ²⁾	
Cytoplasmic型 ⁵⁾ (細胞質型)	抗セントロメア抗体(ELISA)	強皮症(CREST症候群)、原発性胆汁性肝硬変
	抗ミトコンドリア抗体(FA)	原発性胆汁性肝硬変
	抗ミトコンドリアM2抗体(CLEIA)	
	抗Jo-1抗体(オクタロニー法)	多発性筋炎、皮膚筋炎
	抗Jo-1抗体(CLEIA)	
	抗SS-A/Ro抗体(オクタロニー法)	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、 関節リウマチ
	抗SS-A/Ro抗体(CLEIA)	
PCNA型	抗リボソームP抗体(ELISA) ²⁾	全身性エリテマトーデス(CNSループス)
	抗平滑筋抗体	自己免疫性肝炎
PCNA様型	抗PCNA抗体(オクタロニー法) ⁴⁾	全身性エリテマトーデス
核膜型	抗Na抗体 ⁴⁾ など	全身性エリテマトーデスなど
	抗核膜ラミン抗体 ⁴⁾	原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝炎など
Granular型	抗gp210抗体 ⁴⁾	
	抗p80 coilin抗体 ⁴⁾	原発性胆汁性肝硬変、シェーグレン症候群など
紡錘体型 ⁵⁾ NuMa-1 NuMa-2	抗sp-100抗体 ⁴⁾	
	抗NuMa-1抗体 ⁴⁾	シェーグレン症候群など 全身性エリテマトーデスなど
中心体型 ⁵⁾	抗NuMa-2抗体 ⁴⁾	
	抗中心体抗体 ⁴⁾	レイノー病、強皮症など
ゴルジ体型 ⁵⁾	抗golgin-97抗体 ⁴⁾ など	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、 関節リウマチなど

1) Homogeneous型との鑑別は難しく、多くのPeripheral型陽性血清は希釈していくとHomogeneous型に変化します。

2) 項目の詳細につきましては営業員へお問い合わせください。

3) 染色型はSpeckled型とHomogeneous型の中間的な染色像であり、またNucleolar型が陽性となることがあります。

4) 未実施項目です。

5) 対応抗原の局在が核ではないため、狭義の抗核抗体には含まれません。

【参考文献】

竹内 健, 他: 医学検査51(9):1256~1264, 2002.

三森 経世: リウマチ32(4):366~378, 1992.

免疫学的検査

免疫血液学的検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
M008 0	ABO血液型	血液 2.0 (EDTA2K加)	g	冷蔵	1~2	24 ※5	キャプチャー法 試験管法		凍結保存は避けてください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。
M009 9	Rh(D因子)式血液型					24 ※5			
(5H025)	Rh-Hr式血液型	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵	2~4	148 ※5	カラム凝集法		凍結保存は避けてください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 &3
0518 6 (5H121)	緊急 直接クームス試験	血液 1.0 (EDTA2K加)	g	室温	1~2	34 ※5	試験管法	(-)	EDTA-2K も可。 *) 血液は採血後、速やかにご提出 ください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出 ください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してく ださい。
0519 5 (5H122)	間接クームス試験	速やかに遠心 血清 2.0	01 ↓ X	冷蔵	2~4	47 ※5	カラム凝集法	陰性	凍結保存は避けてください。 *) 血液は採血後、速やかに分離し、 血清をご提出ください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出 ください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してく ださい。 &3
2635 4 (5H180)	不規則性抗体 (抗体同定・抗体価測定)	速やかに遠心 血清 5.0 と 血液 2.0 (EDTA-2Na加)	(血清) 01 ↓ X と (血液) C	(血清) 冷蔵 と (血液) 室温	3~5	① 159 ※5	カラム凝集法 〔クームス法、 酵素法 (フィシン法)〕		凍結保存は避けてください。 *) 血清と血液 (EDTA-2Na 加) を ペアでご提出ください。 血清につきましては、血液を採血後、 速やかに分離してください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出 ください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してく ださい。 &3
3579 6 (5H030)	血液型不適合妊娠	速やかに遠心 血清 4.0 と 血液 2.0 (EDTA-2Na加)	(血清) 01 ↓ X と (血液) C	(血清) 冷蔵 と (血液) 室温	3~5		2-メルカプト エタノール法		凍結保存は避けてください。 *) 血清と血液 (EDTA-2Na 加) を ペアでご提出ください。 血清につきましては、血液を採血後、 速やかに分離してください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出 ください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してく ださい。また、妊婦・ベビー・移植 のいずれかを明記してください。 &3

①手術に際して輸血が行なわれた場合は、免疫血液学的検査、あるいは、輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。
* 検査結果に影響を及ぼすことがありますので検体(血液や血清)は、採血当日中にご提出ください。
なお、検査時において採血後48時間を越えた検体での検査は、参考値としてご報告させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

[M008, M009] ABO・Rh(D因子)式血液型について

ABO式血液型

生後1歳未満の乳幼児の場合は、抗A、抗B抗体の産生が不十分のため、表試験のみのご報告となります。成長後の再検査をお勧めいたします。

Rh(D因子)式血液型

陰性の場合は、D陰性確認試験を試験管法で実施いたします。

[0519 5] 間接クームス試験, [2635 4] 不規則性抗体 [3579 6] 血液型不適合妊娠(不規則性抗体)について

血漿検体では補体の活性化により検出される抗体を見逃す場合がありますので、血清をご提出ください。

[2635 4] 不規則性抗体について

スクリーニング	クームス法	(-)	(+)	(-)	(+)
	フィシン法	(-)	(-)	(+)	(+)
同定検査					
抗体価測定※					
		陰性報告		陽性報告	

1. 不規則性抗体検査は、カラム凝集法にて、クームス法・酵素法(フィシン法)を実施しております。これらの方法は37℃にて加温するため、低温反応性抗体(冷抗体および寒冷凝集素)は検出できない場合があります。
2. 自己対照陽性時の解離同定試験は実施しておりません。

※一部を除き、不規則性抗体が同定された場合に抗体価測定を実施します。

血球を使用する検査について

血球を使用する検査におきましては、凝固促進剤、分離剤入り容器の使用の際、偽陽性または異常反応を示す場合がありますので、必ず指定容器での提出をお願いいたします。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫グロブリン	3202 3 (5A135)	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による同定)	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵	4~6	①② ③ 170 ※5	免疫電気泳動法		
	A260 2 (5A135)	免疫電気泳動 (特異抗血清による同定)	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	4~6	①② ③ 218 ※5	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。 年齢、病歴を明記してください。
	A261 1 (5A145)	尿中免疫電気泳動 (尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定)	部分尿 0.4	Y	冷蔵	3~5	201 ※5	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。 年齢、病歴を明記してください。 使用する抗血清は IgG・IgA・IgM κ λ の5つになります。
	A295 4 (5A141)	免疫グロブリン遊離 L鎖 κ / λ 比 (フリーライトチェーン)	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~4	388 ※5	ラテックス比濁法	κ 型 3.3~19.4 (mg/L) λ 型 5.7~26.3 (mg/L) κ / λ 比 0.26~1.65	&I
	(5A150)	オリゴクローマルバンド (等電点電気泳動法)	血清 1.0 と 髄液 1.0	01 ↓ X と X	冷蔵	10~14	④ 522 ※1	等電点電気泳動法	検出せず	他項目との重複依頼を避けてください。
	3311 2 (5A010)	IgG	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	38 ※5	免疫比濁法	870~1700 (mg/dL)	&I
	A065 9 (5A050)	IgGサブクラス分画 (TIA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~6		免疫比濁法およびラテックス免疫比濁法	IgG1 351~962 IgG2 239~838 IgG3 8.5~140 IgG4 4.5~117 (mg/dL)	&I
	3312 1 (5A015)	IgA	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	38 ※5	免疫比濁法	110~410 (mg/dL)	
	3313 0 (5A020)	IgM	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	38 ※5	免疫比濁法	M 33~190 F 46~260 (mg/dL)	&I
補体	3336 5 (5A160)	クリオグロブリン定性	血清 1.0	01 ↓ X	冷蔵	4~6	42 ※5	寒冷沈澱法	陰性	採血時より血清分離までの間は37℃の状態で行い、血清分離後は冷蔵保存してください。 必ず血清で依頼ください。
	3513 8 (5B010)	血清補体価	血清 0.5	01 ↓ X	凍結 (-20℃以下 (1ヵ月))	2~4	38 ※5	Mayer法 相対比濁法	25.0~48.0 (CH50/mL)	血清分離後、直ちに-20℃以下で保存してください。
	(5B040)	C1q	血清 0.4	01 ↓ X	凍結	2~8		ネフェロメトリー	8.8~15.3 (mg/dL)	&3
	4123 0 (5B045)	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼ インヒビター活性)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ↓ X	凍結 (16日)	2~4	260 ※5	発色性合成 基質法	70~130 (%)	採血後、速やかに血漿分離してください。
	3325 7 (5B023)	C3	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	70 ※5	免疫比濁法	86~160 (mg/dL)	
	3326 6 (5B024)	C4	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	70 ※5	免疫比濁法	17~45 (mg/dL)	&I

①「免疫グロブリンL鎖κ/λ比」と「抗ヒト全血清による同定」又は「特異抗血清による同定」を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。

②「抗ヒト全血清による同定」及び「特異抗血清による同定」については、同一検体につき一回に限り算定する。

③「抗ヒト全血清による同定」及び「特異抗血清による同定」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

④多発性硬化症の診断目的で行った場合に算定する。

[A295]免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)検査結果について(試薬メーカー資料より引用)

- ・本測定結果は、補助診断としてご利用ください。
- ・診断・治療を決定する場合、また、臨床経過と測定値が一致しない場合は、病歴や他の検査所見も参考にして、総合的判断で行ってください。
- ・遊離L鎖の増加のため、抗原過剰により、予想外に低い測定値を示すことがあります。
- ・遊離L鎖の構造変化により、前回測定値と結果が大きく乖離する場合があります。

g
p156



EDTA-2K入り
(真空採血量2mL)
内容
EDTA-2K
2.4mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

C
p160



EDTA-2Na入り
(真空採血量2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

K1
p169



3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量1.8mL)
内容
3.2%クエン酸 Na
0.2mL
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

免疫学的検査

血漿蛋白

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
0014 5 (3A015)	アルブミン(Alb)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	1~2	① 11 ※3	BCP改良法	3.8~5.2 (g/dL)	
L113 4 (3A015)	尿中アルブミン	蓄尿 1	Y	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	② 99 ※1	免疫比濁法	2~20 (mg/day)	酸
L114 3 (3A015)	尿中アルブミン (クレアチニン換算値)	部分尿 2	Y	冷蔵 (1ヵ月)	1~2		免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 10.0以下 (mg/g・CRE)	
3335 6 (5C010)	プレアルブミン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	104 ※5	免疫比濁法	22.0~40.0 (mg/dL)	
(5C030)	レチノール結合蛋白 (RBP)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	136 ※5	ラテックス 凝集比濁法	M 2.7~6.0 F 1.9~4.6 (mg/dL)	
3319 4 (5C015)	α_1 -マイクログロブリン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	132 ※5	ラテックス 凝集免疫法	M 12.5~25.5 F 11.0~19.0 (mg/L)	
(5C015)		部分尿 0.5	Y			132 ※5		M 1.0~15.5 F 0.5~9.5 (mg/L)	&3
3317 6 (5C020)	α_1 アンチトリプシン	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	80 ※2	ネフェロメトリー	94~150 (mg/dL)	
(5C025)	α_1 アシドグリコプロテイン	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4		ネフェロメトリー	M 45~98 F 39~86 (mg/dL)	
(5C035)	α_2 -マクログロブリン	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	138 ※2	ネフェロメトリー	M 100~200 F 130~250 (mg/dL)	
3332 9 (5C040)	ハプトグロビン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	132 ※5	ネフェロメトリー	1-1型 83~209 2-1型 66~218 2-2型 25~176 (mg/dL)	
3321 1 (5C045)	セルロプラスミン	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	90 ※5	ネフェロメトリー	21~37 (mg/dL)	&3
M018 9 (5C095)	フェリチン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	105 ※3	ラテックス 比濁法	M 30.0~310.0 F 3.0~120.0 (ng/mL)	鉄欠乏性貧血および貧血のない鉄欠乏の診断基準は12ng/mL未満です [鉄剤の適正使用による貧血治療指針 (日本鉄バイオサイエンス学会)]
3322 0 (5C060)	トランスフェリン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	60 ※5	免疫比濁法	M 190~300 F 200~340 (mg/dL)	&3
(5C060)	尿中トランスフェリン	蓄尿 0.5	Y	冷蔵 (1ヵ月)	2~4	②	ラテックス 凝集比濁法	0.80以下 (mg/day)	酸凍 凍結保存は避けてください。 採尿後、速やかにご提出ください。
(5C060)	尿中トランスフェリン (クレアチニン換算値)	部分尿 1	Y	冷蔵 (1ヵ月)	2~4	101 ※1	ラテックス 凝集比濁法	尿中トランスフェリン 換算値 1.00以下 (mg/g・CRE)	

①「蛋白分画」、「総蛋白」及び「アルブミン」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

②「尿中アルブミン」、「尿中トランスフェリン」及び「尿中IV型コラーゲン」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に3か月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血	M017 0 (5C065)	β ₂ -ミクログロブリン	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	1~2	101 ※5	ラテックス 凝集免疫法	1.0~1.9 (mg/L)	
	4730 6 (5C065)		蓄尿 1	Y	冷蔵	2~4	101 ※5	ラテックス 凝集免疫法	230以下 (μg/L)	酸尿は pH5.5~7.5 にし、必要量をご提出ください。 &3
			部分尿 1							
	0112 6 (3C016)	シスタチンC	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 115 ※3	金コロイド 凝集法	M 0.63~0.95 F 0.56~0.87 (mg/L)	推算GFRcys(項目コードNo.5257) を同時に依頼いただきますと推算 GFRcys値をご報告いたします。 (下記参照) &3
	B052 2 (5C070)	C反応性蛋白(CRP) 定量	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	1~2	② 16 ※5	ラテックス 凝集比濁法	0.140以下 (mg/dL)	
	3393 2 (5C080)	血清アミロイドA蛋白 (SAA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	② 47 ※5	ラテックス 凝集免疫法	8.0以下 (μg/mL)	
	3649 8 (5C091)	ヒト心臓由来脂肪酸 結合蛋白(H-FABP)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	③ 135 ※3	ラテックス 凝集法	6.2未満 (ng/mL)	&3
	3172 7 (5C090)	ミオグロビン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	③ 135 ※3	CLIA	男性 154.9以下 女性 106.0以下 (ng/mL)	&I
	B801 0	尿中ミオグロビン [CLEIA] 5C090-0000-001-052	部分尿 6	Y5	冷蔵 (22日)	2~4	③ 135 ※3	CLEIA	2.0未満 (ng/mL)	凍尿は、速やかに専用容器に入れ、 冷蔵してください。凍結は避けてく ださい。 &I
	3173 6 (5C092)	心室筋ミオシン軽鎖 I	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~6	④ 184 ※3	EIA	2.5以下 (ng/mL)	
漿	9532 1 (5C093)	心筋トロポニンT	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (14日)	2~4	⑤ 112 ※3	ECLIA	0.014以下 急性心筋梗塞診断 のカットオフ値 0.100 (ng/mL)	&I
	A234 1 (5C130)	プロコラーゲンⅢ ペプチド(P-Ⅲ-P)(CLIA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	⑥ 136 ※3	CLIA	3.62~9.52 (ng/mL)	溶カットオフ値(肝に線維化のみられ る疾患) 6.95ng/mL &3
	6785 4 (5C134)	Ⅳ型コラーゲン	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4	⑥ 139 ※3	ラテックス 凝集比濁法	150以下 (ng/mL)	&3
	9246 9 (5C135)	Ⅳ型コラーゲン・7S [CLEIA]	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (23日)	2~4	⑥ 148 ※3	CLEIA	4.4以下 (ng/mL)	&I
	(5C134)	尿中Ⅳ型コラーゲン	部分尿 5	Y7	冷蔵 (1ヵ月)	3~9	⑦ 184 ※1	EIA	30~39歳 4.0以下 40歳以上 4.9以下 (μg/g・CRE)	重凍凍結保存は避けてください。 早朝一番尿をご提出ください。 凍結保存および他項目との重複依頼 は避けてください。 なお、随時尿による参考基準値(健 常人)は7.3μg/g・CRE 以下と報 告されています。 &I

- ① 尿酸窒素(BUN)又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。「シスタチンC」、「ペントシジン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ② 「SAA」、「CRP定性」、「CRP定量」と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ③ 「H-FABP」と「ミオグロビン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ④ 同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
- ⑤ 「心筋トロポニンI」と「心筋トロポニンT」を同一月に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ⑥ 「Ⅳ型コラーゲン」又は「Ⅳ型コラーゲン・7S(CLEIA)」は、「P-Ⅲ-P」又は「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
- ⑦ 「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」及び「尿中Ⅳ型コラーゲン」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時にを行った場合は、主たるもののみ算定する。

推算GFRcysについて

日本人のGFRcys推算式

$$\text{男性: 推算GFRcys値 (mL/min/1.73m}^2\text{)} = (104 \times \text{Cys-C}^{-1.019} \times 0.996^{\text{Age}}) - 8$$

$$\text{女性: 推算GFRcys値 (mL/min/1.73m}^2\text{)} = (104 \times \text{Cys-C}^{-1.019} \times 0.996^{\text{Age}} \times 0.929) - 8$$

報告条件

- ① シスタチンC(項目コードNo.011 2)と同時依頼された場合のみ、ご報告いたします。
- ② 下記に該当する場合は、ご報告できません。
- ・「シスタチンC」あるいは「推算GFRcys」のいずれか1項目のみご依頼された場合。
 - ・年齢及び性別が依頼書に記載されていない場合。
 - ・年齢が18歳未満の場合。
- ③ 報告単位は「mL/min」と略して報告させていただきます。



免疫学的検査

血漿蛋白

	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
血漿蛋白	3067 4 (5C210)	KL-6	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 111 ※3	CLEIA	500未満 (U/mL)	
	8146 8 (3F253)	肺サーファクタント プロテインD (SP-D) 3F253-0000-023-052	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 136 ※3	CLEIA	110未満 (ng/mL)	&I
	3343 7 (3F250)	肺サーファクタント プロテインA (SP-A)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	4~6	① 130 ※3	CLEIA	43.8未満 (ng/mL)	&D
	4753 1 (5C123)	I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx)	部分尿 3	Y	冷蔵	2~4	②③ 156 ※4 (腫2)	CLEIA	下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。 血尿での提出は避けてください。
	4742 3 (5C146)	デオキシピリジノリン	部分尿 3	Y	冷蔵	2~4	②③ 191 ※4 (腫2)	EIA	クレアチニン換算値 M 2.1~5.4 F 2.8~7.6 (nmol/mmol・CRE)	
	8768 1 (5C124)	I 型コラーゲンC末端 テロペプチド (ICTP)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	(腫2)	RIA2抗体法	4.5未満 (ng/mL)	&I

(腫2): 悪性腫瘍特異物質治療管理料 (40ページ参照)

- ①「KL-6」,「SP-A」,「SP-D」のうちいずれが複数を実施した場合は、主たるもののみ算定する。
②「NTx」,「オステオカルシン」,「尿中DPD」,「TRACP-5b」を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
③骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。

[4753] I 型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)基準値, 判定基準

(単位: nmolBCE/mmol・CRE)

基準値 (参考値)	男 性	13.0~66.2
	閉経前女性	9.3~54.3
	閉経後女性	14.3~89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術の適応	200以上
	悪性腫瘍(乳癌, 肺癌, 前立腺癌)の骨転移の指標	100以上

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
アレルギー検査	A500 5 (5A090)	IgE(非特異的IgE)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~3	100 ※5	CLEIA	170以下 (IU/mL)	
	7003 0 (5A100)	アトピー鑑別試験 (12種吸入性アレルギー)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	194 ※5	FEIA	陰性	対象アレルギーは82ページをご参照ください。 &I
	A050 5 (5A100)	特異的IgE (MAST36アレルギー)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	3~5	1430 ※5	CLEIA	MASTクラス 0 1.39以下 (LC)	判定基準、アレルギー一覧表は82 ページをご参照ください。 &I
	(5A100)	特異的IgE (ミックスアレルギー)	血清 各0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~3	各 110 ※5	CLEIA	クラス 0 0.10未満 (IU _A /mL)	判定基準、アレルギー一覧表は82, 83ページをご参照ください。
	(5A100)	特異的IgE (シングルアレルギー)	1アレルギー 血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	1アレ ルゲン 110 ※5	FEIA	クラス 0 0.1未満 (U _A /mL)	判定基準、アレルギー一覧表は82, 83ページをご参照ください。 &I
	E287 9 (5J228)	TARC (Th2ケモカイン)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 184 ※5	CLEIA	小児(6~12ヶ月):1367未満 小児(1~2歳):998未満 小児(2歳以上):743未満 成人:450未満 (pg/mL)	血漿はデータ低下が見られますので 避けてください。 トロンビン入り採血管は測定値に影響を 与える恐れがあるため使用を避 けてください。 &I

①月1回を限度として算定できる。

アレルギー検査

アレルギー検査

[7003]アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルギー)

混合アレルギーの内容(個々のアレルギーのご報告はありません)
ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコのフケ、イヌのフケ、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ(属)、スギ、カンジダ、アルテルナリア

[A050]特異的IgE(MAST36アレルギー)

含まれるアレルギー
コナヒョウヒダニ、ハウスダスト1、ネコ皮膚、イヌ皮膚、オオアワガエリ、カモガヤ、ブタクサ混合物1、ヨモギ、スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ、カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス、ラテックス、トマト、モモ、キウイ、バナナ、ゴマ、ソバ、小麦、ピーナッツ、大豆、米、マクロ、サケ、エビ、カニ、ミルク、豚肉、牛肉、鶏肉、オボムコイド、卵白

厚生労働省により、食品の原材料表記を定められた特定原材料7品目(エビ、カニ、卵、小麦、そば、落花生、乳)全てが含まれております。

特異的IgE(MAST36アレルギー)(判定基準)

MASTクラス	ルミカウント(LC)	判 定
0	0~1.39	陰 性
1	1.40~2.77	疑陽性
2	2.78~13.4	陽 性
3	13.5~58.0	
4	58.1~119	
5	120~159	
6	160~200	

特異的IgE(ミックスアレルギー)

項目コード	分 野	混合アレルギーの内容(個々のアレルギーのご報告はありません)
A501 4	イネ科植物パネル5	ハルガヤ、ギョウギシバ、カモガヤ、オオアワガエリ、アシ
A503 2	雑草パネル5	ブタクサ、ヨモギ、フランスギク、タンポポ(属)、アキノキリンソウ
A507 8	動物パネル2	ネコ上皮・皮膚、イヌ皮膚、モルモット上皮、ラット、マウス
A505 0	食物パネル7	卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、大豆、米
A506 9	食物パネル4	小麦、トウモロコシ、米、ゴマ、ソバ
A509 6	真菌パネル	ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア

(判定基準) 特異的IgE(シングルアレルギー, ミックスアレルギー) CLEIA法

クラス	特異的IgE抗体価(IU _A /mL)	判 定
0	0.10未満	陰 性
	0.10~0.34	微弱陽性
1	0.35~0.69	弱陽性
2	0.70~3.49	陽 性
3	3.50~17.4	
4	17.5~52.4	
5	52.5~99.9	
6	100以上	

(判定基準) 特異的IgE(シングルアレルギー)(U_A/mL) FEIA法

クラス	特異的IgE抗体価(U _A /mL)	判 定
0	0.35未満	陰 性
1	0.35~0.70未満	疑陽性
2	0.70~3.50未満	陽 性
3	3.50~17.5未満	
4	17.5~50.0未満	
5	50.0~100未満	
6	100以上	

特異的IgE(シングルアレルギー)CLEIA法 実施料:1アレルギーにつき110点算定できます。ただし、1回につき1430点を限度とします。判断料区分:※5

項目コード	名称	委託先
イネ科植物花粉		
A521 2	ハルガヤ	
A522 1	ギョウギシバ	&3
A523 0	カモガヤ	
	ヒロハウシノケグサ	&3
A525 8	ホソムギ	&3
A526 7	オオアワガエリ	
A527 6	アシ	&3
	ナガハグサ	&3
A530 2	セイバンモロコシ	&3
A535 7	小麦(属)(花粉)	
A536 6	オオスズメノテッポウ	&3
A537 5	スズメノヒエ(属)	&3

雑草花粉		
A551 9	ブタクサ	
A552 8	ブタクサモドキ	&3
A553 7	オオブタクサ	&3
A555 5	ニガヨモギ	&3
A556 4	ヨモギ	
A557 3	フランスギク	&3
A558 2	タンポポ(属)	
	ヘラオオバコ	&3
	シロザ	&3
A562 7	アキノキリンソウ	
A568 1	ヒメスイバ	&3
A570 8	イラクサ(属)	&3
A571 7	カナムグラ	
	ニセブタクサ	&3
	アオゲイトウ	&3

樹木花粉		
	カエデ(属)	&3
A582 5	ハンノキ(属)	
A583 4	シラカンバ(属)	
A585 2	ブナ(属)	&3
	ビャクシン(属)	&3
	コナラ(属)	&3
	ニレ(属)	&3
	オリーブ	&3
A590 6	クルミ(属)	&3
	ヤナギ(属)	&3
A595 1	マツ(属)	&3
A596 0	スギ	
A598 8	アカシア(属)	&3
A603 1	ヒノキ	
	クワ(属)	&3
	ホソイトスギ	&3

ダニ		
A711 1	ヤケヒョウヒダニ	
A712 0	コナヒョウヒダニ	
A713 9	アシフトコナダニ	&3
A714 8	サヤアシニクダニ	&3
7289 4	ケナガコナダニ	&3
	イエニクダニ	&3

室内塵		
A721 0	ハウスダスト1	
A723 8	ハウスダスト6	&3

真菌		
A621 1	ペニシリウム	&3
A622 0	クラドスポリウム	&3
A623 9	アスペルギルス	
	ムコール	&3
A625 7	カンジダ	
A626 6	アルテルナリア	
A627 5	ヘルミントスポリウム	&3
A635 6	マラセチア(属)	
	フザリウム	&3
	ステムフィリウム	&3
	リゾプス	&3
	オーレオバシジウム	&3
	フォーマ	&3
	エピコッカム	&3
A634 7	カーブラリア	&3

動物表皮		
A651 8	ネコ上皮・皮膚	
A652 7	イヌ上皮	
A653 6	ウマ皮膚	&3
A654 5	ウシ皮膚	&3
A655 4	イヌ皮膚	
A656 3	モルモット上皮	&3
A662 6	セキセイインコ羽毛	&3
A663 5	ヤギ上皮	&3
A664 4	羊上皮	&3
A665 3	家兎上皮	
A666 2	豚上皮	&3
A667 1	ハムスター上皮	
A668 0	アヒル羽毛	&3
A669 9	ラット	&3
A670 7	マウス	&3
A657 2	マウス上皮	&3
A658 1	ラット上皮	&3
	ラット血清蛋白	&3

昆虫		
A691 4	ミツバチ	&3
A692 3	スズメバチ	&3
A695 0	アシナガバチ	&3
A698 7	ゴキブリ	
A696 9	ユスリカ(属)	
A697 8	ガ	
A693 2	スズメバチ(ホワイトフェイス)	&3
A694 1	スズメバチ(イエローフェイス)	&3

寄生虫		
A681 5	アニサキス	&3

食餌性アレルギー		
A731 9	卵白	
A738 2	牛乳	
A754 4	タラ	&3
A777 9	小麦	
A778 8	ライ麦	&3
A779 7	大麦	&3
A780 5	オート麦	&3
A790 4	トウモロコシ	
A786 9	米	
A799 5	ゴマ	
A776 0	ソバ	
A796 8	エンドウ	&3
A831 8	ピーナッツ	
A797 7	大豆	
A798 6	インゲン	&3
A832 7	ハシバミ(の実)	&3
A833 6	ブラジルナッツ	&3
A834 5	アーモンド	&3
A766 1	カニ	
A767 0	エビ	
A803 9	トマト	
A746 3	豚肉	
A747 2	牛肉	&3
A804 8	ニンジン	&3
A816 5	オレンジ	&3
A787 8	ジャガイモ	&3
A836 3	ココナッツ	&3
A772 4	ムラサキイガイ	&3
A755 3	マグロ	
A756 2	サケ	
A817 4	イチゴ	&3
A841 7	ビール酵母	&3
A810 1	ニンニク	&3
A811 0	タマネギ	&3
A818 3	リンゴ	
A752 6	サバ	

項目コード	名称	委託先
A812 9	タケノコ	&3
A788 7	サツマイモ	&3
A760 7	イカ	
A761 6	タコ	&3
A751 7	アジ	&3
A753 5	イワシ	
A732 8	卵黄	
A736 4	α-ラクトアルブミン	&3
A737 3	β-ラクトグロブリン	&3
A843 5	カゼイン	
A844 4	グルテン	
A768 9	ロブスター	&3
A739 1	チェダーチーズ	
A745 4	鶏肉	
A819 2	キウイ	
A807 5	セロリ	&3
A808 4	パセリ	&3
A820 0	メロン	
A748 1	羊肉	&3
A845 3	マスタード	&3
A842 6	麦芽	&3
A821 9	マンゴー	&3
A822 8	バナナ	
A837 2	カカオ	&3
A823 7	洋ナシ	&3
A824 6	モモ	
A825 5	アボカド	&3
A826 4	グレープフルーツ	&3
A805 7	ホウレンソウ	&3
A809 3	カボチャ	&3
A757 1	カレイ	&3
A733 7	オボムコイド	
A758 0	イクラ	
A759 9	タラコ	&3
A769 8	アサリ	&3
A770 6	カキ(牡蠣)	&3
A771 5	ホタテ	&3
A789 6	ヤマイモ	&3
A827 3	スイカ	&3
A835 4	クルミ	&3
A838 1	ペカンナッツ	&3
A806 6	レタス	&3

職業性アレルギー		
A852 5	ラテックス	

その他		
A851 6	綿	&3
A861 5	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA	
A862 4	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB	

特異的IgE(シングルアレルギー)FEIA法

項目コード	名称	委託先
真菌		
7458 6	ビティロスポリウム	&I
7239 9	トリコフィトン	&I
動物表皮		
7215 5	ガチョウ羽毛	&I
7217 3	セキセイインコのフン	&I
7229 0	ニワトリ羽毛	&I
寄生虫		
7251 5	回虫	&I

項目コード	名称	委託先
昆虫		
7269 6	ヤブカ(属)	&I
食餌性アレルギー		
K375 5	カシューナッツ	&I
K373 7	ω-5グリアジン	&I
7435 1	キビ	&I
7437 9	アワ	&I
7439 7	ヒエ	&I
8863 5	モールドチーズ	&I
A054 1	Gly m 4(大豆由来)	&I
A272 9	Anao3(カシューナッツ由来)	&I
A271 0	Jug r 1(クルミ由来)	&I

項目コード	名称	委託先
職業性アレルギー		
7431 5	絹	&I
7497 3	オオバコ種子	&I
7491 9	イソシアネートTDI	&I
7477 5	イソシアネートMDI	&I
7473 9	イソシアネートHDI	&I
7479 3	エチレンオキシサイド	&I
7495 5	無水フタル酸	&I
7185 9	ホルマリン	&I
	Hev b 6.02(ラテックス由来)	&I

項目コード	名称	委託先
その他		
7529 7	ヒトインシュリン	&I
7309 1	ゼラチン	&I

アレルギーは一時的に入手不可能なものがありますので、あらかじめご了承ください。

生化学的検査

蛋白・膠質反応

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
0013 6 (3A010)	総蛋白(TP)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	① 11 ※3	Biuret法	6.7~8.3 (g/dL)	
M014 3 (1C010)		髄液 0.5	X	冷蔵	2~4	① 11 ※3	ピロガロール レッド法	10.0~40.0 (mg/dL)	
1011 7 (1A015)		蓄尿 1	Y	冷蔵	1~2	7 ※1		31.2~120.0 (mg/day)	
0014 5 (3A015)	アルブミン(Alb)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	1~2	① 11 ※3	BCP改良法	3.8~5.2 (g/dL)	
L113 4 (3A015)	尿中アルブミン	蓄尿 1	Y	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	② 99 ※1	免疫比濁法	2~20 (mg/day)	
L114 3 (3A015)	尿中アルブミン (クレアチニン換算値)	部分尿 2	Y	冷蔵 (1ヵ月)	1~2		免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 10.0以下 (mg/g・CRE)	酸
0040 6 (3A016)	A/G比	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2		BCP改良法	1.10~2.10	
A051 4 (3A020)	蛋白分画	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	2~4	① 18 ※3	キャピラリー 電気泳動法	ALB 55.8~66.1(%) α1-G 2.9~4.9(%) α2-G 7.1~11.8(%) β1-G 4.7~7.2(%) β2-G 3.2~6.5(%) γ-G 11.1~18.8(%) A/G 1.3~1.9(%)	溶血でのご依頼は避けてください。
A262 0 (3A020)	尿中蛋白分画	部分尿 1	Y	冷蔵			アガロースゲル 電気泳動法	(%)	&γ

①「蛋白分画」,「総蛋白」及び「アルブミン」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

②「尿中トランスフェリン」,「尿中アルブミン」及び「尿中IV型コラーゲン」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵 素 関 連 物 質	3681 2 (3B180)	リパーゼ	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	24 ※3	合成基質 比色法	13~55 (U/L)	&3
	(3B180)		部分尿 0.5	Y	冷蔵				(U/L)	
	0010 9 (3B160)	緊急 アミラーゼ(AMY)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	1~2	11 ※3	酵素法 (Gal-G2-CNP)	37~125 (U/L)	&3
	0110 8		部分尿 5	Y	冷蔵	1~2			65~700 (U/L)	
	3274 4	アミラーゼ アイソザイム	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (7日)	2~4	48 ※3	アガロース 電気泳動法	TOTAL-S 36.0~84.3 TOTAL-P 15.7~64.0 (%)	&3
			部分尿 0.5	Y	冷蔵				TOTAL-S 17.7~61.3 TOTAL-P 38.7~82.3 (%)	
	3682 1 (3B175)	P型アミラーゼ定量	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	48 ※3	JSCC 標準化対応法	21~64 (U/L)	&3
	B049 6 (3B185)	トリプシン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	189 ※3	ラテックス 凝集比濁法	210~570 (ng/mL)	&3
	3788 4 (3B192)	膵ホスホリパーゼA ₂ (膵PLA ₂)	血清 0.3	01 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	204 ※3	RIA固相法	130~400 (ng/dL)	&I
	(3B192)		血漿 0.3	C ↓ X	凍結					
	3037 7 (3B195)	エラスターゼ1	血清 0.5	01 ↓ X	凍結	2~4	123 ※4 (腫2)	ラテックス 免疫比濁法	300以下 (ng/dL)	&3
	3683 0 (3B255)	リゾチーム	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2~4		比濁法	5.0~10.2 (μg/mL)	&I
	(3B255)		部分尿 0.4	Y	冷蔵				0.1未満 (μg/mL)	

(腫2):悪性腫瘍特異物質治療管理料 (40ページ参照)



生化学的検査

酵素関連物質

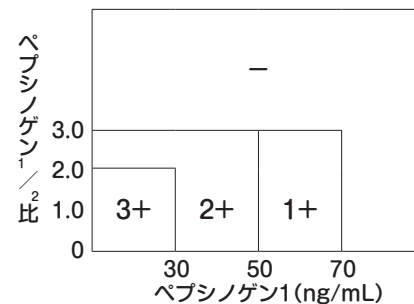
項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
0018 1 (38010)	CK(CPK)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (10日)	1~2	11 ※3	JSCC 標準化対応法	M 62~287 F 45~163 (U/L)	
3684 9 (38015)	CK-MB(CPK-MB)	血清 各0.5	01 ↓ X	冷蔵 (6日)	2~4		免疫阻止-UV法	MB 25以下 TOTAL M 62~287 F 45~163 (U/L)	&3
3746 0 (38015)				凍結		90 ※3	CLIA	5.0以下 (ng/mL)	&3
3282 5 (38025)	CK(CPK) アイソザイム	速やかに遠心 血清 0.3	01 ↓ X	凍結	2~4	55 ※3	アガロース 電気泳動法	BB 2以下 MB 6以下 MM 93~99 (%)	採血後、速やかに血清分離してください。 &7
3686 7 (38100)	アルドラーゼ	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	11 ※3	UV-酵素法	2.1~6.1 (U/L)	&3
0021 7 (38035)	緊急 AST(GOT)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (14日)	1~2	17 ※3	JSCC 標準化対応法	10~40 (U/L)	溶血でのご依頼は避けてください。
(38040)	ミトコンドリア-AST (m-AST) (m-GOT)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	49 ※3	プロテアーゼ法	7以下 (U/L)	&3
0022 6 (38045)	緊急 ALT(GPT)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (14日)	1~2	17 ※3	JSCC 標準化対応法	5~40 (U/L)	
L774 1 (38050)	緊急 LD(LDH) (IFCC)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (3日)	1~2	11 ※3	IFCC 標準化対応法	124~222 (U/L)	溶血でのご依頼は避けてください。
3261 8 (38055)	LD(LDH) アイソザイム	血清 0.3	01 ↓ X	室温	2~4	48 ※3	アガロース 電気泳動法	LDH1 21~31 LDH2 28~35 LDH3 21~26 LDH4 7~14 LDH5 5~13 (%)	溶血でのご依頼は避けてください。 (溶血の場合LDH1, 2, 3の上昇が 考えられます。) &7
L773 2 (38070)	アルカリフォスファターゼ (ALP) (IFCC)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	IFCC 標準化対応法	38~113 (U/L)	
3345 5 (38072)	骨型アルカリ フォスファターゼ(BAP)	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~4	①② ③ 161 ※4	CLEIA	男性 3.7~20.9 閉経前女性 2.9~14.5 閉経後女性 3.8~22.6 (μg/L)	&I
3267 2 (38080)	ALPアイソザイム (IFCC)	血清 0.3	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	48 ※3	アガロース 電気泳動法	ALP1 0.0~5.3 ALP2 36.6~69.2 ALP3 25.2~54.2 ALP5 0.0~18.1 (%)	血液型 B または O 型で Lewis 分泌 型の人では、ALP 総活性値および ALP5 の出現率が高くなることがあ ります。 &7
0019 0 (38135)	ロイシンアミノペプチターゼ (LAP)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	酵素法 (L-ロイシル- ピントロアニリド基質)	35~73 (U/L)	

- ①「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」,「ALPアイソザイム(IFCC) 及び骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ②「ALPアイソザイム(IFCC)」及び「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」と併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
- ③「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P I NP)」,「I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P I NP)」及び「ALP・アイソザイム(PAG電気泳動法)」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるものに算定する。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
酵 素 関 連 物 質	0020 8 (3B090)	γ-GT(γ-GTP)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	JSCC 標準化対応法	M 70以下 F 30以下 (U/L)	基準値には飲酒群が含まれておりま す。
	M003 5 (3B110)	コリンエステラーゼ (ChE)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	JSCC 標準化対応法	M 242~495 F 200~459 (U/L)	
	3698 4 (3B325)	アンギオテンシン I 転換酵素(ACE)	血清 0.7	01 ↓ X	冷蔵	2~4	140 ※3	笠原法	8.3~21.4 (U/L)	EDTA 血漿は測定不能となります。 &3
	4683 9 (3B330)	N-アセチル グルコサミニダーゼ (NAG)	部分尿 0.5	Y	冷蔵	2~4	41 ※1	比色法	0.7~11.2 (IU/L)	
	(3B125)	グアナーゼ	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	35 ※3	酵素法	1.0以下 (U/L)	&3
	3702 8 (3B130)	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	2~4	32 ※3	酵素法	5.0~20.0 (U/L)	&3
	6762 9 (3B339)	ペプシノゲン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4		CLEIA	下記参照	&I
	5506 4	胃がんリスク層別化 検査(ABC分類) [LA] 3B347-0000-023-920	血清 各1.0	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	ラテックス 凝集比濁法 CLEIA	下記参照		<ピロリ菌の除菌治療前> ペプシノゲンとヘリコバクターピロ リ抗体を実施し、それぞれの検査結 果と ABC 分類をご報告いたします。 &I
	5507 3	胃がんリスク層別化 検査(ABC分類) 除菌あり[LA] 3B347-0000-023-920								<ピロリ菌の除菌治療後> ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、 ABC 分類の判定対象にはなりません。 除菌判定結果に関わらず、E 群(除 菌群)としてご報告いたします。 &I

[6762]ペプシノゲン(判定基準)

		ペプシノゲン1	ペプシノゲン1/2比
強陽性	3+	30ng/mL以下	かつ 2.0以下
中程度陽性	2+	50ng/mL以下	かつ 3.0以下
陽性	1+	70ng/mL以下	かつ 3.0以下
陰性	—	上記条件以外	



胃がんリスク層別化検査(ABC分類)[LA](判定基準)

ABC分類		ヘリコバクターピロリIgG抗体	
		3未満(—)	3以上(+)
ペプシノゲン	(—)	A群	B群
	(1+)~(3+)	D群	C群
ピロリ菌除菌後		E群	

A群	健康的な胃粘膜で、胃疾患の危険性は低いと考えられます。
B群	消化性潰瘍に留意する必要があります。
C群	萎縮の進んだ胃粘膜で、胃がんなどになりやすいタイプと考えられます。
D群	萎縮が非常に進んだ胃粘膜で、胃がんなどになりやすいタイプと考えられます。
E群	ピロリ菌除菌後も内視鏡による経過観察が必要です。

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の注意事項

以下の場合には、正しい結果が得られない可能性があります。

1. 明らかな上部消化器症状のある方
2. 上部消化管疾患で治療中の方
3. プロトンポンプ阻害剤服用中の方
4. 胃切除をされた方
5. 腎不全の方
6. ピロリ菌の除菌治療を受けた方

生化学的検査

低分子窒素化合物

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	0399 9 (3C040)	アンモニア	速やかに遠心 除蛋白液 3.0	r4 ↓ X	凍結	1~2	50 ※3	藤井・奥田法 変法	30~80 (μg/dL)	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器(r4)に加え、十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。
	0004 6 (3C025)	尿素窒素(UN)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	1~2	11 ※3	ウレアーゼ LED・UV法 (回避)	8.0~22.0 (mg/dL)	
	L117 0		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		11 ※3		6.5~13.0 (g/day)	
	M001 7 (3C015)	クレアチニン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	酵素法	M 0.61~1.04 F 0.47~0.79 (mg/dL)	推算GFRcreat(項目コードNo.K833 6)を同時に依頼いただきますと推算GFRcreat値をご報告いたします。(下記参照)
	L115 2		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		11 ※3		M 0.70~2.20 F 0.40~1.50 (g/day)	
	3622 7 (3C010)	クレアチン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	11 ※3	酵素法	0.17~1.00 (mg/dL)	
	4662 2		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		11 ※3		M 0.20以下 F 0.43以下 (g/day)	
	0027 1 (3C020)	尿酸(UA)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	1~2	11 ※3	酵素法 (ウリカーゼ POD法)	M 3.7~7.0 F 2.5~7.0 (mg/dL)	蓄尿：凍結保存は避けてください。 高尿酸血症：7.0mg/dL超(高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン(日本痛風・核酸代謝学会)2002年) 蓄尿は依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。
	L116 1		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		11 ※3		0.4~1.2 (g/day)	
	A042 4 (5C100)	L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	部分尿 2.0	Y	冷蔵 (14日)	2~4	210 ※1	CLEIA	L-FABPクレアチニン 換算値8.4以下 (μg/gCr)	凍結保存は避けてください。 酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので、避けてください。 室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。

- ①「イヌリン」と「クレアチニン(腎クリアランス測定のために行い、血清及び尿を同時に測定する場合に限る。)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 ②「L型脂肪酸結合蛋白」は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
 ③「L-FABP(尿)」と「NGAL(尿)」を併せて実施した場合は、主たるもののみに算定する。

推算GFRcreatについて

日本人の GFR 推算式

$$\begin{aligned} \text{男性：推算 GFRcreat 値 (mL/min/1.73m}^2\text{)} &= 194 \times \text{Cr}^{-1.094} \times \text{Age}^{-0.287} \\ \text{女性：推算 GFRcreat 値 (mL/min/1.73m}^2\text{)} &= 194 \times \text{Cr}^{-1.094} \times \text{Age}^{-0.287} \times 0.739 \end{aligned}$$

報告条件

- ①クレアチニン(項目コード No.M001 7)と同時に依頼された場合のみ、ご報告いたします。
- ②下記に該当する場合は、ご報告できません。
 - ・「クレアチニン」あるいは「推算 GFRcreat」のいずれか1項目のみご依頼された場合。
 - ・年齢及び性別が依頼書に記載されていない場合。
 - ・年齢が18歳未満の場合。
- ③報告単位は「mL/min」と略して報告させていただきます。



項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
低分子窒素化合物 (30045)	アミノ酸分析(39種類) [LC/MS]	速やかに冷却 血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	4~6	1141 ※4	LC/MS	下記参照	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。ɪ
(30045)	アミノ酸分析(41種類)	酸性蓄尿 2	Y	凍結 (21日)	7~10	1141 ※4	HPLC	下記参照	6N 塩酸約20mLを入れた蓄尿瓶へ24時間蓄尿し、よく混和後必要量を必ず凍結保存して提出ください。尿量が少ない場合には尿100mLに対して6N 塩酸1mLの割合で入れてください。必ず酸性蓄尿に(pH1.0~3.0)してください。ɪ
K348 5 (30046)	アミノ酸分析(9種類) [LC/MS]	速やかに冷却 血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	3~5	1141 ※4	LC/MS	下記参照	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。ɪ
K349 4 (30046)	アミノ酸分析2種類 (チロシン・フェニルアラニン) [LC/MS]	速やかに冷却 血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	3~5	279 + 279 ※4	LC/MS	チロシン 40.4~90.3 (nmol/mL) フェニルアラニン 42.6~75.7 (nmol/mL) フィッシャー比 2.43~4.40	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。ɪ
0165 8	総分岐鎖アミノ酸/ チロシンモル比 (BTR) 30047-0000-023-271	血清 0.5	01 ↓ X	凍結	2~4	283 ※4	酵素法	BCAA/TYR RATIO 4.41~10.05 BCAA 344~713 (μmol/L) TYR 51~98 (μmol/L)	溶血血でのご依頼は避けてください。ɪ

アミノ酸分析(39種類(血漿), 41種類(尿), 9種類(血漿))基準値

アミノ酸名	略 号	基準値	
		血 漿	尿
Taurine	Tau	39.5~93.2	322.2~5214.5
Phosphoethanolamine★	PEA		31.0~110.0
Urea ★	Urea		◎130.3~493.2
Aspartic acid	Asp	2.4以下	12.7以下
Hydroxyproline	Hypro	21.6以下	ND
Threonine	Thr	66.5~188.9	79.9~528.3
Serine	Ser	72.4~164.5	208.8~1020.0
Asparagine	Asn	44.7~96.8	60.7~372.3
Glutamic acid	Glu	12.6~62.5	11.3~42.7
Glutamine	Gln	422.1~703.8	207.0~1357.3
Sarcosine	Sarco	TR	99.0以下
α-Aminoadipic acid	α-AAA	ND	16.7~118.6
Proline	Pro	77.8~272.7	ND
Glycine	Gly	151.0~351.0	652.1~3670.6
Alanine	Ala	208.7~522.7	141.2~833.9
Citrulline	Cit	17.1~42.6	13.5~55.6
α-Aminobutyric acid	α-ABA	7.9~26.6	27.1以下
※Valine	Val	147.8~307.0	24.8~82.2
Cystine	Cys	13.7~28.3	23.7~170.9
Cystathionine	Cysthio	TR	TR~44.7
※Methionine	Met	18.9~40.5	TR~20.2
※Isoleucine	Ileu	43.0~112.8	7.5~23.5
※Leucine	Leu	76.6~171.3	24.6~89.3
※Tyrosine	Tyr	40.4~90.3	50.6~308.4
※Phenylalanine	Phe	42.6~75.7	27.2~110.2

※印はアミノ酸分析(9種類)の実施アミノ酸名

ND: 測定感度以下 TR: 痕跡

★印は「アミノ酸」ではありませんが、本項目に含めて測定いたします。

単位 血漿: nmol/mL, 尿: μmol/day (ただし◎印(Urea)はmmol/day)

アミノ酸名	略 号	基準値	
		血 漿	尿
γ-Amino β-hydroxy butyric acid	γ-A β-HBA	ND	ND
β-Alanine	β-Ala	TR	TR~153.0
β-Amino-iso-butyric acid	β-AIBA	TR	TR~1623.9
γ-Aminobutyric acid	γ-ABA	ND	ND
Monoethanolamine★	MEA	10.4以下	195.3~606.2
Homocystine	Homocys	ND	ND
※Histidine	His	59.0~92.0	436.4~2786.5
3-Methylhistidine	3-Me His	5.0以下	113.4~480.9
1-Methylhistidine	1-Me His	18.5以下	59.3~2816.2
Carnosine ★	Carno	ND	87.6以下
Anserine ★	Ans	ND	231.4以下
Tryptophan	Trp	37.0~74.9	20.7~150.7
Hydroxylysine	Hylys	ND	22.9以下
Ornithine	Orni	31.3~104.7	6.9~43.9
※Lysine	Lys	108.7~242.2	51.6~1639.6
※Arginine	Arg	53.6~133.6	11.6~54.8
Total AA(総アミノ酸: 非必須アミノ酸の和+必須アミノ酸の和)		2068.2~3510.3	
NEAA(非必須アミノ酸の和)		1381.6~2879.4	
EAA(必須アミノ酸の和)		660.0~1222.3	
BCAA(分岐鎖アミノ酸の和)		265.8~579.1	
EAA/NEAA(必須アミノ酸の和/非必須アミノ酸の和)		0.40~0.63	
BCAA/Total AA(分岐鎖アミノ酸の和/総アミノ酸)		0.11~0.18	
フィッシャー比		2.43~4.40	

EAA/NEAA, BCAA/Total AA, フィッシャー比においては単位なし

生化学的検査

低分子窒素化合物／糖質関連物質

	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
低分子窒素化合物	1757 0 (30070)	血中総ホモシステイン	速やかに遠心 血漿 0.3	C ↓ X	冷蔵	3～5	279 ※4	LC/HS/MS	M 7.0～17.8 F 5.3～15.2 (nmol/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。 指定容器に採血後、よく混和させ、 直ちに血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。 &ヤ
	4694 7 (30055)	ハイドロキシプロリン-総	蓄尿 1	Y	冷蔵	4～10	279 ※4	HPLC	83～330 (μmol/day)	
	(30050)	γ-アミノ酪酸(GABA)	速やかに遠心 血漿 1.0	G ↓ X	凍結 (21日)	5～11	279 ※4	HPLC	120～210 (pmol/mL)	
	(30050)		髄液 1.0	X	凍結		279 ※4		(pmol/mL)	
糖質関連物質	0300 7 (30010)	緊急 グルコース	血漿 0.5	E ↓ X	冷蔵 (21日)	1～2	11 ※3	酸化電極法	70～109 (mg/dL)	凍結保存は避けてください。 データの影響を及ぼす場合がありますので、必ず専用容器 E に採血し、ご提出ください。 &ヨ &ヨ &ツ &ヨ
	0547 4 (30045)	ヘモグロビンA1c (HbA1c) (NGSP)	血液 2.0 (フツ化Na加)	E	冷蔵 (5日)	1～2	① 49 ※2	HPLC	4.6～6.2 (%)	
	3342 8 (30055)	グリコアルブミン	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2～4	① 55 ※3	酵素法	12.4～16.3 (%)	
	(30055)		血漿 0.5	E ↓ X						
	3874 8 (30055)	1,5-アンヒドロ-D- グルシトール(1,5AG)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	① 80 ※3	酵素法	M 14.9～44.7 F 12.4～28.8 (μg/mL)	
		糖代謝解析	部分尿 5	X	凍結	10～13		Gas- Chromatography- Mass Spectrometry (GC/MS)法	下記参照	
	3617 3 (30080)	ヒアルロン酸	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵	2～4	②③ 179 ※3	ラテックス 凝集免疫比濁法	50以下 (ng/mL)	
3627 2 (30080)	胸水0.4		X	(ng/mL)						
	4948 5 (30105)	シアル酸	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	2～5		酵素法	44～71 (mg/dL)	&ヨ

- ①「HbA1c」、「グリコアルブミン」又は「1,5AG」のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、「HbA1c」を月1回に限り算定できる。
- ②「オートタキシン」と「P-Ⅲ-P」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ③「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」と「P-Ⅲ-P」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」又は「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

糖代謝解析基準値

グ ル コ ー ス	6.25～115.85 μg/mgCr.
ソ ル ビ ト ー ル	0.00～ 11.01 μg/mgCr.
フ ル ク ト ー ス	0.00～197.62 μg/mgCr.
ミ オ イ ノ シ ト ー ル	1.02～ 8.34 μg/mgCr.
1.5-アンヒドログルシトール	0.00～ 9.38 μg/mgCr.
ク レ ア チ ニ ン	0.30～ 2.30mg/mL

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
有機酸	4864 8 (3E010)	乳酸	速やかに遠心 除蛋白液 0.4	r3 ↓ X	冷蔵	2~4	47 ※3	乳酸オキシ ダーゼによる 酵素法	3.0~17.0 (全血中) (mg/dL)	採血後、直ちに正確に血液 1.0mL を専用容器 (r3) に加え、十分攪拌 後 3000rpm5 分間遠心分離し、そ の上清液をご提出ください。 &ヨ
	4865 7 (3E015)	ピルビン酸	速やかに遠心 除蛋白液 0.4	r3 ↓ X	冷蔵	2~4	47 ※3	ピルビン酸 オキシダーゼ による酵素法	0.30~0.94 (全血中) (mg/dL)	
	(3E025)	尿中シュウ酸	酸性蓄尿 3	X	冷蔵 (21日)	3~9	200 ※1	キャピラリー 電気泳動法	M 10.3~41.5 F 9.0~37.7 (mg/day)	凍結 凍結保存は避けてください。 6N 塩酸 10mL を入れた蓄尿ビンへ 24 時間蓄尿し、よく混和必要量を ご提出ください。 なお、尿量があらかじめ少ないと予 想される場合には、尿 200mL に対 して 6N 塩酸 1mL の割合で添加して ください。酸性蓄尿されていない場 合は、シュウ酸カルシウムが析出す る可能性がありますので、必ず酸性 蓄尿 (pH1.0~2.0) してください。 &ヤ
	(3E030)	クエン酸	部分尿 0.5	Y	凍結 (1ヵ月)	6~12		酵素法	138~1010 (mg/L)	&M
	(3E030)		血清 1.5	01 ↓ X	凍結				1.3~2.6 (mg/dL)	
	3774 9 (3E045)	血中ケトン体分画	速やかに冷却 遠心 血清 0.5 (静脈血)	01 ↓ X	凍結 (7日)	2~4	① 59 ※3	酵素法	アセト酢酸 55以下 3-ヒドロキシ酪酸 85以下 総ケトン体 130以下 (μmol/L)	早朝空腹時採血 (静脈) してください。 採血後は速やかに冷却遠心に分離 し、凍結保存してください。 &ヨ
	3778 5 (3E045)		速やかに冷却 遠心 血清 0.5 (動脈血)						ケトン体比 アセト酢酸/ 3-ヒドロキシ酪酸比 0.7以上	ブドウ糖投与下または食後 (血糖 120mg/dL 以上) に動脈採血して ください。 採血後は速やかに冷却遠心に分離 し、凍結保存してください。 &ヨ
	(3E060)	アセトン定量	血清 0.7	02 ↓ X	凍結 (15日)	7~10		Gas- chromatograph法	5未満 (μg/mL)	分離剤入り容器は使用しないでくだ さい。 &M
	K153 1 (3E060)	尿中アセトン定量	部分尿 1.2	Y	凍結					&M
	8248 8 (3E105)	有機酸 スクリーニング検査	部分尿 5	Y	凍結	7~14	1141 ※4	Gas- chromatograph法 (GC-MS)		酸性蓄尿は避けてください。専用依 頼書に臨床所見を必ずご記入くだ さい。本検査は疑われる先天性有機酸 代謝異常症を専門医が判定する検査 です。判定医による判定に時間を要 する場合は所要日数より遅れる場合 があります。 &ヤ

①「ケトン体」及び「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は、「ケトン体分画」の所定点数のみ算定する。

C p160 EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	G p166 ヘパリン入り (真空採血量5mL) 内容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	E p156 フッ化Na入り (真空採血量2mL) 内容 フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	r3 p174 除蛋白液入り (内容量1mL) 内容 0.8N 過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年
---	--	--	--

生化学的検査

脂質関連物質

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂 質 関 連 物 質	0001 9 (3F015)	中性脂肪(TG)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	酵素法 (GK-GPO・ 遊離グリセロール 消去)	50~149 (mg/dL)	
	0422 2 (3F025)	リン脂質	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	15 ※3	酵素法	160~260 (mg/dL)	&3
	0003 7 (3F050)	総コレステロール (T-Cho)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	17 ※3	酵素法	150~219 (mg/dL)	
	(3F055)	エステル型 コレステロール(Echo)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4		コレステロール 酸化酵素 (COD・ POD)法, 酵素法	90~200 (mg/dL)	
	(3F065)	遊離コレステロール (F-Cho)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	11 ※3	酵素法	30~60 (mg/dL)	
		コレステロール エステル比	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4		コレステロール 酸化酵素 (COD・ POD)法, 酵素法	73~77 (%)	&3
	MO06 2 (3F070)	HDL-コレステロール	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	17 ※3	直接法	M 40~86 F 40~96 (mg/dL)	LDL-C/HDL-C比(項目コードNo.2881) とLDL-コレステロールとHDL-コレステ ロールの3項目を同時に依頼いた た場合、LDL-C/HDL-C比をご報告いた します。
	MO05 3 (3F077)	LDL-コレステロール	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	18 ※3	直接法	70~139 (mg/dL)	
質	3230 2 (3F075)	HDL _{2,3} コレステロール	血清 1.0	01 ↓ X	冷蔵 (20日)	2~6		超遠心法	HDL2 コレステロール M 16.0~61.0 F 23.0~73.0 HDL3 コレステロール M 13.0~25.0 F 13.0~24.0 (mg/dL)	凍結保存は避けてください。 &I
	3341 9 (3F078)	レムナント様リポ蛋白 コレステロール(RLP-C)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	179 ※3	酵素法	7.5以下 (mg/dL)	凍結保存は避けてください。 糖尿病, 冠動脈疾患などの既往歴の ある場合は, 5.2mg/dL 以上がハイ リスク域といわれています。 &3

- ①「HDL-コレステロール」,「総コレステロール」及び「LDL-コレステロール」を併せて測定した場合は, 主たるもの2つの所定点数を算定する。
②3月に1回を限度として算定できる。

LDL-C/HDL-C比

- LDL- コレステロールと HDL- コレステロールと本項目の3項目を同時に依頼いただいた場合, LDL- コレステロールと HDL- コレステロールの測定結果とともに LDL-C/HDL-C 比を算出し, ご報告いたします。
- LDL-C/HDL-C 比のみのご依頼はできません。

動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版抜粋

表1 脂質異常症診断基準(空腹時採血*)

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120~139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
Non-HDL コレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150~169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

- * 10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。
- **スクリーニングで境界域高LDL-C血症, 境界域高non-HDL-C血症を示した場合は, 高リスク病態がないか検討し, 治療の可能性を考慮する。
- LDL-CはFriedewald式(TC-HDL-C-TG/5) または直接法で求める。
- TGが400mg/dL以上や食後採血の場合はnon-HDL-C (TC-HDL-C) かLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニング時に高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

表2 リスク区分別脂質管理目標値

治療方針の原則	管理区分	脂質管理目標値(mg/dL)			
		LDL-C	non HDL-C	TG	HDL-C
一次予防 まず生活習慣の改善を行った後薬物療法の適用を考慮する	低リスク	<160	<190	<150	≥40
	中リスク	<140	<170		
	高リスク	<120	<150		
二次予防 生活習慣の是正とともに薬物治療を考慮する	冠動脈疾患の既往	<100 (<70)*	<130 (<100)*		

- * 家族性高コレステロール血症, 急性冠症候群の時に考慮する。糖尿病でも他の高リスク病態(非心原性脳梗塞, 末梢動脈疾患(PAD), 慢性腎臓病(CKD), メタボリックシンドローム, 主要危険因子の重複, 喫煙)を合併する場合はこれに準ずる。
- 一次予防における管理目標達成の手段は非薬物療法が基本であるが, 低リスクにおいてもLDL-Cが180mg/dL以上の場合は薬物治療を考慮するとともに, 家族性高コレステロール血症の可能性を念頭においておくこと(第5章参照)。
- まずLDL-Cの管理目標値を達成し, その後non-HDL-Cの達成を目指す。
- これらの値はあくまでも到達努力目標値であり, 一次予防(低・中リスク)においてはLDL-C低下率20~30%, 二次予防においてはLDL-C低下率50%以上も目標値となり得る。
- 高齢者(75歳以上)については第7章を参照。

出典「日本動脈硬化学会」

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂 質 関 連 物 質	A084 8	脂肪酸分画(24成分) 3F095-0000-022-202 3F095-0000-023-202	血漿 0.5	G ↓ X	冷蔵 (45日)	10~14	405 ※4	Gas- chromatograph法	下記参照	&ヤ
	L349 3		血清 0.5	01 ↓ X						
	G058 1	脂肪酸分画(4成分) 3F095-0000-022-202 3F095-0000-023-202	血漿 0.5	G ↓ X	冷蔵 (45日)	4~6	405 ※4	Gas- chromatograph法	ジホモ-γ-リノレン酸 22.6~72.5 アラキドン酸 135.7~335.3 エイコサペンタエン酸 10.2~142.3 ドコサヘキサエン酸 54.8~240.3 (μg/mL) EPA/AA比 0.05~0.61 DHA/AA比 0.27~1.07 (EPA+DFA)/AA比 0.32~1.66	DHHA (ジホモ-γ-リノレン酸)・ AA (アラキドン酸)・EPA (エイコ サペンタエン酸)・DHA (ドコサヘ キサエン酸) &ヤ
			血清 0.5	01 ↓ X						
質	(3F096)	極長鎖脂肪酸	血漿 2.0	G ↓ X	凍結 (1ヵ月)	6~19	1141 ※4	Gas- chromatograph法 (GC-MS)	C24:0/C22:0 0.628~0.977 C25:0/C22:0 0.012~0.023 C26:0/C22:0 0.003~0.006	&ヤ

[A084] 脂肪酸分画(24成分)基準値

No.	脂肪酸名	略号 (炭素数)	基準値	
			μg/mL	重量%
1	ラウリン酸	C12:0	10.2以下	0.31以下
2	ミリスチン酸	C14:0	10.8~61.1	0.36~1.43
3	ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.2以下	0.09以下
4	パルミチン酸	C16:0	495.1~918.3	19.18~23.84
5	パルミトレイン酸	C16:1ω7	23.8~117.3	0.87~3.18
6	ステアリン酸	C18:0	167.6~312.7	6.13~8.49
7	オレイン酸	C18:1ω9	433.9~910.1	16.19~23.66
8	リノール酸	C18:2ω6	708.1~1286.0	23.24~36.89
9	γ-リノレン酸	C18:3ω6	2.5~25.6	0.09~0.72
10	リノレン酸	C18:3ω3	11.5~45.8	0.40~1.30
11	アラキジン酸	C20:0	6.9~14.4	0.24~0.46
12	エイコセン酸	C20:1ω9	2.6~9.5	0.09~0.30
13	エイコサジエン酸	C20:2ω6	4.3~9.3	0.15~0.26
14	5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3ω9	6.0以下	0.17以下

15	ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	22.6~72.5	0.79~2.05
16	アラキドン酸	C20:4ω6	135.7~335.3	4.21~9.30
17	エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	10.2~142.3	0.36~3.99
18	ベヘニン酸	C22:0	14.6~30.3	0.43~0.91
19	エルシン酸	C22:1ω9	1.4以下	0.04以下
20	ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9~10.4	0.10~0.30
21	ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	9.5~31.8	0.34~0.89
22	リグノセリン酸	C24:0	15.5~31.2	0.49~0.90
23	ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	54.8~240.3	1.88~6.86
24	ネルボン酸	C24:1ω9	27.1~53.0	0.78~1.64
T/T比(C20:3ω9/C20:4ω6)			0.02以下	
EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)			0.05~0.61	
DHA/AA比(C22:6ω3/C20:4ω6)			0.27~1.07	
(EPA+DHA)/AA比			0.32~1.66	
ω3/ω6比			0.09~0.36	

G

p166



ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリン Na
65IU
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

生化学的検査

脂質関連物質

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂 質 関 連 物 質	2601 1 (3F110)	総胆汁酸	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	① 47 ※3	酵素法	10.0以下 (μ mol/L)	&ㇿ
	0006 4 (3F130)	β -リポ蛋白	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4		免疫比濁法	220~650 (mg/dL)	&ㇿ
	3211 3 (3F135)	リポ蛋白分画	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵 (7日)	2~4	49 ※3	アガロース 電気泳動法	α M 26.9~50.5 F 32.6~52.5 PRE β M 7.9~23.8 F 6.6~20.8 β M 35.3~55.5 F 33.6~52.0 (%)	凍結保存は避けてください。 &ㇿ
	(3F150)	コレステロール分画	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵 (7日)	2~4	57 ※3	アガロース 電気泳動法	HDLコレステロール 23~48 LDLコレステロール 47~69 VLDLコレステロール 2~15 (%)	凍結保存は避けてください。 &ㇿ
	K222 4 (3F087)	酸化LDL (MDA-LDL)	血清 0.3	01 ↓ X	凍結 (21日)	3~14	② 194 ※3	ELISA	男性 45才未満:46~82 45才以上:61~105 女性 55才未満:46~82 55才以上:61~105 (U/L)	採血後、冷蔵保存にて6時間以内に 血清分離し、速やかに凍結保存して ください。 &ㇿ

- ①「尿中硫酸抱合型胆汁酸測定」,「胆汁酸」を同時に測定した場合には、いずれか一方の所定点数のみを算定する。
- ②冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で測定する場合3月に1回に限り算定できる。糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記とは別に術前1回に限り算定できる。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
脂 質 関 連 物 質	3233 9 (3F156)	リポプロテイン(a)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	2~4	① 107 ※3	LA (ラテックス凝集比濁法)	40以下(参考値) (mg/dL)	&㍲
	(3F160)	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	速やかに 冷却 血漿 0.3	G ↓ X	凍結 (1ヵ月)	2~8	219 ※3	ELISA	164~284 (ng/mL)	早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し15分後に指定の容器(G)に採取し、4℃で遠心分離後、上清の血漿を凍結保存にてご提出ください。EDTA血漿は避けてください。 基準値につきましては上記採取条件に基づき設定しております。 &㍲
	3234 8 (3F180)	アポリポ蛋白	血清 各0.3	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	2~4	② 各31 ※3	免疫比濁法	M 119~155 F 126~165 (mg/dL)	アポリポ蛋白 B と重複依頼する場合は凍結保存を避けてください。 &㍲
	3235 7 (3F185)								M 25.9~35.7 F 24.6~33.3 (mg/dL)	
	3236 6 (3F190)								M 73~109 F 66~101 (mg/dL)	凍結保存は避けてください。 &㍲
	3237 5 (3F195)								M 1.8~4.6 F 1.5~3.8 (mg/dL)	アポリポ蛋白 B と重複依頼する場合は凍結保存を避けてください。 &㍲
	3238 4 (3F200)								M 5.8~10.0 F 5.4~9.0 (mg/dL)	
	3239 3 (3F205)								M 2.7~4.3 F 2.8~4.6 (mg/dL)	
	(3F206)	アポリポ蛋白E フェノタイプ	血清 0.2	01 ↓ X	冷蔵 (7日)	4~20		等電点電気泳動法によるイムノプロット法		凍結保存は避けてください。 &㍲

①3月に1回を限度として算定できる。

②アポリポ蛋白は、A I、A II、B、C II、C III及びEのうち、測定した項目数に応じて所定点数を算定する。

アポリポ蛋白Eフェノタイプ検査結果について(試薬メーカー説明書より引用)

- ・研究用試薬のため、本測定結果は、補助診断としてご利用ください。
- ・診断・治療を決定する場合、また、臨床経過と測定値が一致しない場合は、病歴や他の検査所見も参考にして、総合的判断を行ってください。



生化学的検査

ビタミン

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
(36015)	ビタミンA	血清 0.4	01 ↓ i	冷蔵 (遮光)	3~5		HPLC	97~316 (IU/dL)	遮光してください。 &㍷
3619 1 (36011)	β-カロチン	血清 0.6	01 ↓ i	凍結 (1ヵ月) (遮光)	5~11		HPLC	M 6.6~47.6 F 20.4~105.2 (μg/dL)	
(50030)	レチノール結合蛋白 (RBP)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	136 ※5	ラテックス 凝集比濁法	M 2.7~6.0 F 1.9~4.6 (mg/dL)	&㍺
3725 3 (36025)	ビタミンB ₁	血液 0.5 (EDTA-2K加)	g1	凍結 (6ヵ月)	3~5	239 ※3	LC/MS/MS	24~66 (ng/mL)	指定の容器に採血しすぐ混和させ凍結保存してください。 &㍷
4329 2 (36030)	ビタミンB ₂	血液 0.5 (EDTA-2K加)	g1 ↓ i	凍結 (1ヵ月) (遮光)	3~5	242 ※3	HPLC	66.1~111.4 (ng/mL)	(検体のご提出について) 血液は必ず遮光ポリスビッツ (i) に移し替え、凍結してご提出ください。 &㍷
3731 6 (36036)	ビタミンB ₆	血清 0.5	01 ↓ i	冷蔵 (遮光)	3~5		HPLC	ピリドキサミン M 0.6以下 F 0.6以下 ピリドキサル M 6.0~40.0 F 4.0~19.0 ピリドキシン M 3.0以下 F 3.0以下 (ng/mL)	遮光してください。 &㍷
3737 0 (36040)	ビタミンB ₁₂	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	2~4	140 ※3	CLEIA	180~914 (pg/mL)	血清材料以外でのご依頼は避けてください。(特に、EDTA血漿はデータ上昇傾向がみられます。) &I
3735 2 (36060)	ビタミンC (アスコルビン酸)	(血清中) 除蛋白上清 0.5	r5 ↓ i	凍結 (7日) (遮光)	3~5	305 ※3	HPLC	5.5~16.8(血清中) (μg/mL)	正確に血清 0.5mL を専用容器 (r5) に加え、混和後遠心分離し、その上清を遮光ポリスビッツ (i) に移し替え、凍結してご提出ください。 &㍷

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
3794 7 (36070)	1,25-(OH) ₂ ビタミンD	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	3~7	① 388 ※3	RIA2抗体法	成人 20.0~60.0 小児 20.0~70.0 (pg/mL)	&I
A099 2	25OHビタミンD (骨粗鬆症) 3G065-0000-023-052	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	② 117 ※3	CLEIA	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足20.0 ~29.9(ng/mL)	&ヨ
A087 5 (36065)	25ヒドロキシビタミンD (くる病・骨軟化症) 3G065-0000-023-052	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~4	③ 117 ※3	CLEIA	ビタミンD欠乏 20以下 (ng/mL)	&ヨ
(36080)	ビタミンE	血清 0.5	01 ↓ i	凍結 遮光	7~13		蛍光法	0.75~1.41 (mg/dL)	遮光してください。 &M
(36085)	ビタミンE分画	血清 0.5	01 ↓ i	冷蔵 遮光	依頼時 にご確 認く ださい。		HPLC	α-トコフェロール 0.49~1.09 β-トコフェロール 0.02以下 γ-トコフェロール 0.05~0.17 δ-トコフェロール 0.01以下 (mg/dL)	遮光してください。 &ヤ
3738 9 (36105)	葉酸	血清 0.6	01 ↓ X	冷蔵	2~4	150 ※3	CLEIA	4.0以上 (ng/mL)	溶血および血清材料以外での依頼は避けてください。(溶血の場合、赤血球中葉酸の影響で高値となります。特に、EDTA血漿はデータ上昇傾向がみられます。) &I
(36090)	ビタミンK分画	速やかに遠心 血漿 2.0	L ↓ i	凍結 (17日) 遮光	3~9		HPLC	ビタミンK1 0.15~1.25 ビタミン K2(MK-4) 0.10以下 (ng/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。血漿は必ず遮光ポリスビッツ(i)で凍結してご提出ください。 &ヤ
3744 2 (36110)	ニコチン酸 (ナイアシン)	血液 1.5 (ヘパリン加)	G	冷蔵	7~13		Bioassay	4.7~7.9 (μg/mL)	&I
8712 2 (36055)	カルニチン分画	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵	2~4	④⑤ 95 + 95 ※3	酵素サイクリ ング法	総カルニチン 45~91 遊離カルニチン 36~74 アシルカルニチン 6~23 (μmol/L)	&ヨ

- ① 活性型ビタミンD₃剤による治療開始後1月内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。
 ② 骨粗鬆症の薬剤治療方針時に1回に限り算定する。
 ③ ビタミンD欠乏症くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中のみ算定できる。ただし、診断時には1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。
 ④ 先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。
 ⑤ 静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、パルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。
 ⑥ 「カルニチン分画」と「先天性代謝異常症検査」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

G
p166



ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

L
p171



3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量4.5mL)
3.2%クエン酸Na
0.5mL
貯蔵方法 室温
有効期間 1年(25本
入りプラスチック
ケース開封後1ヵ月)

r5
p174



除蛋白液入り
(内容量0.5mL)
内容
0.8N 過塩素酸
貯蔵方法 冷蔵
有効期間 1年

g1
p168



EDTA-2K入り
(真空採血量2mL)
内容
EDTA-2K 3.6mg
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

i
p169



貯蔵方法 室温

生化学的検査

電解質

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
0033 4 (3H010)	緊急 Na(ナトリウム)	速やかに遠心 血清0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	① 11 ※3	電極法	136~147 (mEq/L)	採血後は、血液凝固を確認後、速やかに血清分離してください。血液のまま放置、冷却保存はナトリウムが低値を示しますので避けてください。
L118 9 (3H010)		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		① 11 ※3		1.60~5.80 (g/day)	
0035 2 (3H020)	Cl(クロール)	血清0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	① 11 ※3	電極法	98~109 (mEq/L)	
L120 6 (3H020)		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		① 11 ※3		2.50~8.90 (g/day)	
0034 3 (3H015)	緊急 K(カリウム)	速やかに遠心 血清0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	電極法	3.60~5.00 (mEq/L)	溶 採血後は、血液凝固を確認後、速やかに血清分離してください。血液のまま放置、冷却保存又は溶血は、カリウムが高値を示しますので避けてください。
L119 8 (3H015)		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		11 ※3		1.00~3.90 (g/day)	
0008 2 (3H030)	緊急 Ca(カルシウム)	血清0.5	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	1~2	② 11 ※3	アルセナゾⅢ法	8.5~10.2 (mg/dL)	重 (蓄尿) 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。凍結保存は避けてください。
L122 4 (3H030)		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		② 11 ※3		0.1~0.3 (g/day)	
3641 6 (3H035)	イオン化カルシウム	速やかに遠心 血清0.9	01 ↓ X	凍結	3~5	② 26 ※3	イオン電極法	2.41~2.72 (mEq/L)	pH = 7.4, 37℃にて測定。 &I
0005 5 (3H040)	P(無機リン)	血清0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	③ 17 ※3	モリブデン酸 直接法	2.4~4.3 (mg/dL)	
L123 3 (3H040)		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		③ 17 ※3		0.5~1.0 (g/day)	
0030 7 (3H025)	Mg(マグネシウム)	血清0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	2~4	11 ※3	キシリジル ブルー法	1.8~2.6 (mg/dL)	重 (蓄尿) 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。凍結保存は避けてください。 &J
(3H025)		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		11 ※3		0.02~0.13 (g/day)	
3771 2 (3H045)	浸透圧	血清0.7	01 ↓ X			15 ※2	氷点降下法	276~292 (mOsm/Kg・H ₂ O)	凍 凍結保存は避けてください。 &I
(3H045)		部分尿 1	Y	冷蔵	2~4	16 ※1		濃縮時 850以上 希釈時 40~85 (Fishberg試験時) (mOsm/Kg・H ₂ O)	

①「ナトリウム」及び「クロール」については、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。

②「カルシウム」及び「イオン化カルシウム」を同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。

③「無機リン」及び「リン酸」については、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
生 体 微 量 金 属	0028 0 (31010)	鉄(Fe)	血清 0.5	01 ↓ Z	冷蔵 (21日)	1~2	11 ※3	ニトロソ- PSAP法	M 54~200 F 48~154 (μg/dL)	溶血でのご依頼は避けてください。
	3625 4 (31010)		蓄尿 10	Z	冷蔵	6~11	11 ※3	原子吸光法	0.10~0.20 (mg/day)	
	0038 9 (31015)	総鉄結合能 (TIBC)	血清 0.5	01 ↓ Z	冷蔵 (28日)	1~2	11 ※3	ニトロソ- PSAP法 (計算法)	M 253~365 F 246~410 (μg/dL)	
	0031 6 (31020)	不飽和鉄結合能 (UIBC)	血清 0.5	01 ↓ Z	冷蔵 (28日)	1~2	11 ※3	ニトロソ- PSAP法	M 104~259 F 108~325 (μg/dL)	
	3653 3 (31025)	Cu(銅)	血清 0.5	01 ↓ Z	冷蔵 (28日)	2~4	23 ※3	比色法	68~128 (μg/dL)	&E
	4671 2 (31025)		蓄尿 5	Z	冷蔵	2~6	23 ※3	原子吸光分析法	M 4.2~33.0 F 2.5~20.0 (μg/day)	
	3654 2 (31030)	Zn(亜鉛)	速やかに遠心 血清 0.5	01 ↓ Z	冷蔵 (1ヵ月)	2~4	136 ※3	比色法	80~130 (μg/dL)	採血後は速やかに血清分離をしてください。 &E
	4672 1 (31030)		蓄尿 5	Z	冷蔵	2~8	136 ※3	原子吸光分析法	M 260~1000 F 160~620 (μg/day)	
	3807 2 (31320)	緊急 リチウム	血清 0.5	02 ↓ Z	冷蔵	2~4	① (特)	比色法	治療濃度範囲 0.3~1.2 (mEq/L)	採血時刻および採血容器についての 注意事項は下記をご参照ください。 リーマス, リチオマール &E
生 体 色 素	0011 8 (31010)	緊急 総ビリルビン(T-Bil)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	化学酸化法	0.3~1.2 (mg/dL)	
	0012 7 (31015)	直接ビリルビン (D-Bil)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	1~2	11 ※3	化学酸化法	0.4以下 (mg/dL)	
		ビリルビン分画 (直接・間接)	血清 0.5	01 ↓ X	冷蔵 (1ヵ月)	2~4	11 ※3	化学酸化法	直接ビリルビン 0.4以下 間接ビリルビン 0.8以下 (mg/dL)	

①: 特定薬剤治療管理料 (126 ページ参照)

① 投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

[3807] リチウム採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血することをお勧めします。

[3807] リチウム採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。



生化学的検査

ポルフィリン

項目コード (統一コード)		検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
ポ ル フ イ リ ン	2625 5 (3J040)	コプロポルフィリン 定性	部分尿 2	Y	冷蔵 遮光	3～6		HPLC	(－)	
	蓄尿 2									
	2627 3 (3J040)	コプロポルフィリン	部分尿 2	Y	冷蔵 遮光	3～6	131 ※1	HPLC	170以下 (μg/g・CRE)	
	蓄尿 2									
	4629 9 (3J050)	ウロポルフィリン	部分尿 2	Y	冷蔵 遮光	3～6	105 ※1	HPLC	36以下 (μg/g・CRE)	&ヤ
	蓄尿 2									
	2610 1 (3J075)	δ-アミノレブリン酸 (δALA)	部分尿 1	Y	冷蔵 遮光	3～5	109 ※1	HPLC	(mg/L)	
	蓄尿 1									
	(3J040)	コプロポルフィリン	血液 1.5 (ヘパリン加)	G3	冷蔵 遮光	7～11	210 ※3	HPLC	1以下 (μg/dL RBC)	凍結保存は避けてください。 遮光してください。
	(3J050)	ウロポルフィリン	血液 1.5 (ヘパリン加)	G3	冷蔵 遮光	7～11		HPLC	1以下 (μg/dL RBC)	
(3J055)	プロトポルフィリン	血液 1.5 (ヘパリン加)	G3	冷蔵 遮光	7～11	272 ※3	HPLC	30～86 (μg/dL RBC)	&N	

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
毒 物 ・ 産 業 医 学	4697 4 (3K025)	尿中馬尿酸	部分尿 2	Y	冷蔵	4~10		HPLC	(g/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 102ページをご参照ください。
	4698 3 (3K030)	尿中メチル馬尿酸	部分尿 2	Y	冷蔵	4~10		HPLC	(g/L)	
	9179 4	尿中スチレン代謝物 3K042-0000-001-204	部分尿 2	Y	冷蔵 (14日)	4~14		HPLC	(g/L)	週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 測定値は、マンデル酸(MA)、フェニルグリオキシル酸(PGA)および合算値(MA+PGA)です。 生物学的許容値:0.43(g/L)以下です。 (生物学的許容値とは、ほとんどのすべての労働者に健康上の悪い影響がみられないと判断される濃度です。) 依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 102ページをご参照ください。
	4721 6 (3K011)	尿中総三塩化物	部分尿 各2	Y	冷蔵	4~10		Gas- chromatograph法	(mg/L)	週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 102ページをご参照ください。
	4722 5 (3K012)									
	(3K013)									
	4724 3 (3K016)	尿中 トリクロル 酢酸	部分尿 各2	Y	冷蔵	4~10		Gas- chromatograph法	(mg/L)	週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 102ページをご参照ください。
	4725 2 (3K017)									
	(3K018)									
	4703 6 (3K045)	尿中N-メチルホルムアミド	部分尿 5	Y	冷蔵	4~10		Gas- chromatograph法 (GC-MSD)	(mg/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 102ページをご参照ください。
	4704 5 (3K050)	尿中2,5-ヘキサンジオン	部分尿 5	Y	冷蔵	4~10		Gas- chromatograph法 (GC-MSD)	(mg/L)	
	2620 0 (3K110)	鉛(Pb)	血液 3.0 (ヘパリン加)	G	冷蔵	3~5		原子吸光分析法	(μg/dL)	102ページをご参照ください。

Z
p181



酸洗浄済みの
ポリスピッツ
貯蔵方法 室温

G3
p168



ヘパリン入り
(真空採血量4mL)
内容
ヘパリン Na
83.6単位
貯蔵方法 室温
有効期間 18ヵ月
(アルミ包装
開封後1ヵ月)

G
p166



ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリン Na
65IU
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

生化学的検査

毒物・産業医学／その他

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
毒物・ 産業 医学	3656 0 (3K105)	アルミニウム(AI)	血清 0.6	e	冷蔵	3~5	112 ※3	原子吸光分析法	10以下 ($\mu\text{g/L}$)	重凍 e 容器は凍結保存を避けてください。 &I
	(3K115)	クロム	血液 0.7 (ヘパリン加)	G	冷蔵	6~19		原子吸光 分光光度法	1.0以下 ($\mu\text{g/dL}$)	血液：凍結保存は避けてください。
	(3K115)		部分尿 1	Z					2以下 ($\mu\text{g/L}$)	
	9520 4 (3K125)	マンガン	血液 0.7 (ヘパリン加)	G	冷蔵	7~20	① 27 ※3	原子吸光 分光光度法	0.8~2.5 ($\mu\text{g/dL}$)	凍 凍結保存は避けてください。 &N
	3662 3 (3K120)	カドミウム	血液 0.5 (ヘパリン加)	G	冷蔵	9~14		原子吸光法	0.5以下 ($\mu\text{g/dL}$)	血液：凍結保存は避けてください。
	4992 6 (3K120)		部分尿 1	Z		8~14			3.8以下 ($\mu\text{g/L}$)	
そ の 他	(3Z050)	イヌリン定量 〔酵素法〕	血清 0.7	01 ↓ X	冷蔵 (21日)	2~8	② 120 ※3	酵素法	(mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーション の影響がより大きくなりますので検 体採取にあたっては取り扱いに十分 ご注意ください。依頼書に臨床診断 名をご記入ください。 &ヨ
	(3Z050)		部分尿 1	Y						
	4899 0 (3Z065)	結石分析(成分比率)	結石 10mg	L2	室温	4~6	117 ※4	赤外線吸収 スペクトロ フォトメトリー	(%)	サンプルは乾燥させ結石専用容器に てご提出ください。血液などの付い たサンプルは蒸留水で洗浄後、乾燥 させてご提出ください。 &%
	3785 7 (3Z040)	エタノール	血液 1.0 (ヘパリン加)	G ↓ X	凍結	3~6	108 ※3	Gas- chromatograph法	0.1未満 (mg/mL)	血液はポリスビッツに移し替え、必 ず凍結保存にてご提出ください。 &ヤ
	(3Z024)	ネオプテリン	血清 0.3	01 ↓ i	冷蔵 遮光	6~12		HPLC	2~8 (pmol/mL)	遮光してください。 &ヤ

①1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。
②尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、6月に1回に限り算定できる。ただし、「クレアチニン(腎クリアランス測定のために行い、血清及び尿を同時に測定する場合に限る。)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

産業医学(有機溶剤、鉛)関連検査

産業医学関連検査は、有機溶剤作業、鉛作業を対象として、体内に有機溶剤や鉛がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の鑑別を目的としたものではなく、作業環境を含めた総合的な判断が必要とされています。

また、労働安全衛生法に基づく各中毒予防規則では、各健康診断結果報告書を、所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

有機溶剤等健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2)
鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則、様式第3号)より

有機溶剤、鉛関連検査結果分布表

対象物質	測定項目	単位	分布			
			1	2	3	4
トルエン	** 尿中馬尿酸	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超
キシレン	** 尿中メチル馬尿酸	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超
1・1・1-トリクロロエタン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	10以下	10超	40以下	40超
	*** 尿中トリクロロ酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
N・N-ジメチルホルムアミド	** 尿中N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10超	40以下	40超
ノルマルヘキサン	** 尿中2,5-ヘキサジオン	mg/L	2以下	2超	5以下	5超
鉛	血中鉛	$\mu\text{g/dL}$	20以下	20超	40以下	40超
	* 尿中 δ -アミノレブリン酸	mg/L	5以下	5超	10以下	10超
スチレン	*** 尿中スチレン代謝物※1	g/L	分布報告はいたしません。			
トリクロロエチレン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	100以下	100超	300以下	300超
	*** 尿中トリクロロ酢酸	mg/L	30以下	30超	100以下	100超
テトラクロロエチレン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
	*** 尿中トリクロロ酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超

※1:測定値は、マンデル酸とフェニルグリオキシル酸の合算値です。
2014年11月より、スチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンは、有機溶剤中毒予防規則から特定化学物質障害予防規則の対象に位置づけられました。

検体取り扱い方法

- * 遮光保存してください。
- ** 連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。
- *** 週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
K128 9 (38222)	骨型酒石酸抵抗性酸性 フォスファターゼ (TRACP-5b)	血清 0.5	01 ↓ X	凍結	2~4	①② 156 ※4 腫②	EIA	男性 170~590 女性(YAM) 120~420 (mU/dL)	YAM: 若年者成人平均値 女性の基準値は、健常閉経前女性(30 ~44歳)で確立された平均±1.96 標準偏差の範囲としております。なお、 閉経後女性にも適用されます。 &I
4753 1 (56123)	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx)(骨粗鬆症)	部分尿 3	Y	冷蔵	2~4	①⑥ 156 ※4	CLEIA	(クレアチニン換算値) 男性 13.0~66.2 閉経前女性 9.3~54.3 閉経後女性 14.3~89.0 (参考値) (nmol/mmol・CRE) 判定基準: 下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。 血尿での提出は避けてください。
4742 3 (56146)	デオキシピリジノリン (DPD)(骨粗鬆症)	部分尿 3	Y	冷蔵	2~4	①⑥ 191 ※4	EIA	M 2.1~5.4 F 2.8~7.6 (nmol/mmol・CRE) 判定基準: 下記参照	&I
3345 5 (38072)	骨型アルカリ フォスファターゼ(BAP)	血清 0.8	01 ↓ X	冷蔵	2~4	③ ④⑤ 161 ※4	CLEIA	男性 3.7~20.9 閉経前女性 2.9~14.5 閉経後女性 3.8~22.6 (μg/L)	&I
A197 3 (56120)	I型プロコラーゲン -N-プロペプチド (total P1 NP)	血清 0.4	01 ↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	⑤ 164 ※4	ECLIA	男性(30~83歳) 18.1~74.1 閉経前女性(30~44歳) 16.8~70.1 閉経後女性(45~79歳) 26.4~98.2 (ng/mL)	溶血での依頼は避けてください (溶血の場合、データが低値傾向となり ます。) &I

(腫②): 悪性腫瘍特異物質治療管理料 (40ページ参照)

- ①「NTx」,「オステオカルシン」,「尿中DPD」,「TRACP-5b」を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
- ②代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る。)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。
- ③「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」,「ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ④「ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」と併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
- ⑤「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P1 NP)」,「I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P1 NP)」及び「ALP・アイソザイム(PAG電気泳動法)」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるものに算定する。
- ⑥骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また、薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。

[4753] I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症) の判定基準 [4742] デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)

検査項目	骨粗鬆症薬剤治療の指標				単位
	骨折リスク	カットオフ値	骨量減少	カットオフ値	
I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx) (骨粗鬆症)	54.3		35.3		nmolBCE/mmol・CRE
デオキシピリジノリン (DPD)(骨粗鬆症)	7.6		5.9		nmol/mmol・CRE



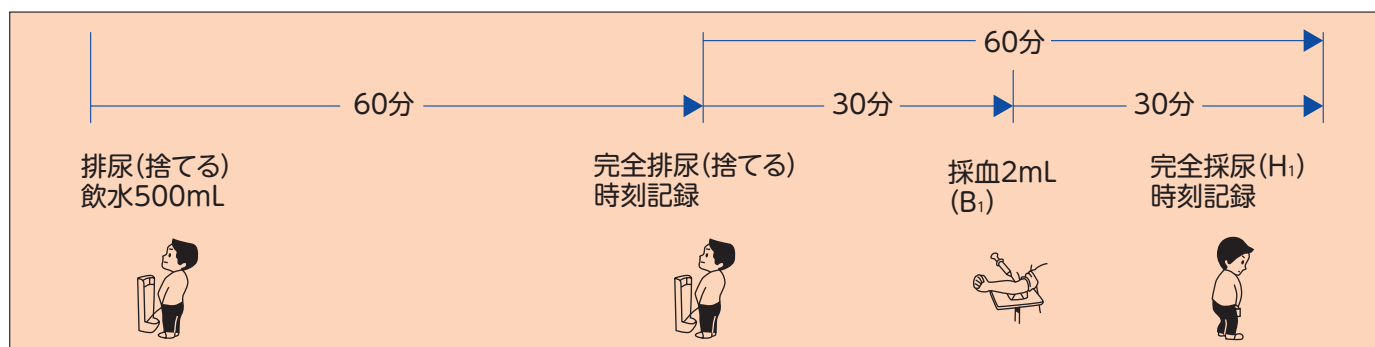
生化学的検査

クリアランス・機能試験

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
クリアランス・機能試験	0043 3 (8A020) クレアチニンクリアランス	血清 0.5 と 時間蓄尿 5	(血清) 01 と (蓄尿) Y	冷蔵	1~2		酵素法	80.0~200.0 (mL/min)	年齢、身長、体重、採尿時間、尿量を必ず明記してください。 採取方法は下記をご参照ください。 平均体表面積(補正係数)は、1.73m ² を使用しています。
	0044 2 (8A025) クレアチニンクリアランス (24時間法)	血清 0.5 と 蓄尿 5						93.0~238.0 (L/day)	

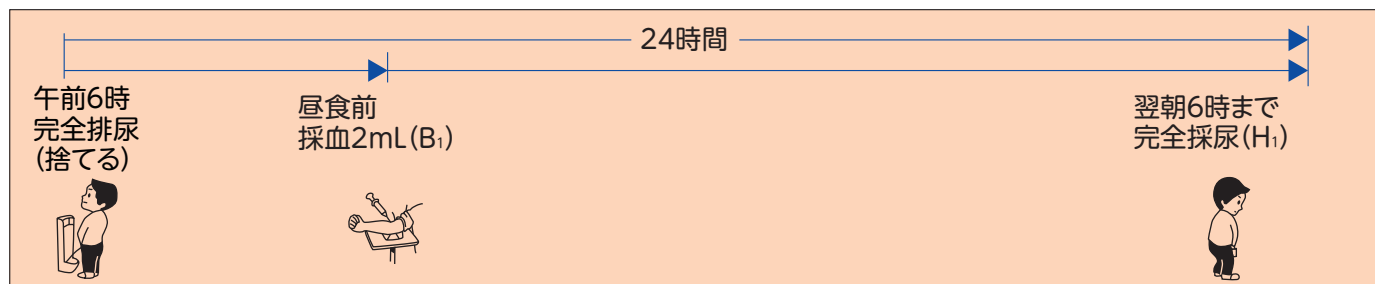
[0043] クレアチニンクリアランスの採取方法

- (1) 排尿後、微温水500mLを飲ませる。
 - (2) 飲水後、60分後に放尿させ、完全に排尿し終わったとき時刻を正確に(1分以内の誤差で)記録する。
 - (3) 開始30分後に2mL採血する。溶血をさけて血清分離する(B₁)。
 - (4) 開始1時間後、完全採尿し、正確に尿量及び終了時刻を記録する(H₁)。
- 以上のようにして得た血清(B₁)、尿(H₁)を冷蔵保存し、提出してください。
年齢、身長、体重、採尿時間、尿量を必ず明記してください。



[0044] クレアチニンクリアランス(24時間法)の採取方法

- (1) 朝6時に完全排尿させてこれを捨て、以後の尿を翌朝6時まで蓄尿する。
 - (2) 混和後、蓄尿量を測定し、その一部(5mL)を提出する(H₁)。
 - (3) 昼食前に2mL採血する。溶血を避けて血清分離する(B₁)。
- 以上のようにして得た血清(B₁)、尿(H₁)を冷蔵保存し、ご提出ください。
年齢、身長、体重、採尿時間、尿量を必ず明記してください。



項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
	末梢血液 一般検査 WBC, RBC, Hb, Ht, PLT MCV, MCH, MCHC						下記各項目の 検査方法をご 参照ください。	下記 各項目の基準値欄 をご参照ください。	
0801 1	緊急 白血球数(WBC)						半導体レーザー FCM方式 (自動化法)	M 3900~9800 F 3500~9100 (/μL)	
0802 0	赤血球数(RBC)						シースフロー DC方式 (自動化法)	M 427~570 F 376~500 (×10 ⁴ /μL)	
0803 9	緊急 血色素量(Hb)					① 21 ※2	SLS-Hb法 (自動化法)	M 13.5~17.6 F 11.3~15.2 (g/dL)	溶血 凍結保存は避けてください。 ・ EDTA-2K 入り専用容器に採取し てください。 ・ 採取後、直ちに5回以上軽く転倒 混和してください。 ・ 検体は採取後、当日中にご提出く ださい。 ・ 溶血、凝固および凍結検体は測定 できません。
0804 8	ヘマトクリット値 (Ht)						シースフロー DC方式 (自動化法)	M 39.8~51.8 F 33.4~44.9 (%)	
0805 7	平均赤血球容積 (MCV)	血液 2.0 (EDTA-2K加)	g	冷蔵	1~2			M 82.7~101.6 F 79.0~100.0 (fL)	
0806 6	平均赤血球血色素量 (MCH)						演算法 (自動化法)	M 28.0~34.6 F 26.3~34.3 (pg)	
0807 5	平均赤血球血色素濃度 (MCHC)							M 31.6~36.6 F 30.7~36.6 (g/dL)	
0808 4	緊急 血小板数(PLT)						シースフロー DC方式 (自動化法)	M 13.1~36.2 F 13.0~36.9 (×10 ⁴ /μL)	
0809 3 (2A110)	網状赤血球数(RET)					12 ※2	半導体レーザー FCM方式 (自動化法)	M 2~27 F 2~26 (%)	
0852 5 (2A090)	好酸球数					② 17 ※2	半導体レーザー FCM方式 (自動化法)	70~440 (/μL)	

- ①「血小板凝集能」、「末梢血液一般検査」を同時に測定する場合は、「末梢血液一般検査」の所定点数を別に算定することはできない。
②「好酸球数」及び「末梢血液像(自動機械法)」又は「末梢血液像(鏡検法)」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。



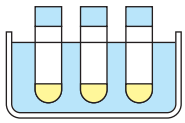
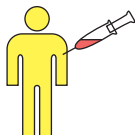
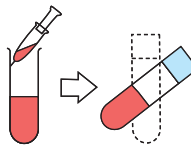
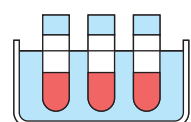
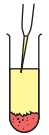
血液学的検査

血液一般・形態検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
血液一般・形態検査	L101 7 末梢血液像 (白血球像)	血液 2.0	g	冷蔵	1~2	① 15 ※2	シースフロー 電気抵抗方式 SLS-Hb法 赤血球パルス 波高値検出方式 半導体レーザーを用いたフローサイトメトリー法	* 桿状核球 (Stab): 0.0~6.0% * 分葉核球 (Seg): 32.0~73.0% 好中球 (Neut): 40.0~74.0% 好酸球 (Eosino): 0.0~6.0% 好塩基球 (Baso): 0.0~2.0% 単球 (Mono): 0.0~8.0% リンパ球 (Lym): 18.0~59.0%	溶凍 凍結保存は避けてください。 ・ EDTA-2K 入り専用容器に採取してください。採取後、直ちに5回以上軽く転倒混和してください。 ・ 検体は採取後、当日中にご提出ください。 ・ 溶血、凝固および凍結検体は測定できません。 * (注) 幼若細胞または明らかな左方移動が認められた場合は、桿状核球及び分葉核球をご報告します。
	M314 0 赤血球形態							大小不同 (―) 奇形 (―) 多染性 (―) 有核 (―)	
	O853 4 (2A300) 鼻汁中好酸球	鼻汁塗抹 標本 2~3枚	t	室温	1~2	15 ※2	ライト染色による鏡検法	(―)	

①「好酸球数」及び「末梢血液像(自動機械法)」又は「末梢血液像(鏡検法)」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
(28600)	β-トロンボグロブリン (β-TG)	速やかに冷却 乏血小板 血漿 0.3	Q ↓ X	凍結 (1ヵ月)	2~6	176 ※2	EIA	50以下 (ng/mL)	検体採取方法は下記をご参照ください。
(28620)	血小板第4因子 (PF-4)	速やかに冷却 乏血小板 血漿 0.3	Q ↓ X	凍結 (1ヵ月)	2~6	178 ※2	EIA	20以下 (ng/mL)	
K593 3 (56530)	HIT抗体(血小板第4因子・ ヘパリン複合体抗体)	速やかに速心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結	2~6	390 ※5	ラテックス 比濁法	1.0未満 陰性 (U/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。血小板第4因子・ヘパリン複合体に対するHIT抗体(IgG・IgM・IgA)を測定しております。なお、検査結果はクロプリングス別での報告ではありません。

容器形態	検査項目	保存	採 取 方 法		注意事項																												
Q  (真空採血禁止) 抗血小板剤入り 内 容 テオフィリン アデノシン ジビルダモール クエン酸ナトリウム クエン酸 貯蔵方法 遮光・冷蔵 有効期間 1年	β-トロンボ グロブリン(β-TG)	凍結		あらかじめ専用容器(Q)を冷却しておいてください。	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。																												
				できるだけ20ゲージ(19~21ゲージでも可)の針を用いたプラスチック注射器で血液3.0mLを採取してください。(採血にあたって、専用容器(Q)を使用しての直接採血は絶対にしないでください。)	真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。																												
				針を取って静かに専用容器(Q)のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2~3回反転倒混和してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。専用容器は振とうさせないでください。																												
				専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。																												
	以上の操作を2分以内に行ってください。																																
血小板第4因子 (PF-4)		凍結		砕氷水に15~30分間放置後、採取血液を2,000Gで30分間、2~4℃で遠心分離してください。(右表は2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) * 遠心器回転数の計算式 $G=1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r: 遠心器のローター半径(cm) n: 1分間あたりの回転数(rpm)	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。																												
				上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取してください。血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。 (血漿の全量採取は避けてください。) 検体は必ず凍結保存してください。(1ヵ月安定)																													
換 算 表 <table><tr><th>半径 (cm)</th><th>回転数 (rpm)</th><th>半径 (cm)</th><th>回転数 (rpm)</th></tr><tr><td>10</td><td>4,200</td><td>22</td><td>2,800</td></tr><tr><td>12</td><td>3,800</td><td>24</td><td>2,700</td></tr><tr><td>14</td><td>3,500</td><td>26</td><td>2,600</td></tr><tr><td>16</td><td>3,300</td><td>28</td><td>2,500</td></tr><tr><td>18</td><td>3,100</td><td>30</td><td>2,400</td></tr><tr><td>20</td><td>3,000</td><td></td><td></td></tr></table>						半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)	10	4,200	22	2,800	12	3,800	24	2,700	14	3,500	26	2,600	16	3,300	28	2,500	18	3,100	30	2,400	20	3,000		
半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)																														
10	4,200	22	2,800																														
12	3,800	24	2,700																														
14	3,500	26	2,600																														
16	3,300	28	2,500																														
18	3,100	30	2,400																														
20	3,000																																

換 算 表			
半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)
10	4,200	22	2,800
12	3,800	24	2,700
14	3,500	26	2,600
16	3,300	28	2,500
18	3,100	30	2,400
20	3,000		

K1

p169

3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量1.8mL)
内容
3.2%クエン酸Na
0.2mL
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

t

p175

【オブジェクトケー
ス】
プレバート
(スライドグラス)
貯蔵方法 室温

血液学的検査

凝固系一般検査／凝固因子検査

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固系一般検査	K801 1 (2B030)	緊急 プロトロンビン時間 (PT)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結	1~2	18 ※2	凝固時間法	秒 10.5~13.5 (秒) % 70~130 (%) 比 設定せず	採血後、速やかに血漿分離してください。 抗凝固療法の治療管理指標である国際標準化比 (INR) もご報告いたします。
	0842 6 (2B020)	活性化部分 トロンボプラスチン時間 (APTT)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結	1~2	29 ※2	凝固時間法	24.3~36.0 (秒)	採血後、速やかに血漿分離してください。
凝固因子検査	0848 0 (2B100)	フィブリノーゲン (FIB)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結	1~2	23 ※2	トロンビン 凝固時間法	150~400 (mg/dL)	採血後、速やかに血漿分離してください。
	4104 1 (2B350)	第Ⅱ因子 (F2)	速やかに遠心 血漿 各0.4	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	223 ※2	凝固時間法	75~135 (%)	採血後、速やかに血漿分離してください。
	4105 0 (2B370)	第Ⅴ因子 (F5)					223 ※2		70~135 (%)	
	4107 8 (2B380)	第Ⅶ因子 (F7)					223 ※2		75~140 (%)	
	4108 7 (2B390)	第Ⅷ因子 (F8)					223 ※2		60~150 (%)	
	4109 6 (2B400)	凝固因子 活性検査 第Ⅸ因子 (F9)					223 ※2		70~130 (%)	
	4110 4 (2B410)	第Ⅹ因子 (F10)					223 ※2		75~145 (%)	
	4111 3 (2B420)	第ⅩⅠ因子 (F11)					223 ※2		50~150 (%)	
	4112 2 (2B430)	第ⅩⅡ因子 (F12)					223 ※2		70~140 (%)	
	4113 1 (2B440)	第ⅩⅢ因子 (F13)	速やかに遠心 血漿 0.4				223 ※2	合成基質法	70~140 (%)	
	4114 0 (2B460)	凝固抑制 因子検査 第Ⅷ(8) 因子	速やかに遠心 血漿 各1.0	L ↓ X	凍結	2~4	144 ※2	ヘセスダ法	検出せず (ヘセスダU/mL)	
	4115 9 (2B470)	第Ⅸ(9) 因子		X	凍結 (21日)		144 ※2			

&7

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固因子検査	(2B450) フォン・ウィルブランド因子 抗原定量	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	147 ※2	ラテックス 凝集反応	50~155 (%)	採血後、速やかに血漿分離してください。 &ヤ
	4117 7 (2B480) フォン・ウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結 (20日)	2~4	129 ※2	固定血小板 凝集法	60~170 (%)	
	8105 3 (2B490) フォン・ウィルブランド因子 マルチマー解析 2B490-0000-022-233	速やかに遠心 血漿 0.4	K1 ↓ X	凍結 (1ヵ月)	7~11		SDS アガロースゲル 電気泳動法	NORMALパターン	
凝固・線溶系検査	(2B260) プラスミノゲン	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結	2~4	100 ※2	発色性 合成基質法	75~125 (%)	採血後、速やかに血漿分離してください。 &ヤ
	(2B270) アンチプラスミン (α2プラスミンインヒビター)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結 (1ヵ月)	2~4	128 ※2	発色性 合成基質法	85~115 (%)	
	4122 1 (2B200) アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結 (1ヵ月)	2~4	70 ※2	発色性 合成基質法	79~121 (%)	
	4123 0 (5B045) C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼ インヒビター活性)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ↓ X	凍結 (16日)	2~4	260 ※5	発色性 合成基質法	70~130 (%)	
	(3M415) ヘパリン	速やかに遠心 血漿 0.3	K1 ↓ X	凍結 (1ヵ月)	4~8	① 108 ※3	発色性 合成基質法	(IU/mL)	新鮮尿を専用容器 (b2) に注入し、 よく混和後、3000rpm5~10分間 遠心分離してください。 &ヤ
	4099 8 (2B120) FDP定量	速やかに遠心 血漿 0.3	K1 ↓ X	凍結	2~4	80 ※2	ラテックス 免疫比濁法	4以下 (μg/mL)	
	4738 8 (2B120) FDP定量-尿	部分尿 0.5	b2 ↓ X	凍結 (21日)	2~6	72 ※1	LPJA	100以下 (ng/mL)	&ヤ
	0095 6 (2B110) 可溶性フィブリンモノマー 複合体(SFMC)	速やかに遠心 血漿 0.4	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	93 ※2	LPJA	7未満(μg/mL) 陰 性	採血後、速やかに血漿分離してください。 &ヤ
	8558 4 (2B110) フィブリンモノマー 複合体定量	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	② 221 ※2	ラテックス 免疫比濁法	6.1以下 (μg/mL)	&ヤ
	4132 0 (2B140) Dダイマー	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結 (21日)	1~2	130 ※2	ラテックス 免疫比濁法	1.0以下 (μg/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。 &ヤ
検査	4133 9 (2B280) α ₂ プラスミン インヒビター・ プラスミン複合体 (PICテスト)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	154 ※2	LPJA	0.8以下 (μg/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。 &ヤ
	A258 5 (2B210) トロンビン・アンチ トロンビンⅢ複合体(TAT)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	② 176 ※2	CLEIA	3.0以下 (ng/mL)	
	0176 6 (2B170) プロトロンビン フラグメントF1+2 2B170-0000-022-023	速やかに遠心 血漿 0.3	K1 ↓ X	凍結	2~5	② 192 ※2	ELISA	69~229 (pmol/L)	

- ① 同一の患者につき1月以内に該当検査を2回以上行った場合においては、算定は1回とし第1回目の測定を行ったときに算定する
 ② 「フィブリンモノマー複合体」、「TAT」、「プロトロンビンフラグメントF1+2」のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

b2
p159
抗プラスミン剤入り
内容
アプロチニン
精製ゼラチン
デヒドロ酢酸
ナトリウム
貯蔵方法 室温
有効期間 2年
(25本入り)
アルミパック
開封後1~2ヵ月

L
p171
3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量4.5mL)
3.2%クエン酸Na
0.5mL
貯蔵方法 室温
有効期間 1年(25本
入りプラスチック
ケース開封後1ヵ月)

K1
p169
3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量1.8mL)
内容
3.2%クエン酸Na
0.2mL
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

血液学的検査

凝固・線溶系検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固・線溶系検査	(28700) プロテインC(抗原量)	速やかに遠心 血漿 0.3	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~5	232 ※2	LPPIA	70~150 (%)	採血後、速やかに血漿分離してください。
	4139 3 (28700) プロテインC活性	速やかに遠心 血漿 0.4	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	234 ※2	凝固時間法	64~146 (%)	&ヤ
	8540 3 (28710) プロテインS(抗原量)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	158 ※2	ラテックス凝集反応	M 73~137 F 59~143 (%)	採血後、速やかに血漿分離してください。測定対象はトータル(遊離型および複合型)です。
	4152 8 (28710) プロテインS活性	速やかに遠心 血漿 0.4	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	163 ※2	凝固時間法	M 67~164 F 56~126 (%)	採血後、速やかに血漿分離してください。
	9767 1 (28711) プロテインS (遊離型抗原量)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~6	158 ※2	ラテックス凝集反応	M 50~131 F 49~133 (%)	&ヤ
	(28310) トータルPAI-1 (tPA・PAI-1複合体)	速やかに冷却 遠心 血漿 0.5	K1 ↓ X	凍結 (21日)	2~5	240 ※2	LPPIA	50以下 (ng/mL)	採血後、速やかに低温(4℃)で血漿分離してください。室温遠心や専用容器(L)での採血はデータが高値となるため避けてください。速やかに分離できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に血漿分離してください。測定対象はトータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体および活性型、潜在型PAI-1)です。
	(36090) ビタミンK分画	速やかに遠心 血漿 2.0	L ↓ i	凍結 (17日) 遮光	3~9		HPLC	ビタミンK1 0.15~1.25 ビタミンK2(MK-4) 0.10以下 (ng/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。血漿は必ず遮光ポリスビッツ(i)で凍結してご提出ください。
	A865 1 (28730) トロンボモジュリン	血清 0.4	01 ↓ X	凍結 (21日)	2~4	204 ※2	CLEIA	12.1~24.9 (U/mL)	&ヤ
	A866 0	速やかに遠心 血漿 0.4	K1 ↓ X					8.7~22.7 (U/mL)	凝固検体取り扱いについては、170ページ検体の取り扱い方法をご参照ください。
	4158 2 (5G500) ループスアンチ コアグラント	速やかに遠心 血漿 各1.0	L ↓ X	凍結 (21日)	2~4	273 ※5	APTT 凝固時間法	46.5以下 (秒)	採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、パフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小版の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。
	A049 7 (5G500)						リン脂質中和法	1.16以下	※遠心器回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r: 遠心器のローター半径 (cm) n: 1分間あたりの回転数 (rpm)
	4167 2 (5G501)			凍結 (21日)	2~4		希釈ラッセル 蛇毒時間法	1.2以下	&ヤ

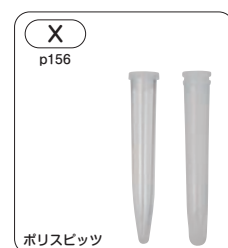


	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
尿一般検査		尿一般定性検査 pH, 蛋白, 糖, ウロ ビリノーゲン, ビリル ビン, ケトン体, 潜血, 比重(部分尿)	部分尿 10	X	冷蔵	1~2		下記 各項目の検査 方法欄をご参 照下さい。	下記 各項目の基準値欄 をご参照下さい。	
	1001 8 (1A035)	pH	部分尿 10	X	冷蔵	1~2	①	試験紙法	5.0~7.5	凍結保存は避けてください。
	1003 6 (1A010)	蛋白							(-)	
	1004 5 (1A020)	糖							(-)	
	1005 4 (1A040)	ウロビリノーゲン							(±)	
	1007 2 (1A055)	ビリルビン							(-)	
	1008 1 (1A060)	ケトン体							(-)	
	1006 3 (1A100)	潜血							(-)	
	1002 7 (1A030)	比重(部分尿)							1.005~1.030	
尿沈渣検査	1115 2 (1A105)	尿沈渣	部分尿 10	X	冷蔵	1~2	①	フローサイト メトリー 又は 鏡検法	赤血球:4個以下 白血球:4個以下 (/HPF)	凍結保存は避けてください。 (JCCLS GP1-P4「尿沈渣検査法」 準拠) 採尿後、当日中にご提出ください。 凍結検体は測定できません。 ・HPF (HF)は強拡大視野 (400倍) にて鏡検
	L138 7 (1A015)	尿蛋白定量	蓄尿 1	X	冷蔵	1~2	7 ※1	ピロガロール レッド法	31.2~120.0 (mg/day)	
	1011 7 (1A015)		部分尿 1	X					10以下 (mg/dL)	
	L139 6 (1A025)	尿糖定量	蓄尿 1	X	冷蔵	1~2	9 ※1	電極法	40~85 (mg/day)	
	1012 6 (1A025)		部分尿 1	X					20以下 (mg/dL)	

①★当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。(尿中一般検査26点, 尿沈渣(鏡検法)27点, フローサイトメトリー法24点)

採尿にあたっての注意事項

- ・採尿時は、早朝尿かつ中間尿が適しています。
- ・採尿前に尿道口を清拭することが望ましい。



一般検査

糞便検査

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
1043 2 (1B025)	虫卵(セロテープ)	粘着標本	セロ テープ	室温	1~2	20 ※1	セロテープ法	(-)	凍結保存は避けてください。
1050 4	便中 1日目	糞便	d5	冷蔵	1~2	37 ※1	ラテックス 凝集法	(一)	凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。
1051 3	ヘモグロビン 2日目								
1052 2	定性 3日目								
E776 6	便中ヘモグロビン及び トランスフェリン 1B042-0000-015-064	糞便	d8	冷蔵	2~4	56 ※1	金コロイド法	ヘモグロビン 100未満 トランスフェリン 50未満 (ng/mL)	凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。 2回法依頼時は1回目=ピンク色, 2 回目=黄色ラベル容器を使用してく ださい。
E767 6	便中ヘモグロビン及び トランスフェリン (1回目) 1B042-1301-015-064								
E770 2	便中ヘモグロビン及び トランスフェリン (2回目) 1B042-1302-015-064								
0670 7	便中ヘモグロビン定性 (金コロイド法) 1B040-1351-015-064	糞便	d8	冷蔵	2~4	37 ※1	金コロイド法	陰性	凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出くだ さい。 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出くだ さい。 2回法依頼時は1回目=ピンク色, 2 回目=黄色ラベル容器を使用してく ださい。
0671 6	便中ヘモグロビン 定性(金コロイド法) 1回目 1B040-1301-015-064								
0672 5	便中ヘモグロビン 定性(金コロイド法) 2回目 1B040-1302-015-064								
0667 1	便中ヘモグロビン定量 (金コロイド法) 1B040-1352-015-064	糞便	d8	冷蔵	2~4	41 ※1	金コロイド法	100未満 (ng/mL)	凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出くだ さい。 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出くだ さい。 2回法依頼時は1回目=ピンク色, 2 回目=黄色ラベル容器を使用してく ださい。
0668 0	便中ヘモグロビン 定量(金コロイド法) 1回目 1B040-1301-015-064								
0669 9	便中ヘモグロビン 定量(金コロイド法) 2回目 1B040-1302-015-064								



	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
髄 液 検 査	5906 0	髄液一般検査 外見, 比重, 反応 細胞数, 細胞種類	髄液 5~10	X	冷蔵	1~2	62 ※1	下記 各項目の検査 方法欄をご参 照ください。	下記 各項目の基準値欄 をご参照ください。	凍結保存は避けてください。
	L151 2 (1C055)	外見 (キサントクロミー)	髄液 5~10	X	冷蔵	1~2	62 ※1	肉眼的観察	(-)	
	L152 1 (1C020)	比重						屈折計法	1.005~1.007	
	L153 0 (1C025)	反応(pH)						pH試験紙法	7.0~7.5	
	M019 8 (1C030)	細胞数						視算法F-R計 算板法	0/3~15/3 (/mm ³)	
	1065 8 (1C035)	細胞種類					11 ※3	鏡検法		
	M014 3 (1C010)	蛋白定量						ピロガロール レッド法	10.0~40.0 (mg/dL)	
	1069 4 (1C015)	糖定量						電極法	50.0~75.0 (mg/dL)	
	1070 2 (1C060)	クロール定量					11 ※3	電極法	120~125 (mEq/L)	
精 液 検 査		精液一般検査 反応, 精子数, 奇形精子率	精液 0.5	X	常温	1~2	70 ※1	下記 各項目の検査 方法欄をご参 照ください。	下記 各項目の基準値欄 をご参照ください。	凍結保存は避けてください。 遠隔地不可。 避妊具での提出不可。
	1091 9 (1Z610)	反応(pH)	精液 0.3	X	常温	1~2	70 ※1	pH試験紙法	pH 7.0~8.0	
	1092 8 (1C615)	精子数	精液 0.3					視算法	5000万以上 (/mL)	
	1093 7 (1C620)	奇形精子率	精液 0.3					鏡検法	15以下 (%)	
	1094 6	運動率	精液 0.3				70 ※1	鏡検法	(%)	
そ の 他	0090	関節液検査	関節液 10.0	X	冷蔵	3~6		鏡検法		凍結保存は避けてください。受託可 能日は月~金曜日です。ただし、祝 祭日の前日は受託不可です。検体は 採取後、当日中にご提出ください。 測定項目：尿酸ナトリウム結晶。ピ ロリン酸カルシウム結晶。コレステ ロール結晶

微生物学的検査

専用輸送容器・輸送培地一覧／目的菌

専用容器		材料	喀痰	咽頭・鼻腔・口腔分泌物	糞便	胆汁・胃液	尿	尿道分泌物	子宮・膈分泌物	精液	胸水・腹水・関節液・穿刺液	髄液	血液	膿（開放性・非開放性）	耳分泌物	眼分泌物	皮膚・爪	環境検査	胃生検組織
輸送容器	② 滅菌喀痰採取容器 貯蔵方法 室温		●																
	U1 キャリーブリア採便管 貯蔵方法 室温 有効期間：6カ月				●														
	U 糞便容器 (CDトキシノA) 貯蔵方法 室温				●														
	r1 滅菌ポリスピッツ 貯蔵方法 室温					●	●			●	●	●		●			●		
輸送培地	k カルチャースワブプラス（フィルム/フィルム） キャリーブリア培地5mL 貯蔵方法 室温 有効期間：1年8カ月			●	●			●	●	●				●	●	●		●	
	k1 カルチャースワブプラスミニチップチャコール 変法アミース培地5mL 貯蔵方法 室温 有効期間：1年8カ月			●											●				
	m1 カルチャーボトル（ゴールドラベル） （嫌気性菌用） トリプトソイ培地25mL 貯蔵方法 室温 有効期間：1年												●						
	q1 カルチャーボトル（シルバーラベル） （好気性菌用） トリプトソイ培地30mL 貯蔵方法 室温 有効期間：9カ月												●						
	n 嫌気ポーター 寒天培地1.2mL ブドウ糖 CO ₂ ガス充填 貯蔵方法 室温 有効期間：2年		●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●			
	n2 ヘリコバクター培養同定 (シードチューブHP) 貯蔵方法 冷蔵 有効期間：3カ月																		●

微生物学的検査

目的菌

目的菌名	目的菌名	目的菌名	目的菌名	目的菌名	備 考(全目的菌共通)		
A群溶連菌	サルモネラ菌 (腸チフス・パラチフス菌を含む)	淋菌	室温	髄膜炎菌	室温	カンピロバクター	●目的菌のみのご依頼はできません。一般細菌培養同定も同時に依頼ください。 ●クロストリジオイデスディフィシル・クロストリジウム・パーフリゲンスは嫌気性培養を同時に依頼ください。便の嫌気性培養で目的菌のご依頼がない場合はクロストリジオイデスディフィシルを対象として検査します。 ●病原大腸菌は、培養同定(便)と同時に依頼ください。 (注)チェックがない場合は検査を実施いたしませんのでご注意ください。 ●MRSAは薬剤感受性の結果から判定されます。薬剤感受性のご依頼がない場合、スクリーニング培地の結果から判定しますので、より確実な判定のため薬剤感受性検査の同時依頼をお勧めします。 ●百日咳菌、レジオネラなどはチェックをいただいた場合のみ検査を実施いたします。 ●目的菌の指定は5項目まででお願いします。それ以上のご依頼は、報告書には反映できません。
C.パーフリゲンス(嫌)	肺炎球菌	赤痢菌		カンジダ		クリプトコッカス	
C.ディフィシル(嫌)	セレウス菌	ヘモフィルス インフルエンザ		コレラ菌		B群溶連菌(GBS)	
アスペルギルス	チフス菌	エルシニア		緑膿菌		腸炎ビブリオ	
トリコモナス	室温	パラチフス菌		レジオネラ菌		MRSA	
ウレアプラズマ(泌)						ウレアプラズマ(泌)	
マイコプラズマ(泌)	黄色ブドウ球菌	O-157		百日咳菌			

	項目コード (統一コード)	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備 考
一般細菌特殊検査	5010396	ヘリコバクター培養 同定	胃生検組織	C20	冷蔵	培養同定	① 194 ※6	9～11	採取法は167ページ参照 &1
	50104A1	ヘリコバクター感受性 検査				寒天平板 希釈法	180 ※6	14～20	薬剤名：アモキシシリン、クラリス ロマイシン、メトロニダゾール &1
	50118A4	CDトキシン(GDH)	便1.0g	F00	冷蔵	イムノクロマ ト法	80 ※5	2～4	単独の検体にてご依頼ください。 凍結保存は避けてください。 &1

①「大腸菌O157抗原定性」、「大腸菌O157抗体定性」、「消化管からの検体によるもの」を複数測定した場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備 考
大腸菌 素関連 連毒	50097A1	大腸菌ベロトキシン	菌株	—	室温	RPLA	①② 189 ※6	3～6	下痢原性大腸菌検出時の追加時には、 最寄りの営業所・営業拠点までご連絡 ください。 &1

①「細菌培養同定検査」により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。

②細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる
場合に限り、「細菌培養同定検査」を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

※当社で検出された大腸菌に追加した場合の所要日数です。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備 考
黄色ブドウ球菌関連	50098A1	コアグラゼ型別	菌株	—	室温	中和反応		4～6	純培養された黄色ブドウ球菌をご提出 ください。 &1
	50099A1	エンテロトキシン型別	菌株			RPLA		4～6	
	50116A1	TSST-1産生	菌株					4～6	

	項目コード (統一コード)	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備 考
環境検査	50105A1	院内環境(ふきとり法)	環境材料	VS1	冷蔵	培養同定		4～8	採取法は167ページ参照 &1
	50121A1	院内環境(スタンプ法)		C30	室温			4～8	

※院内環境検査は、MRSAを含むブドウ球菌、腸内細菌、緑膿菌、酵母様真菌、糸状菌等の一般細菌を目的として検査します。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備 考
スクリーニング検査	5009696	O157スクリーニング	便	VS1	冷蔵	培養同定		4～6	病院内、施設内職員（健常者）のスク リーニング検査としてご依頼くだ さい。 &1
	5009596	MRSAスクリーニング	咽頭ぬぐい液、 鼻腔など	VS1 VS2				3～5	

便検診検査		検査材料		容器	保存	検査方法		実施料 / 判断量		所要日数	備考		
		便		U1	冷蔵	培養同定		該当しない		4～6	職員等（健常者）のスクリーニング検査としてご依頼ください		
		対 象 菌 種 種											
項目コード	検査項目	赤痢	サルモネラ	下痢原性大腸菌	O157	腸炎ヒフリオ	腸チフス	パラチフス	コレラ	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター	ビブリオ	エルシニア
5013196	便検診2菌種	○	○										
5013296	便検診3菌種-1	○	○	○									
5013396	便検診3菌種-2	○	○		○								
5013496	便検診3菌種-3	○	○			○							
5014196	便検診3菌種-4	○	○									○	
5013596	便検診4菌種-1	○					○	○	○				
5013696	便検診4菌種-2	○	○	○		○							
5013796	便検診4菌種-3	○	○		○	○							
5013896	便検診4菌種-4	○	○	○						○			
5014296	便検診4菌種-5	○	○		○							○	
5014396	便検診4菌種-6	○	○	○								○	
5013996	便検診5菌種-1	○	○		○		○	○					
5014096	便検診5菌種-2	○	○		○	○					○		
5014496	便検診6菌種-1	○	○		○	○					○		○

微生物学的検査

一般細菌／抗酸菌

項目 コード	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考		
一般細菌	5000995	塗抹鏡検	口腔、気 道または 呼吸器か らの検体	喀痰咽 頭ぬぐ い液	117 ページ 参照 冷蔵	グラム染色	① 64 ※ 6	2～4	必ず培養同定と同時に ご依頼ください。 ☆ &1	
	5000296	培養同定				培養同定および MALDI-TOF-MS	②③ 170 ※ 6	3～6		&1
	5001596	嫌気性培養				嫌気培養同定および MALDI-TOF-MS	④ 122 ※ 6	6～14		必ず培養同定と同時に ご依頼ください。 ☆ &1
	50020A1	感受性検査				微量液体希釈法 ディスク拡散法	⑤ 5	3～6		
	5001095	塗抹鏡検	消化管 からの 検体	糞便 胆汁 胃液		グラム染色	① 64 ※ 6	2～4	便での塗抹鏡検は実施 しておりません。 &1	
	500396	培養同定				培養同定および MALDI-TOF-MS	②③ 190 ※ 6	3～6	&1	
	5001696	嫌気性培養				嫌気培養同定および MALDI-TOF-MS	④ 122 ※ 6	6～14	必ず培養同定と同時に ご依頼ください。 ☆ &1	
	50023A1	感受性検査				微量液体希釈法 ディスク拡散法	⑤ 5	3～6		&1
	5001195	塗抹鏡検	泌尿器 または 生殖器の 検体	中間尿 カテー テル尿 腔分泌 物膿		グラム染色	① 64 ※ 6	2～4		&1
	5000496	培養同定				培養同定および MALDI-TOF-MS	②③ 180 ※ 6	3～6		目的菌が淋菌の場合 は室温保存してくだ さい。 &1
	5001796	嫌気性培養				嫌気培養同定および MALDI-TOF-MS	④ 122 ※ 6	6～14	必ず培養同定同時に ご依頼ください。 ☆ &1	
	50026A1	感受性検査				微量液体希釈法 ディスク拡散法	⑤ 5	3～6		&1
	5000196	尿中生細菌数定量	標準白金耳法	②③ 60 ※ 6		3～5	尿以外の材料では 実施しておりませ ん。 (単位:CFU/mL) &1			
	5001295	塗抹鏡検	血液ま たは穿 刺液	静脈血 動脈血 髄液 胸水 腹水 関節液		グラム染色	① 64 ※ 6	2～4		髄液は室温保存し てください。 血液はカルチャー ボトルに入れ室温 保存し てください。 &1
	5000596	培養同定				培養同定および MALDI-TOF-MS	②③⑥ 220 ※ 6	3～10	必ず培養同定同時に ご依頼ください。 ☆ &1	
	5001896	嫌気性培養				嫌気培養同定および MALDI-TOF-MS	④ 122 ※ 6	6～14		&1
	50029A1	感受性検査				微量液体希釈法 ディスク拡散法	⑤ 5	3～10		&1
	5001395	塗抹鏡検	その他 の部位 からの 検体	耳漏 眼脂 皮膚 爪 組織 膿		グラム染色	① 64 ※ 6	2～4		&1
	5000696	培養同定				培養同定および MALDI-TOF-MS	②③ 170 ※ 6	3～6	&1	
	5001996	嫌気性培養				嫌気培養同定および MALDI-TOF-MS	④ 122 ※ 6	6～14	必ず培養同定同時に ご依頼ください。 ☆ &1	
50032A1	感受性検査	微量液体希釈法 ディスク拡散法				⑤ 5	3～6	&1		

- ①尿沈渣と一般細菌塗抹鏡検を同一日に併せて算定する場合は、検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。尿沈渣と一般細菌塗抹鏡検を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
- ②検体ごとに所定点数を算定できるが、同一検体を用いて簡易培養を併せて行った場合は、簡易培養は算定できない。症状等から同一起因菌によるかと判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数ヶ所から検体を採取した場合は主たる部位又は一ヶ所のみの所定点数を算定する。
- ③各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合も含む。
- ④同一検体について、培養同定と併せて嫌気培養を行った場合は、122点を加算する。
- ⑤1菌種180点※6、2菌種230点※6、3菌種以上290点※6
- ⑥血液を2か所以上から採取した場合に限り、培養同定の血液又は穿刺液を2回算定できる。
- ☆感受性薬剤は、委託先であるエスアールエルセントラルラボラトリー標準の薬剤にて実施します。
- 注)ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

微生物学的検査

項目 コード	検査項目	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考	
抗 酸 菌	5008997 緊急抗酸菌塗抹 (集菌蛍光法)	咯痰、気管支洗浄液、胃液、中間尿、胸水などの検体（上記以外はお問い合わせください。）	117 ページ参照		集菌蛍光法	① 50+35 ※ 6	2～4	蛍光法で発光する細菌を認めた場合は、チールネルゼン法にて抗酸性・形態の確認を実施します。 &1 陽性の場合は、随時報告します。陰性の場合は、3週で中間報告します。 &1 4週、6週で中間報告します。 &1	
	50087A1 緊急抗酸菌				液体法	酸素感受性蛍光センサー法	② 300 ※ 6		～6週
	50088A1 分離培養				小川法	変法小川法	② 209 ※ 6		4～8週
	50327A1 抗酸菌同定〔質量分析〕					MALDI-TOF-MS	367 ※ 6		2～5*
	5009493 結核菌群抗原	培養陽性菌株または菌株（菌株に対して行う検査です。生材料から直接検査できません。）	117 ページ参照	冷蔵	イムノクロマト法	291 ※ 5	2～4	&1	
	50083A1 抗酸菌感受性検査〔間接法〕				一濃度比率法	400 ※ 6	2～4週*	SM, EB, KM, INH, RFP, LVFX, TH, PAS, EVM, CS を実施します。検査結果はカテゴリー（S: 感受性 R: 耐性）を報告します。 &1 SM, EB, KM, INH, RFP, LVFX, CPFX, RBT を実施します。検査結果はカテゴリー MIC 値を報告します。（対象菌種 :Mycobacterium tuberculosis）&1 SM, EB, KM, REP, LVFX, CAM, TH, AMK, RBT を実施します。検査結果は MIC 値を報告します。（対象菌種 :迅速発育菌を除く非結核性抗酸菌）&1	
	50092A1 結核菌感受性（MIC）☆				微量液体希釈法	400 ※ 6	2～3週*		
	50093A1 抗酸菌感受性（MIC）☆					400 ※ 6			
	50323A1 緊急結核菌群核酸同定〔TRC〕				略痰、気管支洗浄液、胃液、中間尿、胸水などの検体（上記以外はお問い合わせください。）	410 ※ 6	2～4		
	50324A1 緊急 MAC 核酸同定〔TRC〕		③ 421 ※ 6						

- ①集菌塗抹法を行った場合は、集菌塗抹法加算として、35点を所定点数に加算する。
- ②抗酸菌分離培養検査は、検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を加算する。
- ★[50087A1]緊急抗酸菌分離培養(液体法)からの検査の場合は、平板培地増菌後に実施するため日数がさらにかかります。(+3～7日)
- ☆[50092A1]結核菌感受性(MIC)と[50093A1]抗酸菌感受性(MIC)は同時にご依頼いただけません。
- ③他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。
「抗酸菌同定」と併せて実施された場合にあつては、主たるもののみ算定する。
- 注)ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

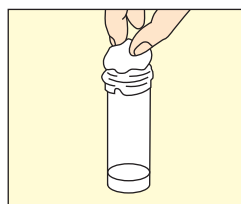
分類 (由来)	材料	容器	採取方法
口腔・ 気道・ 呼吸器	喀痰	㊸滅菌喀痰採取容器	可能な限り上気道・口腔内常在菌に汚染されないように滅菌喀痰容器に採取し、直ちに冷蔵保存してください。(患者に十分説明し、うがいにより洗浄後、咳によって深部から喀出され、かつ唾液混入の少ない喀痰を採取してください。)
	咽頭ぬぐい液	㊸カルチャースwab プラス (フィルム/フィルム)	カルチャースwab プラス(フィルム/フィルム)の綿棒で咽頭をこすって、粘液を採取し、直ちに付属のアミーズ培地に無菌的に入れ、速やかに冷蔵保存してください。
消化器	便	㊸カルチャースwab プラス (フィルム/フィルム) または ㊸キャリープレア採便管	カルチャースwab プラス(フィルム/フィルム)またはキャリープレア採便管を用い適量の便を採取し付属のキャリープレア培地に無菌的に入れてください。 ・嫌気性菌の検出には、拇指頭大の便を採取し、嫌気ポーターを使用してください。 ・便での塗抹鏡検は実施しておりません。
	胆汁(A・B・C) 胃液 十二指腸液	㊸嫌気ポーター	5~10mLのサンプルを無菌的に採取し、嫌気ポーターに速やかに注入し、直ちに冷蔵保存してください。
	部分尿 尿管カテーテル 膀胱カテーテル	㊸滅菌ポリスピッツ	5~10mLのサンプルを無菌的に採取し、滅菌ポリスピッツに入れ直ちに冷蔵保存してください。また、淋菌とトリコモナスの検索を目的とする場合は室温保存してください。
泌尿器 ・ 生殖器	前立腺液 陰分泌液 膿	㊸カルチャースwab プラス (フィルム/フィルム)	カルチャースwab プラス(フィルム/フィルム)の綿棒で適量を採取し、付属のキャリープレア培地に入れ、直ちに冷蔵保存してください。また、淋菌とトリコモナスの検索を目的とする場合は室温保存してください。
	動脈血 静脈血	㊸㊸㊸カルチャーボトル	カルチャーボトル好気性菌用、嫌気性菌用の2本に各3~10mL(最適8~10mL)の血液を無菌的に注入し、緩やかに転倒混和し、室温保存してください。フラン器での保存は検査結果に影響を与えます。
血液 ・ 穿刺液	髄液 腰椎穿刺液	㊸嫌気ポーター	3~5mLのサンプルを無菌的に採取し、嫌気ポーターに速やかに注入し、室温保存してください。
	胸水 関節液 腹水	㊸嫌気ポーター	5~10mLのサンプルを無菌的に採取し、嫌気ポーターに速やかに注入し、直ちに冷蔵保存してください。
	耳漏	㊸㊸カルチャースwab プラス ミニチップチャコール	カルチャースwab プラスミニチップチャコールの綿棒で適量を無菌的に採取し、付属のアミーズ培地に入れ、直ちに冷蔵保存してください。
その他	組織 膿	㊸嫌気ポーター	各サンプルを綿棒で無菌的に採取し、嫌気ポーターに速やかに入れ、直ちに冷蔵保存してください。
	材料	容器	採取方法
抗酸菌	喀痰	㊸滅菌喀痰採取容器	可能な限り上気道・口腔内常在菌に汚染されないように滅菌喀痰容器に採取し、直ちに冷蔵保存してください。(患者に十分説明し、うがいにより洗浄後、咳によって深部から喀出され、かつ唾液成分の少ない喀痰を採取してください。)
	便	㊸滅菌ポリスピッツ	適量を無菌的に採取し、滅菌ポリスピッツに入れ、直ちに冷蔵保存してください。 ・便の塗抹鏡検は実施しておりません。
	胸水 腹水 関節液	㊸滅菌ポリスピッツ	各サンプルを無菌的に採取し、滅菌ポリスピッツに入れ、直ちに冷蔵保存してください。 ・一般細菌を同時に依頼される場合は嫌気ポーターをご使用ください。
	部分尿	㊸滅菌ポリスピッツ	5~10mLのサンプルを無菌的に採取し、滅菌ポリスピッツに入れ、直ちに冷蔵保存してください。
核酸同 定検査	喀痰	㊸滅菌喀痰採取容器	核酸同定検査ではコンタミネーションの影響が大きくなりますので検体採取にあたっては、取扱いに十分ご注意ください。可能な限り上気道・口腔内常在菌に汚染されないよう滅菌喀痰容器に採取し、直ちに冷蔵保存してください。

微生物学的検査

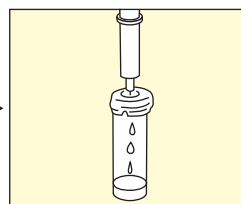
標準薬剤パターン

嫌気ポーターの取り扱い方法

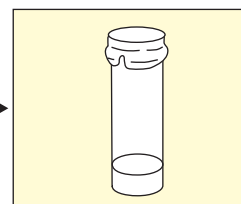
① 液状検体の場合（胸水、腹水、尿、穿刺液など）



消毒用アルコール綿などを用いて穿刺部を消毒する。



消毒液が完全に乾燥してから注射針を刺し、検体を注入する。

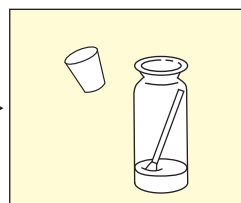


冷蔵保存する。

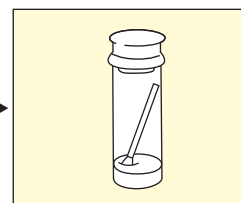
② 固形状検体の場合（便、膿、組織など）



容器は立てたまの状態で注意深くゴムキャップを外す。
（無風状態が理想）



速やかに（5秒以内）検体を入れる。



直ちにゴムキャップをかぶせて栓をする。

標準薬剤パターン

抗菌剤			菌群												
系統名	略号	一般名	ブドウ球菌	グラム陽性桿菌	モラクセラ	肺炎球菌	連鎖球菌	腸球菌	ヘモフィルス	グラム陰性桿菌	緑膿菌	カンピロバクター	ビブリオ	嫌気性菌	淋菌
ペニシリン系 (penicillins)	PCG	ベンジルペニシリン	●	●		●	●	●						●	○
	MPIPC	オキサシリン	●												
	ABPC	アンピシリン	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	
	PIPC	ピペラシリン								●	●		●	●	
セフェム系 (cephems)	CEZ	セファゾリン	●	●						●					
	CTM	セフォチアム	●	●	●	●	●		●	●				●	
	CTX	セフォタキシム		●	●	●	●		●	●					
	CAZ	セフトアジウム								●	●		●		
	CTR	セフトリアキソン				●	●		●						○
	CPR	セフピロム								●					
	CZOP	セフォゾラン				●	●				●				
	CFPM	セフェピム				●	●		●		●				
	CMZ	セフメタゾール								●				●	
	CCL	セファクロル			●				●	●					○
	CFIX	セフィキシム													
	CPDX-PR	セフトロキシム-プロキセチル								●					
	CDTR-PI	セフトロキシム-ピボキシル			●	●	●		●						
	FMOX	フロモキシム	●							●				●	
カルバペネム系 (carbapenems)	IPM/CS	イミペネム/シラスタチン	●	●	●			●		●	●	●	●	●	
	MEPM	メロペネム				●	●		●	●	●				
モノバクタム系 (monobactams)	AZT	アストレオナム								●	●				
β-ラクタマーゼ阻害剤 (β-lactamase inhibitors)	CVA/AMPC	クラバン酸/アモキシシリン			●	●			●	●			●		
	SBT/ABPC	スルバクタム/アンピシリン	●	●										●	
	SBT/CPZ	スルバクタム/セフトラキソン								●	●				
	TAZ/PIPC	タゾバクタム/ピペラシリン								●	●				
アミノグリコシド系 (aminoglycosides)	GM	ゲンタマイシン	●	●						●	●	●	●		
	AMK	アミカシン			●					●	●				
	TOB	トブラマイシン									●				
	ABK	アルベカシン	●												
	SPCM	スペクチノマイシン													○
マクロライド系 (macrolides)	CAM	クラリスロマイシン							●						
	EM	エリスロマイシン	●	●	●	●	●	●				●			
	AZM	アジスロマイシン				●	●								
テトラサイクリン系 (tetracyclines)	MINO	ミノサイクリン	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●	
リンコマイシン系 (lincosamides)	TC	テトラサイクリン			●				●				●		○
	CLDM	クリンダマイシン	●	●		●	●							●	
その他の系 (others)	CP	クロラムフェニコール			●	●	●		●			●	●	●	
	VCM	バンコマイシン	●					●						▲	
	TEIC	テコブラニン	●					●							
	FOM	ホスホマイシン	●					●		●	●	●	●	●	
	LVFX	レボフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	CPFX	シプロフロキサシン							●	●	●	●			○
	ST	スルファメトキサゾール/トリメトプリム	●			●				●	●		●		

▲: VCMはC. difficile 検出時報告いたします。

- 検出された菌種(群)によって、効力の高い薬剤の組み合わせが検査されます。
- 上記一覧の菌種(群)に該当しない場合は、当社にて薬剤の選定をさせていただきます。
- 検出された菌種によっては、標準薬剤パターンで検査できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ▲: VCMは C. difficile 検出時報告します。

- : 淋菌はディスク拡散法を用いて検査します。
 - 常在細菌 (Normal flora) の感受性検査は実施しておりません。
 - 感受性検査の報告は下記カテゴリーにて報告します。
- S: 感性 (Susceptible)
I: 中間 (Intermediate)
R: 耐性 (Resistant)

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
抗 て ん か ん 剤	0061 3 (3L175)	緊急 フェノバルビタール	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	10~40 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	フェノバル、 ワコピタール、 ルミナール ③
	4066 4 (3L175)		血漿 0.5	G ↓ X							
	3802 7 (3L190)	緊急 プリミドン	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	5.0~12.0 ($\mu\text{g/mL}$)		プリミドン、 プリムロン ③
	(3L190)		血漿 0.3	G ↓ X							
	0063 1 (3L185)	緊急 フェニトイン	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	10.0~20.0 ($\mu\text{g/mL}$)	経口： 次回投与直前 (Trough濃度) 静注： 投与後 2~4時間	アレビアチン、 ヒダントール、 ジフェニルヒダントイン ③
	(3L185)		血漿 0.5	G ↓ X							
	0064 0 (3L115)	緊急 カルバマゼピン	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	4~12 ($\mu\text{g/mL}$)		デグレトール、 テレスミン、 レキシシン ③
	(3L115)		血漿 0.5	G ↓ X							
	3809 0 (3L135)	緊急 エトスクシミド	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	40.0~100.0 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	ザロンチン、 エピレオプチマル ③
	(3L135)		血漿 0.5	G ↓ X							
	0066 8 (3L195)	緊急 バルプロ酸	血清 0.2	02 ↓ X	冷蔵	1~2	① 特	酵素法	50~100 ($\mu\text{g/mL}$)		デパケン、 セレニカ R、 バレリン、 ハイセレン ③

①: 特定薬剤治療管理料 (126ページ参照)

① 投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血することをお勧めします。

薬物検査

抗てんかん剤

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
抗 て ん か ん 剤	A257 6 (3L210)	ゾニサミド	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① (特)	ラテックス凝集法	10~30 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	エクセグラン &3
	(3L205)	トリメタジオン	血清 0.5	02 ↓ X	凍結 (12日)	7~13	① (特)	LC-MS/MS	300~500 ($\mu\text{g/mL}$)		ミノアレ (活性代謝物であるジメ タジオンを測定) &M
	3814 4 (3L125)	クロナゼパム	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① (特)	LC/MS/MS	20~70 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	リボトリール, ランドセン &ヤ
	3815 3 (3L165)	ニトラゼパム	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① (特)	LC/MS/MS	20~200 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	ベンザリン, ネルボン &ヤ
	3816 2 (3L130)	ジアゼパム	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① (特)	HPLC	ジアゼパム 600~1000 (ng/mL)	ただし、抗て んかん剤とし て用いる場合	N-デスメチルジアゼ パムも同時報告いたし ます。 セルシン, ホリゾン, ジアバックス &ヤ
	3085 4 (3L145)	クロバザム	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① (特)	LC/MS/MS	(ng/mL)		デスメチルクロバザム も同時報告いたしま す。 マイスタン &ヤ
	K598 8 (3L230)	レベチラセタム	血漿 (ヘパリン加) 0.3	G ↓ X	冷蔵 (21日)	3~5	① (特)	LC/MS/MS	12~46 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	イーケブラ &ヤ
	K599 7 (3L225)	トピラマート	血漿 (ヘパリン加) 0.3	G ↓ X	冷蔵 (21日)	3~5	① (特)	LC/MS/MS	5~20 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	トピナ &ヤ
	K218 9 (3L220)	ラモトリギン	血漿 0.3	G ↓ X	冷蔵	3~5	① (特)	LC/MS/MS	2.5~15 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	ラミクタール &ヤ
	E948 5 (3L215)	ガバペンチン	血漿 0.3	G ↓ X	冷蔵	3~5	① (特)	LC/MS/MS	($\mu\text{g/mL}$)		ガバペン錠 &ヤ
剤	(3L950)	アセタゾラミド	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~9	① (特)	HPLC	($\mu\text{g/mL}$)		ダイアモックス &ヤ
	A231 4	ラコサミド	血漿 0.3	G ↓ X	冷蔵 (28日)	3~5	① (特)	LC/MS/MS	($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	ビムパット &ヤ

①: 特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

① 投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血することをお勧めします。



	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
精神神経用剤	3807.2 (3L320)	緊急 リチウム	血清 0.5	02 ↓ Z	冷蔵	2~4	① (特)	比色法	治療濃度範囲 0.3~1.2 (mEq/L)	最終投与後 12時間または 早朝投与前 (Trough濃度)	リーマス, リチオマール &③
	3818.0 (3L300)	ハロペリドール	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① (特)	金コロイド 凝集法	3~17 (ng/mL)	随時(ただし、 採血時刻を 一定とする)	ハロペリドール・プロ ムペリドールは、ほぼ 同等の交差反応を示す ため、双方を併用され ている 患者検体の測定値は、 各々の正確な血中濃度 値とは合致しませんの で、ご注意ください。 セレネース, ハロマンズ, リントン, ネオペリドール, ハロステン &③
	3843.2 (3L302)	プロムペリドール	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① (特)	金コロイド 凝集法	至適血中濃度 15以下 (ng/mL)		ハロペリドール・プロ ムペリドールは、ほぼ 同等の交差反応を示す ため 双方を併用されている 患者検体の測定値は、 各々の正確な血中濃度 値とは合致しませんの で、ご注意ください。 インプロメン, ルナブロン &③
強心剤	0068.6 (3L765)	緊急 ジゴキシン	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	1~2	① (特)	酵素法	消失相濃度 0.8~2.0 (ng/mL)	投与後6時間~ 次回投与直前 (消失相)	ジゴシン, ジコキシン

①:特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

① 投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血することをお薦めします。

薬物検査

不整脈用剤

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名, 薬剤名等)
(3L875)	緊急 リドカイン	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	1.2~5.0 ($\mu\text{g/mL}$)	静注: 投与後2時間 点滴静注: 6~12時間	キシロカイン &3
(3L900)	キニジン	血清 0.4	02 ↓ X	冷蔵	2~8	① 特	EIA	2.0~6.0 ($\mu\text{g/mL}$)		硫酸キニジン &3
(3L900)		血漿 0.4	G ↓ X							
3836 0 (3L865)	ジソピラミド	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	2.0~5.0 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	ノルベース, リスモダン, カフィール, リスラミドR &3
(3L865)		血漿 0.3	G ↓ X							
3837 9 (3L890)	緊急 プロカインアミド	血清 0.4	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	4.0~10.0 ($\mu\text{g/mL}$)		アミサリン &3
(3L890)		血漿 0.4	G ↓ X							
3822 5 (3L897)	プロパフェノン	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① 特	LC/MS/MS	(ng/mL)		プロノン &ヤ
3841 4 (3L880)	メキシレチン	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① 特	LC/MS/MS	0.5~2.0 ($\mu\text{g/mL}$)	経口: 次回投与直前 (Trough濃度) 静注: 随時	メキシチール &ヤ
3877 5 (3L896)	ピルシカイニド	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① 特	LC/MS/MS	0.2~0.9 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	サンリズム &ヤ
(3L896)		血漿 0.3	G ↓ X							
8748 3 (3L898)	シベンゾリン	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① 特	LC/MS/MS	Trough濃度 70~250 (ng/mL)	朝投与直前 (Trough濃度)	シベノール &ヤ
(3L898)		血漿 0.3	G ↓ X							
8756 4 (3L905)	フレカイニド	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① 特	LC/MS/MS	200~1000 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	タンボコール &ヤ
(3L905)		血漿 0.3	G ↓ X							

特: 特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

	項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
不 整 脈 用 剤	3848 7 (3L899)	ピルメノール	血漿 1.3	G ↓ X	冷蔵	3~6	① 特	HPLC	400.0以上 (ng/mL)	随時	ピメノール &ヤ
	3839 7 (3L855)	アプリンジン	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	3~5	① 特	LC/MS/MS	0.25~1.25 (μg/mL)	経口 次回投与直前: (Trough濃度) 投与後 2~4時間 (Peak濃度) 静注: 次回投与直前 (Trough濃度)	アスペノン &ヤ
	(3L855)		血漿 0.3	G ↓ X							
	K588 9 (3L802)	ベプリジル	血漿 0.3	G ↓ X	冷蔵 (21日)	3~5	① 特	LC/MS/MS	250~800 (ng/mL)		ベプリコール &ヤ
	4227 5 (3L800)	アミオダロン	血漿 0.3	G ↓ X	冷蔵	3~5	① 特	LC/MS/MS	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	アミオダロン 有効血中濃度: 500~1000ng/mL (200mg/日投与, 定常状態, トラフ値) Desethylamiodarone /Amiodarone = 0.8 (定常状態)。 アンカロン &ヤ
	3840 5 (3L895)	プロプラノロール	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	4~17		HPLC	50~100 (ng/mL)		インデラル &ヤ
	(3L895)		血漿 0.3	G ↓ X							

特: 特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

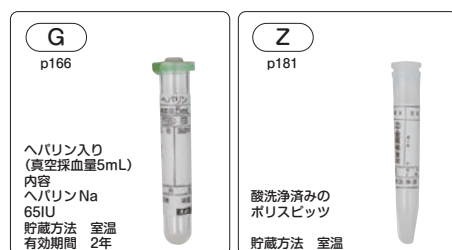
① 投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血することをお薦めします。



薬物検査

抗生物質製剤／抗真菌剤

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名、薬剤名等)
抗 生 物 質 製 剤	(3M606) ゲンタマイシン	血清 0.4	02 ↓ X	凍結	2～4	① 特	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 ($\mu\text{g/mL}$)	点滴開始1時間後 (30分で投与した 場合、終了30分後) (Peak濃度) 投与前30分以内 (Trough濃度)	ゲンタシン, エルタシン, ルイネシン &3
	(3M602) トブラマイシン	血清 0.4	02 ↓ X	凍結	2～4	① 特	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 ($\mu\text{g/mL}$)	点滴開始1時間後 (30分で投与した 場合、終了30分後) (Peak濃度) 投与前30分以内 (Trough濃度)	トブラシン &3
	(3M601) アミカシン	血清 0.4	02 ↓ X	凍結	2～4	① 特	EIA	Peak 50～60 Trough 4未満 ($\mu\text{g/mL}$)	点滴開始1時間後 (30分で投与した 場合、終了30分後) (Peak濃度) 投与前30分以内 (Trough濃度)	アルベカシンとの交差 反応があるのでご注意 ください。 アミカマイシン, ピクリン &3
	3830 6 (3M613) アルベカシン	血清 0.3	02 ↓ X	凍結 (21日)	2～4	① 特	ラテックス 凝集比濁法	Peak 15～20 Trough 1～2未満 ($\mu\text{g/mL}$)	点滴開始1時間後 (30分で投与した 場合、終了30分後) (Peak濃度) 投与前30分以内 (Trough濃度)	ハベカシン &3
	3859 5 (3M530) 緊急 バンコマイシン	血清 0.4	02 ↓ X	冷蔵	2～4	① 特	ラテックス 凝集比濁法	Trough 10～15 ($\mu\text{g/mL}$)	投与前30分以内 (Trough濃度)	塩酸バンコマイシン &3
抗 真 菌 剤	3846 9 (3M532) 緊急 テイコブラニン	血清 0.3	02 ↓ X	冷蔵	2～4	① 特	ラテックス 凝集比濁法	Trough 15～30 ($\mu\text{g/mL}$)	投与前30分以内 (Trough濃度)	タゴシッド &3
	(3M698) ボリコナゾール	血漿 0.3	G ↓ X	冷蔵	3～5	① 特	LC/MS/MS	($\mu\text{g/mL}$)		ブイフェンド &4

特：特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

① 投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血することをお薦めします。

テイコブラニン検査について

医薬品添付文書には、「テイコブラニンのトラフレベルの血中濃度は、敗血症などの重症感染症においては確実な臨床効果を得るために $10\mu\text{g/mL}$ 以上を保つこと。ただし、トラフレベルの血中濃度が $60\mu\text{g/mL}$ 以上になった場合には腎障害、聴覚障害等の副作用の発現に注意すること。また、トラフレベルの血中濃度が $20\mu\text{g/mL}$ 以上で一過性に肝機能検査値が軽度上昇したとの報告がある。(医薬品添付文書・2003年1月改訂第8版より)」の内容が記載されております。

G

p166

ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法 室温
有効期間 2年



項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	採血時刻	備考 (製品名, 薬剤名等)
(3M205)	緊急 サリチル酸	血清 0.4	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	酵素法	抗炎症作用として 100~250 ($\mu\text{g/mL}$)	次回投与直前 (Trough濃度)	アスピリン, バファリン &ヨ
(3L005)	アセトアミノフェン	血清 0.4	02 ↓ X	冷蔵	2~8	② 185 ※3	EIA	中毒域 200.1以上(4時間) 100.1以上(8時間) 50.1以上(12時間) ($\mu\text{g/mL}$)		アセトアミノフェン, ピリナジン, ナバ &ヨ
3873 9 (3M805)	シクロスポリン	血液 0.7 (EDTA-2K加)	g 1	凍結	2~4	① 特	ECLIA	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	他の検査項目との同時 依頼はできませんので ご注意ください。 ネオラル, サンディ ミュン &ヨ
8741 0 (3M810)	タクロリムス	血液 0.7 (EDTA-2K加)	g 1	凍結	2~4	① 特	ECLIA	(ng/mL)		他の検査項目との同時 依頼はできませんので ご注意ください。 プログラフ, グラセプ ター &ヨ
	エベロリムス 3M815-0000-019-053	血液 1.0 (EDTA-2K加)	g 1	凍結	2~4	① 特	ECLIA	免疫抑制剤として シクロスポリンと 併用した場合 Trough濃度 3.0~8 抗悪性腫瘍剤とし て使用した場合 Trough濃度 5~15 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	他の検査項目との同時 依頼はできませんので ご注意ください。 サーティカン アフィニートール &ヨ
3871 1 (3M725)	緊急 メトトレキサート	血清 0.5	02 ↓ X	冷蔵	2~4	① 特	EIA	危険限界濃度 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上 ($\mu\text{mol/L}$)	メトトレキサート ロイコボリン 救援療法時 24, 48, 72時間	メソトレキサート &ヨ
0067 7 (3M070)	緊急 テオフィリン	血清 0.2	02 ↓ X	冷蔵	1~2	① 特	酵素法	10.0~20.0 ($\mu\text{g/mL}$)	☆下記参照	テオドル, テオロン, ユニフィル &ヨ
(3M750)	イマチニブ	血漿 (EDTA-2Na加) 0.3	C ↓ X	冷蔵 (21日)	3~16	① 特	LC/MS/MS	(ng/mL)	服用後24時間 ±2時間後 (Trough濃度)	グリベック &ヤ

特: 特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

- ① 投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。
 ② 同一患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血することをお薦めします。

☆経口・静注

徐放性製剤では投与後4時間、裸錠では投与後2時間(Peak濃度)、次回投与直前(Trough濃度)静注: 負荷投与後30分、点滴開始後4~6、および12~18時間



特定薬剤治療管理料

薬 剤 名	検 査 項 目	特定薬剤治療管理料 (同一患者月1回) 1～3ヵ月 4ヵ月以降		加算点(初回月)	備 考
ジギタリス製剤 (心疾患)	ジゴキシシン	470点	235点	280点 (薬剤の投与を行っ た初回月のみ加算)	ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合所定点数 (470点)にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
テオフィリン製剤 (気管支喘息、喘息性(様)気管 支炎、慢性気管支炎、肺気腫又 は未熟児無呼吸発作)	テオフィリン	470点	235点		
不整脈用剤 (不整脈)	プロカインアミド、N-アセチルプロカインアミド、 シンピラミド、キニジン、アプリンジン、リドカイン、 ビルシカイニド、プロパフェノン、メキシレチン、 フレカイニド、シベンゾリン、ビルメノール、ア ミオダロン、ベプリジル、ソタロール塩酸塩	470点	235点		
抗てんかん剤 (てんかん)	フェノバルビタール、ブリミドン、 フェニトイン、カルバマゼピン、エト スクシミド、バルプロ酸、ゾニサミ ド、トリメタジオン、クロナゼパム、 ニトラゼパム、ジアゼパム、クロバザ ム、ガバペンチン、アセタゾラミド、 ラモトリギン、レベチラセタム、トピ ラマート、ラコサミド、ペランパネル、 スチリベントール、ルフィナミド	470点	470点		てんかんの患者であって、2種類以上の抗てんかん 剤を投与されているものについて、同一暦月に血 中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測 定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した 場合は、当該管理を行った月において、2回に限り 所定点数を算定できる。 てんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤 の注射等を行った場合は、所定点数(470点)にか かわらず、1回に限り740点を算定する。
アミノ配糖体抗生物質 [入院中]	ゲンタマイシン、トブラマイシン、 アミカシン、アルベカシン	470点	235点		
グリコペプチド系抗生物質 [入院中]	バンコマイシン、テイコブラニン	470点	235点		同一暦月にバイコマイシンの濃度を複数回測定し、 その測定結果に基づき、投与量を厳密に管理した 場合は、1回目に限り530点を所定点数に加算する。
トリアゾール系抗真菌剤 [入院中] (重症又は難治性真菌感染症又 は造血幹細胞移植)	ボリコナゾール	470点	235点		
免疫抑制剤 (臓器移植後)	シクロスポリン、タクロリムス、エ ベロリムス、ミコフェノール酸	470点	470点		ミコフェノール酸モフェチルを投与している臓器移植後 の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与され ているものについて、同一暦月に複数の免疫抑制剤の濃度 を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密 に管理した場合は、6月に1回に限り250点を加算する。 エベロリムスを投与している臓器移植後の患者であって、 2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、 同一暦月に複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その結果 に基づき、個々の投与量を厳密に管理した場合は、初回 投与を行った日の属する月を含め3月に限り月1回、4月 目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。
シクロスポリン(免疫制御剤) パーチェット病(活動性・難治性眼症状を有す るもの)、その他の非感染性ぶどう膜炎(既存治 療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活 動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎 に限る)、再生不良性貧血、赤芽球病、尋常性 乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾 癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎(既 存治療で十分な効果が得られない患者に限る)、 ネフローゼ症候群、川崎病の急性期	シクロスポリン	470点	470点	280点 (薬剤の投与を行っ た初回月のみ加算)	
ハロペリドール製剤 (統合失調症)	ハロペリドール	470点	235点		
プロムペリドール製剤 (統合失調症)	プロムペリドール				
リチウム製剤(躁うつ病)	リチウム	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム (躁うつ病又は躁病)	バルプロ酸	470点	470点		
カルバマゼピン (躁うつ病又は躁病)	カルバマゼピン				
サリチル酸系製剤 (若年性関節リウマチ、リウマ チ熱、関節リウマチ)	サリチル酸	470点	235点		
メトトレキサート(悪性腫瘍)	メトトレキサート	470点	235点		
タクロリムス水和物(免疫制御剤) (全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループ ス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎(多発性 筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る))	タクロリムス	470点	470点		
イマチニブ	イマチニブ	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム (片頭痛)	バルプロ酸	470点	235点		
エベロリムス (結節性硬化症)	エベロリムス	470点	235点		
シロリムス製剤 (リンパ脈管筋腫症)	シロリムス	470点	235点		
スニチニブ(抗悪性腫瘍剤) (腎細胞癌)	スニチニブ	470点	235点		

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備 考
細胞性 免疫 検査	3929 7 曜日指定 PHAによるリンパ球 幼若化検査	血液 各5.0 (ヘパリン加)	PH9	室温	7~8	345 ※5	³ H- サイミジン 取り込み能	PHA+ 20500~56800 CONTROL 127~456 (cpm)	受託可能日は月~金曜日です。 &I
	曜日指定 Con-Aによるリンパ球 幼若化検査	同時 依頼の 場合は 8.0mL	PH9	室温	7~8	345 ※5	³ H- サイミジン 取り込み能	Con-A+ 20300~65700 CONTROL 127~456 (cpm)	受託可能日は月~金曜日です。 &I
	3935 0 曜日指定 3936 9 薬剤によるリンパ球 3937 8 刺激試験(DLST) 3938 7 3939 6	1 薬剤 血液12.0 (ヘパリン加)	PH9	室温	8~10	①	³ H- サイミジン 取り込み能	陰性	受託可能日は月~金曜日です。 1 薬剤増ごとに血液5.0mL 必要 となります。血液と同時にご依 頼薬剤もご提出ください。(原則 として皮内反応注射薬は検査で きません。) ヘパリンが起因薬剤と疑われる 場合は (PNK) の容器を使用し てください。 &I

① Con-A, PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである場合算定できる。(リンパ球刺激試験(LST)1薬剤345点, 2薬剤425点, 3薬剤以上515点)

薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)の検体について

- 1 薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
- 1 薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
- 目安として白血球数が3,000/mm³以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。
- 2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。
- 血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。
錠剤(1錠)、カプセル(1カプセル)、粉末(1回投与量程度1包)、リキッドタイプの飲み薬(0.5mL程度)、注射薬(1バイアル【アンプル】)。皮内反应用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。
- ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は専用容器(PNK)を使用してください。
- 「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚醒剤取締法」第三章および別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
- ご依頼の際は、麻薬、覚醒剤が含まれていないことをご確認いただき、依頼書等へご署名をお願いいたします。ご署名のない場合は、受領致しかねます。



病理学的検査

病理組織検査／病理標本作製

下記検査項目は東京セントラルパソロジーへ委託外注しております。

	項目コード (統一コード)	検査項目	提出材料	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法
病理組織検査	(7B010)	病理組織検査(1臓器)	ホルマリン固定組織		u5	室温	* 5~7	1臓器につき 860 ※7	ヘマトキシリン・ エオジン染色
	(7B010)	病理組織検査(2臓器)							
	(7B010)	病理組織検査(3臓器)							
病理標本作製		ブロック作製	ホルマリン固定組織	1×1×1mm以上 10×10×5mm以下	u5	室温	* 5~7		&T
		未染標本作製	パラフィンブロック			室温	* 5~7		
		染色標本作製	未染標本スライド	未染標本スライド2枚	u5	室温	* 5~7		
		酵素抗体染色 【ホルマリン固定組織】	ホルマリン固定組織 (パラフィンブロック・ 未染色標本スライドでも可)		u5	室温	* 5~8	①② 1臓器につき 400 ※7	

- ①「酵素抗体染色」は、方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。
- ②確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,200点を所定点数に加算する。「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)、消化管間質腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症(天疱瘡、類天疱瘡等)、悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)が疑われる患者に対して加算を算定する場合は、腫瘍が未分化であった場合等HE染色では腺癌または扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定する。既に悪性腫瘍遺伝子検査のEGFR遺伝子検査「ROS1融合遺伝子検査」又は「ALK融合遺伝子標本作製」を算定している場合には、当該加算は算定できない。

- * 所要日数
- ・酵素抗体染色、脱脂処理、脱灰処理が必要な場合は所要日数が7~12日となります。
 - ・切り出しが必要な臓器は所要日数が2~3週間となります。
 - ・特殊なご依頼の場合、まとまった件数(処理内容により異なりますがおおむね30件以上)の場合は通常より所要日数が遅れますので、事前に営業員へお問い合わせください。

- 病理組織検査におけるHE染色標本は委託先で5年間保管させていただきます。
- 診断を実施する上で、HE染色および上記特殊染色以外に各種染色・酵素抗体染色等が必要となった場合は、追加オーダーさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。
- ブロック作製をご依頼される際、摘出臓器のままご提出される場合は、その切り出し図と包埋の方向について依頼書に必ず記載してください。
- パラフィンブロックで染色標本作製をご依頼される場合は、未染標本作製の料金もご請求申し上げます。
- 未染標本スライドで染色標本作製をご依頼される場合は、1染色2枚をご提出ください。
- 病理診断は凍結組織ではできません。

病理専用容器(u5)容器について

病理専用容器(u5)に10%ホルマリン液を充填し、組織を固定してご提出ください。

依頼書およびラベルへの記入方法

病理組織検査をご依頼の際は専用の「病理検査依頼書」および容器をご使用ください。なお、依頼書およびラベルには下記事項を必ずご記入下さい。

- 依頼書
- 1) 氏名、性別、年齢
 - 2) 切除(採取)日、切除臓器名、切除数
 - 3) 臨床診断名、臨床経過、治療、臨床検査諸事項
 - 4) 前回実施の登録標本No.
 - 5) 婦人科疾患、女性乳腺疾患などの場合は月経、妊娠の状態等をご記入ください。

- 容器ラベルおよび凍結組織ラベル
- 1) 施設名、氏名、性別、年齢
 - 2) 依頼書における容器No.とのひも付けのため、必ず容器No.(1, 2, 3……)をご記入ください。
また、併せて臓器名、切除数もご記入ください。
(容器No.と臓器名称が不明確な場合には、診断結果をお返しできないこともございます。)

検査結果の報告

- 病理組織検査報告
- 「病理組織検査報告書」に病理組織学的診断および所見を記入しご報告いたします。

下記検査項目は東京セントラルパソロジーへ委託外注しております。

	項目コード (統一コード)	検査項目	検査材料	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法
細胞 診 検 査	(7A020)	細胞診(婦人科)	膣内容・子宮腔部・子宮頸部・ 子宮内膜	塗抹標本 (湿固定)1枚	t	室温	4~7	1部位につき 150 ※7	パパニコロウ染色 &T
	(7A010)	一般細胞診	喀痰	塗抹標本 (湿固定)2枚	t	室温	4~7	1部位につき 190 ※7	(喀痰) パパニコロウ染色 (その他) パパニコロウ染色と PAS染色またはギムザ染色 &T
			擦過物・洗浄液・針穿刺吸引液状 検体(胸水・腹水・尿・髄液・胆汁等)・ 捺印標本(リンパ節等)・圧挫標本・ その他	塗抹標本2枚 (湿固定1枚 乾燥固定1枚)					
	(7A030)	細胞診 【喀痰集細胞法】 (Class判定)	喀痰 (3~5日蓄痰)	容器ごと提出	f	室温	4~7		パパニコロウ染色 &T

* 専門医の判定が必要な場合(原則的にASC-US, ClassⅢaまたは判定D以上)は通常日数より遅れる場合があります。

細胞診検査の注意事項

細胞診検査は、必ずしも確定診断ではありません。診断はご提出いただいた標本において下されたもので、病変全体を反映するものではないことを、あらかじめご承知おきください。組織診検査等による総合的な診断をお勧めします。

検査材料の提出方法

■各種材料の塗抹

塗抹の仕方は検査材料の種類、性状などに応じて異なります。下記の要領で塗抹してください。

【一般細胞診】

- 1) 喀痰
「小豆」大の喀痰を2枚のスライドガラスの間にはさみ、前後左右に押しつぶすように満遍なくのばしてください(すり合わせ法)。癌細胞は血痰部や不透明白濁部、ゼリー状粘液部に多く含まれるので、その部分を塗抹してください。
 - 2) 擦過材料(気管支、消化管、胸膜・腹膜等)
ブラシ、綿棒等により病巣などを擦過しスライドガラスに塗抹してください。擦過物は非常に乾燥しやすいので塗抹固定を迅速に行うことが必要です。
 - 3) 液状材料(尿、胸水、腹水、心嚢液、陰嚢水腫液、各種洗浄液等)
1500rpm5分間遠心後、沈渣をすり合わせ法または引きガラス法によって塗抹してください。血性検体の場合は有核成分が多いバフィーコート部分を塗抹してください。
 - 4) 針穿刺吸引材料(乳腺、甲状腺、肺、リンパ節、前立腺、睾丸、軟部腫瘍、肝等)
穿刺針内に吸引された材料をスライドガラス中央に静かに吹きだし塗抹します。検体が微量なときはもう1枚のスライドガラスを合わせてからはがし2枚作製してください。多めに得られたときや多量の場合は引きガラス法で塗抹してください。
 - 5) 捺印標本(各種固形腫瘍、リンパ節等)
メスやカミソリで切った新しい組織断面をスライドガラスに軽く捺印してください。
 - 6) 圧挫標本(中枢神経腫瘍、甲状腺腫瘍等)
組織の小塊(直径1-2mm)を2枚のスライドガラスの間にはさみ、軽く押しつぶして組織が伸展したらスライドガラスをはなし、厚い方を湿固定、薄い方を乾燥固定してください。
- 〈注意〉 検体採取から塗抹固定までの許容時間(室温)
 喀痰・胸水・腹水・心嚢液…12時間以内
 胆汁・尿・穿刺液・洗浄液・髄液…1時間以内
 胆汁・尿・十二指腸液…冰冷中の容器に採取し、1時間以内
 擦過材料・捺印材料・圧挫材料…5秒以内

【婦人科細胞診】

- 1) 婦人科材料
乾燥しやすいので塗抹後直ちに湿固定してください。

■標本の固定

固定は細胞の変性・融解などの変化を停止させる作業ですので、塗抹後直ちに固定する必要があります。湿固定はパパニコロウ染色、PAS染色などのための固定法で、乾燥固定はギムザ染色などのための固定法です。
 固定の良否は採取部位・方法とともに細胞診判定内容を左右する重要な因子の一つです。迅速な固定をお願いいたします。

- 1) 湿固定【婦人科細胞診・一般細胞診】
塗抹したスライドガラスを95%エタノールに30分以上浸漬して固定してください。湿固定にはサイトタック等を用いたコーティング固定法もあります。コーティング固定剤を使用する場合は、ムラが生じないように固定液を塗抹全面に十分に噴霧または滴下してください。
- 2) 乾燥固定【一般細胞診】
塗抹後直ちに、塗抹面を扇風機や冷風ドライヤーなどで急速に乾燥させます。
自然乾燥は乾燥むらを生じるので不十分です。

依頼書、スライド ガラスおよびオブジェクトケースへの記入方法

■依頼書

細胞診検査は各種の臨床情報を参考にして行う形態学的検査です。細胞診検査のご依頼にあたっては専用の細胞診検査依頼書に下記の内容を記載してください。細胞診の判定内容を左右する因子ですので記載もれがないようお願いいたします。

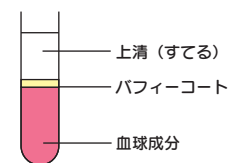
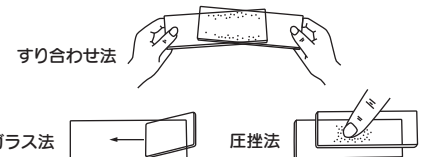
- a) 氏名、性別、年齢、科名等
- b) 検査材料、採取方法
- c) 臨床診断、臨床経過、検査、治療諸事項
- d) 病変の大きさ、性状
- e) 婦人科材料や乳腺材料の場合月経等諸事項
- f) 前回の登録標本番号
- g) ご提出のスライドガラス枚数

■スライドガラス

- a) スリガラス部に氏名をご記入ください。
- b) 乾燥固定の場合は「乾燥」または「ドライ」とご記入ください。

■オブジェクトケース

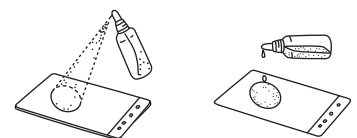
- a) 氏名、性別、年齢
- b) 標本枚数(湿固定枚数と乾燥固定枚数)



コーティング固定剤の使用法

噴霧式

滴下式



アミノ酸解析サービス

AIRS・AICS

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	備考
5521 7	男性AIRS (認知機能評価あり)	速やかに 冷却 遠心 血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	9~12		LC/MS	【重】 50歳以上の方、かつAIRS（認知機能低下）を選択した方が受診する際には、本コードをご選択ください。 なお、49歳以下の方は、AIRS（認知機能低下）の検査対象外（除外基準）となりますので、別コード（認知機能評価なし）をご選択ください。 検体取扱いは次ページをご参照ください。 本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより、AIRS®及びAIRS®を報告する検査です。なお、本検査結果はその他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。&I
5523 5	女性AIRS (認知機能評価あり)							
5519 0	男性AIRS (認知機能評価なし)							
5522 6	女性AIRS (認知機能評価なし)							
5957 4	男性AICS(5種)	速やかに 冷却 遠心 血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	9~12		LC/MS	【重】 検体取扱いは次のページをご参照ください。本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより現在、がんである可能性を評価する検査です。 なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。&I
5958 3	女性AICS(6種)	速やかに 冷却 遠心 血漿 0.5	C ↓ X	凍結 (21日)	9~12		LC/MS	【重】 検体取扱いは次のページをご参照ください。本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより現在、がんである可能性を評価する検査です。 なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。&I

アミノインデックス® とは

アミノインデックス® は、血液中の各種アミノ酸濃度のバランスから、現在の健康状態や病気の可能性を明らかにする検査です。アミノインデックス® の解析は、味の素株式会社に委託して解析されています。

AIRS® (AminoIndex® Risk Screening) とは

アミノインデックス® を用いて1回の採血で、血液中のアミノ酸のバランスから、現在・将来のさまざまな疾患リスクを一度に評価する検査です。

AICS® (AminoIndex® Cancer Screening) とは

アミノインデックス® を用いて、現在がんである可能性を評価する検査です。

男性AICS 5種：胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん

女性AICS 6種：胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん(子宮頸がん、子宮体がん)・卵巣がん

AIRS® (AminoIndex® LifeStyle diseases) とは

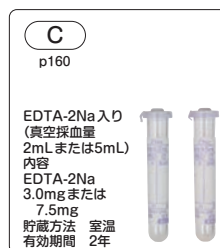
血液中のアミノ酸濃度バランスから10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク、4年以内に糖尿病を発症するリスク、血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ、および現在認知症機能が低下している可能性を評価し、検査結果に基づくI~IV、およびI*~IV*のタイプを報告します。また、このタイプをもとに、生活改善評価情報が提供できます。なお、AIRS® 単独での受託はできません。

受託における注意点

AIRS® は下記年齢の日本人(妊娠されている方を除く)を対象として開発された検査です。これらの方以外は評価対象外となります。

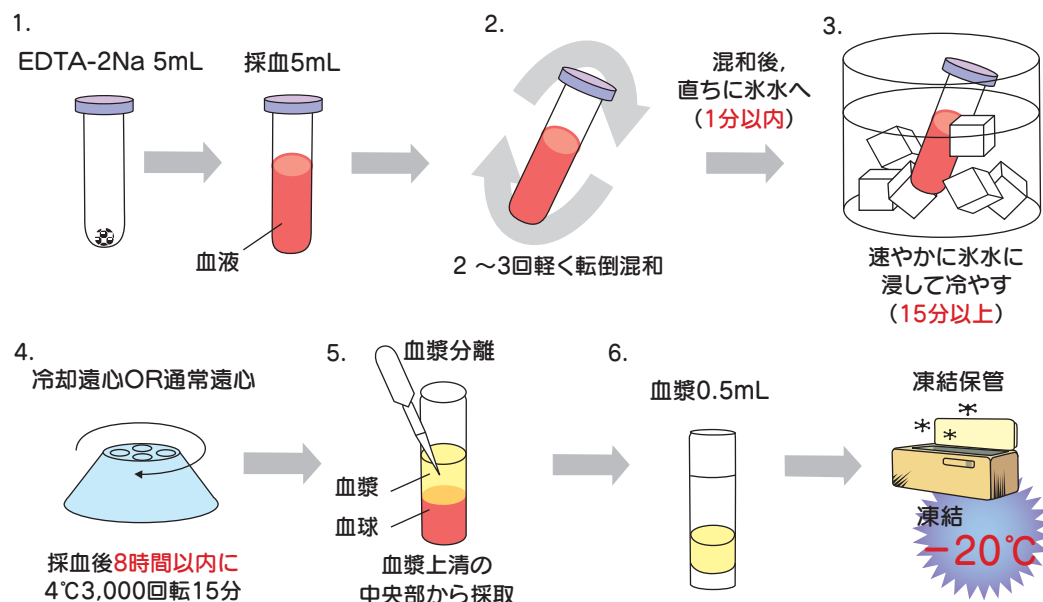
目項 査 検		評価対象	対象年齢
男性	AICS(5種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん 前立腺がん	25歳~90歳 40歳~90歳
	AIRS(脳心疾患リスク)	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク	30歳~74歳
	AIRS(糖尿病リスク)	4年以内に糖尿病を発症するリスク	20歳~80歳
	AIRS(アミノ酸レベル)	血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ	
	AIRS(認知機能低下)	現在認知機能が低下している可能性 ※AIRS(認知機能低下)については49歳以下の方は選択できません。	50歳~100歳*
女性	AICS(6種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん 子宮がん・卵巣がん	25歳~90歳 20歳~80歳
	AIRS(脳心疾患リスク)	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク	30歳~74歳
	AIRS(糖尿病リスク)	4年以内に糖尿病を発症するリスク	20歳~80歳
	AIRS(アミノ酸レベル)	血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ	
	AIRS(認知機能低下)	現在認知機能が低下している可能性 ※AIRS(認知機能低下)については49歳以下の方は選択できません。	50歳~100歳*

- ※脳卒中の方、心筋梗塞の方、糖尿病の方、認知症の方、軽度認知障害の方(いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方)の場合、その疾病・所見に関するAIRS値や生活習慣改善タイプは出力されますが、いずれも評価対象外となります。
- ・妊娠されている方、授乳中の方、がん患者(治療を含む)の方、先天性代謝異常の方、透析患者の方は、検査結果に影響があるため、検査の実施はご遠慮ください。
 - ・検査前8時間以内に、水以外(食事、サプリメント等)は摂取せず、午前中に採血してください。(検査前日高タンパク質の食事も避けてください)また、当日朝の運動はお控えください。
 - ・薬剤による本検査への影響はわかっておりません。
 - ・他項目との重複依頼は避けてください。
 - ・強溶血検体や、血漿(EDTA-2Na)以外の材料での、受託はできません。
 - ・ご依頼の際は性別・年齢を必ず明記してください。



検体のお取り扱いについて

1. EDTA-2Na入り採血チューブにて血液約5mLを採取してください
2. 採血直後、血液を2〜3回軽く転倒混和してください(ローラでの混和は行わないでください)
3. 混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分以上、遠心操作まで冷却)してください
4. 採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃, 3,000回転, 15分)または通常遠心分離(3,000回転, 15分, ローターが昇温してないこと)してください
5. 遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください
6. 分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください



緊急報告検査値範囲

検査項目	基準値	緊急報告検査値範囲
免疫学的検査		
直接クームス試験	陰性	陽性(Baby)
生化学的検査		
アミラーゼ(AMY)(血清)	37~125	1000U/L以上
AST(GOT)	10~40	500U/L以上
ALT(GPT)	5~40	500U/L以上
LD(LDH)	124~222	1000U/L以上
尿素窒素(UN)(血清)	8.0~22.0	80mg/dL以上
グルコース	70~109	(空腹時)50mg/dL以下, 500mg/dL以上
Na(ナトリウム)(血清)	136~147	110mEq/L以下, 170mEq/L以上
K(カリウム)(血清)	3.6~5.0	2.5mEq/L以下, 6.5mEq/L以上
Ca(カルシウム)(血清)	8.5~10.2	6.0mg/dL以下, 14.0mg/dL以上
総ビリルビン(T-Bil)	0.3~1.2	12.0mg/dL以上
血液学的検査		
白血球数(WBC)	M 3900~9800 F 3500~9100	1000/ μ L以下, 25000/ μ L以上
血色素量(Hb)	M 13.5~17.6 F 11.3~15.2	5.0g/dL以下
血小板数	M 13.1~36.2 F 13.0~36.9	3.0×10^4 / μ L以下, 100×10^4 / μ L以上
血液像	白血球分類 Stab 0~6 Seg 32~73 Eosino 0~6 Baso 0~2 Mono 0~8 Lympho 18~59 赤血球形態 大小不同(-), 多染性(-), 奇形(-), 有核(-)	芽球出現時
プロトロンビン時間(PT)	INR:設定せず	INR 4.0以上
薬物検査		
フェノバルビタール	10~40	60 μ g/mL以上
プリミドン	5.0~12.0	15 μ g/mL以上
フェニトイン	10.0~20.0	30 μ g/mL以上
カルバマゼピン	4~12	12 μ g/mL以上
エトスクシミド	40.0~100.0	120 μ g/mL以上
バルプロ酸	50~100	150 μ g/mL以上
リチウム	治療濃度範囲 0.3~1.2	2.0mEq/L以上
ジゴキシン	消失相濃度0.8~2.0	2.5ng/mL以上
リドカイン	1.2~5.0	6.0 μ g/mL以上
プロカインアミド	4.0~10.0	12 μ g/mL以上
バンコマイシン	Trough 10~15	60 μ g/mL以上
テイコブラニン	Trough 15~30	(Trough濃度) 60 μ g/mL以上
サリチル酸	抗炎症作用として 100~250	300 μ g/mL以上
メトトレキサート	危険限界濃度 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上	48時間後 1.0 μ mol/L以上
テオフィリン	10.0~20.0	25 μ g/mL以上
微生物学的検査		
一般細菌, 培養同定		2類・3類・4類感染症菌が分離された場合, VRE・VRSAが検出された場合, 髄液・血液 などの無菌材料から菌が検出された場合
抗酸菌 塗抹鏡検		抗酸菌塗抹鏡検で抗酸菌が認められた場合
抗酸菌 分離培養		抗酸菌分離培養で抗酸菌が検出された場合
結核菌群核酸同定, MAC核酸同定		結核菌群核酸同定, MAC核酸同定が陽性の 場合

ウェスタンブロット法(Western blot)

目的とする蛋白質を電気泳動により分画し、電気的にニトロセルロース膜に転写して、目的の蛋白質に対する抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を2次反応させ、目的の蛋白質を検出する方法。イムノブロット法とも呼ばれる。

液相(核酸)ハイブリダイゼーション

液相中でrRNAを遊離させ、化学発光物質で標識したDNAプローブを用いてハイブリダイゼーションを行い、ハイブリッドを分離剤に吸着させた後、化学発光により検出する方法。

オクタロニー法(Ouchterlony method)

平板内二重免疫拡散法

平板内二重免疫拡散法と呼ばれるゲル内拡散法の1つ。ゲル内で抗体と抗原を拡散させ、抗原抗体反応により形成された沈降線の数や反応性の有無から、抗原と抗体の反応を確認する方法。

凝固時間法

測定対象となる因子の欠乏血漿とトロンボプラスチン、アクチン、塩化カルシウムを加え、凝固するまでの時間を測定する方法。

金コロイド法

金コロイド標識抗体を反応させ、抗原抗体反応により金コロイド粒子が凝集する色調変化を光学的に測定する方法。

原子吸光分析法

元素試料を化学炎中や加熱グラファイト管などで元素の原子化を行い、この原子蒸気に元素固有の共鳴線をあてると原子蒸気中の原子の数に応じて吸収されることを利用して、吸光度から元素量を定量する方法。

酵素抗体法

目的とする抗原に対して、酵素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

酵素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して未標識の抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

酵素法

測定原理は比色法と同様で、測定物質を酵素を用いて特異的に測定する方法。

サザンブロットハイブリダイゼーション(Southern blot hybridization)

制限酵素で消化したDNAを電気泳動により分画し、1本鎖DNAに変性後、毛細管現象を利用してナイロンメンブレンに転写して、標的プローブとハイブリダイゼーションを行い、目的の遺伝子を検出する方法。DNAの量的、質的変化の異常を解析する場合に用いられる。

次世代シーケンス(NGS)法

次世代シーケンサーを用いて、膨大な数のDNA断片の塩基配列の決定を、同時並行的に行う方法。

ダイレクトシーケンス法

PCR法で増幅したDNAを鋳型として直接塩基配列を決定する方法。

超遠心法

超遠心機を用いて蛋白質の比重の差により分離し測定する方法。

電気泳動法

荷電粒子の浮遊する電解質溶液に通電すると、粒子は各粒子の荷電と逆の極側に移動する現象を利用し、移動度から目的の物質を測定する方法。

水溶液支持体にはセルロースアセテート膜、アガロースゲル、ポリアクリルアミドゲルなどが用いられる。

電極法

電極と溶液界面における電荷移行反応を利用した方法。

イオン選択電極は特定のイオンに応答し、イオンの活量の対数に比例して生じる電位差からイオンの濃度を測定する。

等温核酸増幅法

PCR法とは異なり、鎖置換型DNA合成酵素などを用いて、核酸を一定温度で増幅する方法。

ネフェロメトリー(Nephelometry)

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、光の散乱強度を測定する方法。

発色性合成基質法

ヘパリンを加えてAT-Ⅲ-ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

比色法(Colorimetry)

測定物質を着色物質に変換後、可視部波長を照射して吸光度を測定して色調を標準液と比較する方法。

フローサイトメトリー(Flow cytometry)

蛍光色素で標識したモノクローナル抗体で染色した細胞を高速度で流しながらレーザー光を照射し、前方散乱光(細胞の大きさ)や90°散乱光(細胞の内部構造)と蛍光強度(細胞表面の対応抗原)から個々の細胞を解析する方法。

2種類の蛍光色素を用いて二重染色を行い解析する場合はTwo-colorフローサイトメトリーと呼ばれる。

メチレーションPCR

非メチル化シトシンがバイサルファイト処理でウラシルに変換されることを利用し、バイサルファイト処理後のメチル化シトシンと非メチル化シトシンの塩基配列の違いから対象領域のメチル化をPCRで確認する方法。

ラインブロット法(Line immunoassay)

抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を、2次反応させ、抗体の検出を行う方法。

検査方法の概略

リアルタイムPCR

PCR法を基本原理とする核酸増幅法の一つであり、分解により蛍光を発するオリゴヌクレオチドを利用することにより、PCRサイクルごとに蛍光シグナルを確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。

CF(Complement fixation)

補体結合反応

補体が抗原抗体複合体と結合することと溶血反応を引き起こすことを利用した方法。

赤血球に溶血素を結合した感作赤血球は補体が結合すると溶血を起こすが、抗原抗体複合体が存在すると補体が消費され溶血が阻止されることから、溶血の程度から抗体の存在を判定する。

CLEIA(Chemiluminescent enzyme immunoassay)

化学発光酵素免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、化学発光基質を加えて発光強度を測定する方法。

CLIA(Chemiluminescent immunoassay)

化学発光免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、化学発光性物質で標識した抗体を抗原に2次反応させ、化学発光性物質の発光強度を測定する方法。

ECLIA(Electro chemiluminescence immunoassay)

電気化学発光免疫測定法

抗体を結合したビーズを用いて抗原と反応させた後、ルテニウムビリジン錯体で標識した抗体を抗原に2次反応させ、電気化学反応によりルテニウムビリジン錯体の発光強度を測定する方法。

EIA(Enzyme immunoassay)

酵素免疫測定法

測定原理はRIAと同様で、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

ELISA(Enzyme-Linked immunosorbent assay)

酵素免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

ELISPOT(Enzyme-Linked ImmunoSpot)

抗体を固相化したプレートに、分離細胞と特異抗原を加え培養し、細胞から産生されたタンパク質を発色基質と反応させ、スポットを得る方法。

FA(Fluorescent antibody method)

蛍光抗体法

IFA(Indirect Fluorescent antibody method)

間接蛍光抗体法

目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。

蛍光色素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して抗体を反応させた後、蛍光色素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

FEIA(Fluorescence enzyme immunoassay)

蛍光酵素免疫測定法

EIAの1つで、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光基質を加えて蛍光強度を測定する方法。

FIA(Fluorescence Immunoassay)

蛍光免疫測定法

固相化した抗原に対して標識物質を反応させた後、蛍光物質で標識した抗体または抗原を2次反応させ、蛍光強度を測定する方法。

FISH(Fluorescence in situ hybridization)

蛍光 in situ ハイブリダイゼーション

蛍光色素で標識したプローブを用いて標的DNAとハイブリダイゼーションを行い、特定の波長で発色させた蛍光部位を染色体上のシグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。

蛍光色素で標識したプローブと標的DNAを直接結合させる直接法と、標識物質で標識したプローブと標的DNAを結合させた後に、標識プローブと蛍光物質を結合させて発色させる間接法がある。

HA(Hemagglutination)

赤血球凝集反応

赤血球の表面抗原と抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

HI(Hemagglutination inhibition)

赤血球凝集抑制反応

ウイルスのもつ赤血球凝集能が、ウイルスに対する抗体により抑制されることを利用した方法。抗原抗体複合体と赤血球を反応させ、凝集抑制の有無によりウイルスに対する抗体の存在を判定する。

HPLC(High performance liquid chromatography)

高速液体クロマトグラフィー

移動相に液体を用いる液体クロマトグラフィーで、高密度充填カラムと高圧ポンプを用いて高速かつ高精度に分離する方法。

IC(Immuno-Chromatography)

イムノクロマト法

検体中の抗原または抗体と、金コロイド粒子などで標識させた標識抗体または標識抗原が、メンブレンフィルター上を免疫複合体を形成しながら移動し、メンブレンフィルター上にあらかじめ固定化された抗体または抗原で免疫複合体が補足され、呈色し、目視などで結果判定する検出法。

IRMA(Immuno radio metric assay)

免疫放射定量法

RIAの1つで、固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、放射性同位元素(RI)で標識した抗体を抗原に2次反応させる方法。

固相化抗体と標識抗体が抗原を挟む形で結合することから、サンドイッチ法とも呼ばれる。

LA(Latex agglutination)

ラテックス凝集反応

抗原または抗体を吸着(結合)させたラテックス粒子(感作ラテックス粒子)を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体または抗原の存在を判定する方法。

LA(Latex agglutination immunoassay)

ラテックス凝集比濁法

抗原または抗体を吸着(結合)させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率または光の散乱強度から測定する方法。

LAMP(Loop-Mediated Isothermal Amplification)

標的遺伝子の配列から6つの領域に対して4種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させる方法。

LC/MS(Liquid chromatography/mass spectrometry)

液体クロマトグラフィー質量分析法

目的物質を高速度・高精度に分離するHPLCに、MS(質量分析)を検出器として結合させ、検出選択性・定性機能を更に向上させた方法。

LC/MS/MS (Liquid chromatography tandem mass spectrometry)

液体クロマトグラフィータンデム四重極型質量分析法

液体クロマトグラフで親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分解し、質量分析計でさらに質量ごとに分離して特定の質量イオンを解離・フラグメント化させ、それらのイオンを検出する方法。

LPIA(Latex photometric immunoassay)

ラテックス近赤外免疫比濁法

抗原または抗体を結合させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、近赤外光を照射させて透過率を測定する方法。

MALDI-TOF-MS

レーザー光を吸収するマトリックスと分析物の混合物にレーザー照射し、タンパク質を分解させずにイオン化する方法(MALDI)と、生成されたイオンの質量電荷比によりイオンの飛行時間が異なることを利用して質量分析を行う方法(TOF-MS)を組み合わせた方法。

MALDI :Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization

マトリックス支援レーザー脱離イオン化

TOF-MS:Time-of-Flight Mass Spectrometry

飛行時間型質量分析法

MLPA(Multiplex ligation-dependent probe amplification)

共通PCRプライマー配列を融合させた特異プローブを標識領域にハイブリダイズ後、PCRを行い、その増幅産物の量的変化について、比較的大規模なゲノム欠失もしくは重複を検出する方法。

NT(Neutralization test)

中和反応

ウイルスがウイルスに対する抗体との反応により感染性が失われる(中和)ことを利用した方法。

ウイルスと抗体を反応させた後、ウイルスに感受性のある培養細胞に接種し、細胞変性効果(cytopathogenic effect:CPE)の有無により中和抗体の存在を判定する。

PA(Particle agglutination)

粒子凝集反応

抗原または抗体を吸着(結合)させたゼラチン粒子など(感作粒子)を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体または抗原の存在を判定する方法。

PCR(Polymerase chain reaction)

DNAが加熱により2本鎖から1本鎖に解離し、冷却することで2本鎖に戻ることを利用し、1本鎖DNAを鋳型として目的のプライマーを結合させ、DNAポリメラーゼの転写反応によりDNA合成を行うことを繰り返し、目的とするDNA領域を指数関数的に増幅させる方法。

PHA(Passive hemagglutination)

受身赤血球凝集反応

赤血球の表面に抗原を吸着(結合)させた感作赤血球を用いて抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

RIA(Radio immunoassay)

放射性免疫測定法

抗体に対して放射性同位元素(RI)で標識した抗原と検体中の抗原を競合的に抗原抗体反応を行い、抗体と結合した標識抗原(結合型:Bound)と抗体と結合していない標識抗原(遊離型:Free)を分離し、その割合を放射活性から抗原の濃度として測定する方法。

結合型と遊離型の分離方法(B/F分離)として、抗体を固相化しておく固相法、抗原抗体複合体に第2抗体を結合させて沈澱させる2抗体法、抗原抗体複合体を硫酸アンモニウム(硫酸)で沈澱させる硫酸塩析法、抗原抗体複合体を沈澱試薬で沈澱させるPEG法などがある。

RRA(Radio receptor assay)

ラジオレセプターアッセイ

測定原理はRIAと同様で、抗体の代わりにレセプター(受容体)を用いて、その反応性から生物活性を求める方法。

RT-PCR(Reverse transcriptase-polymerase chain reaction)

RNAが増幅対象の場合に、RNAを鋳型として逆転写酵素(reverse transcriptase:RT)により相補的なcDNAを合成してPCRを行う方法。

TIA(Turbidimetric immunoassay)

免疫比濁法

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、透過率を測定する方法。

TMA(Transcription mediated amplification)

2種類の酵素と2種類のプライマーおよび基質を用いてRNAを増幅する方法。

抽出したRNAから逆転写酵素により2本鎖DNAを合成し、この2本鎖DNAを鋳型としてRNAポリメラーゼの転写反応によりRNAを合成することを繰り返し、目的とするRNA領域を増幅させる。

TRC (Transcription Reverse Transcription Concerted reaction)

インターカレーター性蛍光色素が標識されたDNAプローブと一定温度RNA増幅法を組み合わせ、RNAを1ステップで増幅・リアルタイム検出する方法。

UV法(Ultraviolet absorption spectrophotometry)

紫外外部吸光度分析

測定原理は比色法と同様で、紫外外部波長を用いて測定する方法。通常は200~400nmの近紫外部の波長が使われる。

³H-サイミジン取り込み能(³H-TdR uptake)

リンパ球が非自己抗原による刺激に反応して芽球化する現象を利用した方法。

リンパ球に刺激物質と³H-サイミジンを加えて培養し、DNA合成により³H-サイミジンが細胞に取り込まれる量を放射活性として測定する。刺激物質にはPHA、Con-A、薬剤などが用いられる。

検査項目

測定参考文献

内分泌学的検査

甲状腺刺激ホルモン(TSH)	楚南 盛正, 他: 医学と薬学46(5): 759~771, 2001.
成長ホルモン(GH)	小山 沙世, 他: 医学と薬学68(5): 899~910, 2012.
IGF- I (ソマトメジンC)	高須 重人, 他: ホルモンと臨床44(4): 383~391, 1996.
黄体形成ホルモン(LH)	皆方 良介, 他: 臨床検査機器・試薬22(5): 429~438, 1999.
卵巣刺激ホルモン(FSH)	皆方 良介, 他: 臨床検査機器・試薬22(5): 429~438, 1999.
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	阿部 正樹, 他: 医学と薬学57(2): 239~244, 2007.
プロラクチン	高加 国夫, 他: 医学と薬学56(4): 577~586, 2006.
トリヨードサイロニン(T_3)	楚南 盛正, 他: 医学と薬学46(5): 759~771, 2001.
遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	楚南 盛正, 他: 医学と薬学46(5): 759~771, 2001.
血清総サイロキシン(T_4)	楚南 盛正, 他: 医学と薬学46(5): 759~771, 2001.
遊離サイロキシン(Free T_4)	楚南 盛正, 他: 医学と薬学46(5): 759~771, 2001.
サイロキシン結合グロブリン(TB8)	家入蒼生夫: 日本臨床63(増): 272~276, 2005. (臨床の意義参考文献)
サイログロブリン	北川 亘, 他: 医学と薬学71(9): 1655~1666, 2014.
抗甲状腺 サイログロブリン抗体(サイロイドテスト)	土屋 彦治, 他: 臨床検査機器・試薬6(4): 1007~1010, 1983.
抗サイログロブリン抗体	森田 新二, 他: 医学と薬学55(5): 775~782, 2006.
抗甲状腺 マイクロソーム抗体(マイクロソームテスト)	土屋 彦治, 他: 臨床検査28(1): 99~101, 1984.
抗甲状腺 ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	森田 新二, 他: 医学と薬学55(5): 775~782, 2006.
TSHレセプター抗体(定量)	小森 明日香, 他: 医学と薬学46(4): 563~570, 2001.
TSHレセプター抗体(第3世代)	吉村 弘, 他: 医学と薬学59(6): 1111~1120, 2008.
TSH刺激性レセプター抗体(TSAb)	上條 桂一, 他: 医学と薬学71(5): 903~911, 2014.
副甲状腺ホルモン(PTH)(高感度)	福永 仁夫, 他: 核医学24(3): 319~325, 1987.
副甲状腺ホルモン(PTH)(高濃度測定)	深瀬 正晃, 他: 日本内分泌学会雑誌65(8): 807~827, 1989.
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	山岡 美穂, 他: 医学と薬学46(5): 753~758, 2001.
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	森山 和重, 他: 医学と薬学70(4): 829~836, 2013.
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	福本 誠二, 他: ホルモンと臨床40(12): 1309~1314, 1992.
カルシトニン	北川 亘, 他: 医学と薬学72(1): 97~108, 2015.
オステオカルシン	吉村 典子, 他: Osteoporosis Japan 13(3): 759~765, 2005.
カテコールアミン総	Honda S et al: Analytica Chimica Acta 149: 297~303, 1983.
カテコールアミン3分画	辻 潮, 他: 臨床検査機器・試薬11(4): 635~641, 1988.
カテコールアミン3分画	Honda S et al: Analytica Chimica Acta 149: 297~303, 1983.
ドーバミン総	守 和子: 産業医学17: 170~171, 1975.
L-ドーパ	守 和子: 産業医学17: 170~171, 1975.
VMA	Gironi A et al: Clinical Chemistry 34(12): 2504~2506, 1988.
VMA	Gironi A et al: Clinical Chemistry 34(12): 2504~2506, 1988.
HVA	Gironi A et al: Clinical Chemistry 34(12): 2504~2506, 1988.
HVA	Gironi A et al: Clinical Chemistry 34(12): 2504~2506, 1988.
メタネフリン総	Shoup RE et al: Clinical Chemistry 23(7): 1268~1274, 1977.
メタネフリン2分画	Shoup RE et al: Clinical Chemistry 23(7): 1268~1274, 1977.
MHPG	宮川 富三雄: 蛋白質核酸酵素26(9): 1089~1098, 1981.
セロトニン	Anderson GM et al: Gastroenterology 88: 86~89, 1985.
セロトニン	Nebinger P et al: Journal of Chromatography 427: 326~330, 1988.
5-HIAA	小島 司, 他: 臨床化学21(2): 119~126, 1992.
5-HIAA	Mailman RB et al: Clinical Chemistry 31(11): 1849~1854, 1985.

検査項目

測定参考文献

内分泌学的検査

17-KS7分画	石田 孝, 他: 臨床化学15(1): 13~19, 1986.
血中11-OHCS	宇田川 美佐子, 他: 臨床化学5(3): 321~325, 1977.
コルチゾール	柿沢 圭亮, 他: 医学と薬学73(1): 71~76, 2016.
コルチゾール	福島 靖恵, 他: 臨床検査機器・試薬22(6): 509~514, 1999.
アルドステロン(CLEIA)	佐藤 文彦, 他: 医学と薬学76(12): 1819~1826, 2019.
	猿田 亨男: 日本臨床63(増): 328~331, 2005.
	猿田 亨男: ホルモンと臨床43(増): 65~72, 1995.
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	増戸 梨恵, 他: 医学と薬学56(3): 443~448, 2006.
エストラジオール(E ₂)	岩佐 武, 他: 産科と婦人科73(1): 133~140, 2006.
エストラジオール(E ₂)	牧野 拓雄, 他: 日本内分泌学会雑誌50(4): 788~796, 1974.
IVF-エストラジオール(E ₂)	岩佐 武, 他: 産科と婦人科73(1): 133~140, 2006.
プロゲステロン	松崎 利也, 他: 医学と薬学73(3): 323~333, 2016.
IVF-プロゲステロン	松崎 利也, 他: 医学と薬学73(3): 323~333, 2016.
プレグナジオール	平井 利生, 他: 日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 9(2): 564~567, 1984.
プレグナントリオール	平井 利生, 他: 日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 9(2): 564~567, 1984.
テストステロン	木内 理世, 他: 医学と薬学64(1): 87~93, 2010.
フリーテストステロン	石原 静盛, 他: 核医学技術8(3): 207~212, 1988.
絨毛性ゴナドトロピン(HCG)	Cole LA et al: Clinical Chemistry 47(2): 308~315, 2001.
HCG-βサブユニット	菅原 由人, 他: 臨床検査機器・試薬14(3): 467~474, 1991.
HCG-βサブユニット	菅原 由人, 他: 臨床検査機器・試薬14(3): 467~474, 1991.
子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	北村 光, 他: 臨床検査機器・試薬21(4): 357~361, 1998.
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	Lockwood CJ et al: The New England Journal of Medicine 325(10): 669~674, 1991.
インスリン	唐澤 美佳, 他: 医療と検査機器・試薬29(5): 479~484, 2006.
C-ペプチド(CPR)	唐澤 美佳, 他: 医療と検査機器・試薬29(5): 485~491, 2006.
C-ペプチド(CPR)	唐澤 美佳, 他: 医療と検査機器・試薬29(5): 485~491, 2006.
抗GAD抗体	及川 洋一, 他: 医学と薬学72(9): 1551~1560, 2015.
抗IA-2抗体	松浦 信夫, 他: プラクティス16(5): 567~572, 1999.
抗インスリン抗体	内潟 安子, 他: 医学と薬学65(4): 525~530, 2011.
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	松岡 泰弘, 他: 医療と検査機器・試薬33(4): 535~540, 2010.
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	伊藤 洋子, 他: 医学と薬学64(6): 931~939, 2010.
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	Prontera C et al: Clin Chem Lab Med 42(1): 37~44, 2004.
レニン活性(PRA) (EIA)	宇津 貴央, 他: 医学と薬学73(3): 311~321, 2016.
	Kunihide Hiramatsu, et al: Arch intern Med-Vol141: 1589~1593, 1981.
レニン濃度(ARC) (CLEIA)	佐藤 文俊, 他: 医学と薬学76(12): 1827~1832, 2019.
	沖 隆, 他: ホルモンと臨床42: 1092~1094, 1994.
アルドステロ/レニン活性比	日本高血圧学会: 高血圧治療ガイドライン2019: 185~190, 2019.
アルドステロン/レニン濃度比	日本高血圧学会: 高血圧治療ガイドライン2019: 185~190, 2019.
ペントラキシン3(PTX3)	Inoue et al: Arterioscler Thromb Vasc Biol. 27(1): 161~167, 2007.
サイクリックAMP	孫 孝義, 他: 日本内分泌学会雑誌61(9): 912~923, 1985.
肝細胞増殖因子(HGF)	二井谷 好行, 他: 臨床検査35(13): 1360~1364, 1991.
エリスロポエチン	増田 詩織, 他: 医学と薬学67(2): 297~306, 2012.
アディポネクチン(LA)	Nishimura A. et al: Clinica Chimica Acta 371: 163~168, 2006.

検査項目

測定参考文献

腫瘍関連検査

癌胎児性抗原(CEA)	鈴木 尚子, 他: 医学と薬学56(6): 897~907, 2006.
血清p53抗体	島田 英昭, 他: 日本臨床外科学会雑誌64(7): 1551~1559, 2003.
TPA	吉川 文雄, 他: 医学と薬学34(4): 749~757, 1995.
α -フェトプロテイン定量	鈴木 尚子, 他: 医学と薬学56(6): 897~907, 2006.
PIVKA-II	高津 和子, 他: 臨床と研究73(11): 2656~2664, 1996.
DUPAN-2	櫻林 郁之介, 他: 臨床病理34(6): 705~710, 1986.
CA19-9	鈴木 尚子, 他: 医学と薬学56(6): 897~907, 2006.
SPan-1	梅山 馨, 他: 脾臓3(4): 528~539, 1988.
NCC-ST-439	吉岡 久, 他: 臨床病理35(11): 1233~1238, 1987.
CA15-3	黒田 雅顕: 医療と検査機器・試薬29(6): 589~596, 2006.
BCA225	石 和久, 他: 基礎と臨床23(15): 6087~6095, 1989.
血清 HER2タンパク	LuftnerD, et al: The International Journal of Biological Markers 19(3): 175~182, 2004.
シアリルLe ^x 抗原(CSLEX)	三嶋 芳樹, 他: 医学と薬学29(5): 1193~1200, 1993.
シアリルLe ^x -i抗原(SLX)	井村 裕夫, 他: 癌と化学療法14(5): 1315~1321, 1987.
PSA F/T比タンデム	野村 朋子, 他: 医学と薬学51(1): 179~186, 2004. 日本臨床検査自動化学会誌30(5): 738~742, 2005.
前立腺特異抗原(PSA)	武田 悟, 他: Progress in Medicine 2(9): 149~153, 2001.
γ -セミノプロテイン(γ -Sm)	佐藤 達郎, 他: 医学と薬学43(1): 97~106, 2000.
CA125	黒田 雅顕: 医療と検査機器・試薬29(6): 589~596, 2006.
CA54/61	野澤 志朗, 他: 癌と化学療法19(12): 2085~2093, 1992.
CA72-4	青山 昭, 他: 医学と薬学49(1): 127~135, 2003.
シアリルTn抗原(STN)	井村 裕夫, 他: 癌と化学療法16(9): 3213~3219, 1989.
SCC	林 圭織, 他: 医学と薬学76(12): 1809~1818, 2019.
シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	黒田 雅顕: 医療と検査機器・試薬29(6): 597~602, 2006.
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	山本 典江, 他: 医療と検査機器・試薬32(2): 263~267, 2009.
NSE(神経特異エノラーゼ)	堀田 多恵子, 他: 生物試料分析34(5): 345~353, 2011.
塩基性フェトプロテイン(BFP)	設楽 光弘, 他: 臨床病理36(9): 1039~1044, 1988.
可溶性IL-2レセプター	丹部 絵梨, 他: 医療と検査機器・試薬37(5): 649~657, 2014.
チミジンキナーゼ活性	鳥住 和民, 他: 核医学25(6): 561~567, 1988.
5-S-システニルドーパ(5-S-CD)	Wakamatsu K et al: Clinical Chemistry 40(3): 495~496, 1994.

ウイルス感染症検査

アデノウイルス	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル(文光堂): 880~886, 1988.
アデノウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 4型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 5型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 6型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 7型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 8型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 11型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 19型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.
アデノウイルス 21型	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版 (丸善): 260~274, 1973.

検査項目

測定参考文献

ウイルス感染症検査

アデノウイルス 37型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
インフルエンザウイルス A型(H1N1)(H3N2)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
インフルエンザウイルス A型	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
インフルエンザウイルス B型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
インフルエンザウイルス B型	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
パラインフルエンザウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
パラインフルエンザウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
パラインフルエンザウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
RSウイルス	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
RSウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
ロタウイルス抗原	篠崎 立彦, 他：小児科臨床41(2)：397～400, 1988.
エコーウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
エコーウイルス 4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
エコーウイルス 9型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 11型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 11型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
エコーウイルス 12型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 12型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
エコーウイルス 13型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 14型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 16型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 17型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 18型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 19型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 21型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 22型(パレコウイルス1型)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 24型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 25型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 30型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群9型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群9型	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス A群10型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.

検査項目

測定参考文献

ウイルス感染症検査

コクサッキーウイルス A群16型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群1型	北村 元仕, 他 臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群2型	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群3型	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群4型	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群5型	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群6型	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
エンテロウイルス 70型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
エンテロウイルス 71型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
日本脳炎ウイルス (JaGAr株)	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第2分冊：81～97, 1987.
日本脳炎ウイルス	北村 元仕, 他 臨床検査マニュアル (文光堂)：880～886, 1988.
ムンプスウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
ムンプスウイルス IgG	中山 哲夫 医学と薬学42(2)：303～306, 1999.
ムンプスウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
ムンプスウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
ムンプスウイルス	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
麻疹ウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
麻疹ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
麻疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
麻疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
風疹ウイルス IgM	佐藤 俊則, 他：臨床とウイルス23(1)：44～47, 1995.
風疹ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
風疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：214～225, 1973.
ヒトパルボウイルスB19 IgM	要藤 裕孝, 他：感染症学雑誌69(10)：1135～1140, 1995.
ヒトパルボウイルスB19 IgG	要藤 裕孝, 他：感染症学雑誌69(10)：1135～1140, 1995.
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgM	平野 勝, 他：医学と薬学42(2)：641～645, 1999.
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgG	吉田 晃, 他：臨床とウイルス13(4)：490～496, 1985.
水痘・帯状ヘルペスウイルス	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
水痘・帯状ヘルペスウイルス	井上 栄：臨床検査25(9)：959～965, 1981.
単純ヘルペス ウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
単純ヘルペス ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
単純ヘルペス ウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
単純ヘルペス ウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版 (丸善)：260～274, 1973.
単純ヘルペス ウイルス	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
サイトメガロウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
サイトメガロウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
サイトメガロウイルス	北村 元仕, 他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
EBウイルス 抗EA IgG	脇口 宏, 他：医学と薬学58(2)：363～369, 2007.

検査項目

測定参考文献

ウイルス感染症検査

EBウイルス 抗VCA IgM	脇口 宏, 他: 医学と薬学58(2): 363~369, 2007.
EBウイルス 抗VCA IgG	脇口 宏, 他: 医学と薬学58(2): 363~369, 2007.
EBウイルス 抗EBNA IgG	脇口 宏, 他: 医学と薬学58(2): 363~369, 2007.
EBウイルス 抗EA-DR IgG	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 特(35): 179~189, 1978.
EBウイルス 抗VCA IgM	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 特(35): 179~189, 1978.
EBウイルス 抗VCA IgG	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 特(35): 179~189, 1978.
EBウイルス 抗EBNA	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 特(35): 179~189, 1978.
EBウイルス 抗VCA IgA	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 特(35): 179~189, 1978.
EBウイルス 抗EA-DR IgA	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 特(35): 179~189, 1978.
単純ヘルペスウイルス IgG	吉田 晃, 他: 臨床とウイルス14(4): 469~475, 1986.
ウイルス分離	Hsiung GD: Diagnostic Virology An Illustrated Handbook: 3~20, 1973.
ウイルス同定	Hsiung GD: Diagnostic Virology An Illustrated Handbook: 3~20, 1973.
アデノウイルス抗原	Espy MJ et al: American Journal of Clinical Pathology 88(3): 358~360, 1987.
アデノウイルスDNA	Hierholzer JC et al: Journal of Clinical Microbiology 31(7): 1886~1891, 1993.
アデノウイルス抗原	青木 功喜, 他: 臨床眼科43(6): 1035~1039, 1989.
ロタウイルス抗原	篠崎 立彦, 他: 小児科臨床41(2): 397~400, 1988.
ヒトパルボウイルス B19DNA	Sevall JS: Molecular and Cellular Probes 4: 237~246, 1990.
インフルエンザウイルスRNA	Zhang W et al: Diagnostic Molecular Microbiology: 373~382, 1993.
水痘・带状疱疹ウイルスDNA	本藤 良, 他: 日本臨床50(特別号): 160~165, 1992.
水痘・带状疱疹ウイルス抗原	新村 真人, 他: 感染症学雑誌64(2): 195~201, 1990.
単純ヘルペスウイルス DNA定量	Stevens J: 実験医学15(7S): 728~733, 1997.
単純ヘルペスウイルス DNA	Cao M et al: J Invest Dermatol 82: 391~392, 1989.
単純ヘルペスウイルス 特異抗原	川名 尚, 他: 感染症学雑誌61(9): 1030~1037, 1987.
ヒトヘルペスウイルス 6型DNA	近藤 一博, 他: 蛋白質核酸酵素35(17): 3041~3047, 1990.
ヒトヘルペスウイルス 7型DNA	Yalcin S et al: Archives of Virology 136: 183~190, 1994.
サイトメガロウイルス DNA	Olive DM et al: Journal of Clinical Microbiology 27(6): 1238~1242, 1989.
サイトメガロウイルス pp65抗原(C10,C11)	浅井 隆善, 他: 今日の移植7(6): 553~559, 1994.
サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	権藤 久司, 他: 臨床血液 34(11): 1438~1444, 1993.
EBウイルスDNA定量	Stevens J: 実験医学15(7S): 728~733, 1997.
EBウイルスDNA(クロナリティ)	Raab-Traub N et al: Cell 47: 883~889, 1986.
ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)	Clavel C et al: Diagnostic Molecular Pathology 9(3): 145~150, 2000.
ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)(LBC)	Ko.V et al: Cancer Cytopathology 108(6): 468~467, 2006.
ヒトパピローマウイルスDNA(16型, 18型, その他ハイリスクグループ)	三浦 俊昭, 他: 医学と薬学69(1): 157~162, 2013.
ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)	Clavel C et al: Diagnostic Molecular Pathology 9(3): 145~150, 2000.
ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定	尾崎 聡, 他: 臨床病理60(7): 621~626, 2012.
HTLV- I (ATLV)抗体	堀江 昭伸, 他: 医学と薬学31(2): 367~374, 1994.
HTLV- I (ATLV)抗体	池田 幹雄, 他: 図説臨床癌シリーズ 9: 42~50, 1986.
HTLV- I (ATLV)抗体	上平 憲, 他: 臨床とウイルス21(1): 73~76, 1993.

検査項目

測定参考文献

ウイルス感染症検査

HTLV- I 核酸検出(妊婦)	Miyazato P.et al : Journal of Virology 80(21) : 10683~10691, 2006.
HTLV- I プロウイルスDNA定性	Miyazato P.et al : Journal of Virology 80(21) : 10683~10691, 2006.
HTLV- I (ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)	渡辺 俊樹, 他 : Meidical Immunology 16(6) : 785~791, 1988.
HIV抗原・抗体	桜庭 尚哉, 他 : 医学と薬学65(5) : 663~672, 2011.
HIV-1RNA定量	目崎 和久, 他 : 医学と薬学73(6) : 705~709, 2016.
HA抗体	矢野 公士, 他 : 医学と薬学58(1) : 151~161, 2007.
IgM-HA抗体	矢野 公士, 他 : 医学と薬学58(1) : 151~161, 2007.
HBs抗体	蒲池 正次, 他 : 臨床検査機器・試薬17(6) : 1173~1180, 1994.
HBs抗原(HQ)	戸来 孝, 他 : 医学と薬学72(9) : 1569~1577, 2015.
	厚生労働省研究班:免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン改訂版 日本リウマチ学会:B型肝炎ウイルス感染リウマチ性疾患患者への免疫抑制療法に関する提言第4版改訂版 化学発光酵素免疫測定試薬「ルミパルスHBsAgHQ」の基本性能に関する検討
HBs抗体(CLIA)	藤原 拓樹, 他 : 医学と薬学42(4) : 623~627, 1999.
HBe抗原	熊谷 保之 : 日本臨床検査自動化学会誌JJCLA25(1) : 70~74, 2000.
HBe抗体	熊谷 保之 : 日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 25(1) : 70~74, 2000.
HBc抗体	森藤 隆夫, 他 : 臨床病理 特(67) : 101~108, 1986.
HBc抗体	八橋 弘, 他 : 医学と薬学66(6) : 1075~1081, 2011.
IgM-HBc抗体	熊谷 保之 : 日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 25(1) : 70~74, 2000.
HBVゲノタイプ	田中 靖人, 他 : 臨床病理57(1) : 42~47, 2009.
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	田中 靖人, 他 : 臨床病理54(7) : 692~698, 2006.
HBV DNA定量	菅原 昌章, 他 : 医学と薬学73(10) : 1329~1339, 2016.
HCV抗体(第3世代)	山口 芳子, 他 : 臨床検査機器・試薬17(6) : 1161~1166, 1994.
HCV群別(グルーピング)	長谷川 瞳, 他 : 医学と薬学70(3) : 633~641, 2013.
HCV抗原(コア蛋白質)	田原 和子, 他 : 日本臨床検査自動化学会誌36(2) : 267~274, 2011.
HCV RNA定量	菅原 昌章, 他 : 医学と薬学73(10) : 1329~1339, 2016.
HCV RNAコアジェノタイプ	Ohno T et al : Journal of Clinical Microbiology 35(1) : 201~207, 1997.
HCV RNA 1b(NS5A)	Enomoto N et al : The New England Journal of Medicine 334(2) : 77~81, 1996.
IgA-HEV抗体(定性)	飯野 四郎, 他 : 医学と薬学53(4) : 461~469, 2005.

免疫学的検査

マイコプラズマニューモニエ	北村 元仕, 他 : 臨床検査マニュアル(文光堂) : 880~886, 1988.
マイコプラズマニューモニエ	大関 トシイ, 他 : 自治医科大学臨床検査技師年報12 : 62~64, 1988.
ツツガムシギリアム IgG	山本 正悟 : 臨床とウイルス12(3) : 270~274, 1984.
ツツガムシギリアム IgM	山本 正悟 : 臨床とウイルス12(3) : 270~274, 1984.
ツツガムシカトー IgG	山本 正悟 : 臨床とウイルス12(3) : 270~274, 1984.
ツツガムシカトー IgM	山本 正悟 : 臨床とウイルス12(3) : 270~274, 1984.
ツツガムシカトー IgG	山本 正悟 : 臨床とウイルス12(3) : 270~274, 1984.
ツツガムシカトー IgM	山本 正悟 : 臨床とウイルス12(3) : 270~274, 1984.
クラミジアトラコマティス IgG	松本 明, 他 : 感染症学雑誌66(5) : 584~591, 1992.
クラミジアトラコマティス IgA	松本 明, 他 : 感染症学雑誌66(5) : 584~591, 1992.
クラミジアトラコマティス IgM	松本 明, 他 : 感染症学雑誌66(5) : 584~591, 1992.
クラミジアシッタシ IgG	厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊 : 62~75, 1987.
クラミジアシッタシ IgM	厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊 : 62~75, 1987.

検査項目

測定参考文献

免疫学的検査

オーム病クラミジア(クラミジアシタシ)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル(文光堂): 880~886, 1988.
クラミジアニューモニエ IgG	松本 明: 第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
クラミジアニューモニエ IgA	松本 明: 第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
マイコプラズマニューモニエDNA	山口 恵三, 他: 医学と薬学58(4): 565~571, 2007.
淋菌およびクラミジアトラコマチスrRNA同時測定	松田 静治, 他: 日本性感感染症学会誌15(1): 116~126, 2004.
クラミジアトラコマチスDNA	熊本 悦明, 他: 医学と薬学66(6): 1007~1014, 2011.
淋菌DNA	熊本 悦明, 他: 医学と薬学66(6): 1007~1014, 2011.
淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時測定	熊本 悦明, 他: 医学と薬学66(6): 1007~1014, 2011.
百日咳DNA	Kamachi K, et al: J Clin Microbiol 44(5): 1899~1902, 2006.
結核菌特異的IFN- γ	Meier T, et al: European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 24: 529~536, 2005.
ニューモシスチスカリニDNA	Wakefield AE et al: The Lancet 336: 451~453, 1990.
寒冷凝集反応	原島 典子, 他: 衛生検査27(1): 67~71, 1978.
抗ストレプトリジン-O抗体(ASO)	伊藤 忠一: 日本臨床39(6): 685~688, 1995.
抗ストレプトキナーゼ抗体(ASK)	土屋 彦治, 他: 臨床検査機器・試薬7(2): 417~722, 1984.
便中ヘリコバクターピロリ抗原	福田 雅之助, 他: 医学と薬学62(3): 501~506, 2009.
抗ヘリコバクターピロリ抗体(LA)	乾 正幸, 他: 日本ヘリコバクター学会誌19(1): 33~42, 2017.
プロカルシトニン(PCT)	小林 一三, 他: 医学と薬学73(4): 459~467, 2016.
抗酸菌(抗酸菌塗抹、分離培養、薬剤感受性、結核菌群抗原)	日本結核病学会 抗酸菌検査法検討委員会: 抗酸菌ガイド2016. 小栗 豊子, 編: 臨床微生物検査ハンドブック 第4版.三輪書店, 2011.
抗酸菌同定(質量分析)	大楠 清文, 他: 抗酸菌検査ガイド2016:60~65, 2016.
結核菌群核酸同定(TRC)	田村 卓, 他: 日本臨床微生物学雑誌18(1):15~19. 2008.
MAC核酸同定(TRC)	田村 卓, 他: 日本臨床微生物学雑誌18(1):15~19. 2008.
エンドトキシン定量	土谷 正和, 他: 日本細菌学雑誌45(6): 903~911, 1990.
β -D-グルカン	吉田 耕一郎, 他: 感染症学雑誌79(7): 433~442, 2005.
カンジダマンナン抗原	新崎 晃弘, 他: 臨床検査機器・試薬23(3): 107~2003, 2000.
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	篠田 孝子, 他: 真菌と真菌症30(3): 211~221, 1989.
アスペルギルス抗原	見手倉 久治, 他: 医学と薬学42(1): 207~212, 1999.
アスペルギルス抗体	浜本 恒男: 臨床と微生物15(3): 352~356, 1988.
百日咳抗体[EIA]	医学と薬学65(4): 531~536, 2011.
トキソプラズマ IgG抗体	亀井 喜世子, 他: 臨床病理42(7): 743~747, 1994.
トキソプラズマ IgM抗体	亀井 喜世子, 他: 臨床病理42(7): 743~747, 1994.
梅毒定性 RPR(LA)	桜庭 尚哉: 医学と薬学63(1): 103~109, 2010.
梅毒定性 TP抗体(LA)	高橋 勝幸, 他: 機器・試薬33(1): 89~95, 2010.
FTA-ABS	山屋 駿一: 微生物検査必携 細菌・真菌検査 第3版: H83~H91, 1995.
梅毒定量 RPR(LA)	桜庭 尚哉: 医学と薬学63(1): 103~109, 2010.
梅毒定量 RPR法	福岡 良男: 新訂臨床検査講座23 臨床免疫学 (医歯薬出版): 361~364, 1997.
梅毒定量 TP抗体(LA)	高橋 勝幸, 他: 機器・試薬33(1): 89~95, 2010.
梅毒定量 TPHA	出口 松夫, 他: 感染症学雑誌68(10): 1271~1277, 1994.
リウマチ因子(RF)定量	向田 直史, 他: 臨床検査31(6): 603~609, 1987.
抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体	山下 里美, 他: 医学と薬学66(3): 569~576, 2011.
抗ガラクトース欠損IgG抗体	平山 吉郎, 他: 医学と薬学42(5): 817~828, 1999.
IgG型リウマチ因子	栗原 タ子, 他: リウマチ科22(5): 449~510, 1999.
MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	Yamanaka H, et al. Arthritis Rheum: 43: 852~858, 2000. 杉山 英二: リウマチ科: 20: 575~580, 1998.
	上村 裕子, 他: 臨床病理: 63: 1357~1364, 2015.

検査項目

測定参考文献

免疫学的検査

抗核抗体(ANA)	東條 毅：臨床検査30(7)：687～692, 1986.
抗DNA抗体(RIA)	鈴木 王洋, 他：臨床免疫25(8)：1096～1102, 1993.
抗ss-DNA IgG抗体	陣内 記代, 他：日本臨床検査自動化学会誌26(6)：747～753, 2001.
抗ss-DNA IgM抗体	山下 雅樹, 他：医学と薬学58(5)：763～767, 2007.
抗ds-DNA IgG抗体	陣内 記代, 他：日本臨床検査自動化学会誌26(6)：747～753, 2001.
抗ds-DNA IgM抗体	山下 雅樹, 他：医学と薬学58(5)：763～767, 2007.
抗カルジオリピン β 2グリコプロテインI複合体抗体(抗CL- β 2GP I抗体)	野島 順三, 他：医学と薬学32(6)：1315～1320, 1994.
抗カルジオリピン抗体(IgG)	岡田 純, 他：医学と薬学36(6)：1389～1394, 1996.
抗カルジオリピン抗体(IgM)	鍋木 淳一, 他：医学と薬学43(6)：1183～1188, 2000.
抗RNP抗体	金井 正光, 他：臨床検査法提要 第30版 (金原出版)：973～975, 1993.
抗RNP抗体	西山 進, 他：医学と薬学68(2)：345～355, 2012.
抗Sm抗体	金井 正光, 他：臨床検査法提要 第30版 (金原出版)：973～975, 1993.
抗Sm抗体	西山 進, 他：医学と薬学68(2)：345～355, 2012.
抗SS-A/Ro抗体	金井 正光, 他：臨床検査法提要 第30版 (金原出版)：973～975, 1993.
抗SS-A/Ro抗体	西山 進, 他：医学と薬学68(2)：345～355, 2012.
抗SS-B/La抗体	金井 正光, 他：臨床検査法提要 第30版 (金原出版)：973～975, 1993.
抗SS-B/La抗体	西山 進, 他：医学と薬学68(2)：345～355, 2012.
抗Scl-70抗体	金井 正光, 他：臨床検査法提要 第30版 (金原出版)：973～975, 1993.
抗Scl-70抗体	松下 雅和, 他：医学と薬学70(1)：109～117, 2013.
抗RNAポリメラーゼIII抗体	桑名 正隆：リウマチ科40(3)：239～245, 2008.
抗Jo-1抗体	西海 正彦：臨床検査機器・試薬13(4)：835～838, 1990.
抗Jo-1抗体	松下 雅和, 他：医学と薬学70(1)：109～117, 2013.
抗セントロメア抗体	宮脇 昌二, 他：医学と薬学45(1)：129～135, 2001.
抗ミトコンドリア抗体	山内 進, 他：臨床免疫7(7)：825～830, 1975.
抗ミトコンドリア M2抗体	丹野 瑞木, 他：医学と薬学67(3)：485～495, 2012.
抗LKM-1抗体	竹村 真理, 他：医学と薬学46(1)：109～114, 2001.
抗平滑筋抗体	山内 進：臨床免疫7(7)：825～830, 1975.
抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	松下 雅和, 他：医学と薬学66(5)：823～828, 2011.
抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	松下 雅和, 他：医学と薬学66(5)：823～828, 2011.
抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	臼井 文一, 他：医学と薬学68(4)：697～704, 2012.
免疫複合体(モノクローナルRF)	森 勝志, 他：医学と薬学27(2)：347～354, 1992.
抗胃壁細胞抗体	山内 進：衛生検査22(12)：1085～1089, 1973.
抗内因子抗体	Elizabeth A.Gomez et al：Clinical Chemistry 51(1)：232～235, 2005.
抗デスモグレイン1抗体	吉田 かおり, 他：医学と薬学70(5.6)：989～1000, 2013.
抗デスモグレイン3抗体	吉田 かおり, 他：医学と薬学70(5.6)：989～1000, 2013.
抗BP180抗体(血清中抗BP180NC16a抗体)	吉田 かおり, 他：医学と薬学70(5.6)：989～1000, 2013.
抗表皮成分自己抗体(直接法)	川生 明：病理と臨床6(増)：10～13, 1988.
抗血小板抗体	柴田 洋一：輸血学(中外医学社)：457～470, 1978.
PAIgG(血小板関連IgG)	林 悟, 他：臨床病理32(11)：1253～1257, 1984.
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	阪田 敏幸：医学と薬学68(3)：547～555, 2012.
抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	太田 光昭, 他：ホルモンと臨床48(1)：89～93, 2000.
精子不動化抗体	香山 浩二：日本産科婦人科学会雑誌42(11)N209～N212, 1990.

検査項目

測定参考文献

免疫学的検査

精子不動化抗体(SI50)	香山 浩二：日本産科婦人科学会雑誌42(11)N209～N212, 1990.
ABO・Rh(D因子)式血液型	長田 広司：医薬ジャーナル32(S1)：215～219, 1996.
Rh-Hr式血液型	長田 広司：医薬ジャーナル32(S1)：215～219, 1996.
直接クームス試験	浅井 隆善：医学のあゆみ167(9)：700～700, 1993.
間接クームス試験	浅井 隆善：医学のあゆみ167(9)：700～700, 1993.
不規則性抗体(抗体同定・抗体価測定)	浅井 隆善：医学のあゆみ167(9)：700～700, 1993.
血液型不適合妊娠	支倉 逸人：日本臨床26(2)：262～272, 1968.
免疫電気泳動(抗ヒト全血清による同定)	大谷 英樹，他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動 2版：8～26, 1977.
免疫電気泳動(特異抗血清による同定)	大谷 英樹，他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動 2版：8～26, 1977.
尿中免疫電気泳動(尿中ヘンズジョーンズ蛋白の同定)	大谷 英樹，他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動 2版：8～26, 1977.
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	伊藤 早織，他：医学と薬学64(1)：111～117, 2010.
オリゴクローナルバンド	藤井 英治，他：生物物理化学28(4)：261～266, 1984.
IgG	金井 正光，編：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgGサブクラス分画	野田 美穂子，他：臨床検査機器・試薬9(6)：1121～1126, 1986.
IgA	金井 正光，編：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgM	金井 正光，編：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgD	伊藤 忠一：臨床検査機器・試薬9(1)：1～5, 1986.
クリオグロブリン定性	青木 紀生，他：Medical Technology 6(8)：619～624, 1978.
血清補体価	中藤 聡子，他：臨床検査機器・試薬19(4)：609～613, 1996.
C1q	櫻林 郁之介，他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	Dick W et al：Immun Infekt13：113～118, 1985.
C3	金井 正光，編：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：833～837, 1998.
C4	金井 正光，編：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：833～837, 1998.
プレアルブミン	古田島 伸雄，他：日本臨床検査自動化学会誌32(1)：84～88, 2007.
レチノール結合蛋白(RBP)	古田島 伸雄，他：日本臨床検査自動化学会誌32(1)：84～88, 2007.
α1-マイクログロブリン	中野 卓，他：臨床検査機器・試薬11(3)：469～476, 1988.
α1アンチトリプシン	櫻林 郁之介，他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
α1アシドグリコプロテイン	櫻林 郁之介，他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
α2-マクログロブリン	櫻林 郁之介，他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
ハプトグロビン	櫻林 郁之介，他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
セルプラスミン	櫻林 郁之介，他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
フェリチン	唐澤 美佳，他：医療と検査機器・試薬29(5)：493～497, 2006.
トランスフェリン	伊藤 忠一：検査と技術16(7)：593～598, 1988.
尿中トランスフェリン	齋藤 良一，他：日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 25(5)：687～690, 2000.
尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	齋藤 良一，他：日本臨床検査自動化学会誌JJCLA 25(5)：687～690, 2000.
β2-マイクログロブリン	伊藤 浩治，他：医療と検査機器・試薬26(2)：127～134, 2003.
β2-マイクログロブリン	伊藤 浩治，他：医療と検査機器・試薬26(2)：127～134, 2003.
シスタチンC	Tanaka M, et al：Clinical Biochemistry 37：27～35, 2004.
C反応性蛋白(CRP)定量	河合 忠，他：臨床検査機器・試薬20(4)：503～517, 1997.
血清アミロイドA蛋白(SAA)	永徳 広美，他：生物物理化学37(1)：19～23, 1993.
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	藤田 孝，他：臨床検査機器・試薬33(5)：629～632, 2010.
ミオグロビン	吉川 文雄，他：医学と薬学37(5)：1243～1253, 1997.
心室筋ミオシン軽鎖I	宮崎 修一，他：医学と薬学52(3)：443～449, 2004.
心筋トロポニンT	戸田 圭三，他：医学と薬学62(2)：331～340, 2009.

検査項目

測定参考文献

免疫学的検査

プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)	北原 志穂, 他: 医学と薬学72(9): 1579~1590, 2015.
尿中Ⅳ型コラーゲン	小幡 賢一, 他: 臨床検査機器・試薬18(3): 439~444, 1995.
KL-6	西村 順, 他: 医学と薬学41(6): 1159~1172, 1999.
肺サーファクタント プロテインD(SP-D)	田中 誠仁, 佐藤 高明, 他: 医学と薬学59(3): 439~446, 2008.
I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)	Hanson DA et al: Journal of Bone and Mineral Research 7(11): 1251~1258, 1992.
デオキシピリジノリン	山本 逸雄, 他: ホルモンと臨床44(7): 747~757, 1996.
I型コラーゲンC末端 テロペプチド(ICTP)	清原 剛, 他: ホルモンと臨床42(12): 1189~1193, 1994.

アレルギー検査

IgE(非特異的IgE)	榎本 雅夫, 他: アレルギーの臨床23(1): 62~66, 2003.
アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルギー)	奥田 勲, 他: 医学検査46(10): 1525~1530, 1997.
特異的IgE(MAST36アレルギー)	中川 武正, 他: アレルギーの臨床26(3): 238~242, 2006.
特異的IgE(シングルアレルギー)CLEIA	右田 忍, 他: 医学と薬学48(1): 101~107, 2002.
特異的IgE(ミックスアレルギー)	右田 忍, 他: 医学と薬学48(1): 101~107, 2002.
特異的IgE(シングルアレルギー)FEIA	奥田 勲, 他: 医学検査46(10): 1525~1530, 1997.
TARC(Th2ケモカイン)	石田 俊雄, 他: 医学と薬学58(6): 901~907, 2007.

生化学的検査

総蛋白(TP)	Gornall AG et al: J Biol Chem: 177: 751~766, 1949.
総蛋白(TP)	田中 雅美, 他: 機器・試薬33: 393~397, 2010.
総蛋白(TP)	田中 雅美, 他: 機器・試薬33: 393~397, 2010.
アルブミン(Alb)	佐々木 真弓, 他: 機器・試薬26(4): 335~338, 2003.
尿中アルブミン	舩方 栄二: 検査と技術3(7): 625~630, 2005.
尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	舩方 栄二: 検査と技術3(7): 625~630, 2005.
A/G比	浅井 孝道: 検査と技術7(10): 815~820, 1979.
蛋白分画	伊藤 喜久: Medical Technology 39(3): 278~248, 2011.
リパーゼ	松井 静代, 他: 医学と薬学41(3): 489~496, 1999.
アミラーゼ(AMY)	高笠 信之: The Chemical Times: 201(3): 9~11, 2006.
アミラーゼアイソザイム	星野 忠: JJCLA VOL.37 No.3: 293~297, 2012.
P型アミラーゼ定量	高笠 信之: The Chemical Times: 201(3): 9~11, 2006.
トリプシン	河野 幹彦, 他: 医学と薬学53(5): 635~641, 2005.
膵ボスホリパーゼA ₂ (膵PLA ₂)	竹田 昌弘, 他: ホルモンと臨床38(7): 729~734, 1990.
エラスターゼ1	大出 勝也, 他: 肝と膵23(6): 477~480, 2002.
リゾチーム	北村 元仕: 実践臨床化学 増補: 432~436, 1982.
CK(CPK)	日本臨床化学会: 臨床化学19(2): 184~208, 1990.
CK-MB(CPK-MB)	Wurzburg U et al: Klinische Wochenschrift 54: 357~360, 1976.
CK-MB(CPK-MB)	Piran U et al: Clinical Chemistry: 33(9): 1517~1520, 1987.
CK(CPK)アイソザイム	高木 康, 他: 臨床検査32(11): 1309~1315, 1988.
アルドラーゼ	三浦 雅一, 他: 臨床検査機器・試薬12(5): 1005~1009, 1989.
AST(GOT)	日本臨床化学会: 臨床化学18(4): 226~230, 1989.
ミトコンドリア-AST(m-AST)(m-GOT)	白波瀬 泰史, 他: 第7回日本臨床化学会分析部会関東支部学術集会 講演会抄録集: 40~44, 1989.
ALT(GPT)	日本臨床化学会: 臨床化学18(4): 250~254, 1989.
LD(LDH)IFCC	日本臨床化学会ALP・LD測定法変更についてー医療従事者向けーver1.0(2019.11.21)
LD(LDH)アイソザイム	森山 隆則, 他: Medical Technology: 25(1): 45~51, 1997.
アルカリフォスファターゼ(ALP)IFCC	日本臨床化学会ALP・LD測定法変更についてー医療従事者向けーver1.0(2019.11.21)

検査項目

測定参考文献

生化学的検査

骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	倉澤 健太郎, 他: 医学と薬学55(2): 279~285, 2006.
ALPアイソザイム	芝 紀代子: 目でみる電気泳動法2(医歯薬出版): 55~71, 1989.
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	小林 照明, 他: 機器・試薬14(6): 929~935, 1991.
γ -GT(γ -GTP)	日本臨床化学会酵素専門委員会: 臨床化学24(2): 106~121, 1995.
コリンエステラーゼ(ChE)	大澤 進, 他: 臨床化学24: 138~145, 1995.
アンギオテンシン I 転換酵素(ACE)	Kasahara Y et al: Clinical Chemistry 27(11): 1922~1925, 1981.
N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)	進藤 聡子, 他: 医学と薬学21(5): 967~977, 1989.
グアナーゼ	手登根 稔, 他: 検査と技術13(10): 901~905, 1985.
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	佐野 史良, 他: 臨床検査機器・試薬9(4): 715~720, 1986.
ペプシノゲン	三木 一正, 他: 医学と薬学56(6): 889~896, 2006.
アンモニア	奥田 拓道, 他: 最新医学21(3): 622~627, 1966.
尿素窒素(UN)	森下 芳孝: Medical Technology 26(6): 695~700, 1998.
クレアチニン	安原 正喜, 他: 臨床検査機器・試薬17(1): 59~67, 1994.
推算GFR	堀尾 勝: 医学のあゆみ222(10): 785~788, 2007.
クレアチン	今野 稔: Medical Technology 12(3): 270~276, 1984.
尿酸(UA)	金井 泉, 他: 臨床検査提要 第32版: 503~507, 2005.
L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)	富田 健一郎, 他: 医学と薬学72(8): 1389~1395, 2015.
アミノ酸分析(39種類) [LC/MS]	Kazutaka Shimbo et al: Biomedical Chromatography 24: 683~691, 2010.
アミノ酸分析(41種類)	日本生化学会: 生化学実験講座11 アミノ酸代謝と生体アミン 1版: 53~67, 1976.
アミノ酸分析(9種類) [LC/MS]	Kazutaka Shimbo et al: Biomedical Chromatography 24: 683~691, 2010.
アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン) [LC/MS]	Kazutaka Shimbo et al: Biomedical Chromatography 24: 683~691, 2010.
総ホモシステイン	Araki A et al: Journal of Chromatography 422: 43~52, 1987.
ハイドロキシプロリン-総	鈴木 隆夫, 他: 日本臨床化学会年会記録28: 118~118, 1988.
γ -アミノ酪酸(GABA)	Fujiwara M et al: Analytical Biochemistry 166: 72~78, 1987.
グルコース	日本臨床化学会試薬専門委員会: 臨床化学20(4): 247~254, 1991.
ヘモグロビンA1c(HbA1c)	平田 稔, 他: 医学と薬学34(1): 125~136, 1995.
グリコアルブミン	石橋 みどり, 他: 医学と薬学52(3): 403~412, 2004.
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)	遠藤 輝夫, 他: 医療と検査機器・試薬26(1): 45~50, 2003.
糖代謝解析	張 春花, 他: 金医大誌21: 399~410, 1996.
ヒアルロン酸	島村 朗, 他: 医学と薬学44(6): 1141~1146, 2000.
ヒアルロン酸	島村 朗, 他: 医学と薬学44(6): 1141~1146, 2000.
シアル酸	水田 亘, 他: 臨床病理 特(54): 128~134, 1983.
乳酸	浅沼 和子, 他: 生物試料分析8(3): 16~24, 1985.
ビルビン酸	浅沼 和子, 他: 生物試料分析8(3): 16~24, 1985.
尿中シュウ酸	小川 由英, 他: 腎と透析 臨増: 151~157, 1997.
クエン酸	Warty VS et al: Clinical Chemistry 30(7): 1231~1233, 1984.
血中ケトン体分画	西ヶ谷 晴美, 他: 医学検査45(3): 353, 1996.
血中ケトン体分画	西ヶ谷 晴美, 他: 医学検査45(3): 353, 1996.
アセトン定量	深掘 すみ江, 他: 労働科学59(12): 555~562, 1983.
有機酸スクリーニング検査	河野 芳功, 他: 日本小児科学会雑誌89(10): 2327~2334, 1985.
中性脂肪(TG)	Tamaoku K et al: Chem Pharm Bull 30(7): 2492~2497, 1982.
リン脂質	Takayama M et al: Clinica Chimica Acta 79: 93~98, 1977.
総コレステロール(T-Cho)	桜井 強: 医学検査47(4): 747~752, 1998.
エステル型コレステロール(Echo)	Richmond W: Clinical Chemistry 19(12): 1350~1356, 1973.

検査項目

測定参考文献

生化学的検査

遊離コレステロール(F-Cho)	Richmond W : Clinical Chemistry 19(12) : 1350~1356, 1973.
コレステロールエステル比	Richmond W : Clinical Chemistry 19(12) : 1350~1356, 1973.
HDL-コレステロール	田口 隆由, 他 : 臨床検査機器・試薬24(1) : 35~41, 2001.
HDL _{2, 3} コレステロール	Bronzert TJ et al : Clinical Chemistry 23(11) : 2089~2098, 1977.
LDL-コレステロール	菅野 剛史, 他 : 医学と薬学37(3) : 635~644, 1997.
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	大石 千早, 他 : 日本臨床検査自動化学学会誌35(1) : 83~87, 2010.
全脂質中脂肪酸分画	小沢 昭夫, 他 : 分析化学31 : 87~91, 1982.
血中脂肪酸分画	小沢 昭夫, 他 : 分析化学31 : 87~91, 1982.
極長鎖脂肪酸	小池 亮子 : 小児科診療53(増) : 394~397, 1990.
総胆汁酸	今野 稔 : 臨床検査機器・試薬16(3) : 472~479, 1993.
β-リポ蛋白	金井 正光, 他 : 臨床検査法提要 第30版(金原出版) : 574~575, 1993.
リポ蛋白分画	芝 紀代子 : 目でみる電気泳動法2 : 91~99, 1989.
リポ蛋白分画	菅原 和行, 他 : 衛生検査27(5) : 624~627, 1978.
コレステロール分画	櫻林 郁之介, 他 : HDL-コレステロール基礎と臨床 (株)テクノ : 207~220, 1980.
酸化LDL(MDA-LDL)	小谷 一夫 : 酸化ストレスマーカー 学術出版センター : 243~246, 2005.
リポ蛋白(a)	岡野 芳幸, 他 : 日本臨床検査自動化学学会誌JJCLA 21(5) : 705~709, 1996.
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	Kobayashi J et al : Clinica Chimica Acta 216 : 113~123, 1993.
アポリポ蛋白 A-I	岡崎 伸次, 他 : 日本臨床検査自動化学学会誌12(4) : 334~334, 1987.
アポリポ蛋白 A-II	岡崎 伸次, 他 : 日本臨床検査自動化学学会誌12(4) : 334~334, 1987.
アポリポ蛋白 B	岡崎 伸次, 他 : 日本臨床検査自動化学学会誌12(4) : 334~334, 1987.
アポリポ蛋白 C-II	岡崎 伸次, 他 : 日本臨床検査自動化学学会誌12(4) : 334~334, 1987.
アポリポ蛋白 C-III	岡崎 伸次, 他 : 日本臨床検査自動化学学会誌12(4) : 334~334, 1987.
アポリポ蛋白 E	岡崎 伸次, 他 : 日本臨床検査自動化学学会誌12(4) : 334~334, 1987.
アポリポ蛋白Eフェノタイプ	片岡 伸久朗, 他 : 臨床検査37(12) : 1267~1271, 1993.
ビタミンA	須原 聡, 他 : 臨床検査36(3) : 235~239, 1992.
β-カロチン	加美山 茂利, 他 : 臨床検査31(3) : 268~274, 1987.
ビタミンB ₁	富川 秀則, 他 : 生物試料分析36(4) : 327~330, 2013.
ビタミンB ₂	大石 誠子 : ビタミンハンドブック3 ビタミン分析法(化学同人) : 71~80, 1989.
ビタミンB ₆	吉田 継親, 他 : 薬学雑誌98(10) : 1319~1326, 1978.
ビタミンB ₁₂	中森 誠, 他 : 医療と検査機器・試薬27(3) : 215~221, 2004.
ビタミンC(アスコルビン酸)	Lykkesfeldt J et al : Analytical Biochemistry 229 : 329~335, 1995.
1,25-(OH) ₂ ビタミンD	Fraser WD et al : Ann Clin Biochem 34 : 632~637, 1997.
25-OHビタミンD	小島 哲 : 臨床化学48(3) : 239~244, 2019.
ビタミンE	阿部 皓一, 他 : 栄養と食糧28(5) : 277~280, 1975.
ビタミンE分画	阿部 皓一, 他 : ビタミン49(7) : 259~263, 1975.
葉酸	西村 和子, 他 : 生物試料分析35(4) : 300~309, 2012.
ビタミンK分画	langenbergh JP et al : Journal of Chromatography 305 : 61~72, 1984.
ニコチン酸(ナイアシン)	宮沢 滋 : ビタミン56(9・10) : 487~499, 1982.
カルニチン分画	伊丹 儀友, 他 : 臨床検査58(5) : 651~658, 2014.
Na(ナトリウム)	桑 克彦 : 臨床検査34(11) : 1353~1358, 1990.
Cl(クロール)	関口 光夫 : 検査と技術17(9) : 1167~1172, 1989. と桑 克彦 : 臨床検査34(11) : 1353~1358, 1990.
K(カリウム)	桑 克彦 : 臨床検査34(11) : 1353~1358, 1990. と高橋 勝幸 : 検査と技術20(6) : 106~110, 1992.
Ca(カルシウム)	根占 哲也 : 都臨技会誌34(5) : 270~281, 2006.

検査項目

測定参考文献

生化学的検査

イオン化カルシウム	桑 克彦：検査と技術19(2)：119～124, 1991.
P(無機リン)	Drewes PA：Clinica Chimica Acta 39：81～88, 1972.
Mg(マグネシウム)	北村 元仕：実践臨床化学 1版：166～171, 1974.
浸透圧	鈴木 明，他：検査と技術6(9)：759～762, 1978.
浸透圧	鈴木 明，他：検査と技術6(9)：759～762, 1978.
鉄(Fe)	荒明 洋，他：臨床検査機器・試薬6(2)：359～366, 1983.
鉄(Fe)	溝口 秀昭：臨床医8(10)：1624～1626, 1982.
総鉄結合能(TIBC)	荒明 洋，他：臨床検査機器・試薬6(2)：359～366, 1983.
不飽和鉄結合能(UIBC)	荒明 洋，他：臨床検査機器・試薬6(2)：359～366, 1983.
Cu(銅)	Abe A et al：Clinical Chemistry 35(4)：552～554, 1989.
Cu(銅)	Ichida T et al：Clinica Chimica Acta 24：299～303, 1969.
Zn(亜鉛)	Meret S et al：Clinical Chemistry 17(5)：369～373, 1971.
Zn(亜鉛)	Meret S et al：Clinical Chemistry 17(5)：369～373, 1971.
総ビリルビン(T-Bil)	徳田 邦明，他：臨床化学22(2)：116～122, 1993.
ビリルビン分画(直接，間接)	徳田 邦明，他：臨床化学22(2)：116～122, 1993.
コプロポルフィリン 定性	近藤 雅雄：日本臨床53(6)：1377～1382, 1995.
コプロポルフィリン	近藤 雅雄：日本臨床53(6)：1377～1382, 1995.
ウロポルフィリン	近藤 雅雄：日本臨床53(6)：65～70, 1995.
δ-アミノレブリン酸(δ ALA)	園藤 陽子，他：産業医学35：126～127, 1993.
コプロポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26(13)：1832～1835, 1980.
ウロポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26(13)：1832～1835, 1980.
プロトポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26(13)：1832～1835, 1980.
尿中馬尿酸	岸浪 菊江子，他：臨床化学17(3)：128～135, 1988.
尿中メチル馬尿酸	岸浪 菊江子，他：臨床化学17(3)：128～135, 1988.
尿中総三塩化物 トリクロルエチレン	城山 康，他：松仁会医誌25(2)：225～231, 1986.
尿中総三塩化物 1・1・1-トリクロルエタン	城山 康，他：松仁会医誌25(2)：225～231, 1986.
尿中総三塩化物 テトラクロルエチレン	城山 康，他：松仁会医誌25(2)：225～231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 トリクロルエチレン	城山 康，他：松仁会医誌25(2)：225～231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 1・1・1-トリクロルエタン	城山 康，他：松仁会医誌25(2)：225～231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 テトラクロルエチレン	城山 康，他：松仁会医誌25(2)：225～231, 1986.
尿中N-メチルホルムアミド	Mraz J et al：Journal of Chromatography 414：399～404, 1987.
尿中2,5-ヘキサジオン	Iwata M et al：Int Arch Occup Environ Health 51：253～260, 1983.
アルミニウム(Al)	Oster O：Clinica Chimica Acta 114：53～60, 1981.
クロム	松岡 澄：産業医学13(6)：525～537, 1971. と田中 俊行，他：医学と生物学101(5)：277～281, 1980.
マンガン	Tsaler DL et al：Bulletin of Environmental Contamination & Toxicology 17(6)：660～666, 1977.
カドミウム	Lagesson V et al：Clinical Chemistry 25(11)：1948～1953, 1979.
イヌリン定量(酵素法)	木全 伸介，他：医療と検査機器・試薬28(2)：143～149, 2005.
結石分析(成分比率)	神 ちひろ，他：分析化学53(7)：735～741, 2004.
エタノール	馬嶋 正隆，他：北里医学14：424～430, 1984.
ネオブテリン	Hausen A et al：Journal of Chromatography 227：61～70, 1982.
骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	西沢 良記，他：医学と薬学54(5)：709～717, 2005.
I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	Hanson DA et al：Journal of Bone and Mineral Research 7(11)：1251～1258, 1992.
デオキシビリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	山本 逸雄，他：ホルモンと臨床44(7)：747～757, 1996.
インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total PINP)	日高 好博，他：医学と薬学70(2)：357～365, 2013.

検査項目

測定参考文献

血液学的検査

鼻汁中好酸球	奥田 稔：臨床検査29(3)：267～272, 1985.
β -トロンボグロブリン(β -TG)	高橋 芳右, 他：血液と脈管18(4)：326～335, 1987.
血小板第4因子(PF-4)	高橋 芳右, 他：血液と脈管18(4)：326～335, 1987.
プロトロンビン時間(PT)	高宮 脩：臨床検査機器・試薬17(6)：1079～1085, 1994.
活性化部分 トロンボプラスチン時間(APTT)	日野 志郎：臨床検査講座15 血液学：244～250, 1984.
フィブリノーゲン	金井 正光, 他：臨床検査法提要33：358～360, 2010.
凝固因子活性検査 第Ⅱ因子(F2)	安達 眞二：Medical Technology 24(6)：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅴ因子(F5)	安達 眞二：Medical Technology 24(6)：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅶ因子(F7)	安達 眞二：Medical Technology 24(6)：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅷ因子(F8)	安達 眞二：Medical Technology 24(6)：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅸ因子(F9)	安達 眞二：Medical Technology 24(6)：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅹ因子(F10)	安達 眞二：Medical Technology 24(6)：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第ⅩⅠ因子(F11)	安達 眞二：Medical Technology 24(6)：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第ⅩⅡ因子(F12)	安達 眞二：Medical Technology 24(6)：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第ⅩⅢ因子(F13)	Fickenscher K et al：Thrombosis and Haemostasis 65(5)：535～540, 1991.
凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子	Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：196～198, 1983.
凝固抑制因子検査 第Ⅸ(9)因子	Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：196～198, 1983.
フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	Macfarlane DE et al：Thrombosis and Haemostasis 34：306～308, 1975.
フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析	高橋 芳右, 他：臨床検査31(6)：665～668, 1987.
プラスミノゲン	Friberger P et al：Haemostasis 7：138～145, 1978.
アンチプラスミン(α 2プラスミンインヒビター)	Friberger P et al：Haemostasis 7：138～145, 1978.
アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)	Scully MF et al：Clinica Chimica Acta 79：595～602, 1977.
ヘパリン	Teien A et al：Thrombosis Research 8(3)：413～416, 1976.
FDP定量	長野 美恵子, 他：医療と検査機器・試薬27(1)：23～29, 2004.
FDP定量	堀内 伸純, 他：臨床検査機器・試薬14(2)：267～270, 1991.
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	八戸 雅彦, 他：臨床病理60(12)別冊, 1139～1144, 2012.
フィブリンモノマー複合体定量	内藤 澄悦, 他：医学と薬学48(4)：595～599, 2002.
Dダイマー	佐野 将也, 他：臨床検査機器・試薬20(2)：301～308, 1997.
α 2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)	徐 吉夫, 他：臨床検査機器・試薬16(6)：1107～1113, 1993.
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	田中 朝志, 他：医学と薬学31(1)：203～208, 1994.
プロテインC(抗原量)	筒井 聡明, 他：検査と技術12(7)：581～587, 1984.
プロテインC活性	高橋 芳右, 他：血液と脈管18(6)：548～556, 1987.
プロテインS(抗原量)	安藤 秀実, 他：機器・試薬41(5)：509～519, 2018.
プロテインS活性	鬼沢 実, 他：臨床検査機器・試薬15(2)：166～171, 1992.
プロテインS(遊離型抗原量)	安藤 秀実, 他：機器・試薬41(5)：509～519, 2018.
トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)	曾我部 万紀, 他：医学のあゆみ173(12)：997～998, 1995.
トロンボモジュリン	横内 敬二, 他：医学と薬学44(4)：795～802, 2000.
ループスアンチコアグラント	後藤 守孝, 他：Modern Physician 15(12)：1545～1550, 1995.
ループスアンチコアグラント	後藤 守孝, 他：Modern Physician 15(12)：1545～1550, 1995.
ループスアンチコアグラント	佐藤 久美子, 他：臨床病理43(3)：263～268, 1995.

一般検査

尿中一般検査	金井 泉, 他：臨床検査法提要 第30版(金原出版)：99～105, 1993.
虫卵(セロテープ)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 第30版(金原出版)：192～208, 1993.
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	加藤 節子, 他：機器・試薬29(5)：473～478, 2006.
便中ヘモグロビン	加藤 節子, 他：機器・試薬29(5)：473～478, 2006.

検査項目

測定参考文献

薬物検査

フェノバルビタール	石橋 みどり, 他: 医学と薬学42(6): 1061~1074, 1999.
プリミドン	宮本 侃治: 臨床化学6(3): 202~211, 1978.
フェニトイン	石橋 みどり, 他: 医学と薬学42(6): 1061~1074, 1999.
カルバマゼピン	石橋 みどり, 他: 医学と薬学42(6): 1061~1074, 1999.
エトサクシミド	宮本 侃治: 臨床化学6(3): 202~211, 1978.
バルプロ酸	石橋 みどり, 他: 医学と薬学42(6): 1061~1074, 1999.
ゾニサミド	野口 秀人, 他: 薬理と治療16(12): 4805~4811, 1988.
トリメタジオン	斉藤 正行, 他: ドラッグレベルモニタリング 治療への臨床化学的アプローチ: 100~110, 1982.
クロナゼパム	Heaziewood RL et al: Journal of Chromatography 336: 229~233, 1984.
ニトラゼパム	Heaziewood RL et al: Journal of Chromatography 336: 229~233, 1984.
ジアゼパム	Brodie RR et al: Journal of Chromatography 150: 361~366, 1978.
クロバザム	Kunicki PK: Journal of Chromatography B 750: 41~49, 2001.
レベチラセタム	Mendu, D R, Soldin S J: Clinical Biochemistry 43: 485~489, 2010.
トピラマート	Matar, K M: Clinica Chimica Acta 411: 729~734, 2010.
ガバベンチン	Forrest G, et al: Journal of Chromatography B 681: 421~425, 1996.
アセタゾールアミド	Sadee W et al: ドラッグレベルモニタリング: 90~91, 1982.
リチウム	Hisayasu GH et al: Clinical Chemistry 23(1): 41~45, 1977.
ハロペリドール	白井 晶子, 他: 医学と薬学49(6): 1011~1017, 2003.
プロムペリドール	白井 晶子, 他: 医学と薬学50(1): 101~107, 2003.
ジゴキシン	水内 由利, 他: 医学と薬学35(4): 847~851, 1996.
リドカイン	宮本 侃治: 臨床化学6(3): 202~211, 1978.
キニジン	木村 英樹, 他: 日本臨床検査自動化学会誌33(5): 860~864, 2008.
ジソピラミド	扇谷 茂樹, 他: 臨床検査機器・試薬6(2): 520~523, 1983.
プロカインアミド	木村 英樹, 他: 日本臨床検査自動化学会誌33(5): 860~864, 2008.
プロパフェノン	Steurer G et al: European Heart Journal 12: 526~532, 1991.
メキシレチン	坂本 伸哉, 他: TDM研究3(2): 126~128, 1986.
ビルジカイニド	上野 和行: Pharma Medica 11(4): 97~99, 1993.
シベンゾリン	寺川 雅人, 他: 薬物動態3(6): 761~771, 1988.
フレカイニド	Piovan D et al: Pharmacological Research Communications 18(8): 739~745, 1986.
ビルメノール	市川 林, 他: 臨床医薬11(4): 903~906, 1995.
アプリンジン	高田 充隆, 他: 病院薬学14(4): 256~261, 1988.
ペプリジル	山崎 泰志, 他: 臨床医薬14(1): 139~145, 1998.
アミオダロン	Ress K et al: Journal of Chromatography 417: 465~470, 1987.
プロプラノロール	Ahnoff M et al: Journal of Chromatography 340: 73~138, 1985.
ゲンタマイシン	石橋 みどり, 他: 医学と薬学42(6): 1061~1074, 1999.
トブラマイシン	木村 英樹, 他: 日本臨床検査自動化学会誌33(5): 860~864, 2008.
アミカシン	木村 英樹, 他: 日本臨床検査自動化学会誌33(5): 860~864, 2008.
アルベカシン	久保 博昭, 他: 医学と薬学19(6): 1545~1547, 1988.
バンコマイシン	木村 英樹, 他: 日本臨床検査自動化学会誌33(5): 860~864, 2008.
テイコブラニン	諸岡 美里, 他: JJCLA 38(1): 79~82, 2013.
ポリコナゾール	臼杵 英俊, 他: 医学と薬学53(6): 817~821, 2005.
サリチル酸	木村 英樹, 他: 日本臨床検査自動化学会誌33(5): 860~864, 2008.

検査項目	測定参考文献
薬物検査	
アセトアミノフェン	木村 英樹, 他 : 日本臨床検査自動化学会誌33(5) : 860~864, 2008.
シクロスポリン	古屋 実, 他 : 医学と薬学70(5・6) : 961~973, 2013.
タクロリムス	古屋 実, 他 : 医学と薬学70(5・6) : 961~973, 2013.
メトトレキサート	中原 佑香里, 他 : 医学と薬学72(4) : 761~767, 2015.
テオフィリン	石橋 みどり, 他 : 医学と薬学42(6) : 1061~1074, 1999.
イマニチブ	Bakhtiar R, et al : Journal of Chromatography B 768 : 325~340, 2002.

専用容器の取り扱い方法

検体の採取・取り扱い方法

血液

〔採血時間〕 一般的に早朝安静空腹時(緊急性や指定条件を除き)を原則としています。

〔検体採取〕

- 血液 所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和させ、特に指定が無い場合、室温および冷蔵保存の場合はこのままで、凍結保存の場合は提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。
- 血清 必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、採血後室温に静置させ、凝固を確認後3000rpm10～15分間遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の保存条件をご参照ください。
- 血漿 必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和させ、3000rpm10～15分間遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採取方法および保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の備考および保存条件、専用容器の取り扱い方法をご参照ください。

〔注意事項〕

- 真空採血にあたり
容器の規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。必ず、指定容量を採取してください。
- シリンジ採血にあたり
シリンジから注射針を外し、採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。
- 溶血を避けるにあたり
採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。
十分に乾燥した採血容器を用いてください。
物理的刺激(極度の高温や低温、振動など)を避けてください。

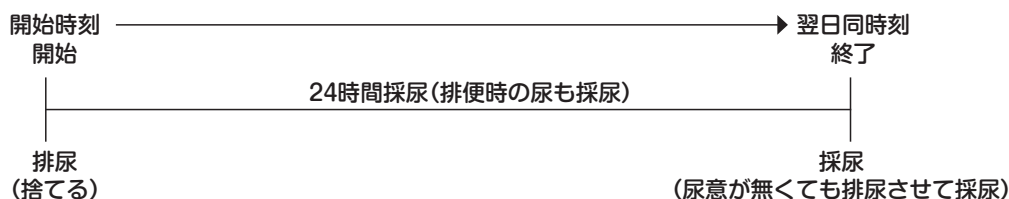
尿

〔部分尿〕

排尿容器に尿を採取して、必要量を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
排尿時間を指定している検査項目もありますので、各検査項目の備考および専用容器の取り扱い方法をご参照ください。

〔24時間蓄尿〕

蓄尿開始時に完全に排尿させ(捨てる)、それ以降の翌日同時刻までに排尿した尿の全てを蓄尿容器に採尿します。蓄尿の間は、蓄尿容器に蓋をして冷暗所にて保存してください。
蓄尿終了後、蓄尿量を測定し、よく混和させ必要量を提出容器に移し蓄尿時間と蓄尿量を記入のうえ指定の保存条件にてご提出ください。
防腐・安定化などの目的で蓄尿開始時に添加剤を必要とする場合がありますので、各検査項目の備考をご参照ください。



専用容器について

各頁掲載の専用容器は弊社にて準備してございますので担当営業員にお申し付けください。
なお、有効期間につきましては目安とお考えください。

汎用容器

容 器 形 態		検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	検体の取り扱い方法																												
01  8.5mL用  5mL用	分離剤入り (真空採血量 8.5mL又は5mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	生化学検査一般 血清学的検査一般 その他	適量	適量	左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器⊗（ポリスピッツ）に血清を分注しご提出ください。 検体量不足にならないようご注意ください。 遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。（下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。） <table><caption>換 算 表</caption><tr><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th></tr><tr><td>10</td><td>4200</td><td>22</td><td>2800</td></tr><tr><td>12</td><td>3800</td><td>24</td><td>2700</td></tr><tr><td>14</td><td>3500</td><td>26</td><td>2600</td></tr><tr><td>16</td><td>3300</td><td>28</td><td>2500</td></tr><tr><td>18</td><td>3100</td><td>30</td><td>2400</td></tr><tr><td>20</td><td>3000</td><td></td><td></td></tr></table>	半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)	10	4200	22	2800	12	3800	24	2700	14	3500	26	2600	16	3300	28	2500	18	3100	30	2400	20	3000		
半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)																														
10	4200	22	2800																														
12	3800	24	2700																														
14	3500	26	2600																														
16	3300	28	2500																														
18	3100	30	2400																														
20	3000																																
02  9mL用  5mL用	分離剤なし (真空採血量 9mL又は5mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	薬物検査	適量	適量	左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器⊗（ポリスピッツ）に血清を分注しご提出ください。また、項目（頁参照）により血餅が必要な場合があります。 遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。（下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。） <table><caption>換 算 表</caption><tr><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th></tr><tr><td>10</td><td>4200</td><td>22</td><td>2800</td></tr><tr><td>12</td><td>3800</td><td>24</td><td>2700</td></tr><tr><td>14</td><td>3500</td><td>26</td><td>2600</td></tr><tr><td>16</td><td>3300</td><td>28</td><td>2500</td></tr><tr><td>18</td><td>3100</td><td>30</td><td>2400</td></tr><tr><td>20</td><td>3000</td><td></td><td></td></tr></table>	半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)	10	4200	22	2800	12	3800	24	2700	14	3500	26	2600	16	3300	28	2500	18	3100	30	2400	20	3000		
半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)																														
10	4200	22	2800																														
12	3800	24	2700																														
14	3500	26	2600																														
16	3300	28	2500																														
18	3100	30	2400																														
20	3000																																

専用容器の取り扱い方法

容器形態		容器形態	
X ポリスピッツ 尿用 	X 新容器記号 (A00) 分離血清・血漿用 	Y 尿用容器 新容器記号 (U00) 	尿用容器

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
E 	フッ化Na入り (真空採血量2mL) 内 容 フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	ヘモグロビンA1c (HbA1c) (NGSP)	血液 2.0 (フッ化Na加)		左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
	グルコース	血液 1.5~2.0	血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	グリコアルブミン	血液 2.0	血漿 0.8		

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
g 	EDTA-2K入り (真空採血量2mL) 内 容 EDTA-2K 2.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	末梢血液一般検査	血液 (EDTA-2K加) 2.0	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 溶血、凝固および凍結検体は測定できません。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		網状赤血球数			
		好酸球数			
		末梢血液像			
		ABO・Rh(D因子)式 血液型	血液 (EDTA-2K加) 2.0		
		直接クームス試験	血液 (EDTA-2K加) 1.0		

専用容器の取り扱い方法

細菌容器

容器形態	検査項目	容器形態	検査項目
r1 滅菌ポリスピッツ 	細菌検査(培養) (尿・皮膚・爪) [各種材料, 目的菌により異なりますが, いずれも検体を乾燥させないようにしてください。]	m1 カルチャーボトル (ゴールドラベル) q1 カルチャーボトル (シルバーラベル)   嫌気性菌用 内容 トリプトソイ培地25mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 好気性菌用 内容 トリプトソイ培地30mL 貯蔵方法 室温 有効期間 9カ月	細菌検査 (動脈血, 静脈血)
q 滅菌喀痰採取容器 新容器記号 (X00)  貯蔵方法 室温	細菌検査(喀痰) [各種材料, 目的菌により異なりますが, いずれも検体を乾燥させないようにしてください。]	n 嫌気ポーター  内容 寒天培地 5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	細菌検査 (嫌気性菌培養用)
k カルチャースワブプラス (フィルム/フィルム)  内容 キャリーブレア 改良培地 5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年8カ月 k1 カルチャースワブプラス ミニチップチャコール  内容 変法アミューズ 培地 5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年8カ月	細菌検査 (咽液, 耳液, 分泌液, 便, 膿) [各種材料, 目的菌により異なりますが, いずれも検体を乾燥させないようにしてください。]	U1 キャリーブレア採便管 	細菌検査 (便)

専用容器の取り扱い方法

容 器 形 態		検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法	
A 新容器記号 PN7 	EDTA-2Na入り (真空採血量7mL)	カテコールアミン3分画 A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン	血液 各4.0~5.0	速やかに 冷却遠心 血漿 各1.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。	
		ドーパミン総				血漿 各1.5	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		L-ドーパ					
		VMA					
		HVA					
		MHPG		速やかに 冷却遠心 血漿 1.5		左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で900rpm20分間(PRP)または1,500rpm10分間(P)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。	
		セロトニン				血漿 1.5	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		5-HIAA					
C 新容器記号 PN5  5mL用	内 容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	水痘・带状疱疹 ウイルスDNA定性	血液 (EDTA-2Na加) 各5.0	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。		
		単純ヘルペスウイルス DNA定量					
		単純ヘルペスウイルス DNA定性					
		ヒトヘルペスウイルス 6型DNA定性					
		ヒトヘルペスウイルス 7型DNA定性					
		サイトメガロウイルス DNA定性					
		サイトメガロウイルス pp65抗原(C10, C11)					
		EBウイルスDNA定量				血液 (EDTA-2Na加) 7.0	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。採血後、速やかにご提出ください。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。
EBウイルスDNA (クロナリティ)	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。						

EDTA-2Na入り
(真空採血量7mL)

内 容
EDTA-2Na
10.5mg
貯蔵方法
室温
有効期間
2年

C
新容器記号
(PN5)

5mL用

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
A 新容器記号 (PN7) 	EDTA-2Na入り (真空採血量7mL) 内 容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	血液 (EDTA-2Na加) 各7.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
	HTLV-I (ATLV) プロウイルスDNA (pX領域) HTLV-I (ATLV) プロウイルスDNA (クロナリティ)				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
B 新容器記号 (PAC) 	ACD-A保存液入り 内 容 ACD-A保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 (アルミ包装 開封後1カ月)	血液 7.5	血液 (ACD-A液加) 7.5	冷蔵	指定の採取量を採血し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 (注) 末梢血の血小板数が $3 \times 10^4 / \mu\text{L}$ 以下の場合、専用容器2本を使用し必ず10mL以上採血してください。

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
b2 新容器記号 (U90) 	抗プラスミン剤入り 内 容 アプロチニン 精製ゼラチン デヒドロ酢酸 ナトリウム 貯蔵方法 室温 有効期間 2年 (アルミ包装 開封後1週間)	FDP定量	部分尿 (新鮮尿) 2	部分尿 (上清) 0.5	凍結 新鮮尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和後、3000rpm5～10分間遠心分離してください。 上清(部分尿)は必ず凍結保存してください。

専用容器の取り扱い方法

容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
 2mL用  5mL用	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	血液 各1.5~2.0	冷却 速心 血漿 0.5	凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	副甲状腺ホルモン (Whole PTH)		血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	セロトニン	血液 (EDTA-2Na加) 1.0			左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
	コルチゾール	血液 各1.5~2.0	血漿 0.2		早朝安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は凍結保存してください。
	アルドステロン		血漿 0.5		
	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)		速やかに 速心 血漿 0.5		安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離してください。血漿は速やかに凍結保存してください。
	レニン活性(PRA) [EIA]		冷却 速心 血漿 0.3	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	レニン濃度(ARC) [CLEIA]		冷却 速心 血漿 0.5		
	アルドステロン/ レニン活性比	血液 各2.0~3.0	冷却 速心 血漿 0.8		
	アルドステロン/ レニン濃度比		冷却 速心 血漿 1.0		
	アンギオテンシン I	血液 各1.5~2.0	冷却 速心 血漿 0.2		
	アンギオテンシン II		冷却 速心 血漿 0.3		
	ペントラキシン3 (PTX3)		速やかに 冷却速心 血漿 0.3		左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	サイクリックAMP	血液 1.5~2.0	冷却 速心 血漿 各0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	PIVKA-II		血液 1.5~2.0 血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)	血液 1.5~2.0	血液 0.4	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	サイトメガロウイルス pp65抗原 (C7-HRP)	血液 (EDTA-2Na加) 3.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。採血後速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。
	イマチニブ	血液 1.5~2.0	血液 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。

C
新容器記号
PN2

2mL用

C
新容器記号
PN5

5mL用

EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)

内 容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法
室温
有効期間
2年

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
C 新容器記号 (PN2)  2mL用 C 新容器記号 (PN5)  5mL用	EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内 容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	Rh-Hr式血液型	血液 (EDTA-2Na加) 2.0	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		不規則性抗体 (抗体同定・抗体価測定)	血液 10.0～15.0 (別容器②に採血)と 血液 2.0	速やかに遠心 血清 5.0と 冷蔵 血液 (EDTA-2Na加) 2.0 室温	血液2.0mLを左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。また、別容器②に血液 9.0～15.0mL採血し、速やかに血清分離し、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。
		血液型不適合妊娠	血液 10.0～12.0 (別容器②に採血)と 血液 2.0	速やかに遠心 血清 4.0と 冷蔵 血液 (EDTA-2Na加) 2.0 室温	血液2.0mLを左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。また、別容器②に血液9.0～12.0mL採血し、速やかに血清分離し、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。
		腓ホスホリパーゼA ₂ (腓PLA ₂)	血液 各1.5～2.0	血漿 0.3	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		アミノ酸分析(39種) [LC/MS]		速やかに冷却遠心 血漿 各0.5 凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		アミノ酸分析(9種) [LC/MS]			
		アミノ酸分析2種類 (チロシン・フェニルアラニン)[LC/MS]			
		総ホモシステイン	血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
C 新容器記号 (PN5)  5mL用	EDTA-2Na入り (真空採血量5mL) 内 容 EDTA-2Na 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	男性AICS (5種)	血液 3.0～5.0	速やかに冷却遠心 血漿 0.5 凍結	1. EDTA・2Na入り採血チューブにて血液約5mLを採取してください。 2. 採血直後、血液を2～3回軽く転倒混和してください(ローラでの混和は行わないでください)。 3. 混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分間以上、遠心操作まで冷却)してください。 4. 採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃, 3,000回転, 15分)または通常遠心分離(3,000回転, 15分, ローターが昇温していないこと)してください。 5. 遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください。 6. 分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください。
		女性AICS (6種)			

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
D 新容器記号 (PAP) 	副甲状腺ホルモン 関連蛋白 (PTHrP)	血液 各1.5~2.0	冷却 遠心 血漿 各0.5	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	グルカゴン (IRG)				
	ヒト心房性ナトリウム 利尿ペプチド (HANP)	血液 各1.5~2.0	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5		安静時に指定の採取量を左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	活性型GLP1 (抽出法)	血液 1.5~2.0	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5		あらかじめ冷却した左図の容器に採血し、血液1.0mLに対し10μLのDPP-IVinhibitorを採血後30秒以内に加え、混和後速やかに冷却遠心を行い、血漿分離して直ちに凍結してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
d5 便中ヘモグロビン専用 スティック 	便中ヘモグロビン (ラテックス凝集法)	冷蔵	1. アルミシールは破らないでください。 2. 容器の液を捨てたり、水を足したりしないでください。 3. なるべく新しい便を提出してください。 4. 生理中は採便をしないでください。 5. 人体に直接使用しないでください。 6. 大便をとる目的以外には使用しないでください。 7. 保管は子どもの手の届かないところにしてください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
d4 便中ヘリコバクターピロリ抗原 専用容器 新容器記号 (F20) 	便中ヘリコバクター ピロリ抗原	冷蔵	1. (準備) 容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付等を記入し、また巻いてください。ピンクの採便棒を回して引き抜いてください。 2. (便をとる) 採便棒先端の溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとってください。 3. (便をとったあと) 採便棒を容器にもどして根元までしっかりねじ込んでください。再び開けないでください。 4. (保管上の注意) 添付のビニール袋に入れて提出まで冷暗所に保管してください。採便後は、すみやかに提出してください。 (注) 出来るだけ新しい便を提出してください。 (注) 採便容器の緑キャップは、絶対にはずしたり、ゆるめたりしないでください。

容 器 形 態	検 査 項 目	保 存	採 取 方 法
d8 便中ヘモグロビン及び トランスフェリン専用容器 新容器記号 (F80)  内 容 保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	便中ヘモグロビン及び トランスフェリン	冷蔵	●採取方法 1. キャップを回してスティックを取り出し、便の表面をまんべんなくこすり採ります。 2. 1回だけ差し込み、キャップをしっかり締めます。 3. 袋に入れ冷蔵保存し、ご提出ください ●注意事項 1. 容器の中の保存液は捨てないでください。 2. 便は溝が埋まるくらい採ります。採りすぎ、少なすぎにご注意ください。 採便時の食事制限はありません。

容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
e 新容器記号 (SZZ)  内 容 凝固促進剤入り (真空採血量3mL) トロンビン ヘパリン中和剤 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	アルミニウム (Al)	血液 2.0~3.0	血清 1.0	冷蔵	コンタミネーション防止のため、シャントから滴下または真空採血してください。 採血後は直ちに十分転倒混和し、遠心分離後そのまま冷蔵保存にてご提出ください。

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存
F2 新容器記号 V20  (尿用)  (分泌物用)	淋菌およびクラミジアトラコマチスrRNA同時同定 ●尿検体からの採取 1. 検体採取1時間以上前までに排尿をすませてください。 2. 初尿20～30mLを尿採取カップに採取します。(尿を多量に採取しすぎた場合、検体が希釈され検出感度の低下につながりますのでご注意ください。) 3. 直ちに、添付のスボイトで尿を2mL分取し、専用容器に採取混合してください。専用容器にある黒線と黒線の間に尿があれば、正しい分量が採取されたことになります。 4. 採取後、冷蔵保存にてご提出ください。 ●子宮頸管からの採取 1. クリーニング用スワブ(白色)で子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を取り除きます。クリーニング用スワブは廃棄してください。 2. 採取用スワブ(青色)を子宮頸管内に挿入します。 3. スワブを時計方向に10～30秒間ゆっくり回転させ擦過物を採取します。(図1) 4. スワブの先が膣粘膜に触れないように注意しながら抜き取りします。 5. 直ちにスワブを専用容器の保存液に混和します。(図4) 6. 内容物が飛散しないように注意しながら、スワブを所定の位置で折ります。(図5) 7. スワブを入れたまま専用容器のキャップを閉め、冷蔵保存にてご提出ください。(図5) ●男性尿道からの採取 1. 検体採取1時間以上前までに排尿をすませてください。 2. 採取用スワブ(青色)を尿道に2～4cm挿入します。(図2) 3. スワブを時計方向に2～3秒間ゆっくり回転させ擦過物を採取します。(図2) 4. 直ちにスワブを専用容器の保存液に混和します。(図4) 5. 内容物が飛散しないように注意しながら、スワブを所定の位置で折ります。(図5) 6. スワブを入れたまま専用容器のキャップを閉め、冷蔵保存にてご提出ください。(図5) ●咽頭からの採取(咽頭スワブ検体) 1. 採取用スワブ(青色)で扁桃の側面部分をしっかりと擦過し、擦過物を採取します。(図3) 2. 採取前に口腔内洗浄や飲食をしないようにしてください。 3. 直ちに青色スワブをスワブ搬送用チューブ内のスワブ搬送液に混和します。 4. 内容物が飛散しないように注意しながら、青色スワブを所定の位置で折ります。(図4) 5. スワブ搬送用チューブのキャップをしっかりと閉めて冷蔵保存にてご提出ください。(図5) 【ご注意】 検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。	冷蔵

図1

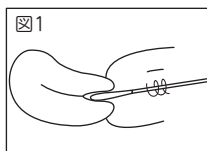


図2

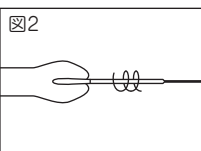


図3

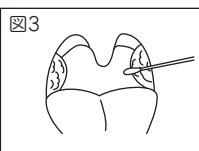


図4

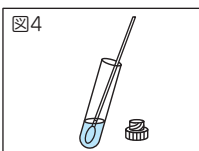
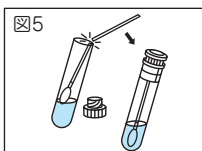


図5



容器形態

検査項目

保存

検体の取り扱い方法

F3

新容器記号

V50



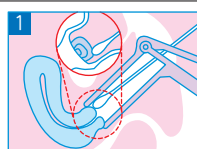
内容
グアニジン塩酸塩
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

クラミジア
トラコマチス
DNA

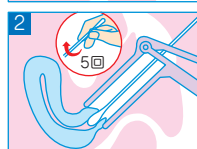
淋菌DNA

淋菌およびクラミジア
トラコマチス
DNA同時同定

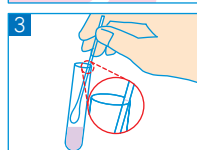
冷蔵



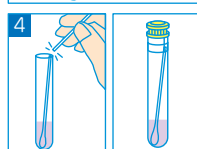
スワブ検体採取セット付属の1本目のスワブで子宮頸管とその周辺部の過剰な粘液を充分拭い取ります。



付属されている2本目のスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。



専用容器のキャップを開け、採取したスワブの先端の綿球が容器内の溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄につけられた黒い線を専用容器の縁に合わせます。



専用容器の縁を利用して、スワブの柄につけられた線で折り入れキャップをしっかりと閉め、冷蔵保存にて提出してください。

容器形態

f 細胞診(喀痰集細胞法)
 内容 サコマノ氏液、粘液融解剤
 新容器記号 X10
 貯蔵方法 室温(冷暗所)
 有効期間 製造から1年



容器形態

検査項目

保存

採取方法

f6
 新容器記号
 V41



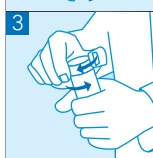
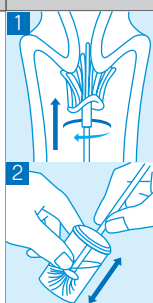
内容
 メタノール55%含有
 貯蔵方法 室温
 有効期間 1年6カ月

細胞診(婦人科)
 [ベセスダシステム]

細胞診(婦人科CR)

ヒトパピローマ
 ウイルスDNA
 (ハイリスクグループ)
 (LBC)

ヒトパピローマ
 ウイルスDNA
 (16型, 18型, その他
 ハイリスクグループ)



[ご注意]

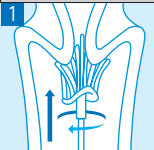
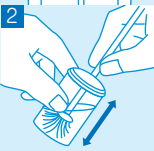
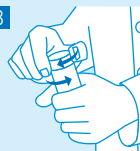
①子宮頸部の細胞を採取する
 綿棒以外の採取器具(ブラシ, スパーテル)を用いて細胞を採取してください。

②細胞を洗い落とす
 採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。

③しっかりフタを閉める
 採取器具を取り出し、蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように、しっかり蓋を閉め、室温保存してください。
 (注)採取器具の先端は容器に残さないでください。

妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ, スパーテル等の採取器具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で十分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで室温保存してください。また、綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意ください。

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存	採取方法
f6 新容器記号 V41 	ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定		1  ①子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具(ブラシ、スパーテル)を用いて細胞を採取してください。 2  ②細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。 室温 3  ③しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し、蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように、しっかり蓋を閉め、室温保存してください。 (注)採取器具の先端は容器に残さないでください。
	細胞診(婦人科LBC)		
	細胞診(婦人科LBC) [ベセスダシステム]		【ご注意】 妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ、スパーテル等の採取器具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で十分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで室温保存してください。また、綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意ください。
内容 メタノール55%含有 貯蔵方法 室温 有効期間 1年6カ月			

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
G 新容器記号 PH5 	結核菌特異的 IFN-γ	血液 (ヘパリン加) 5.0		室温	本図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(18~25℃)してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
	γ-アミノ酪酸 (GABA)	血液 3.0	速やかに 遠心 血漿 1.0		左図の容器に採血し、よく混和させ、直ちに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	脂肪酸分画	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.5		早朝空腹時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
	極長鎖脂肪酸	血液 4.0~5.0	血漿 2.0	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	血液 1.5~2.0	速やかに 冷却遠心 血漿 0.3		早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し、15分後に左図の容器に採血し低温(4℃)で遠心分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	ニコチン酸 (ナイアシン)	血液 (ヘパリン加) 1.5		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、冷蔵保存してください。
	鉛(Pb)	血液 (ヘパリン加) 3.0			
	クロム	血液 (ヘパリン加) 各0.7			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
	マンガン	血液 (ヘパリン加) 各0.7			
	カドミウム	血液 (ヘパリン加) 0.5			
	エタノール	血液 (ヘパリン加) 1.0		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
	フェノバルビタール	血液 各1.5~2.0	血漿 0.2	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
プリミドン	血漿 0.3				

ヘパリン入り
(真空採血量5mL)

内 容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法
室温
有効期間
2年

容 器 形 態		検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
G 新容器記号 PH5 	ヘパリン入り (真空採血量5mL) 内 容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	フェニトイン	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.2	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		カルバマゼピン				
		エトスクシミド				
		レベチラセタム				
		トピラマート				
		ラモトリギン	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.5		
		ガバペンチン				
		キニジン				
		ジソピラミド	血液 各1.5~2.0	血漿 0.4		
		プロカインアミド				
		ピルシカイニド				
		シベンゾリン	血液 各1.5~2.0	血漿 0.3		
		フレカイニド				
		ピルメノール				
		アブリンジン	血液 3.0~4.0	血漿 1.3		
		ベブリジル	血液 各1.5~2.0	血漿 0.5		
		アミオダロン				
		プロプラノロール				
		ボリコナゾール	血液 各1.5~2.0	血漿 0.6		
		メトトレキサート				
			血液 2.0~3.0	血漿 1.0		

専用容器の取り扱い方法

容 器 形 態		検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
G3 新容器記号 PHS 	ヘパリン入り (真空採血量4mL) 内 容 ヘパリンNa 83.6単位 貯蔵方法 室温 有効期間 18カ月 (アルミ包装 開封後1カ月)	遮光 コプロポルフィリン	血液 (ヘパリン加) 各1.5	冷蔵	左図の遮光容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。	
		遮光 ウロポルフィリン				
		遮光 プロトポルフィリン				
		遮光 赤血球遊離 プロトポルフィリン	血液 (ヘパリン加) 1.0			

容 器 形 態		検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
g1 新容器記号 (PKF) 	EDTA-2K入り (真空採血量2mL) 内 容 EDTA-2K 3.6mg 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	ビタミンB ₁	血液 (EDTA-2K加) 1.0	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、凍結保存してください。	
		遮光 ビタミンB ₂	血液 (EDTA-2K加) 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、必ず遮光ポリスピッツ (i) に移し替え、凍結してご提出ください。	
		シクロスポリン	血液 (EDTA-2K加) 0.7		左図の容器に採血し、よく混和させ、血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。	
		タクロリムス	血液 (EDTA-2K加) 0.7		左図の容器に採血し、よく混和させ、血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 投与量を明記してください。	

容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
h 新容器記号 PSD 	アデノウイルスDNA定性	結膜ぬぐい液 適量	結膜ぬぐい液 (SDS加) 適量	室温	滅菌綿棒にて患部をぬぐい、指定の容器に入れ、そのまま室温保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定性	患部ぬぐい液 各適量	患部ぬぐい液 (SDS加) 各適量		
	単純ヘルペスウイルスDNA定性				
	ヒトヘルペスウイルス6型DNA定性				
	ヒトヘルペスウイルス7型DNA定性				
	サイトメガロウイルスDNA定性				
SDS EDTA-2Na入り (容器容量10mL) 貯蔵方法 室温					

容器形態

i 貯蔵方法 室温
新容器記号
(ASS)



遮光ポリスピッツ

容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法		
 K1 3.2%クエン酸 ナトリウム入り (真空採血量1.8mL) 内 容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	プロトロンビン時間 (PT)	血液 各1.8	速やかに 遠心 血漿 各0.5	凍結	3.2%のクエン 酸 ナトリウム0.2mLに 血液 1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回 繰り返した後、速やかに血漿分離してくださ い。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採 血量が1.8mL以上の場合、(L) の容器をご利 用ください。)		
	活性化部分 トロンボ プラスチン時間 (APTT)					速やかに 遠心 血漿 0.5	3.2%のクエン 酸 ナトリウム0.2mLに 血液 1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回 繰り返した後、速やかに血漿分離してくださ い。血漿は必ず凍結保存してください。
	フィブリノーゲン					速やかに 遠心 血漿 0.2	
	HIT抗体(血小板第4因子・ ヘパリン複合体抗体)		速やかに 遠心 血漿 0.2		速やかに 遠心 血漿 各0.3	3.2%のクエン 酸 ナトリウム0.2mLに 血液 1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回 繰り返した後、速やかに血漿分離してくださ い。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採 血量が1.8mL以上の場合、(L) の容器をご利 用ください。)	
	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒター活性)		速やかに 遠心 血漿 0.2				
	FDP定量		速やかに 遠心 血漿 0.2				
	第Ⅱ因子(F2)		速やかに 遠心 血漿 各0.3				
	第Ⅴ因子(F5)						
	第Ⅶ因子(F7)						
	第Ⅷ因子(F8)						
	第Ⅸ因子(F9)						
	第Ⅹ因子(F10)						
	第ⅩⅠ因子(F11)		速やかに 遠心 血漿 0.4				
第ⅩⅡ因子(F12)							
第ⅩⅢ因子(F13)							

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
K1  3.2%クエン酸 ナトリウム入り (真空採血量1.8mL) 内 容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	フォン・ウィルブランド 因子抗原定量	血液 各1.8	速やかに 遠心 血漿 0.2		3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(L)の容器をご利用ください。)
	フォン・ウィルブランド 因子活性 (リストセチンコファクター)		速やかに 遠心 血漿 各0.5		
	フォン・ウィルブランド 因子マルチマー解析				
	プラスミノゲン				
	アンチプラスミン (α 2プラスミンインヒビター)				
	アンチトロンビンⅢ (ATⅢ)				
	ヘパリン		速やかに 遠心 血漿 0.3	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(L)の容器をご利用ください。) 〔注意事項〕 * トータルPAI-1につきましては以下の点にご注意ください。 1. 採取容器は(K1)を用い、必ず冷却遠心してください。室温遠心や容器(L)での採血はデータが高値となるため、避けてください。 2. 速やかに分離できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に分離してください。
	可溶性フィブリン モノマー複合体(SFMC)		速やかに 遠心 血漿 各0.5		
	フィブリンモノマー 複合体定量		速やかに 遠心 血漿 0.2		
	Dダイマー		速やかに 遠心 血漿 0.5		
	α 2プラスミン インヒビター・ プラスミン複合体 (PICテスト)		速やかに 遠心 血漿 各0.3		
	トロンビン・ アンチトロンビンⅢ 複合体(TAT)		速やかに 遠心 血漿 0.5		
	プロトロンビン フラグメントF1+2		速やかに 遠心 血漿 各0.3		
	プロテインC(抗原量)		速やかに 遠心 血漿 各0.2		
	プロテインC活性				
	プロテインS(抗原量)				
	プロテインS活性				
	プロテインS (遊離型抗原量)				
	トータルPAI-1 (tPA・PAI-1複合体)				

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
L 新容器記号 (PC5) 	遮光 ビタミンK分画	血液 各4.5	速やかに遠心 血漿 2.5	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5~6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず「遮光ポリスピッツ」(i)にてご提出ください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	ループスアンチコアグラント		速やかに遠心 血漿 1.0		採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、パフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心器回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r: 遠心器のローター半径(cm) n: 1分間あたりの回転数(rpm)
	凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子 第Ⅸ(9)因子		速やかに遠心 血漿 各1.0		3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5~6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。

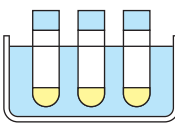
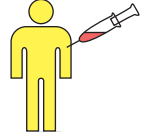
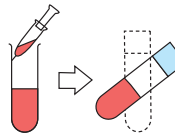
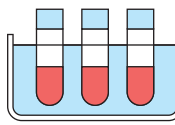
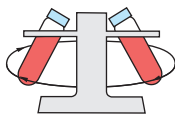
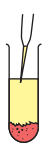
容器形態	
L2 新容器記号 (XC0) 貯蔵方法 室温 	結石専用容器

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
ℓ 新容器記号 (X00) 	マイコプラズマニューモニエDNA	喀痰 各2.0		凍結	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
	結核菌群核酸同定(TRC)				
	MAC核酸同定(マイコバクテリウムアビウム・イントラセラー)(TRC) ニューモシスチスカリニDNA				

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
P1 新容器記号 (S5F)  5mL採血用	HBV DNA定量 (IU)	血液 5.0	血清 1.8		指定の採取量を左図の容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 左記項目以外との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
	HCV RNA コアジェノタイプ	血液 各3.0	血清 各0.5	凍結	指定の採取量を左図の容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 左記項目以外との重複依頼は避けてください。 なお、左記項目内重複依頼の場合は、5mL採血用容器をご使用ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
	HCV RNA 1b(NS5A)				
	HCV RNA定量 (リアルタイムPCR)	血液 5.0	血清 1.8		指定の採取量を左図の容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 左記項目以外との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。

容 器 形 態		検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
P3 新容器記号 PSF 	EDTA-2K+ 血漿分離剤入り (真空採血量5mL) 貯蔵方法 4～25℃ 有効期間 製造から1年	HIV-1 RNA定量 (リアルタイムPCR)	血液 8.0	血漿 3.0	凍結	指定の採取量を左図の容器に採血後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		サイトメガロウイルス 核酸定量	血液 各5.0	血漿 各1.8	凍結	
		HIV-1RNA定量				

容器形態	検査項目	保存	採 取 方 法	
Q 新容器記号 PBT  (真空採血禁止) 抗血小板剤入り 内 容 テオフィリン アデノシン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸 貯蔵方法 遮光・冷蔵 有効期間 1年	β-トロンボ グロブリン(β-TG)	凍結		あらかじめ専用容器 (Q) を冷却し ておいてください。 砕氷水の水面より専用容器中の液面 が下になるようにしてください。 角氷は使用しないでください。
				できるだけ20ゲージ (19～21 ゲージでも可) の針を用いたプラス ティック注射器で血液3.0mL を採 取してください。(採血にあたって、 専用容器 (Q) を使用しての直接採 血は絶対にしないでください。)
				指定の専用容器以外は使用しない でください。 専用容器は振とうさせないでくだ い。
				砕氷水の水面より専用容器中の血液 液面が下になるようにしてくださ い。
	以上の操作を2分以内に行ってください。			
			砕氷水に15～30分間放置後、採取 血液を2,000G で30分間、2～4℃ で遠心分離してください。(右表は 2,000G におけるローターの回転半 径と回転数との関係を示します。) * 遠心回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r : 遠心器のローター半径 (cm) n : 1分間あたりの回転数 (rpm)	
			上清の表面よりやや下の部分をマイ クロピペットで各0.3mL 検体容器 へ採取してください。 血餅に近い部分からの採取は絶対 に避けてください。 (血漿の全量採取は避けてくださ い。) 検体は必ず凍結保存してください。 (1ヵ月安定)	
1時間以内に必ず冷却下で遠心分離 してください。				
換 算 表				
半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)	
10	4,200	22	2,800	
12	3,800	24	2,700	
14	3,500	26	2,600	
16	3,300	28	2,500	
18	3,100	30	2,400	
20	3,000			

容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
R 新容器記号 PNK 	保存液入り (真空採血量5mL) 内 容 保存液0.7mL 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年 (アルミシート 開封後1ヵ月)	NK細胞活性	血液 (保存液加) 5.0	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ冷蔵保存してください。 なお、リンパ球の少ない患者さんは多めに採血してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。

専用容器の取り扱い方法

容器形態

r 貯蔵方法 室温

新容器記号

ARR



滅菌ポリスピッツ

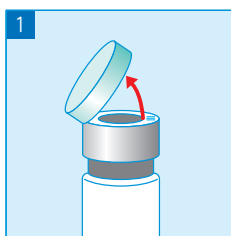
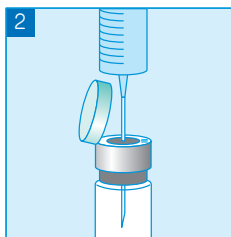
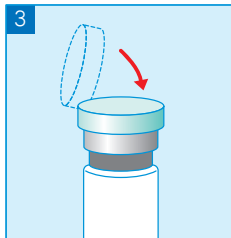
容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
r3 新容器記号 M30 	除蛋白液入り (内容量1mL) 内 容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年	乳酸 ピルビン酸	血液 各1.0 速やかに遠心 除蛋白液 各0.4	冷蔵	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。

容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
r4 新容器記号 M40 	除蛋白液入り (内容量4mL) 内 容 タングステン酸Na, 硫酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年	アンモニア	血液 1.0	速やかに遠心 除蛋白液 3.0 凍結	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
r5 新容器記号 M50 	除蛋白液入り (内容量0.5mL) 内 容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年 遮光 ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 0.5	除蛋白上清 0.5	凍結	採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器に加え、十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液を遮光ポリスピッツ(i)に移し替え、凍結してご提出ください。

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
t 新容器記号 (Z10)  [オブジェクトケース] プレプレート (スライドグラス) 貯蔵方法 室温	特殊染色標本作成		血液塗抹標本 必要枚数		血液塗抹標本をご提出ください。 室温保存してください。
	鼻汁中好酸球		鼻汁塗抹標本 2~3枚		標本は新鮮鼻汁で作成しご提出ください。 室温保存してください。

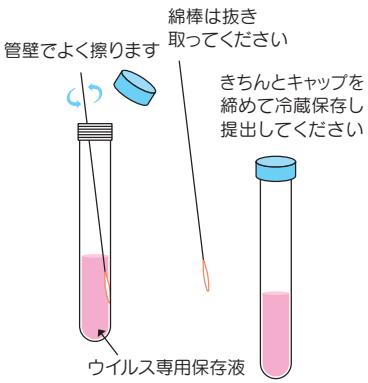
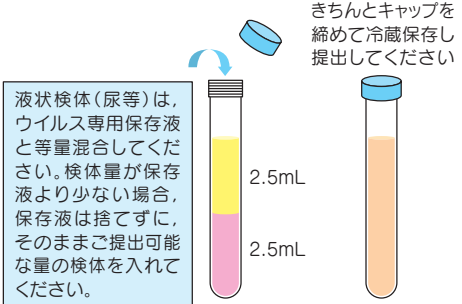
容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
T3 新容器記号 (PE2)  (真空採血量2mL) 内 容 ノボヘパリン 15IU 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	エンドトキシン定量		血液 (ノボヘパリン加) 各2.0		左図の容器に採血し、よく混和してください。 室温保存ではデータ影響が認められるため、 速やかに冷蔵保存してください。 β-D-グルカン以外との重複依頼は避けてください。
	β-D-グルカン				左図の容器に採血し、よく混和してください。 速やかに冷蔵保存してください。 エンドトキシン定量以外との重複依頼は避けてください。

容器形態	検査項目	保存	検体の取り扱い方法
T4 新容器記号 (PE4)  (真空採取量:4.0mL) 内 容 安定化剤 0.1mL 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年	透析液中 エンドトキシン (A液, B液, RO水, 調製液, その他)		 1 T4容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように、(カラーキャップが完全に外に落ちないように)開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。
			 2 無菌的に透析液を注射針付きのシリンジで採取し、T4容器のゴム栓部に刺します。
			 3 注入が終わりましたら、カラーキャップを元通りに被せ、ただちに4回ほど容器を振り、安定化剤を均質に混ぜ、速やかに冷蔵保存し、提出してください。

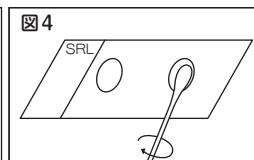
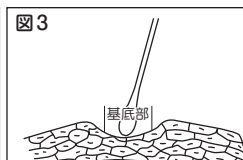
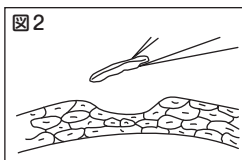
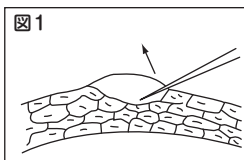
専用容器の取り扱い方法

容 器 形 態		検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
U 	糞便容器 貯蔵方法 室温	アデノウイルスDNA 定性	糞便 500mg		凍結	糞便500mgを指定の容器に入れ、必ず凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		ロタウイルス抗原	糞便 1g			糞便の中央部より1g（拇指頭大）を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。

容器形態	容器形態
u1 凍結組織材料作製セット 新容器記号 VP1  貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年	u5 病理専用容器  10%ホルマリン液を充填してお使いください。 貯蔵方法 室温

容器形態	検査項目	保存	検体の取り扱い方法
 V 新容器記号 V10 ウイルス専用 保存液入り 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 6ヵ月	ウイルス分離		●患部ぬぐい液・水疱内容・糞便 等 滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。  綿棒は抜き 管壁でよく擦ります きちんとキャップを 締めて冷蔵保存し 提出してください ウイルス専用保存液 ●便 数回突き刺します 表面を転がします
	ウイルス同定	冷蔵	●尿・髄液・胸水・鼻汁 等 下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。  液状検体(尿等)は、 ウイルス専用保存液 と等量混合してくだ さい。検体量が保存 液より少ない場合、 保存液は捨てずに、 そのまま提出可能 な量の検体を入れて ください。 2.5mL 2.5mL きちんとキャップを 締めて冷蔵保存し 提出してください ●組織 組織小片(5mm角程度)をウイルス専用保存液に入れ、冷蔵 保存してください。

容器形態	検査項目	保存
W1 新容器記号 V30  貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年	単純ヘルペスウイルス特異抗原 水痘・帯状疱疹ウイルス抗原 ●検体の採取方法 病巣基底細胞が多数得られるように採取してください。 早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液および膿は、検体として不適当です。 ①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。(図1) ②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセット等で除去します。(図2) ③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。 ④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。(図3) ●注意 膿がでている場合には綿棒でまず膿をぬぐい取り、別の綿棒で検体を採取してください。この時、病巣基底部をかき 乱さないよう注意してください。 ●操作法 ●検体の塗抹 ①綿棒を回転させながらスライドガラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、スライドガラスに平行にして、 全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意してください。(図4) ②綿棒をすてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見 える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。 ③そのまま風乾します。 ④乾燥したスライドガラス上に十分な量(検体にゆきわたる)のアセトンを添加し、蒸発させます。 ・検体はスライドガラス2枚をご提出ください。 ●検体の保存 乾燥後のスライドガラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入れ、検査項目名、病院名、氏名等を記入後、 凍結保存してください。	凍結



専用容器の取り扱い方法

容器形態

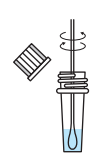
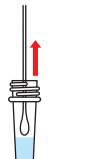
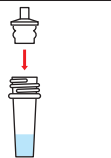
W3 内容 保存液
新容器記号 貯蔵方法 室温
V60 有効期間 製造から3年

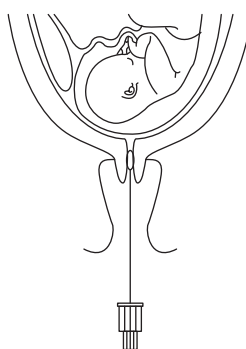
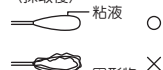
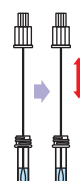
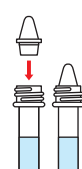


一般用

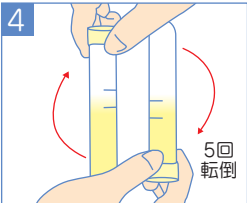
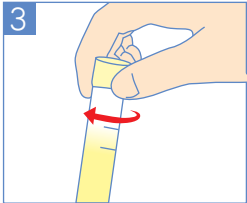
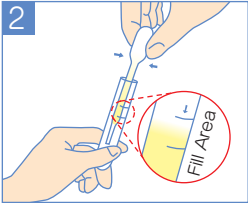
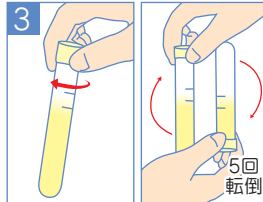
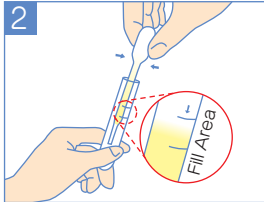
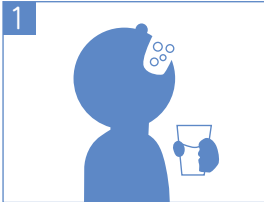
妊婦用

ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ, ローリスクグループ)
【ご注意】検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
W5 新容器記号 VP5  内容 抽出液 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	ヒト癌胎児性 フィブロネクチン	凍結	 専用綿棒を後腔円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。 【ご注意】 検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。  検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌物を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。)  綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。  検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。  検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。 測定試料
●注意事項 - 検体の採取は膣洗浄前に行ってください。 - 検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。 - 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。			

容器形態	検 査 項 目				保存			
W6 新容器記号 VP6 	子宮頸管粘液中 顆粒球エラストラーゼ				凍結			
	採 取 方 法							
	正しい採取部位 	子宮腔部の粘液を綿球で丁寧に拭い取りま す。		●注意事項 1) 子宮頸管部より採取してください。 2) 検体採取は陰部洗浄前に行ってください。 3) 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。 4) 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、接子等で取り除いてください。 〈採取前〉  ➡ 〈採取後〉  粘液 ○ 固形物 ×				
		綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3)						
		綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。注4)						
①		抽出液の入った抽出容 器の青いキャップをは ずします。	②		頸管粘液を採取した綿 棒を浸けて、2～3分間 放置します。 その後、綿棒を20～30 回細かく上下させて検 体を抽出します。	③		綿棒に浸み込んだ検体 抽出液を抽出容器ごと 指で押しつぶす等して 絞り出した後、綿棒を 取り除きます。
④		フィルターをセットし ます。	⑤		検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴(約300μL)を分取します。必要量が得られない場合は検体採取からやり直してください。検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵(8℃)で3日以内、冷凍(−15℃以下)で3カ月以内に測定してください。			
内 容 抽出液 (リン酸バッファー) 貯蔵方法 室温 (抽出液は冷蔵) 有効期間 1年								

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検 査 項 目	保存
Y1 新容器記号 U10 滅菌スポイト 滅菌カップ  内 容 グアニジン塩酸塩 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	クラミジアトラコマティスDNA 淋菌DNA 淋菌およびクラミジアトラコマティスDNA同時測定 ●尿検体からの採取 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。 ①滅菌済みカップに初尿を採取し、滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。 ②専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。 ③専用容器のキャップをしっかりと閉めてください。 ④専用容器を5回転倒混和して冷蔵にて提出してください。  ●うがい液からの採取 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。 ①滅菌生理食塩水をカップに15～20mL入れ口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよくうがいを行ないます。 ②うがい液全量をコップに回収し、スポイトで専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように添加します。 ③専用容器のキャップをしっかりと閉め、5回転倒混和して冷蔵保存にて提出してください。 	冷蔵

容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
Y5 新容器記号 U50 	保存剤入り (容器容量10mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	尿中ミオグロビン	部分尿 6	冷蔵	採取した尿を速やかに専用容器 (Y5) のラベルに印刷してある線まで入れ、よく混和させ冷蔵保存にてご提出ください。 凍結保存は避けてください。

容 器 形 態	検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
Y7 新容器記号 U70 	Tris+Hcl入り (容器容量10mL) 内 容 1.5M Tris-Hcl 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	尿中Ⅳ型コラーゲン	部分尿 5	冷蔵	早朝一番尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。

容 器 形 態		検 査 項 目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保 存	検体の取り扱い方法
Y8 新容器記号 U80 	保存液入り (容器容量10mL) 内 容 尿安定化剤 貯蔵方法 遮光・室温 有効期間 2年6ヵ月	尿中核マトリックス プロテイン22 (NMP22)	部分尿 適量 (別容器)	速やかに遠心 部分尿 (上清) 5	冷蔵	採取した尿を速やかに遠心し、その上清を専用容器の採尿範囲まで入れ、よく混和してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避け、冷蔵にてご提出ください。

容 器 形 態					
Z 新容器記号 AZZ	酸洗浄済みのポリスピッツ 貯蔵方法 室温	 金属検査			

新規検査項目記入欄

	項目コード (統一コード)	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位) (治療濃度範囲)	備 考

2022～2023 総合検査案内

非売品

発 行 株式会社エスアールエル北関東検査センター
〒379-2141 群馬県前橋市鶴光路町141-15
TEL 027 (265) 6498

 株式会社 **イスールエル北関東検査センター**

- 検査結果のお問い合わせ、検査項目については、当社データインフォメーションへお問い合わせください。

TEL. 027(265)6498

《所在地》

- ・本社 群馬県前橋市鶴光路町141-15
- ・熊谷ラボラトリー 埼玉県熊谷市箱田6丁目5-2
- ・埼玉営業課 埼玉県熊谷市箱田6丁目5-2

